

6. 陸上昆虫類等調査

6. 陸上昆虫類等調査

6.1 陸上昆虫類等調査結果の概要

(1) 確認種

今回とりまとめを行った陸上昆虫類等調査実施 10 河川（うち指定区間のみ：0 河川）で確認された陸上昆虫類等は、18 目 338 科 4,293 種でした。確認種数が最も多かった河川は、中国地方の江の川で 2,018 種、次いで関東地方の荒川（指定区間含む）で 1,801 種、東北地方の米代川で 1,450 種でした。

(2) 重要種^{注1)}

今回とりまとめを行った 10 河川（うち指定区間のみ：0 河川）で確認された重要種は、8 目 46 科 80 種でした。このうち、種の保存法で定められる特定第二種国内希少野生動植物として、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウの 2 種が確認されたほか、環境省版レッドリストで絶滅危惧ⅠＢ類に指定されているヒヌマイトトンボ、シルビアシジミ、チビアオゴミムシ等、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイソコモリグモ、ナゴヤサナエ、ヌマベウスキョトウ、ハラビロハンミョウ、ヨコミゾドロムシ、ニッポンハナダカバチ等が確認されました。重要種の確認種数が最も多かった河川は、中国地方の江の川で 35 種、次いで中国地方の吉井川で 29 種、関東地方の荒川（指定区間含む）で 20 種でした。

注 1) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年 3 月 27 日報道発表資料）

絶滅：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種

絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠＡ類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠＢ類：ⅠＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(3) 国外外来種^{注2)}

1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った 10 河川（うち指定区間のみ：0 河川）で確認された国外外来種は、10 目 45 科 75 種でした。国外外来種の確認種数が最も多かった河川は、関東地方の荒川（指定区間含む）で 45 種、次いで中国地方の江の川で 27 種、近畿地方の大和川で 26 種でした。

2) 特定外来生物等の確認状況

上記の国外外来種のうち、外来生物法が定める特定外来生物は、セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、クビアカツヤカミキリ、アルゼンチンアリの 4 種、生態系被害防止外来種リスト掲載種として、重点対策外来種は、アカボシゴマダラの 1 種、緊急対策外来種は、セアカゴケグモ、アルゼンチンアリの 2 種、その他の総合対策外来種は、クビアカツヤカミキリの 1 種でした。

注2) 国外外来種の選定基準について

- 1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、他の場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。
- 2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(2005年6月1日施行)』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。
- 3) 生態系被害防止外来種リスト(我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト)とは、侵略性が高く、我が国の生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び我が国に導入される社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストです。特定外来生物以外は外来生物法に基づく規制の対象にはなりませんが、今後の外来種対策の基礎的情報として、様々な主体へ適切な行動を呼びかけるものです。各主体における対策の検討・実施に資するよう、対策の方向性から以下のカテゴリに分類します。

(i) 定着を予防する外来種(定着予防外来種)

定着予防外来種は、「国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種」として選定されています。以下の2つに細分化されています。

- 侵入予防外来種

国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。

- その他の定着予防外来種

侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。

(ii) 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)

総合対策外来種は、「国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種」として選定されています。以下の3つに細分化されています。

- 緊急対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として

①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

- 重点対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準^{*1}として

①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

- その他の総合対策外来種

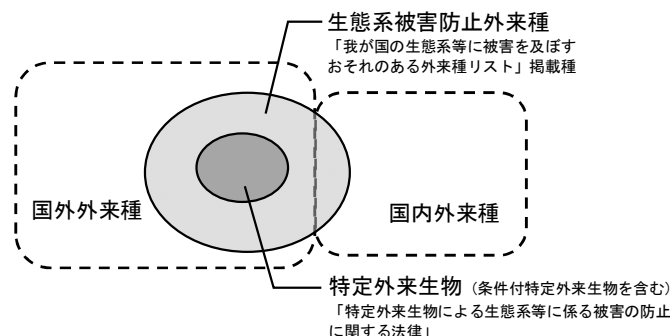
(iii) 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

産業管理外来種は、「産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種」として選定されています。

^{*1} 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度に関する基準)

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る



(参考) 国外外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

目別確認状況一覧（陸上昆虫類等）

綱と名	目と名	東北		関東		北陸		近畿		中国		四国		九州				5巡目（今回調査）合計					
		米代川		荒川		庄川		大和川		円山川		江の川		吉井川		那賀川			松浦川		大分川		
		4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目	4巡目	5巡目		4巡目	5巡目			
クモ綱 昆虫綱	クモ目	92	98	154	266	60	79	58	93	100	114	193	218	101	129	52	66	66	69	129	120	377	
	カゲロウ目	4	12	8	12	3	2	0	0	6	5	16	8	14	10	5	6	16	4	10	4	31	
	トンボ目	29	26	24	26	23	25	16	20	31	28	49	54	39	44	11	10	34	26	31	30	71	
	ゴキブリ目	0	1	2	2	2	1	1	2	2	2	4	2	2	3	2	1	1	3	3	4	9	
	カマキリ目	1	2	5	4	4	3	1	4	2	3	7	6	4	3	1	2	4	3	5	6	8	
	ハサミムシ目	5	5	5	8	3	4	3	4	2	4	6	5	5	4	4	2	2	5	3	6	12	
	カワゲラ目	1	7	1	1	3	1	0	0	1	3	9	4	2	3	1	0	0	0	2	0	17	
	バッタ目	30	33	61	53	47	46	41	52	48	43	65	76	47	45	31	35	41	38	51	60	99	
	ナナフシ目	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	2	4	
	カメムシ目	120	147	233	255	89	110	112	156	157	151	310	310	183	189	92	71	139	241	192	188	562	
	ヘビトンボ目	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	ラクダムシ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	アミメカゲロウ目	3	3	5	2	1	1	0	2	1	1	6	7	3	3	1	2	2	2	3	1	12	
	シリアゲムシ目	2	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	0	1	1	1	1	1	5	
	トビケラ目	11	19	15	27	12	8	4	4	4	24	18	36	50	36	34	11	20	22	8	16	84	
	チョウ目	417	333	159	248	149	215	166	200	200	150	184	232	250	170	137	64	52	228	136	151	93	774
	ハエ目	78	139	102	142	34	35	46	51	51	72	108	89	156	65	109	68	44	117	56	75	57	397
	コウチュウ目	413	486	464	587	344	295	306	310	310	397	451	766	736	394	397	246	211	265	323	451	413	1,478
	ハチ目	64	135	120	166	70	73	93	101	101	94	105	156	154	106	93	61	56	86	90	89	127	351
水系別確認種数		1,270	1,450	1,360	1,801	846	900	848	1,001	1,089	1,223	1,972	2,018	1,172	1,204	650	579	1,025	1,005	1,212	1,132		
5巡目（今回調査）地方別確認種数		1,450		1,801		900		1,679		2,358		579		1,609		4,293							

注）各河川における4巡目調査の種数は、毎年公表されている「河川水辺の国勢調査結果の概要（河川版）（生物調査編）」（国土交通省河川局環境課）より引用した。

重要種一覧（陸上昆虫類等）

No.	目 和 名	科 和 名	種 和 名	文化財保護法	種の保存法	環境省版 レッドリスト	東北 米代川	関東 荒川	北陸 庄川	近畿 大和川 田山川	中国 江の川 吉井川	四国 那賀川	九州 松浦川 大分川	確認河川数			
1	クモ目	シグモ科	ワスレナグモ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ			準絶滅危惧 (NT)		●			●	●		3			
3			キシノウエトタテグモ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
4		コモリグモ科	イソコモリグモ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	●							1			
5		ホウシグモ科	ドウシグモ			情報不足 (DD)								1			
6	トンボ目	イトトンボ科	ヒヌマイイトトンボ			絶滅危惧ⅠB類 (EN)				●			●	1			
7		モノサシトンボ科	グンバイトンボ			準絶滅危惧 (NT)					●	●		2			
8		カワトンボ科	アオハダトンボ			準絶滅危惧 (NT)		●	●		●		●	7			
9		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ			準絶滅危惧 (NT)							●	2			
10		サナエトンボ科	キイロサナエ			準絶滅危惧 (NT)					●	●		2			
11			ナゴヤサナエ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				●	●			2			
12			タバサナエ			準絶滅危惧 (NT)					●		●	4			
13			オグマサナエ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
14	カメムシ目	ヨコバイ科	スナヨコバイ			準絶滅危惧 (NT)	●							1			
15		カスミカメムシ科	リンゴクロカスミカメ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
16		ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ			準絶滅危惧 (NT)					●	●		3			
17		カメムシ科	ヒラタダガリカメムシ			準絶滅危惧 (NT)					●		●	2			
18		カタビロアメンボ科	オヨギカタビロアメンボ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
19		コオイムシ科	コオイムシ			準絶滅危惧 (NT)	●			●	●	●		4			
20	トビケラ目	アシエダトビケラ科	ビワアシエダトビケラ			準絶滅危惧 (NT)					●	●		1			
21		ヒゲナガトビケラ科	ウジヒメセトトビケラ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
22	チョウ目	スカシバガ科	アシナガモモツスカシバ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)			●					1			
23		ボクトウガ科	ハイロボクトウ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
24		マダラガ科	ヤホシソマダラ			準絶滅危惧 (NT)							●	1			
25		セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ			準絶滅危惧 (NT)	●	●			●		●	4			
26			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種			準絶滅危惧 (NT)	●							1			
27		シジミチョウ科	クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
28			シルビアシジミ			絶滅危惧ⅠB類 (EN)					●			1			
29		タテハチョウ科	ウラギンシジミウモン			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	●							1			
30		シロチョウ科	ツマグロキチョウ			絶滅危惧ⅠB類 (EN)				●	●	●	●	4			
31		ドクガ科	スダクガ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
32		ヤガ科	コシロシタバ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
33			ヌマバウスキョウトウ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●			1			
34			カギモンハナオイアツバ			準絶滅危惧 (NT)	●	●				●		2			
35			キスジウスキョウトウ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				●				1			
36			キシタアツバ			準絶滅危惧 (NT)			●		●		●	6			
37			ギンモンアカトウ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		●		●				1			
38	ハエ目	ニクバエ科	ゴヘイニクバエ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	●							1			
39	コウチュウ目	オサムシ科	キバネキバナガミズギワゴミムシ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●			1			
40			チビアオゴミムシ			絶滅危惧ⅠB類 (EN)		●						1			
41			オオトックリゴミムシ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
42			オオセウタンゴミムシ			準絶滅危惧 (NT)						●		2			
43		ハンミョウ科	ハラビロハンミョウ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●			1			
44			アイヌハンミョウ			準絶滅危惧 (NT)				●	●		●	4			
45		ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
46		ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	二種		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	●							1			
47		コガタノゲンゴロウ	コガタノゲンゴロウ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●		●	2			
48		マルガタゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ	二種		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	●			●				2			
49		シマゲンゴロウ	シマゲンゴロウ			準絶滅危惧 (NT)				●				1			
50		アンピンチビゲンゴロウ	アンピンチビゲンゴロウ			情報不足 (DD)					●			1			
51		コマルケシゲンゴロウ	コマルケシゲンゴロウ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
52		マルチビゲンゴロウ	マルチビゲンゴロウ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
53		ホソマルチビゲンゴロウ	ホソマルチビゲンゴロウ			情報不足 (DD)					●			1			
54		キベリマメゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ			準絶滅危惧 (NT)		●	●		●		●	4			
55	ミズスマシ科	オオミズスマシ	オオミズスマシ			準絶滅危惧 (NT)	●							1			
56	コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			情報不足 (DD)			●					1			
57	ガムシ科	マルヒラタガムシ	マルヒラタガムシ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
58		スジヒラタガムシ	スジヒラタガムシ			準絶滅危惧 (NT)				●	●	●		3			
59		コガムシ	コガムシ			情報不足 (DD)	●	●			●		●	6			
60		ガムシ	ガムシ			準絶滅危惧 (NT)	●			●	●			3			
61		コガタガムシ	コガタガムシ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●			1			
62		ミユキシジミガムシ	ミユキシジミガムシ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
63	シデムシ科	ヤマトモンシデムシ	ヤマトモンシデムシ			準絶滅危惧 (NT)		●		●				2			
64	コガネムシ科	アカマダラハナムグリ	アカマダラハナムグリ			情報不足 (DD)				●				1			
65	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	ヨコミゾドロムシ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●	●		2			
66	ハムシ科	オオルリハムシ	オオルリハムシ			準絶滅危惧 (NT)	●							1			
67	ハチ目	コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ			情報不足 (DD)					●			1			
68		セイボウ科	ムサシトゲセイボウ			準絶滅危惧 (NT)		●						1			
69			オオセイボウ			情報不足 (DD)							●	1			
70		アリ科	ケブカツヤオアリ			情報不足 (DD)					●			1			
71		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ			情報不足 (DD)			●	●	●	●	●	8			
72			モンズズメバチ			情報不足 (DD)	●	●	●	●	●	●	●	6			
73	クモバチ科	フタモンクモバチ	フタモンクモバチ			準絶滅危惧 (NT)			●		●			2			
74		アオスジクモバチ	アオスジクモバチ			情報不足 (DD)		●			●		●	4			
75	ギンダチバチ科	アカオビケラトリバチ	アカオビケラトリバチ			準絶滅危惧 (NT)					●			1			
76	ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ本土亜種	ヤマトスナハキバチ本土亜種			情報不足 (DD)	●	●			●		●	5			
77		ニッポンハナダカバチ	ニッポンハナダカバチ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)				●	●			2			
78		キアシハナダカバチモドキ	キアシハナダカバチモドキ			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)					●			3			
79		ミツバチ科	クロマルハナバチ			準絶滅危惧 (NT)	●			●	●		●	4			
80		ハキリバチ科	キバラハキリバチ			準絶滅危惧 (NT)				●	●			2			
水系別確認種数							17	20	7	5	19	35	29	4	7	17	-

凡 例)
文化財保護法（昭和51年）
国指定特別天然記念物、天然記念物
種の保存法「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成5年）
国内：国内希少野生動植物種
一種：特定第一種国内希少野生動植物種
二種：特定第二種国内希少野生動植物種
緊急：緊急指定種
環境省版レッドリスト「環境省レッドリスト2020」（令和2年）
絶滅 (EX)：我が国ですでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (WX)：飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)：絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種
地域個体群 (LP)：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

外来種一覧（陸上昆虫類等）

No.	目 和 名	科 和 名	種 和 名	※1 特定外来生物 及び 生態系被害防止 外来種リスト掲載種	東北 来 代 川	関東 荒 川	北陸 庄 川	近畿 大 和 川 山 川	中国 江 の 川	吉 井 川	四国 那 賀 川	九州 松 浦 川 大 分 川	確 認 河 川 数	発 見 （ 侵 入 ） 年
1	クモ目	ヒメダモ科	セアカゴケグモ	特定/総合対策(緊急)							●		1	—
2		ウシオダモ科	クロガケシダモ								●		1	—
3	ゴキブリ目	ゴキブリ科	ワモンゴキブリ					●					1	—
4			クロゴキブリ						●				3	—
5	カマキリ目	カマキリ科	ムネアカハラビロカマキリ			●						●	1	2000年代
6	ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	スジハサミムシモドキ			●							1	1998年
7	マツムシ目	マツムシ科	アオマツムシ				●	●	●	●	●	●	9	1898年
8		ヒバリモドキ科	ウスダモスズ			●		●	●				4	—
9	カメムシ目	オンブバッダ科	アカハネオンブバッダ					●		●			2	2012年頃
10		ビワハゴロモ科	シタベニハゴロモ				●						2	2009年
11		ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ			●			●				2	2017年
12		ヨコバイ科	ウスイロタケヨコバイ						●				1	2018年
13		クンバイムシ科	アワダシクワグンバイ			●	●	●	●	●	●	●	9	2000年
14			ヘクソカズラグンバイ							●			1	1996年
15		カスミカメムシ科	タイワンツヤカスミカメ									●	1	—
16			クスベニヒラタカスミカメ			●			●				2	2015年
17		ヘリカメムシ科	マツヘリカメムシ		●								1	2008年
18	チョウ目	ナガカメムシ科	ツマベニヒメナガカメムシ	特定/総合対策(重点)		●			●	●	●	●	5	2018年
19		カタハチヨウ科	ツカボシゴマダラ			●							1	1998年
20		ツトガ科	シバツトガ				●	●	●				1	1964年
21		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ			●			●	●			6	1945年
22	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ		●	●		●				●	6	1950年
23	コウチュウ目	オサムシ科	コルリアトキリゴミムシ		●	●	●	●					3	1989年
24		ホタル科	ノハラボタル			●							1	1983年
25		カワオブシムシ科	ヒメカワオブシムシ ※2			●							1	—
26			カドマルカワオブシムシ						●				1	—
27			ヒメアカカワオブシムシ ※2			●							1	—
28		シバンムシ科	タバコシバンムシ ※2							●			1	—
29		ナガシシムシ科	コナナガシシムシ ※2							●			1	—
30		カコウムシ科	アカカビホシカムシ			●							1	1957-60年
31			アカアシホシカムシ			●							1	1957-60年
32		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ			●			●	●	●	●	5	1985年
33			モンクチルテントウ			●		●	●	●	●	●	8	1989年
34			クモガタテントウ			●			●	●			3	1984年
35			ムネハラアカクロテントウ			●							1	—
36			バダリアテントウ			●							1	1911年
37			ムネアカオオクロテントウ			●	●						2	2015年
38		キスイムシ科	ウスバキスイ									●	1	—
39		ネスイムシ科	トビイロネスイ			●			●			●	3	—
40		ゲンキスイ科	クリイロゲンキスイ ※2			●		●	●			●	5	1957-60年
41		ホソヒラタムシ科	ホソヒラタホソヒラタムシ					●					1	—
42		コキノコムシ科	チャイロコキノコムシ ※2						●			●	2	—
43		ガミキリモドキ科	ツマクログミキリモドキ						●				1	—
44		ガミキリシムシ科	コクヌストモドキ ※2			●							1	—
45		カミキリムシ科	クビアカツヤカミキリ	特定/総合対策(その他)		●		●					2	2012年
46			ハラアココバカミキリ			●			●				1	1961年?
47			ラミーカミキリ			●	●	●	●			●	6	19世紀
48			キボシカミキリ ※3		●	●	●	●	●			●	7	—
49		ハムシ科	ミヤコグサマメゾウムシ			●							1	—
50			アズキマメゾウムシ ※2			●		●	●				3	江戸時代?
51			メリケントビハムシ			●							1	2023年
52			タバコノミハムシ			●							1	2011年
53			クズクビソハムシ										1	2016年
54			ブタクサハムシ		●	●	●	●	●	●	●	●	9	1996年
55		ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ ※2						●	●		●	3	1956年
56		ゾウムシ科	オオダイコンサルゾウムシ			●			●			●	3	不明
57			オオタコゾウムシ		●	●		●				●	4	1978年
58			ツメカサタコゾウムシ		●			●					2	1943年
59			アルファルファタコゾウムシ			●		●	●	●	●	●	8	1982年
60			ヤサイゾウムシ			●		●				●	3	1942年
61			ケチビコフキゾウムシ			●							1	1954年
62			ツメカサタネコパンゾウムシ				●	●				●	3	1993年
63		オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ			●		●	●	●		●	7	1979年
64		イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ		●		●	●	●	●	●	●	5	1976年
65	ハチ目	アリ科	アルゼンチンアリ	特定/総合対策(緊急)				●					1	1993年
66			カブカアメイロアリ					●					2	—
67			ルリアリ			●		●	●	●	●	●	7	—
68			ヒゲナガアメイロアリ			●		●		●	●	●	2	戦後
69			アワテコサアリ			●		●					1	—
70		クモバチ科	ツマアカクモバチ			●		●				●	2	—
71		セナガアナバチ科	サトセナガアナバチ			●		●					1	—
72		アナバチ科	アメリカシジガバチ			●	●	●	●			●	7	1945年
73		ミツバチ科	セイヨウミツバチ		●	●	●	●	●	●	●	●	10	1876年
			タイワンタケクマバチ			●	●	●	●	●				2007年
74		ハキリバチ科	イマイツツハナバチ						●				1	1970年代
水系別確認種数					10	45	13	26	22	27	21	14	14	24
地域別確認種数					10	45	13	35		35		14	27	

注1) 発見(侵入)年は、「日本の帰化生物(平成5年, 保育社)」などを参照した。

※1 特定外来生物及び生態系被害防止外来種リスト掲載種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下「特定外来生物法」) 指定種

特定: 「特定外来生物法」における特定外来生物

未判定: 「特定外来生物法」における未判定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(以下「生態系被害防止外来種リスト」) 掲載種

定着予防(侵入予防): 国内に未定着・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防(その他): 侵入の情報はあがるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策(緊急): 国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策(重点): 国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策(その他): 国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理: 産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

※2 貯穀害虫: 貯蔵食物を加害する昆虫類の総称。

※3 キボシカミキリは東日本型が外来種とされ、西日本型は在来種か外来種が明らかではないとされている。

6.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは、河川の自然度や健全度をみる目的で、河畔林に特徴的な昆虫類 4 種を用いて自然河畔林の発達・分布状況の把握を試みました。また、チョウを用いた環境指数により河川の自然度やハビタット機能を評価しました。

【河畔林に特徴的な種の確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

- ゴマダラチョウを 9 河川、コムラサキを 9 河川、ミドリシジミを 1 河川で確認

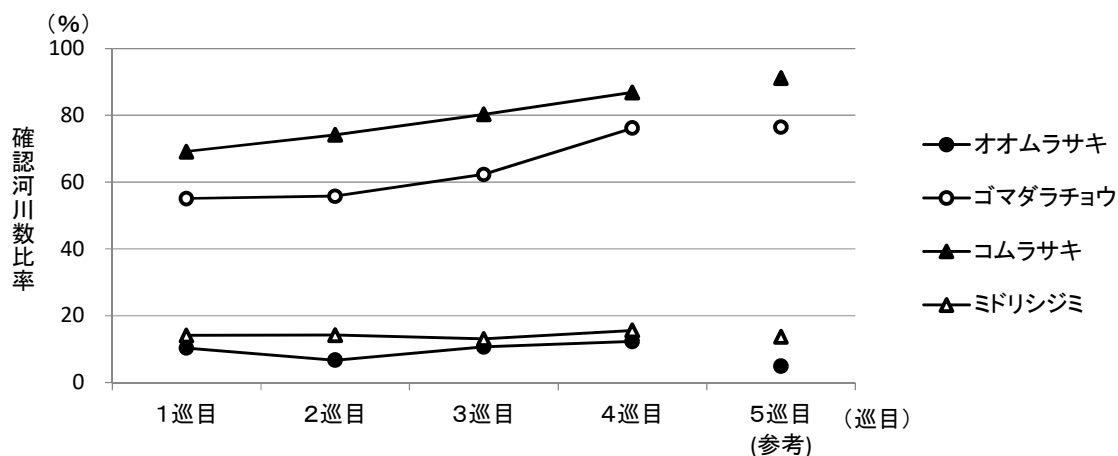
河畔林によくみられるオオムラサキ、ゴマダラチョウ、コムラサキ、ミドリシジミの確認状況を整理しました。

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）では、いずれの種も大きな変動は認められませんでした。

（資料掲載：6-8～6-9 ページ、6-108～6-109 ページ）

1 ～ 5 巡目調査の確認河川数の比較

種類 (食草)	1 巡目調査 (78 河川)	2 巡目調査 (120 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (122 河川)	5 巡目調査 (102 河川)
オオムラサキ (エノキ類)	8 河川 [10.3]	8 河川 [6.7]	13 河川 [10.7]	15 河川 [12.3]	5 河川 [4.9]
ゴマダラチョウ (エノキ類)	43 河川 [55.1]	67 河川 [55.8]	76 河川 [62.3]	93 河川 [76.2]	78 河川 [76.5]
コムラサキ (ヤナギ類)	54 河川 [69.2]	89 河川 [74.2]	98 河川 [80.3]	106 河川 [86.9]	93 河川 [91.2]
ミドリシジミ (ハンノキ類)	11 河川 [14.1]	17 河川 [14.2]	16 河川 [13.1]	19 河川 [15.6]	14 河川 [13.7]



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1 ～ 4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数を示す。

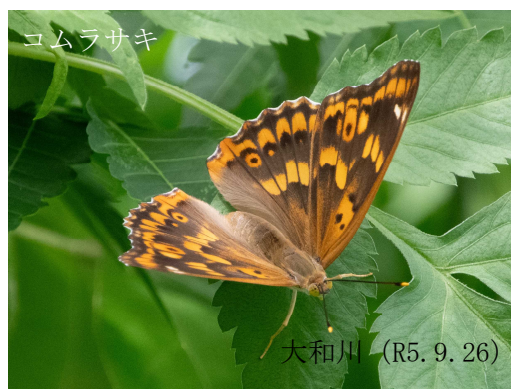
※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※ 5 巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 5 年度の調査結果を示す。

河畔林（エノキ群落やヤナギ群落、ハンノキ群落など）に特徴的な４種の昆虫類の確認状況から、河畔林の発達・分布状況の把握を試みました。

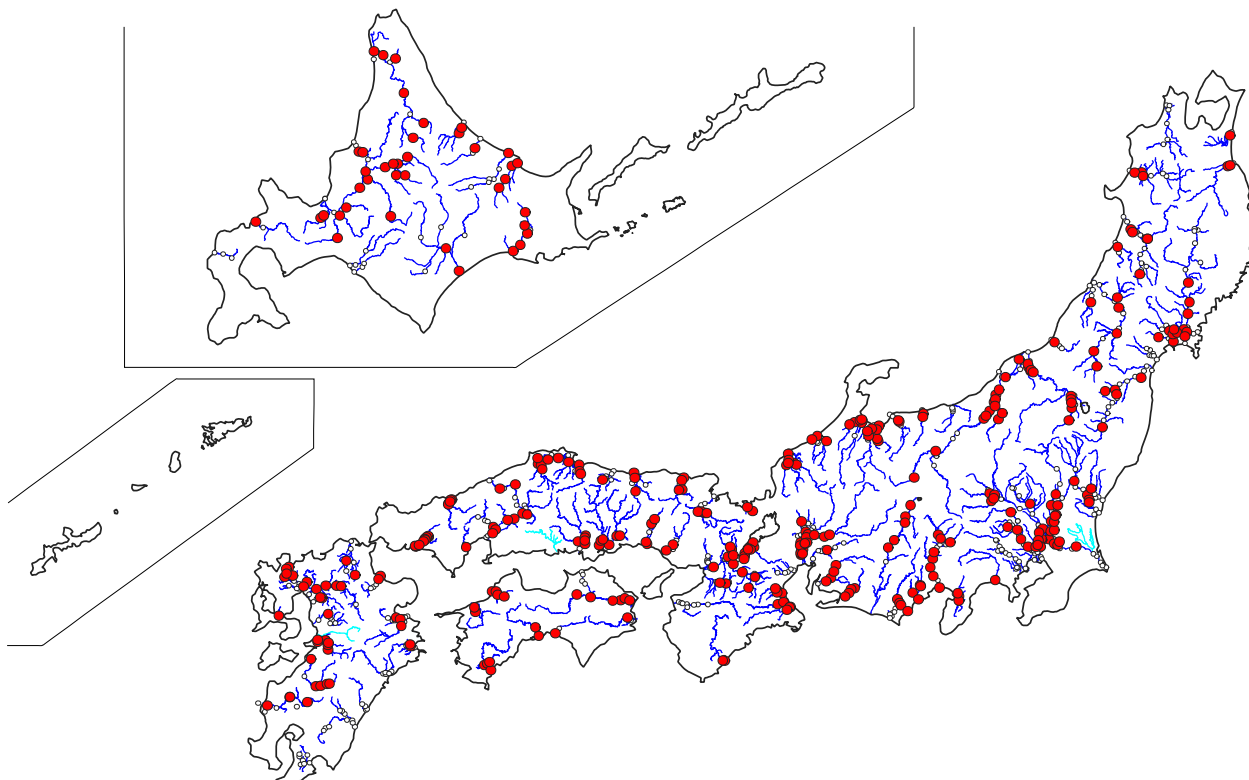
１～４巡目調査全体の確認河川数の割合は、オオムラサキとミドリシジミにおいては１巡目から比較的低い値で、ほぼ横ばいに推移しているのに対し、ゴマダラチョウとコムラサキにおいては巡目ごとに増加傾向が認められました。

今回取りまとめを行った１０河川（直轄管理区間）において、オオムラサキはいずれの河川でも確認されませんでした。ゴマダラチョウは東北地方の米代川を除く９河川で、コムラサキは四国地方の那賀川を除く９河川で確認されました。ミドリシジミは関東地方の荒川で確認され、残り９河川では河川水辺の国勢調査では５巡目までに確認されていません。

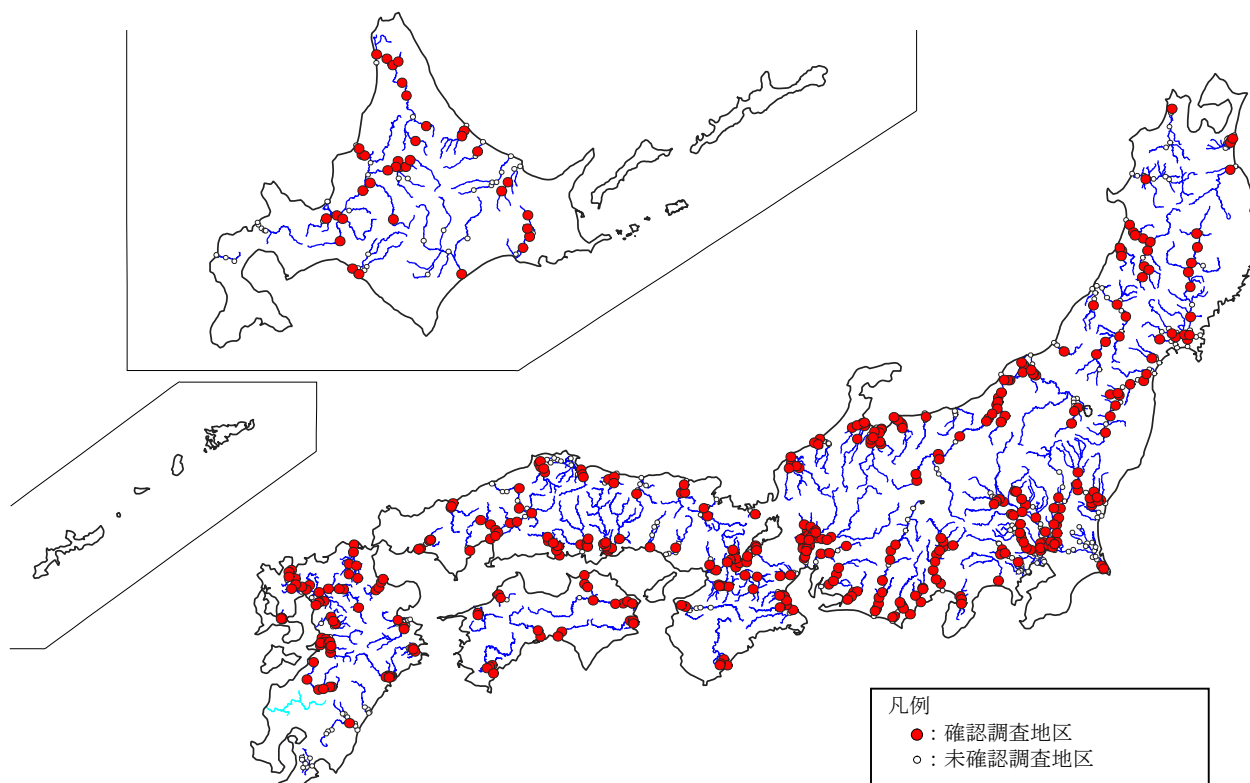


注）オオムラサキ、ゴマダラチョウ、ミドリシジミの画像は、過年度報告書から転用した。

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



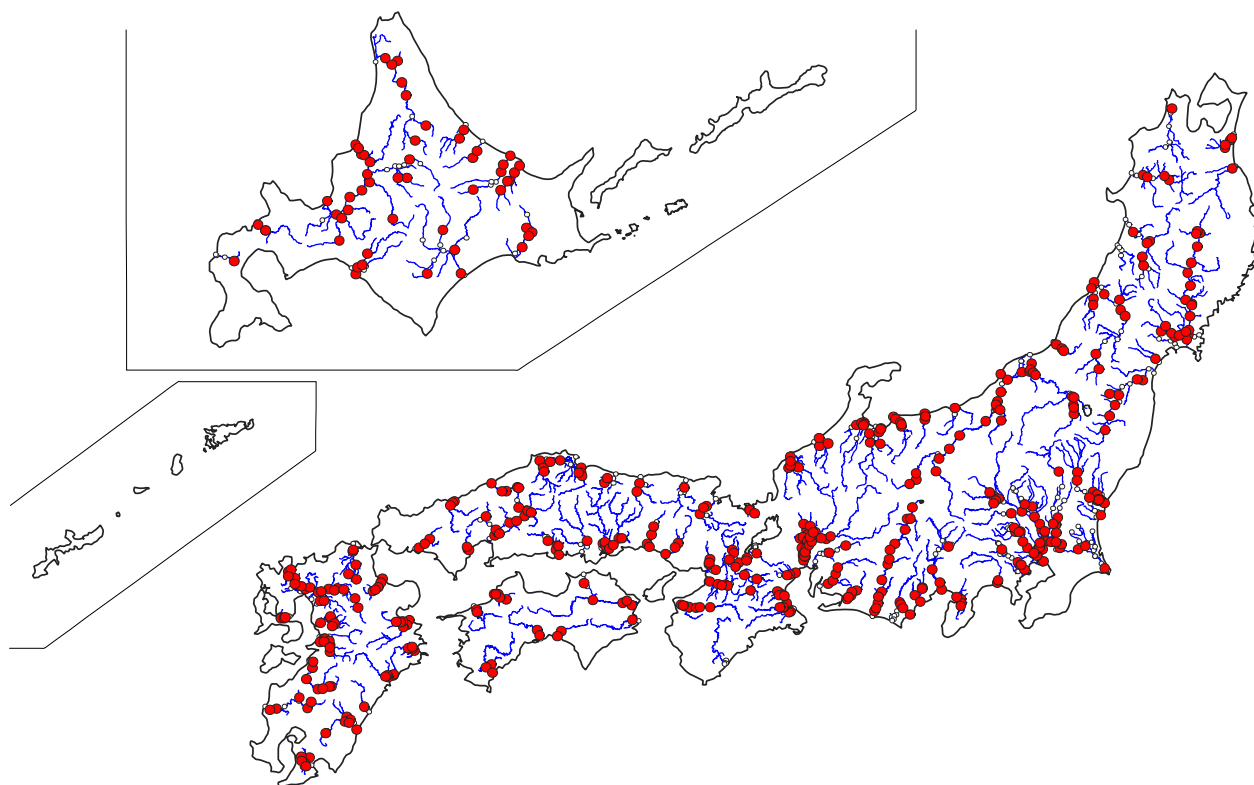
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



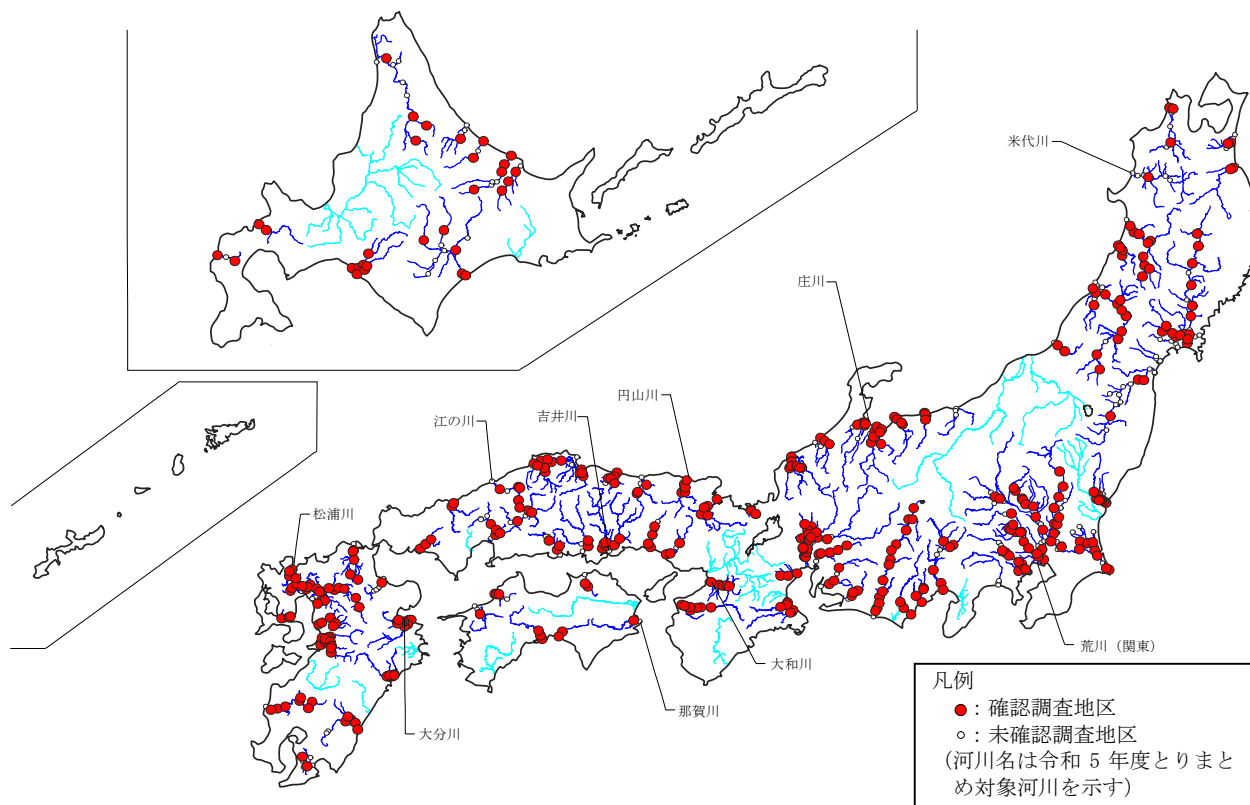
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

河畔林に特徴的な種の確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

河畔林に特徴的な種の確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

- いずれの河川も、大部分の地区で寡自然又は中自然の環境指数を示す

チョウ類を用いた環境指数(EI)により、河川敷の自然度を評価しました。

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）では、ほとんどの地区で寡自然又は中自然を示しました。

(資料掲載：6-14～6-15 ページ)

ここでは、調査地区別に年間を通して確認されたチョウ類を用いて環境指数(EI)を算出し、整理しました。この環境指数は、その数値が大きいほどチョウ類にとっての環境が多様で、良好な状態にあることを示します。

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）を環境指数からみると、ほとんどの地区が寡自然又は中自然を示しました。このうち、環境指数が 4～5 巡目にかけて上昇した地区が多かった河川として中国地方の吉井川（5 地区中 2 地区）があげられました。一方、4～5 巡目にかけて低下した地区が多かった河川として関東地方の荒川（16 地区中 5 地区）があげられました。

陸上昆虫類等調査は、調査時の雨量や気温などの要素にも左右されるため、環境指数の変動を一概に市街地化などの環境変化に結びつけて論じることにはできませんが、一定の期間で調査を実施し、データを蓄積することで、より実態に近い評価ができるようになります。

「環境指数(EI)」

チョウ類を用いた環境指数(EI)とは、チョウを環境指標生物として用い、それぞれの種を多自然種、準自然種、都市(農村)種に分け、それぞれ順に 3、2、1 の指数を与え、各調査地でみられたチョウの指数の和を用いて環境を評価するものです。チョウ類が環境指標生物として用いられる理由は、それぞれの種の生活史及びその生態がよく判明しており、環境との結びつきや地域ごとの分布が正確に把握されているという点にあります。

チョウの指数と区分

指数	区分	区分の説明	代表的な種
3	多自然種	人類の営力とは無関係に生息している種	ミドリシジミ、ヒメシジミ、ミスジチョウ、ミヤマカラスアゲハ等
2	準自然種	1と3の中間的な種	コムラサキ、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ等
1	都市(農村)種	人類の営力の元で生息している種	ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ等

環境指数 (EI) = $\sum_{i=1}^n x_i$ ただし n : 調査で確認したチョウの総種数 x_i : i番目の種の指数

環境指数 (EI)	環境評価	具体的な環境
0～9	貧自然	都市中央部
10～39	寡自然	住宅地・公園緑地
40～69	中自然	農村・人里
70～99	中～多自然	やや良好な林や草原
100～149	多自然	良好な林や草原
150～	富自然	極めて良好な林や草原

(日本環境動物昆虫学会編, 1998)を一部変更

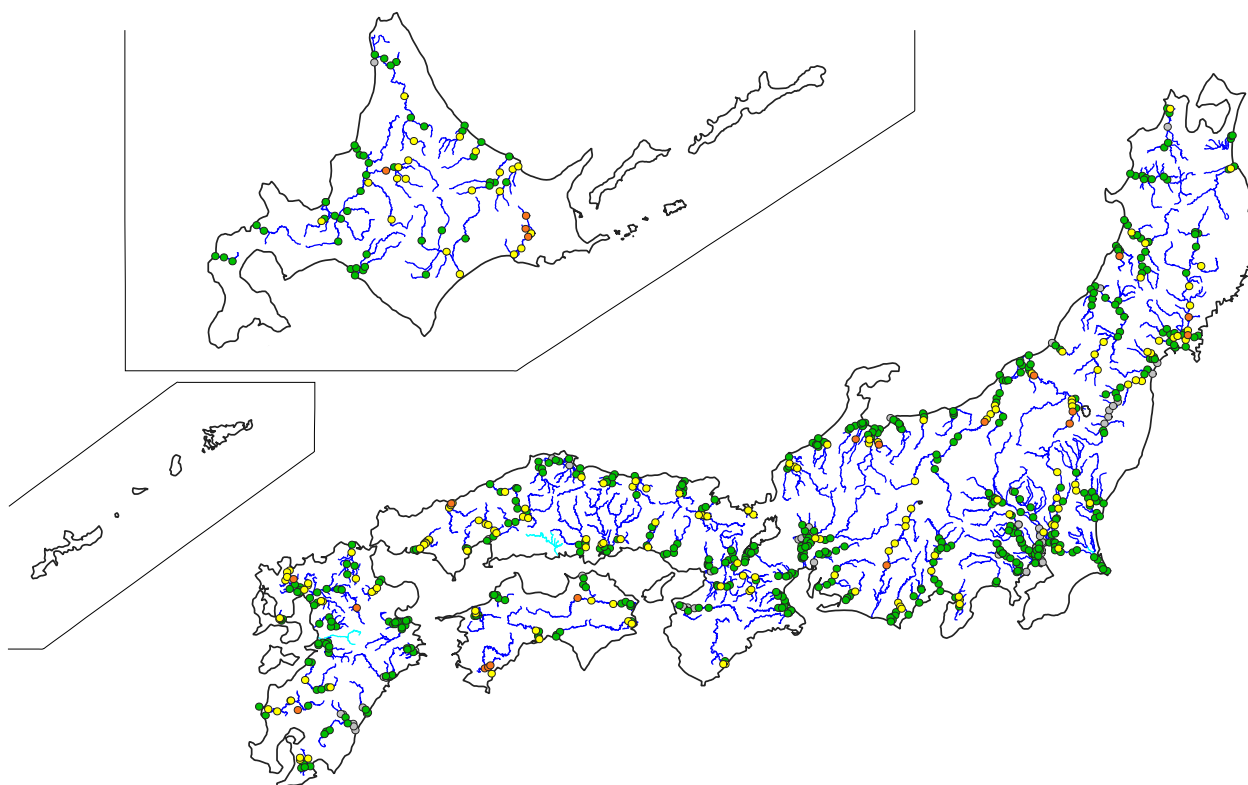


写真－４ 巡目調査時と比較して、環境指数が上昇した地区が多かった河川（中国地方の吉井川）のうち、チョウ指数が大きく増加した調査地区（左：13～14km、右：3.2～3.6km）における環境
（背後に山間地が連なり、樹林、高茎草地、低茎草地、河原など多様な環境が存在する）

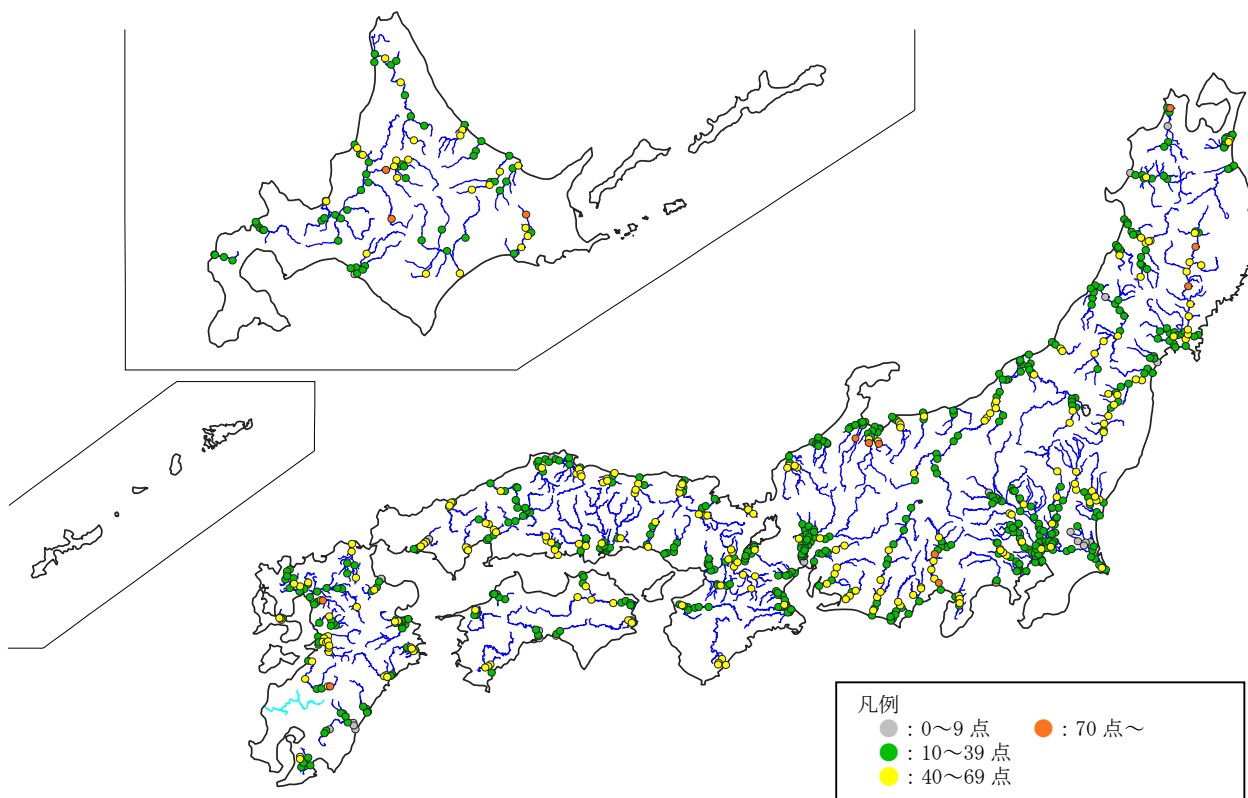
河川別環境指数(EI)の集計結果 (令和5年度調査 対象河川:10河川)

地方	河川名	巡目	環境指数(EI)					調査 地区数
			0～9	10～39	40～69	70～99	100～	
東北	米代川	1	1	4				5
		2		4				4
		3		3	1			4
		4		3	3			6
		5		4	3			7
関東	荒川	1	2					2
		2		8	1			9
		3		7	2			9
		4		11	5			16
		5		16				16
北陸	庄川	1	1	2	1			4
		2		3		1		4
		3		3		1		4
		4		3	1			4
		5		3	1			4
近畿	大和川	1		4				4
		2		3	1			4
		3		3	1			4
		4		6	1			7
		5		5	2			7
	円山川	1	1	5				6
		2		5	1			6
		3		3	3			6
		4		5	1			6
		5		5	2			7
中国	江の川	1		1	3			4
		2		9	4			13
		3		12	1			13
		4		9	4			13
		5		8	5			13
	吉井川	1		4				4
		2		3	1			4
		3		3	1			4
		4		5				5
		5		3	2			5
四国	那賀川	1		1				1
		2		1				1
		3		1				1
		4		2				2
		5	1	1				2
中国	松浦川	1		3	1			4
		2			3	1		4
		3		4				4
		4		1	2	1		4
		5		2	2			4
	大分川	1		5				5
		2		5				5
		3		4	1			5
		4		1	4			5
		5		3	2			5

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



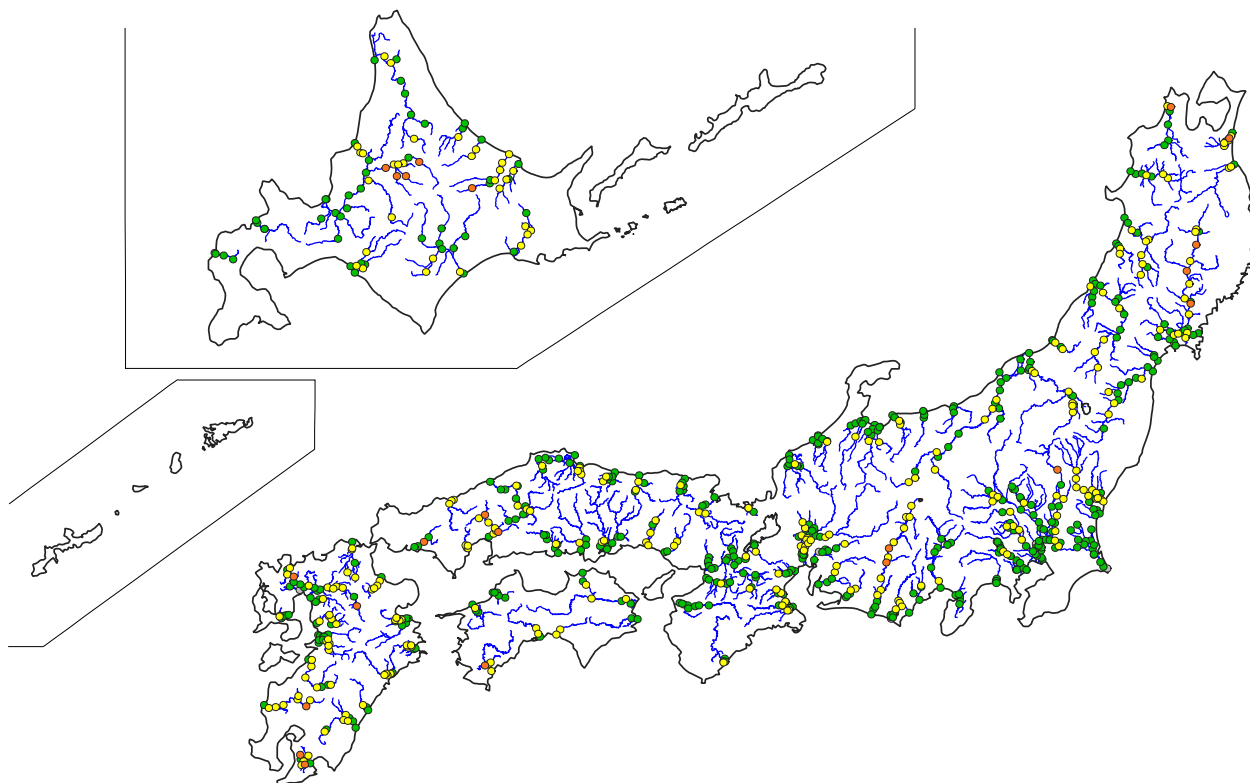
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



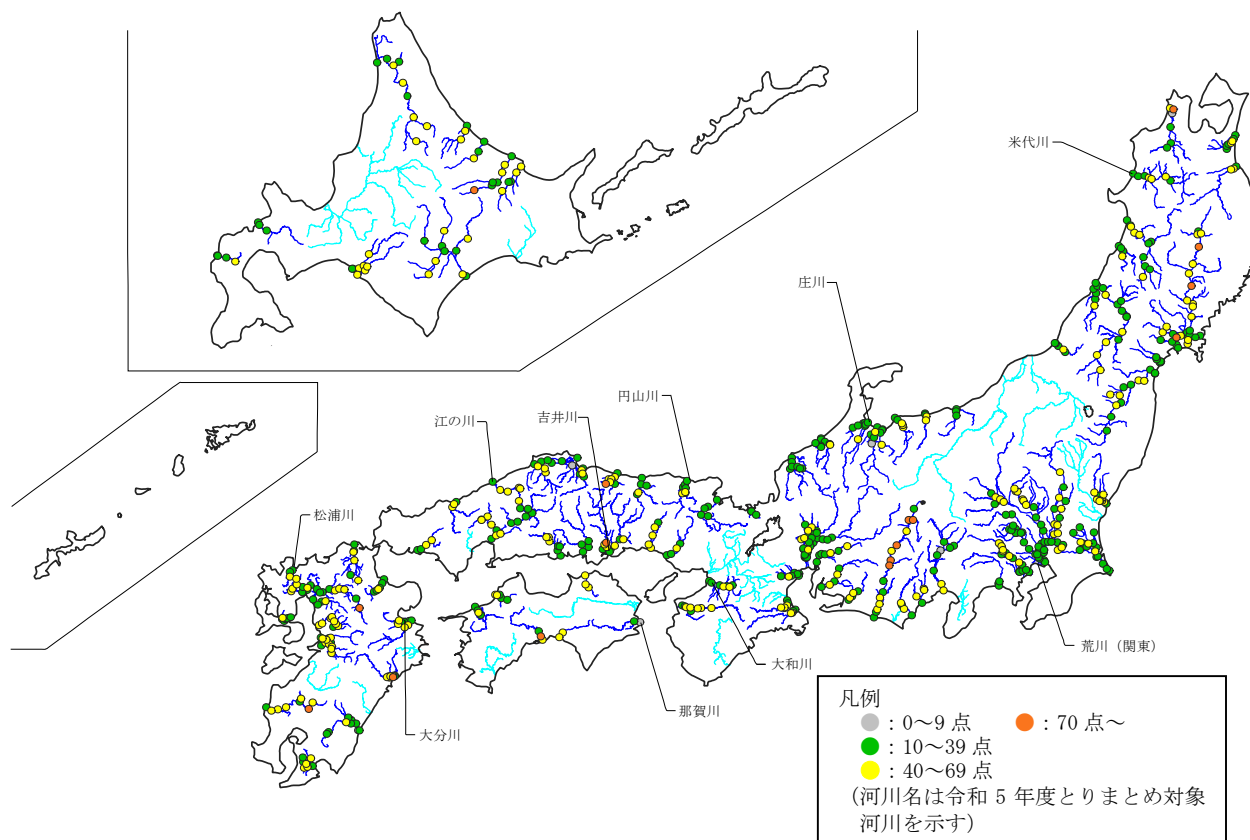
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

チョウ類を用いた環境指数(EI)による自然度（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中で、— は調査未実施の河川を示す。

チョウ類を用いた環境指数(EI)による自然度（4 巡目調査、5 巡目調査）

6.3 生物多様性

ここでは、生物多様性の攪乱状況をみる目的で、国外外来種の確認状況を整理しました。

【生物多様性の攪乱①：国外外来種の分布状況（特定外来生物・生態系被害防止外来種リスト掲載種）ハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモモブトハムシ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

● セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、クビアカツヤカミキリ、アルゼンチンアリを確認

特定外来生物又は生態系被害防止外来種であるハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモモブトハムシ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況を整理しました。

今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において、セアカゴケグモが四国地方の那賀川の1河川で、アカボシゴマダラが関東地方の荒川の1河川で、クビアカツヤカミキリが関東地方の荒川、近畿地方の大和川の2河川で、アルゼンチンアリが近畿地方の大和川の1河川で確認されました。

（資料掲載：6-24～6-41 ページ、6-108～6-111 ページ）

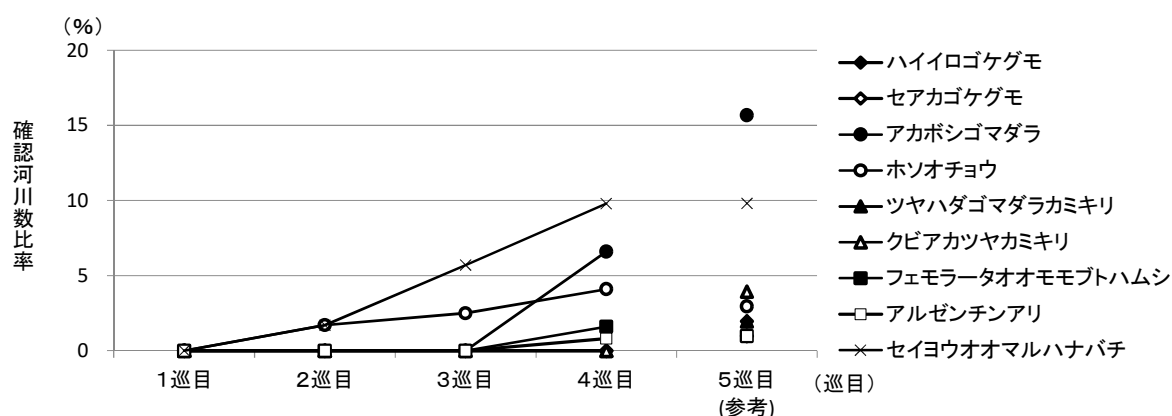




注) アカボシゴマダラ、アルゼンチンアリ以外の画像は、過年度報告書から転用した。

1～5巡目調査の確認河川数の比較

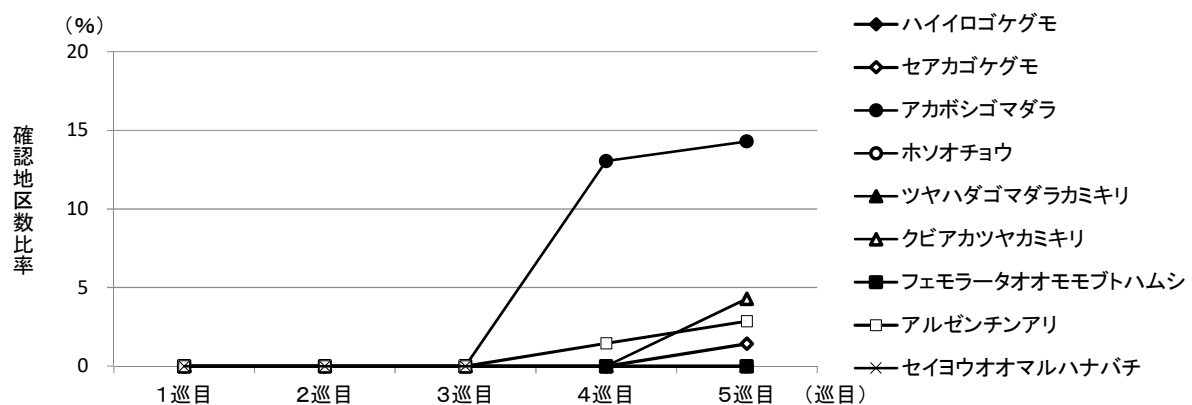
種類	1巡目調査 (78 河川)	2巡目調査 (120 河川)	3巡目調査 (122 河川)	4巡目調査 (122 河川)	5巡目調査 (102 河川)
ハイイロゴケグモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔1.0〕
セアカゴケグモ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.0〕
アカボシゴマダラ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	8 河川 〔6.6〕	16 河川 〔15.7〕
ホソオチョウ	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.7〕	3 河川 〔2.5〕	5 河川 〔4.1〕	3 河川 〔2.9〕
ツヤハダゴマダラカミキリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔2.0〕
クビアカツヤカミキリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	4 河川 〔3.9〕
フェモラータオオモモブトハムシ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.6〕	1 河川 〔1.0〕
アルゼンチンアリ	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	0 河川 〔0.0〕	1 河川 〔0.8〕	1 河川 〔1.0〕
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川 〔0.0〕	2 河川 〔1.7〕	7 河川 〔5.7〕	12 河川 〔9.8〕	10 河川 〔9.8〕



- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は分析対象河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。
- ※ 5巡目調査は実施途中で、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

令和5年度調査河川（10河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	1 巡目調査 (10 河川・ 66 地区)	2 巡目調査 (10 河川・ 78 地区)	3 巡目調査 (10 河川・ 76 地区)	4 巡目調査 (10 河川・ 69 地区)	5 巡目調査 (10 河川・ 70 地区)
ハイトロゴケグモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
セアカゴケグモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 1 地区 〔1.4〕
アカボシゴマダラ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 9 地区 〔13.0〕	1 河川 10 地区 〔14.3〕
ホソオチョウ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
ツヤハダゴマダラカミキリ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
クビアカツヤカミキリ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 3 地区 〔4.3〕
フェモラータオオモモボト ハムシ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
アルゼンチンアリ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 1 地区 〔1.4〕	1 河川 2 地区 〔2.9〕
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕



※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数・地区数を示す。

※ [] 内は確認地区数の分析対象地区数に対する%を示す。

ここでは、外来生物法により特定外来生物に指定される種及び生態系被害防止外来種リストに選定される種の確認状況を整理しました。これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたこれらに該当する種は、ハイイログケグモ、セアカゴケグモ、アルゼンチンアリ、セイヨウオオマルハナバチ、アカボシゴマダラ、ホソオチョウ、クビアカツヤカミキリ、フェモラータオオモボトハムシの8種です。確認年の早い種では、2巡目調査から確認されており、徐々にではありますが、確認河川数が増加する傾向がみられます。

ハイイログケグモは、中央・南アメリカから熱帯アフリカを中心に世界の熱帯に分布し、日本国内では、1995年に東京から沖縄に至る6都道府県で局地的に発見されています^{注1,2)}。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成29年度に調査した中部地方の鈴鹿川のみで、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）からは確認されませんでした。分布拡大については報告されていませんが、毒性が強く被害が出る恐れもあることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

セアカゴケグモは、オセアニアを中心に広く分布しており、日本国内では、1995年の大阪での発見以降、群馬県から沖縄に至る10府県で局地的に発生が認められています^{注1,2)}。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）からは、四国地方の松浦川の1河川において確認されました。四国地方の松浦川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。本種もハイイログケグモと同様、今後もその動向に注目していく必要があります。

アカボシゴマダラは、特定外来生物及び生態系被害防止外来種リストで総合対策（重点）に指定されている中国南部原産の外来種です。国内への侵入は人為的な放蝶行為によるものと考えられており、在来種のオオムラサキやゴマダラチョウと食草のエノキをめぐる競合が懸念されています^{注2,3,4)}。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）からは、関東地方の荒川の1河川において確認されました。本種は、在来種への悪影響が懸念されていることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

ホソオチョウは、東アジアの大陸部原産で、1978年に東京都で初めて確認されて以降、関東地方一帯、中部地方の岐阜県、近畿地方、岡山県、山口県、九州地方の福岡県などから報告されています。本種と同じくウマノスズクサ類を食草とする、在来種のジャコウアゲハとの生態的な競合が懸念され、生態系被害防止外来種リストで総合対策（重点）に指定されています^{注1,2,3,4,5)}。河川水辺の国勢調査においては、2巡目調査から確認され、確認河川数に若干の増加傾向がみられます。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）からは確認されませんでした。ウマノスズクサ類は河川敷にもよく生育していることから、河川敷を通じて分布を拡大する可能性があるため、今後もその動向に注目していく必要があります。

ツヤハダゴマダラカミキリは、中国、朝鮮半島に分布するコウチュウ目カミキリムシ科に属する昆虫で、日本国内では2002年に神奈川県で初めて確認され、その後東北地方から中国地方にかけて発生が確認されています^{注6)}。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）からは確認されませんでした。本種は様々な樹種を食害し、原産国である中国では植林した木の40%が被害を受けており、侵入先のニューヨーク、シカゴ、オーストラリアでも被害報告があることから^{注6)}、今後の状況を注目していく必要があります。

クビアカツヤカミキリは、中国、ベトナム、朝鮮半島等を原産とする甲虫類です。成虫はモモ・ウメ・スモモ・サクラの樹皮の隙間に産卵し、孵化した幼虫は樹皮下に入り、内樹皮・形成層を食害し、さらに、蛹室を深部の心材に作るため、侵入された樹木は枝が枯れ、進行すると枯死することが知られています。国内では 2012 年に愛知県、2013 年に関東地方に拡大し、2015 年には大阪府、徳島県でも発生が報告されています。本種は、その被害の深刻さから、特定外来生物及び生態系被害防止外来種リストで総合対策（その他）に指定されています^{注 3, 47)}。今回取りまとめたを行った 10 河川（直轄管理区間）からは、関東地方の荒川、近畿地方の大和川の 2 河川において確認されました。既に各地から多数の被害報告が発表されていることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

フェモラータオオモモブトハムシは、南アジアから中国南部が原産の甲虫類です。国内では 2006 年に三重県松阪市内で初めて野外確認され、2008 年頃には三重県で定着したとされています。その数年前からペットショップ等で販売されていた飼育個体が野生化したものと考えられており、生態系被害防止外来種リストでは総合対策（その他）に指定されました^{注 4, 8)}。今回取りまとめたを行った 10 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでしたが、本種はマメ科のクズを主な食草としているため、河川敷を通じて分布拡大する可能性があり、今後もその動向に注目していく必要があります。

アルゼンチンアリは、南米原産で、1993 年に広島で初めて確認され、2010 年までには、神戸、大阪、岐阜、愛知、神奈川、東京など飛び地状に分布を拡大しています。外来生物法で特定外来生物に選定されているほか、生態系被害防止外来種リストで総合対策（緊急）に指定されました。国際自然保護連合により世界の侵略的外来種ワースト 100 にも挙げられ、競争力が強いいため、在来のアリ類が駆逐されその生息数が減少したり、雑食性であることから、果実や新芽を摂食といった農作物への加害も報告されています^{注 1, 2, 3, 4)}。今回取りまとめたを行った 10 河川（直轄管理区間）からは、近畿地方の大和川の 1 河川において確認されました。本種は、河川における分布拡大も懸念されることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

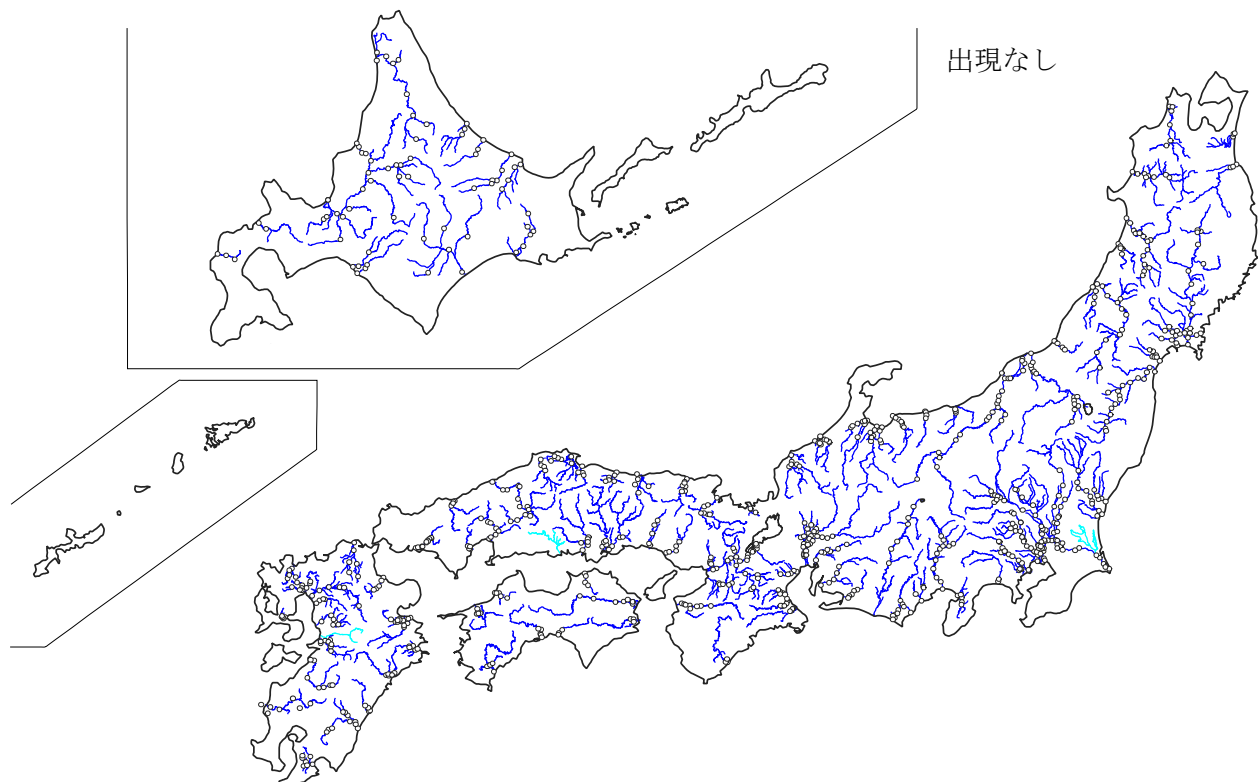
セイヨウオオマルハナバチは、ヨーロッパ原産で、温室栽培植物の受粉を目的として輸入した個体が逃げ、野生化したとされています。1991 年に静岡農業試験場で試験導入されたのち、輸入が本格化しましたが、1996 年春に北海道地方で本種の女王による野外越冬が初めて確認され、自然巣も発見されました。2009 年までに 27 都道府県で目撃されており、在来種のマルハナバチ類と餌や営巣場所をめぐる競合や、頻繁な盗蜜行動による野生植物の種子生産の阻害などにより、生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、特定外来生物及び産業管理に指定されています^{注 1, 2, 3, 4, 5)}。今回取りまとめたを行った 10 河川（直轄管理区間）からは確認されませんでしたが、本種は、北海道地方での分布の侵入・拡大傾向に加え、関東地方、中部地方、九州地方でも単発的な確認があることから、今後もその動向に注目していく必要があります。

- 注 1) 出典：日本生態学会，2002. 外来種ハンドブック. 地人書館.
- 注 2) 出典：梅谷献二編，2012. 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 全国農村教育協会.
- 注 3) 出典：環境省. 外来生物法. [<https://www.env.go.jp/nature/intro/llaw/index.html>] (最終閲覧日：2024 年 11 月 12 日).
- 注 4) 出典：環境省. 生態系被害防止外来種リスト. [<https://www.env.go.jp/press/100775.html>] (最終閲覧日：2024 年 11 月 12 日).
- 注 5) 出典：鷺谷いづみ・森本信生，1993. 日本の帰化生物. 保育社.
- 注 6) 出典：国立環境研究所 web サイト「侵入生物データベース ツヤハダゴマダラカミキリ」 [<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html>] (最終閲覧日：2024 年 11 月 12 日).
- 注 7) 出典：神吉正雄，2019. クビアカツヤカミキリの発生とその推移. きべりはむし，42(2):25-31.
- 注 8) 出典：秋田勝己ほか，2011. 三重県に定着したフェモラータオオモモブトハムシ. 月刊むし，(485):36-41.

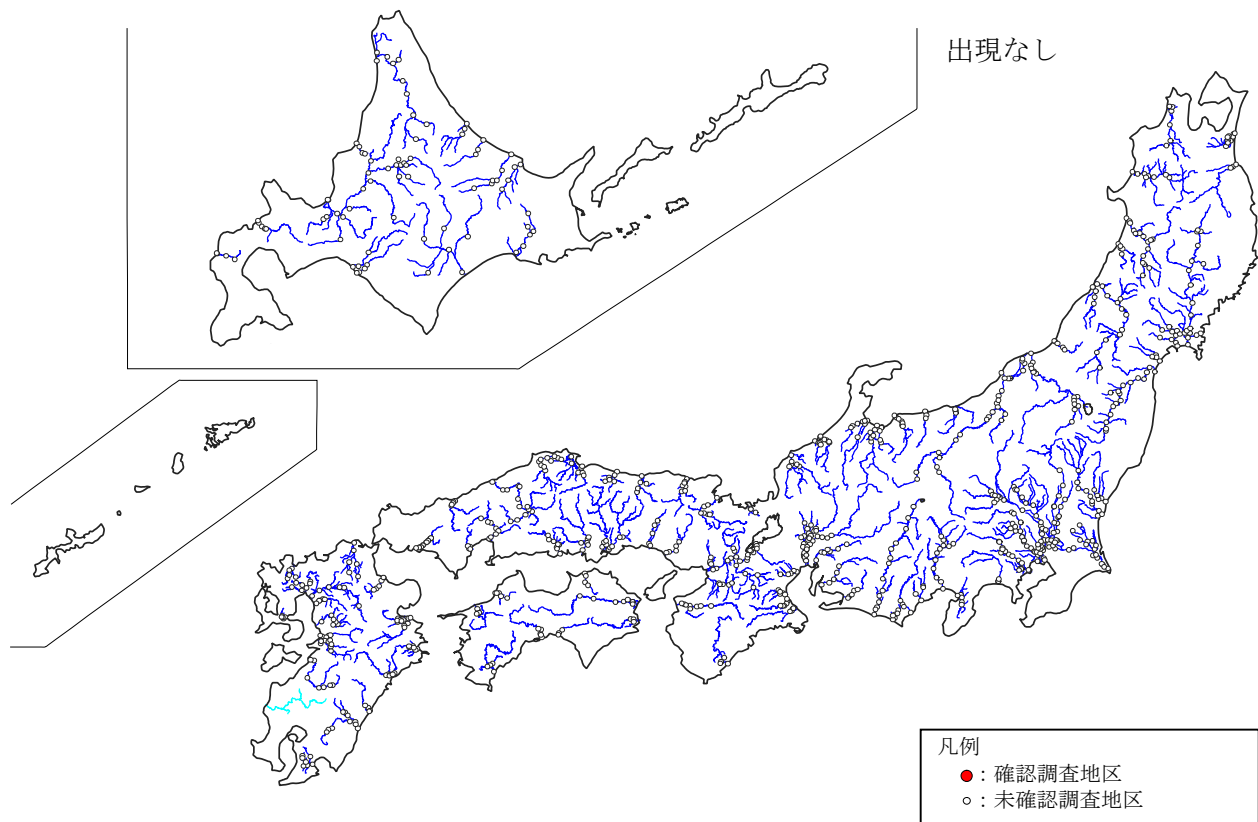
※ 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005年6月1日施行）』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官等も含まれる)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物が指定されています（指定された外来生物と在来種が交雑した生物も含む）。

※ 生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）とは、我が国の生物多様性を保全するため、様々な主体の参画のもとで外来種対策の一層の進展を図ることを目的とし、環境省及び農林水産省が「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがある生物」を生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種リストです。リスト中には特定外来生物法で指定された生物も含まれています。また、魚類、植物、哺乳類、両生類、爬虫類、陸上昆虫類においては、国内外来種も一部選定されています。

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



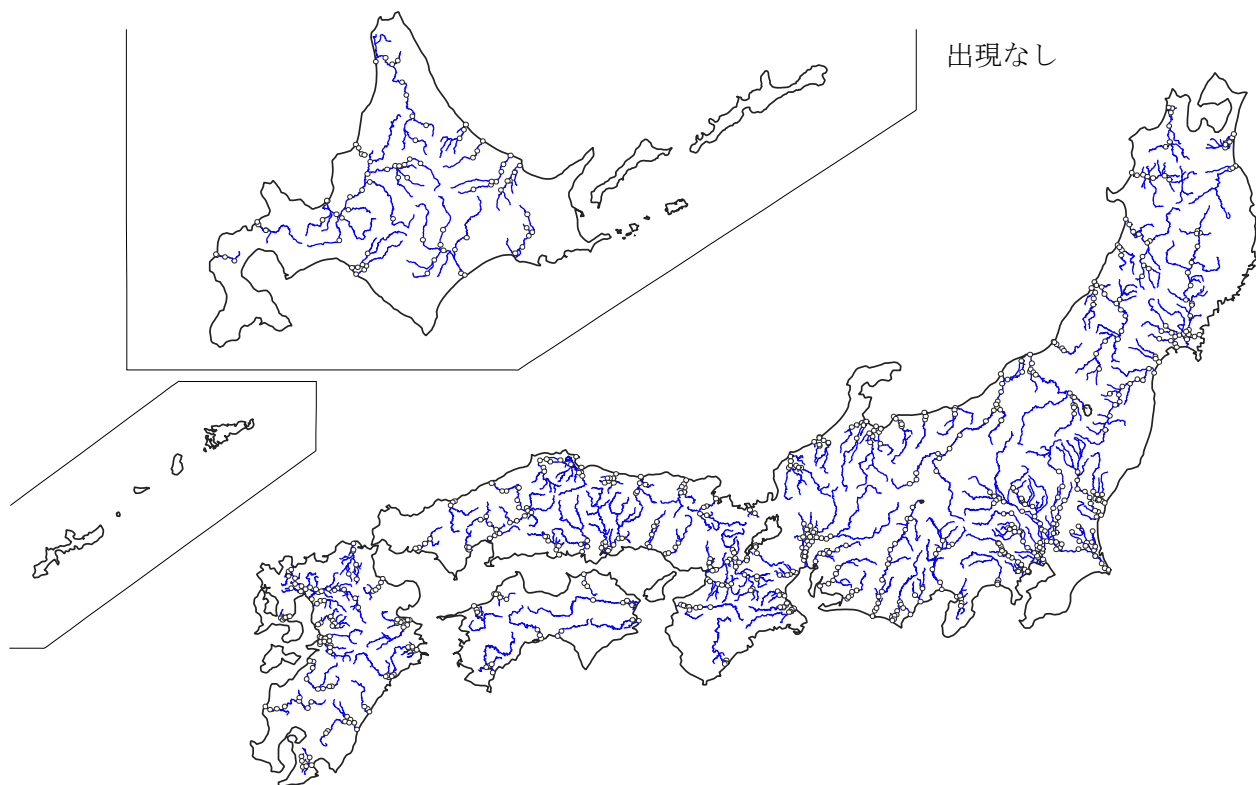
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



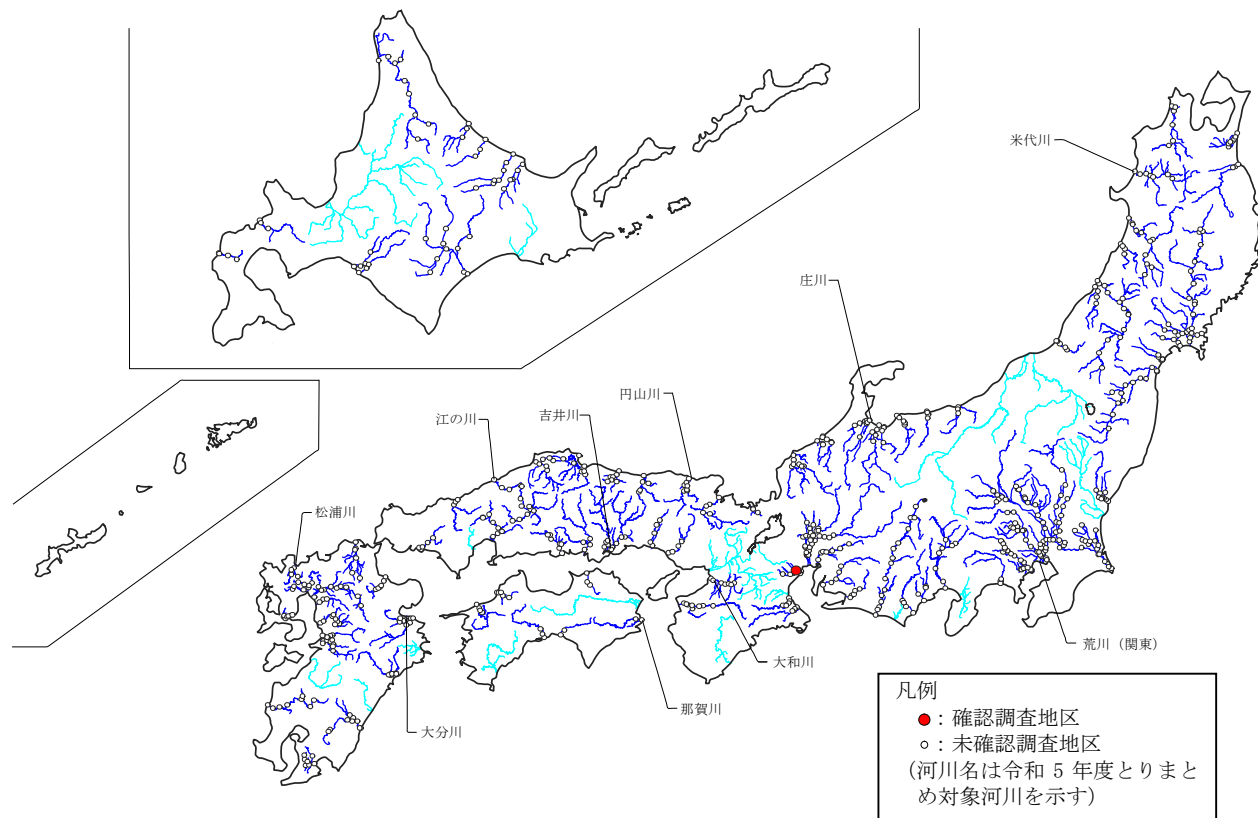
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を制受する。

ハイイロゴケグモの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



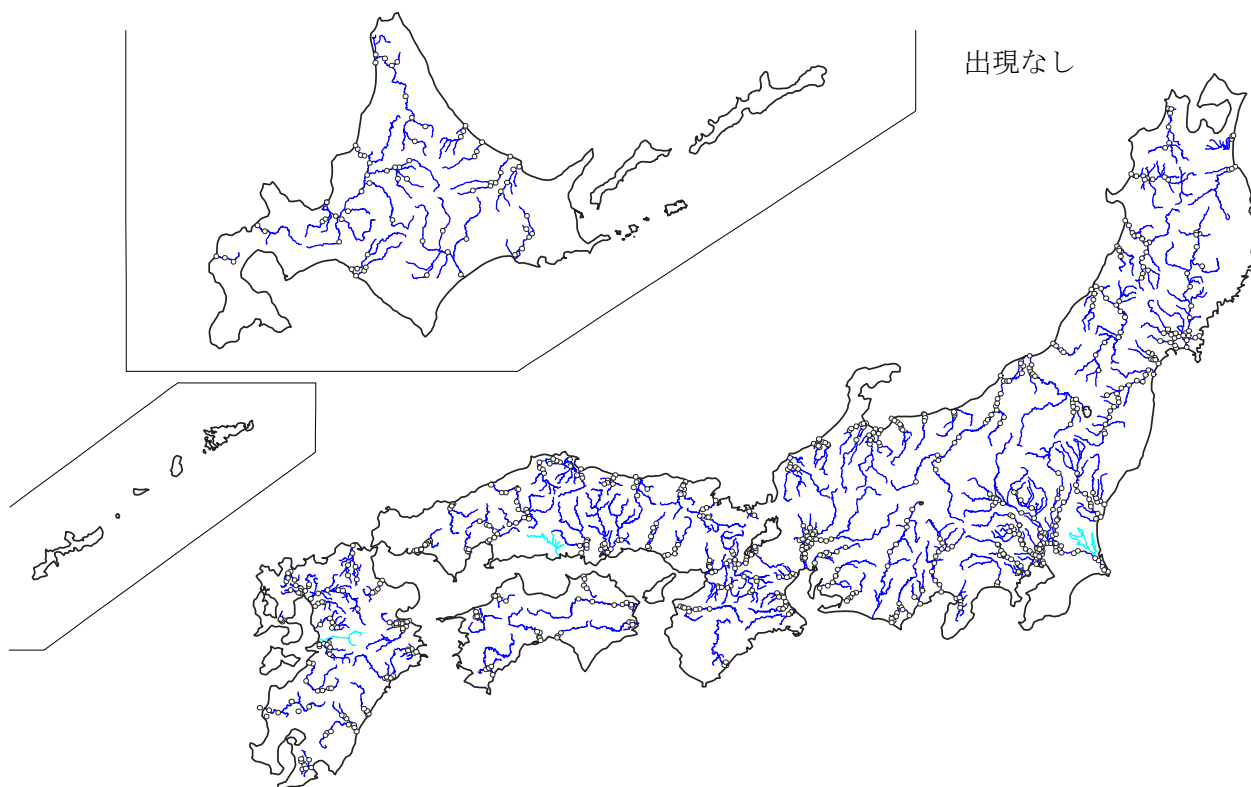
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



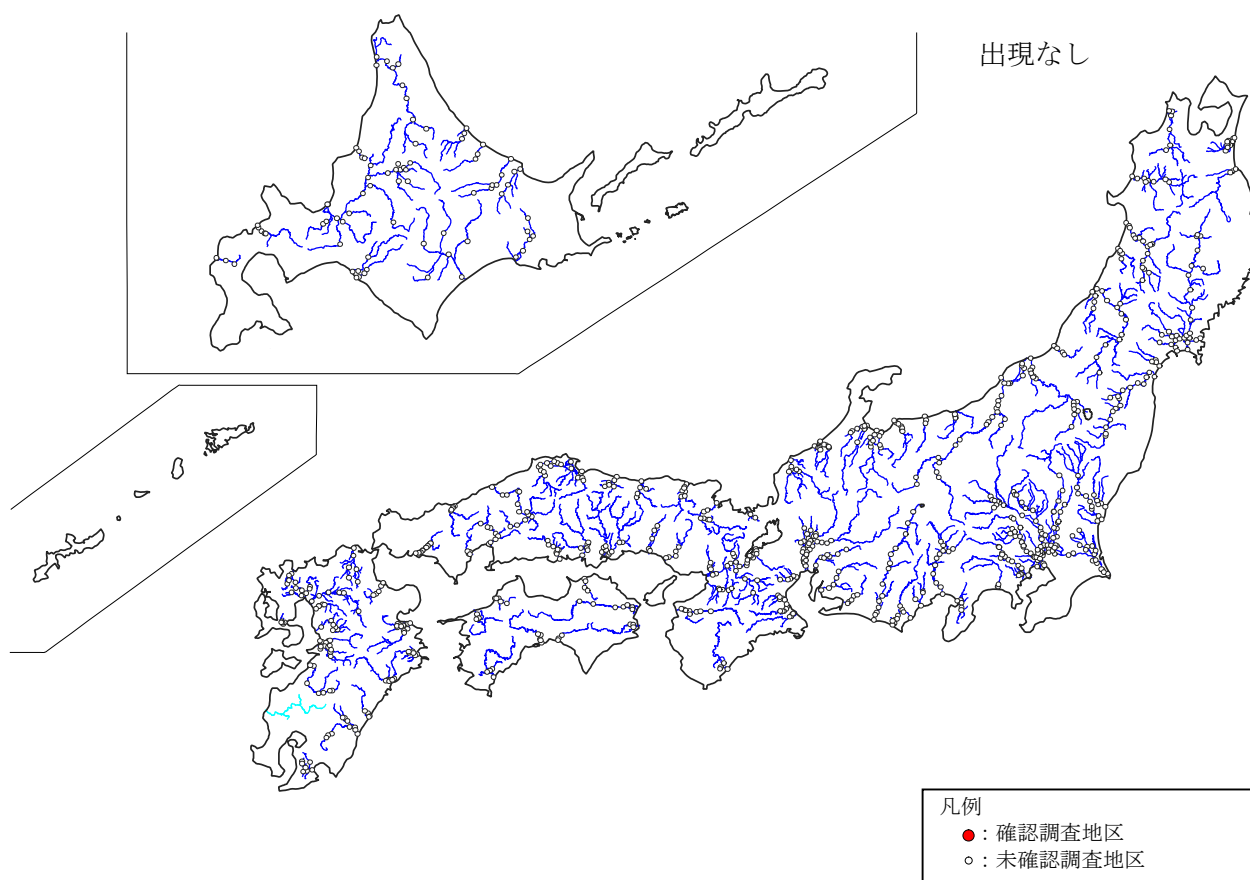
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ハイイロゴケグモの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

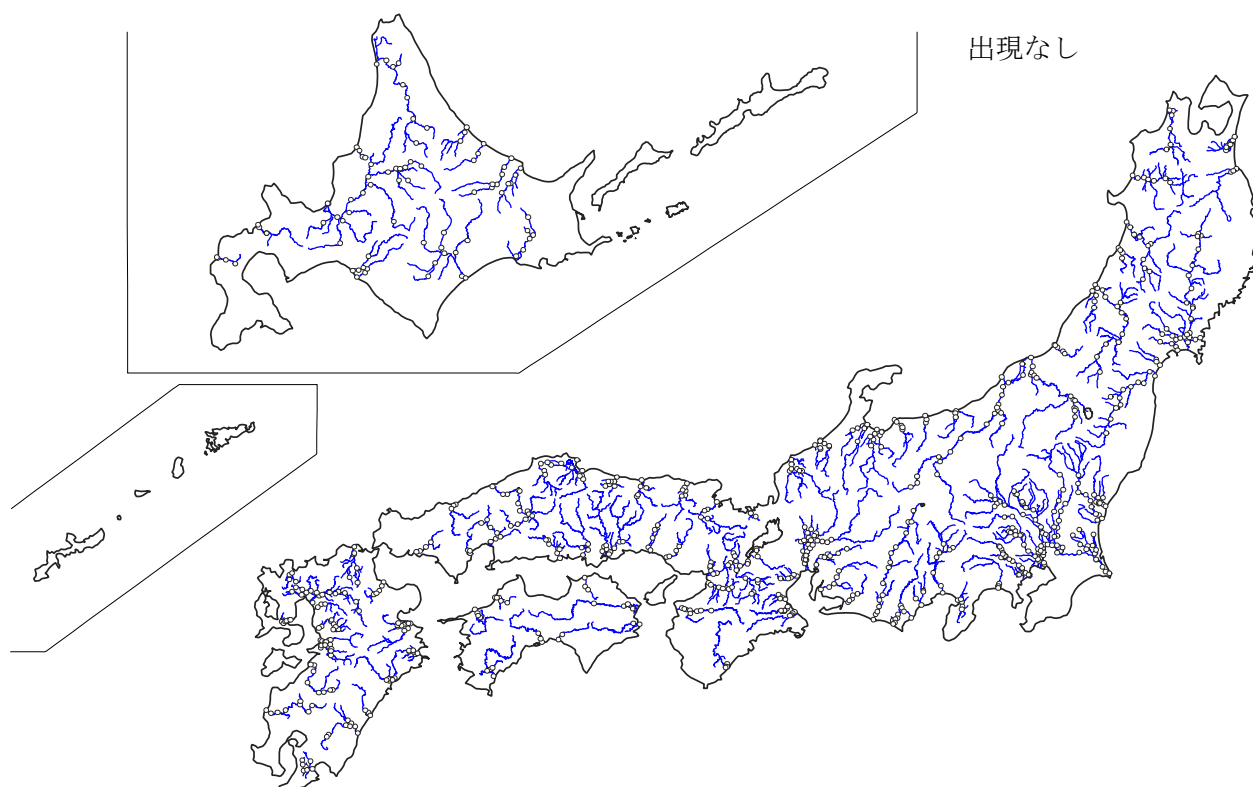


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

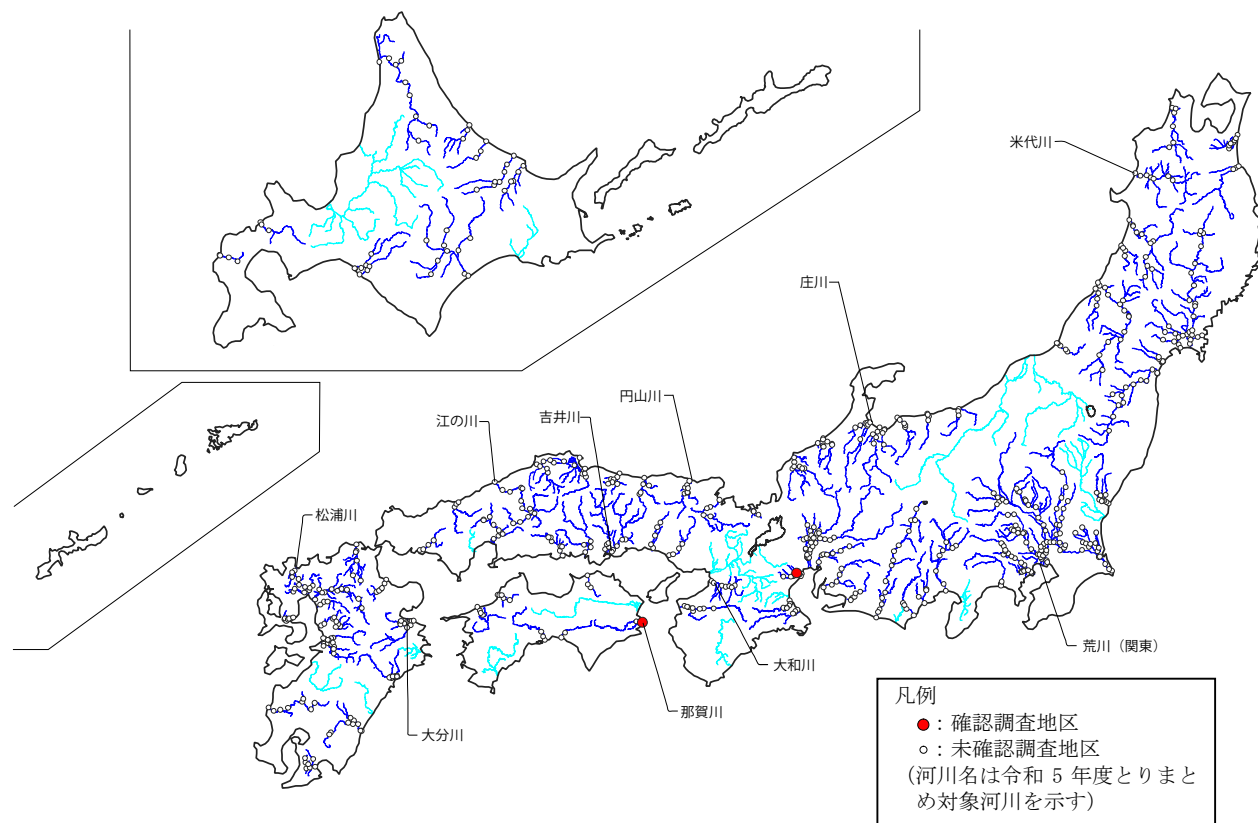
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

セアカゴケグモの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



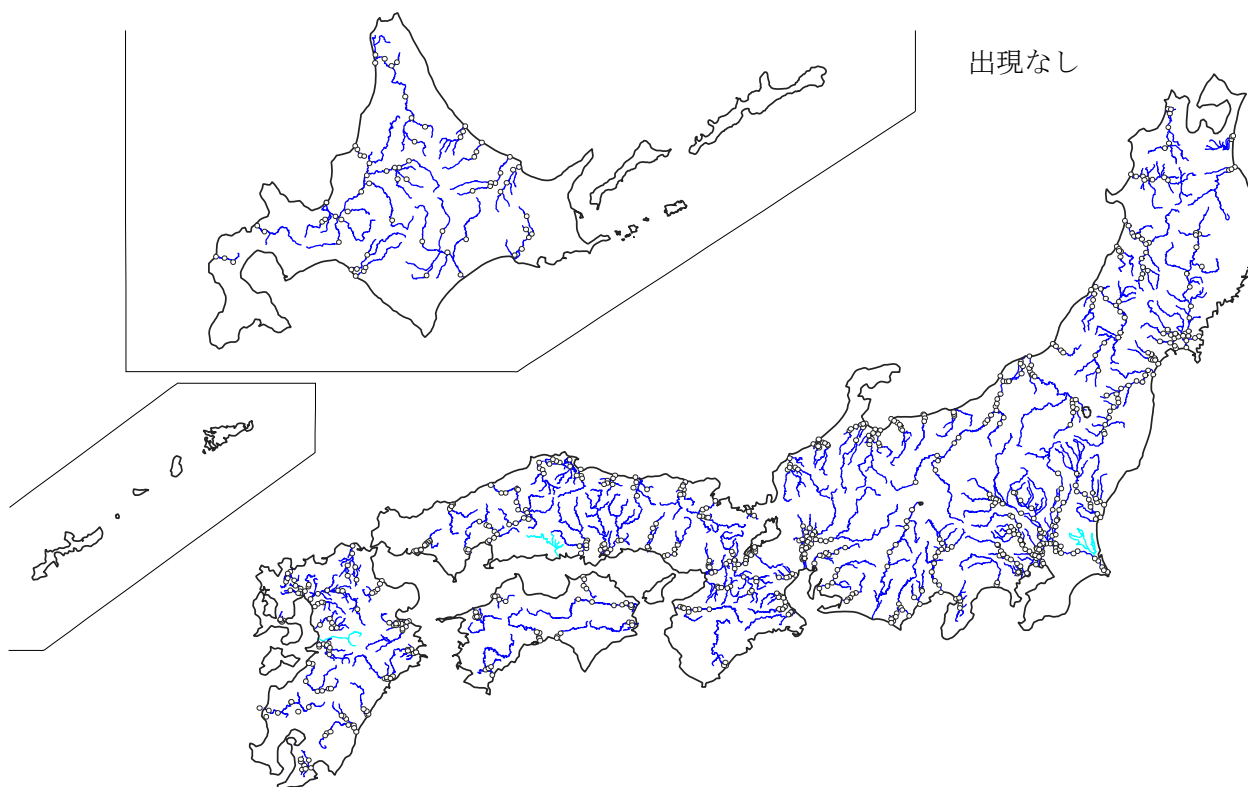
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



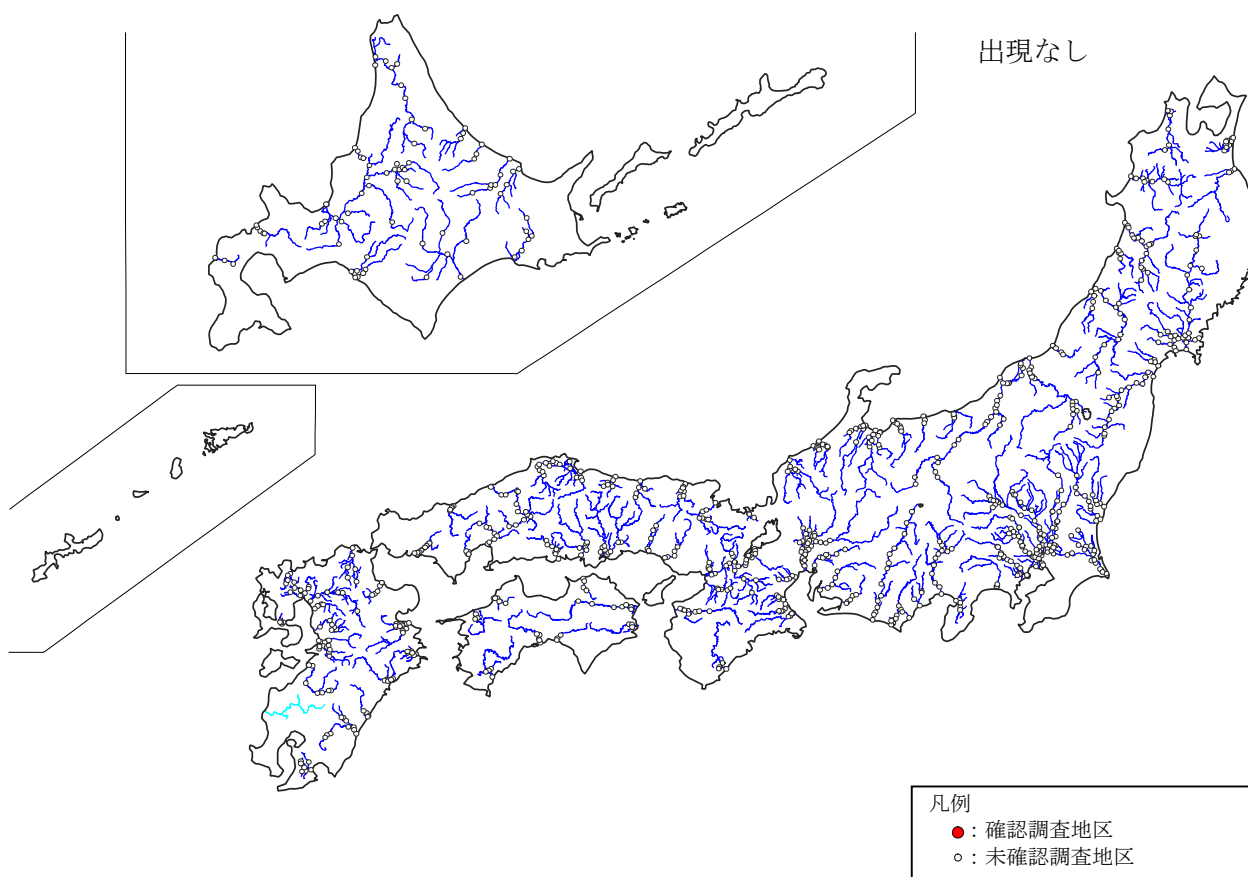
注）5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

セアカゴケグモの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

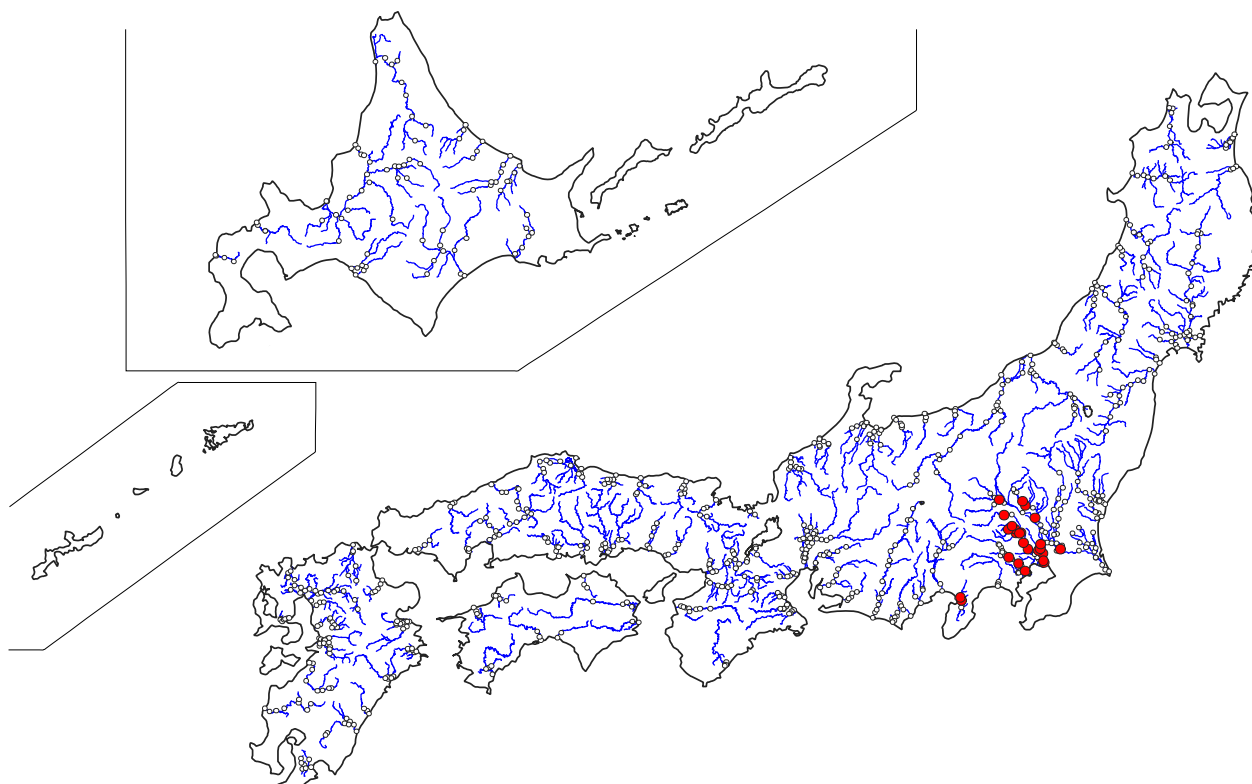


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

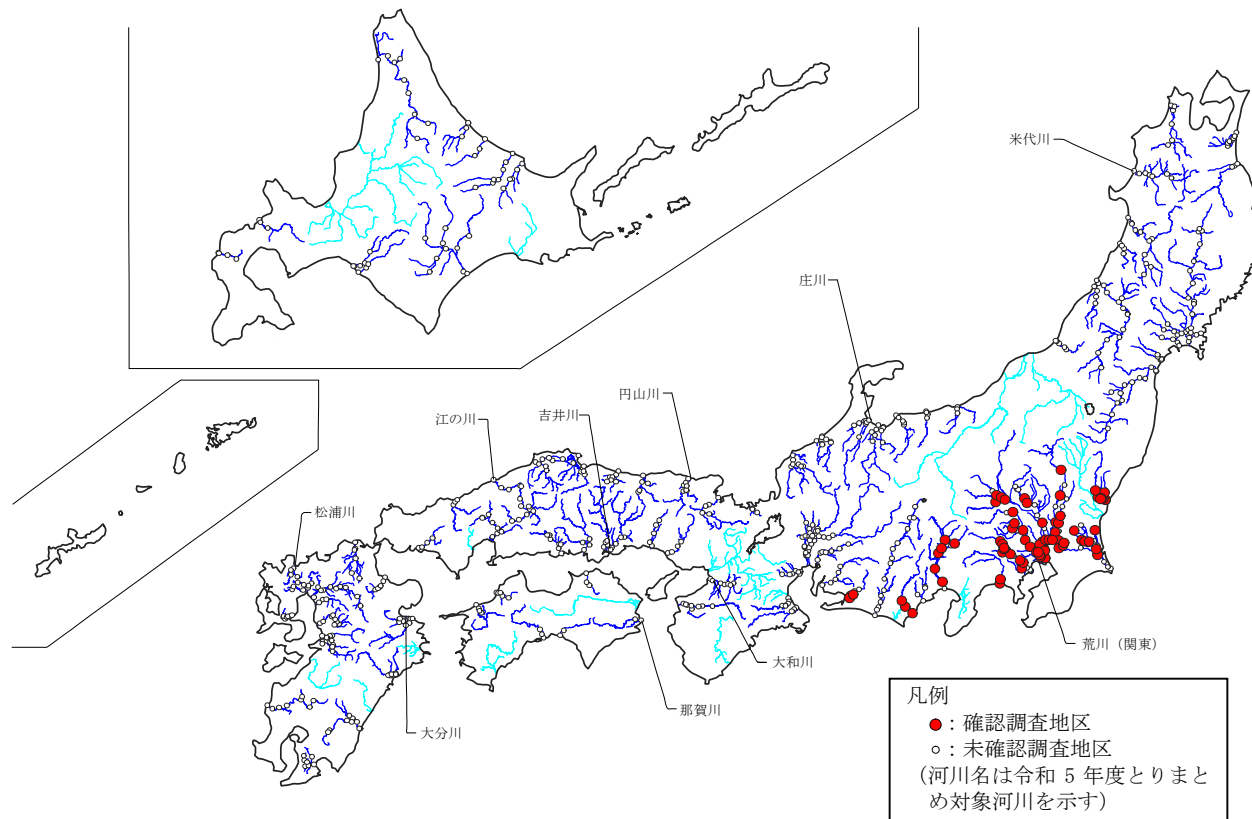
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アカボシゴマダラの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



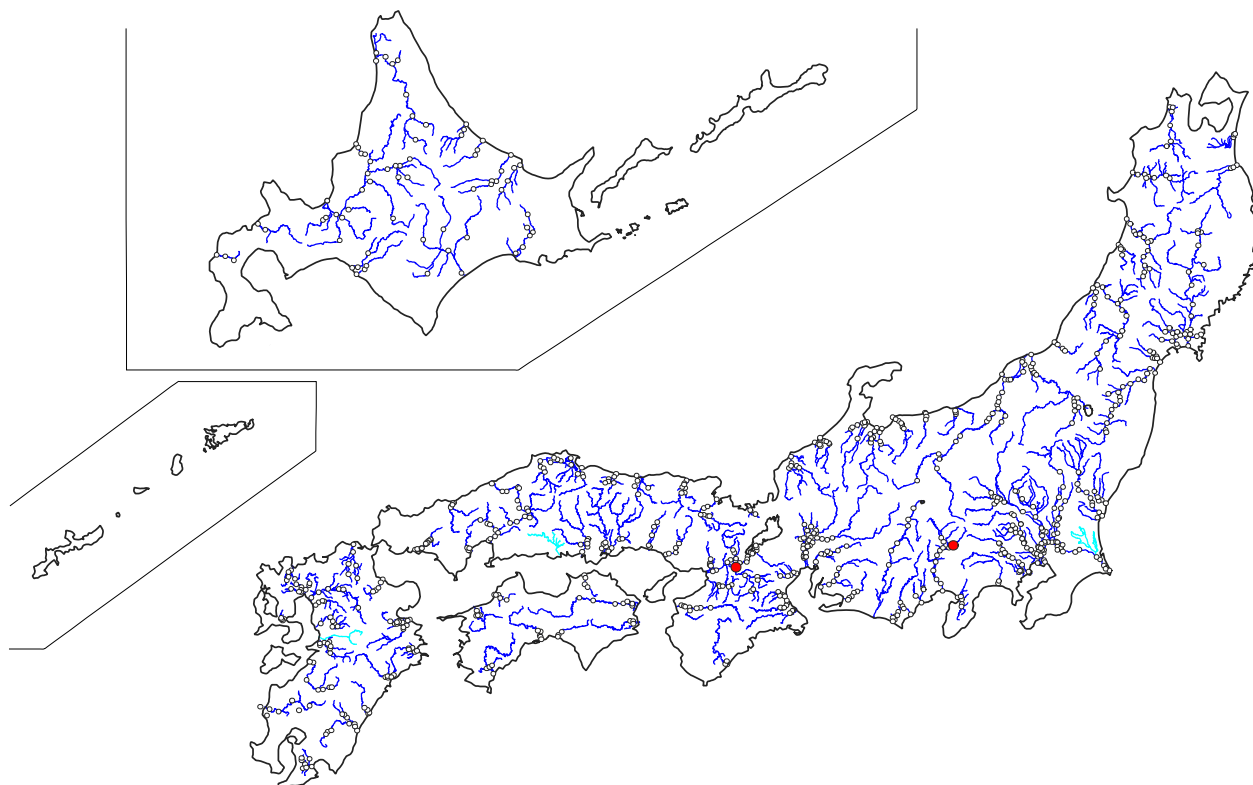
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



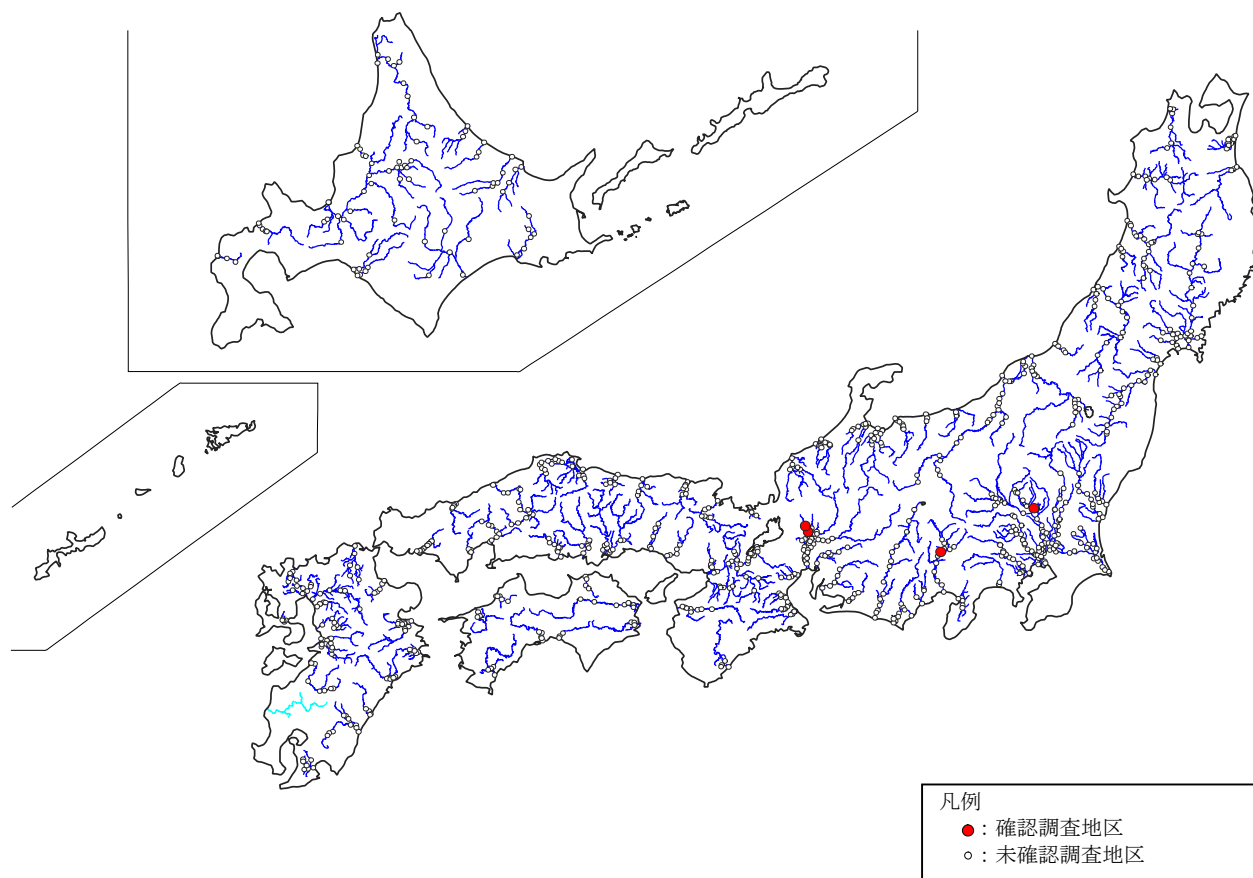
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

アカボシゴマダラの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



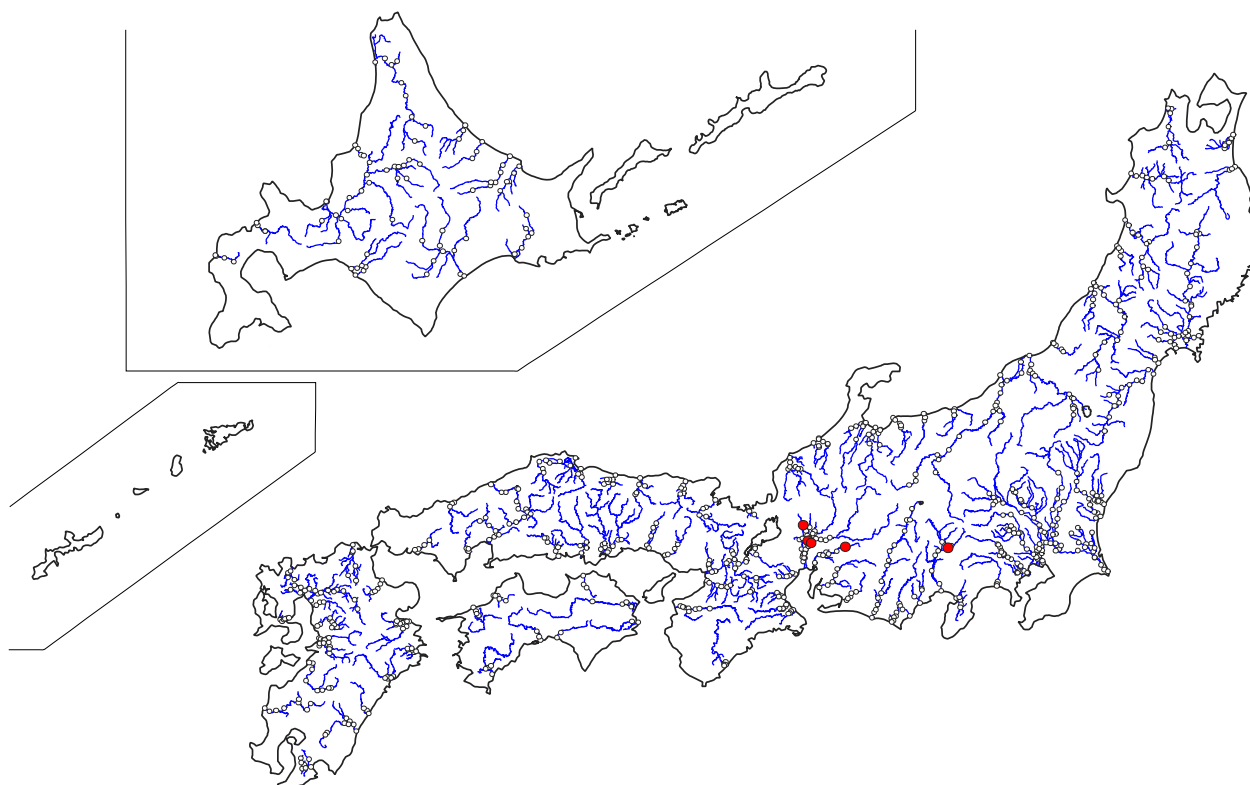
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



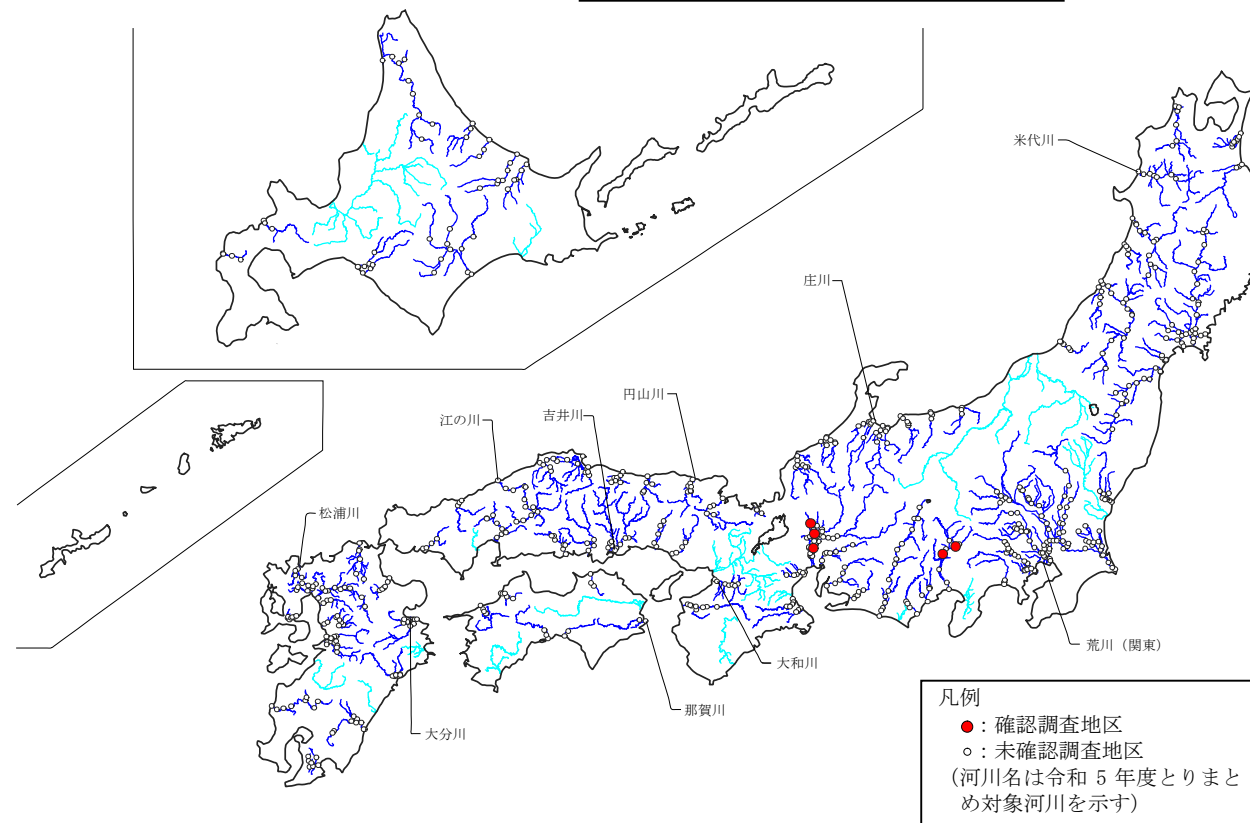
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ホソオチョウの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



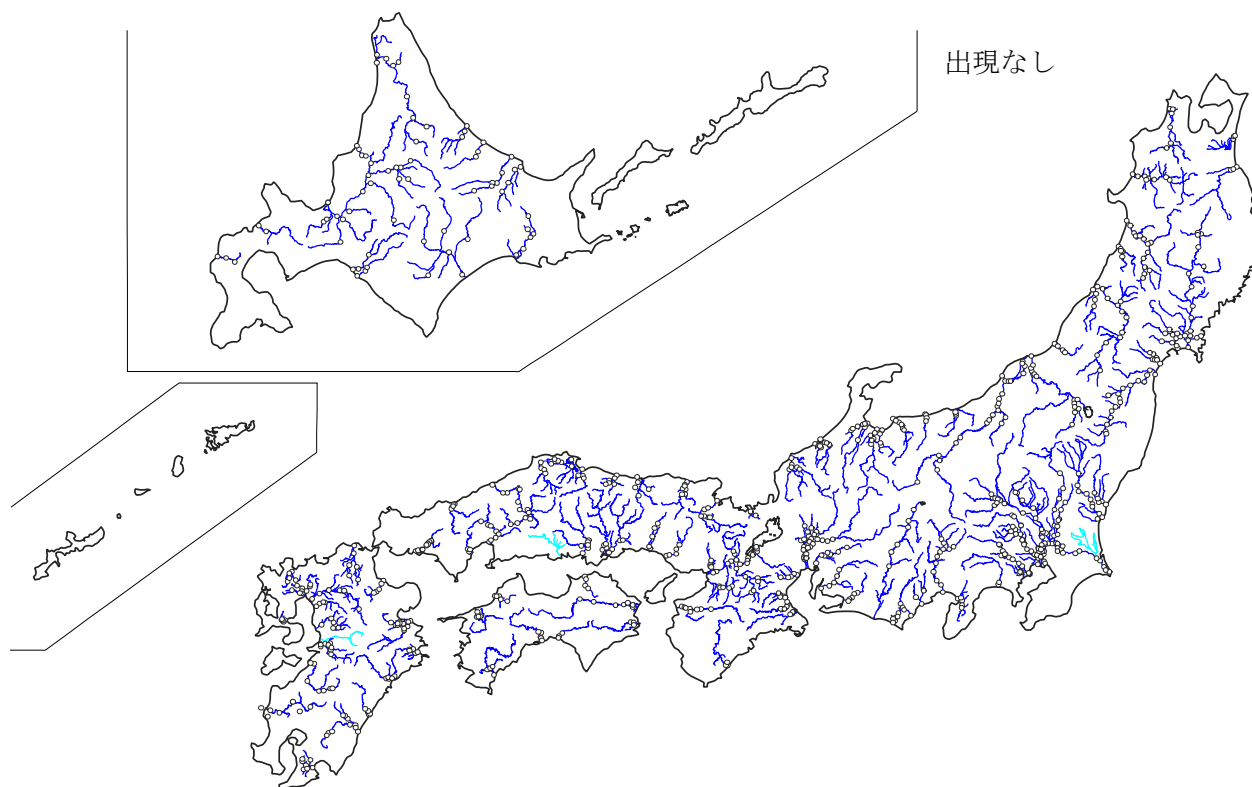
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



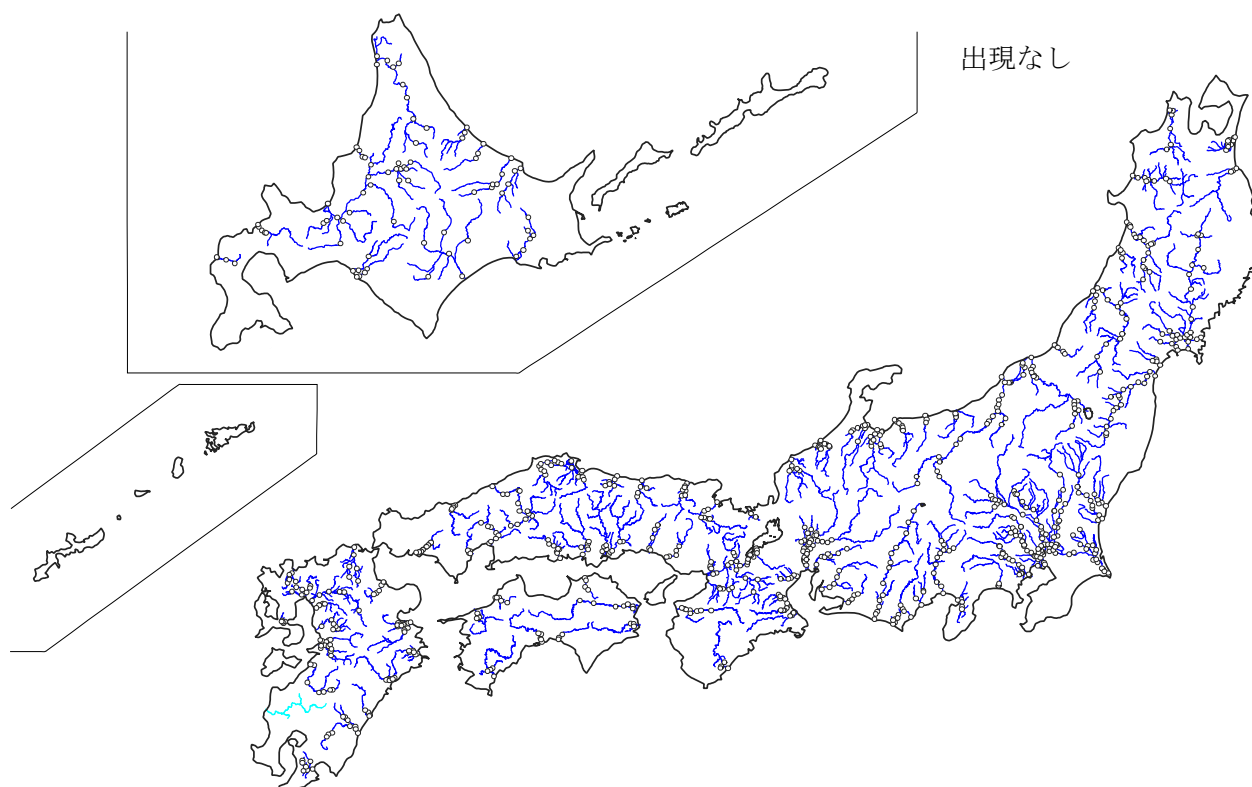
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ホソオチョウの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）



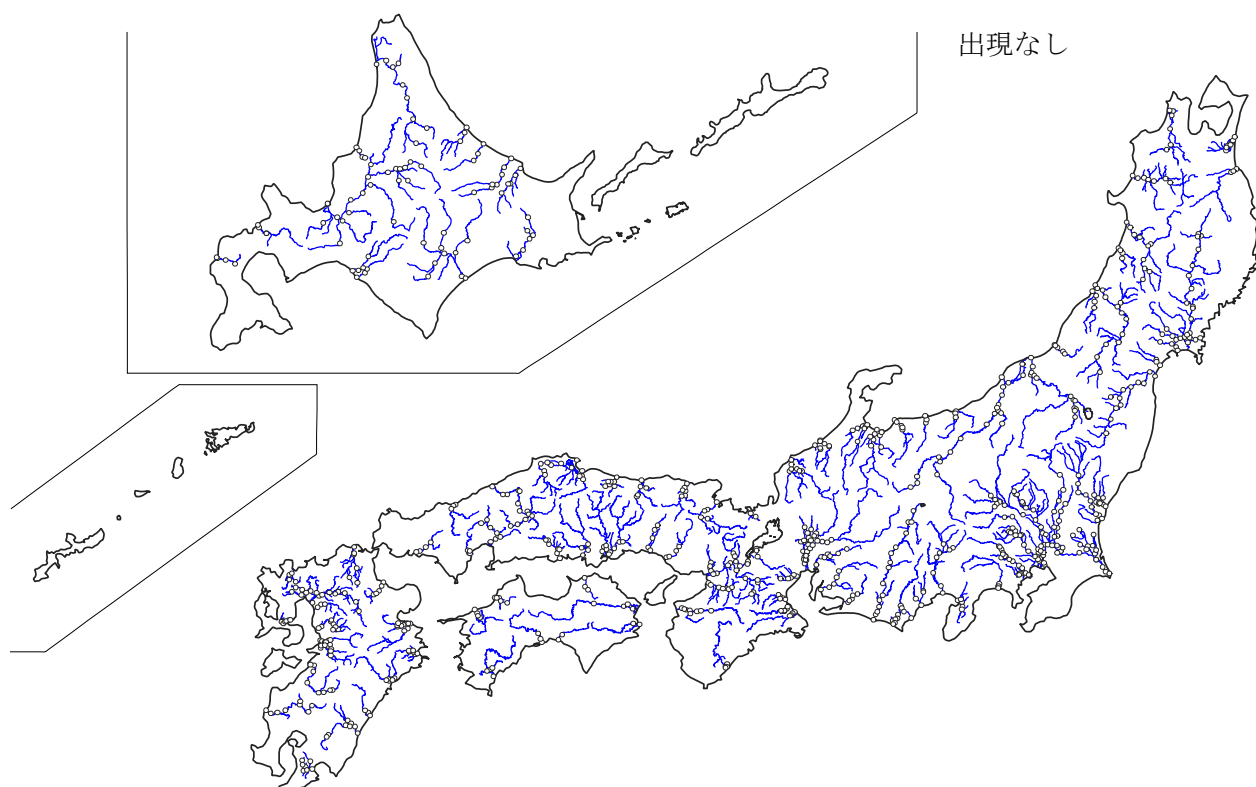
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

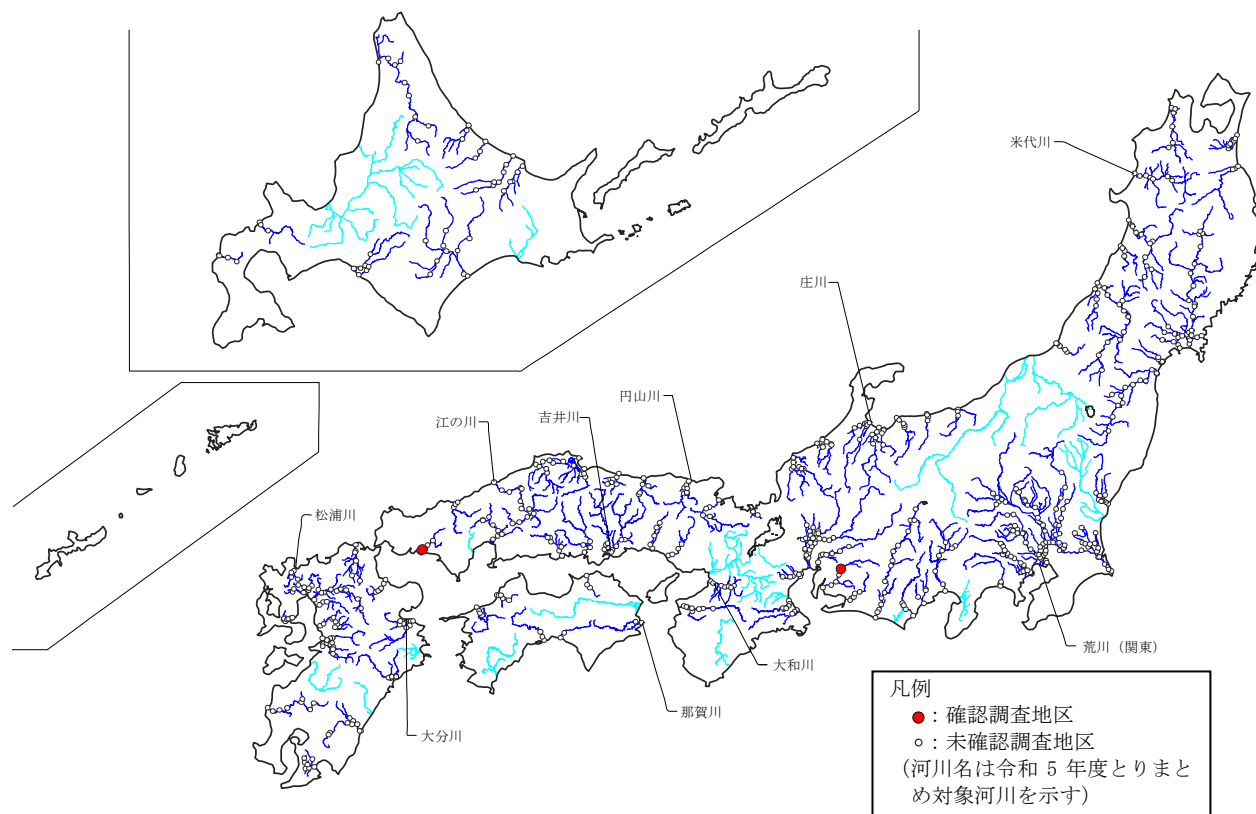
注5) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注6) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ツヤハダゴマダラカミキリの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）

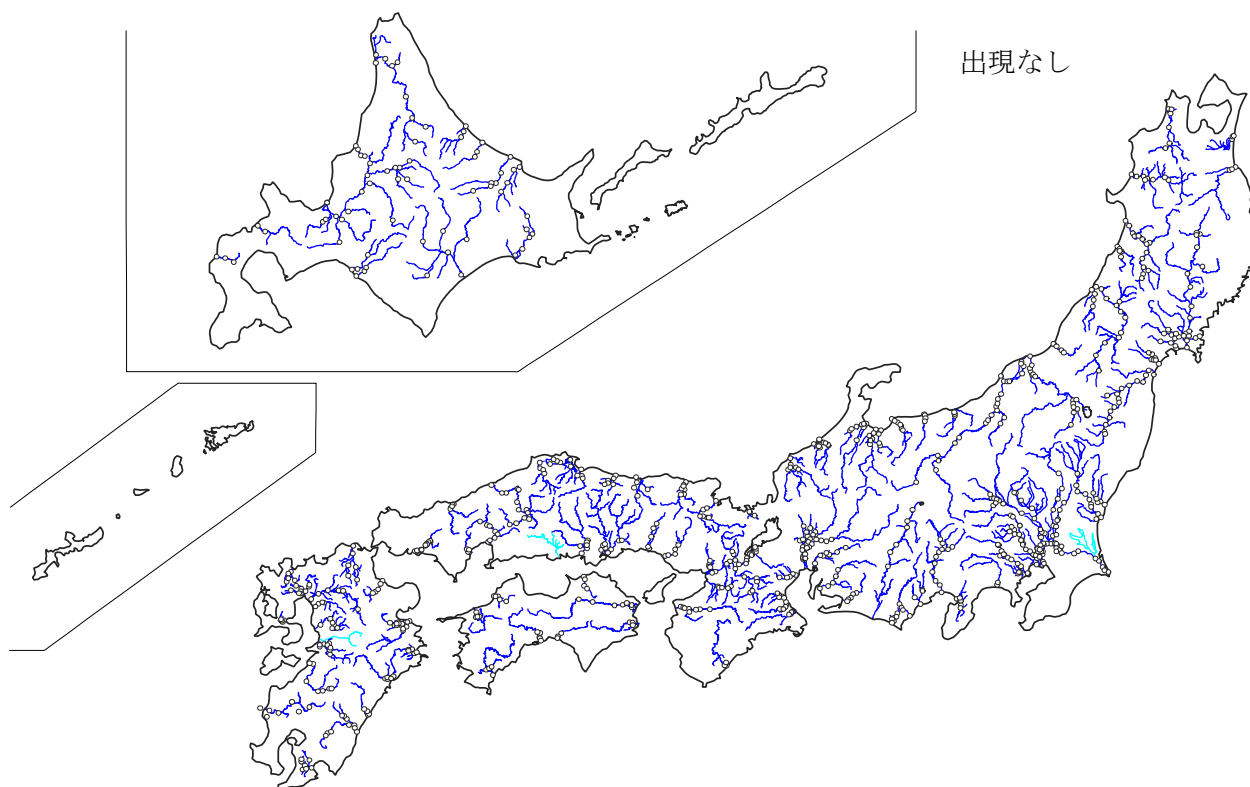


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

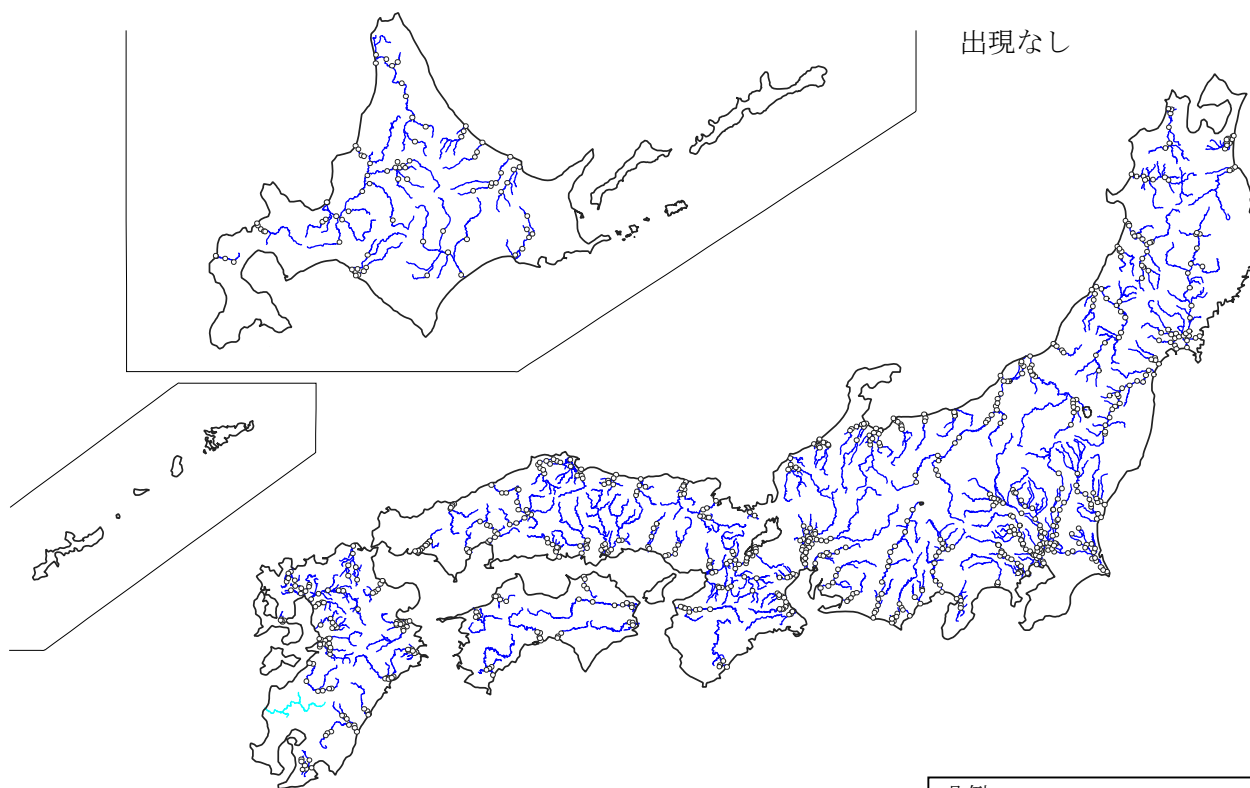


ツヤハダゴマダラカミキリの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

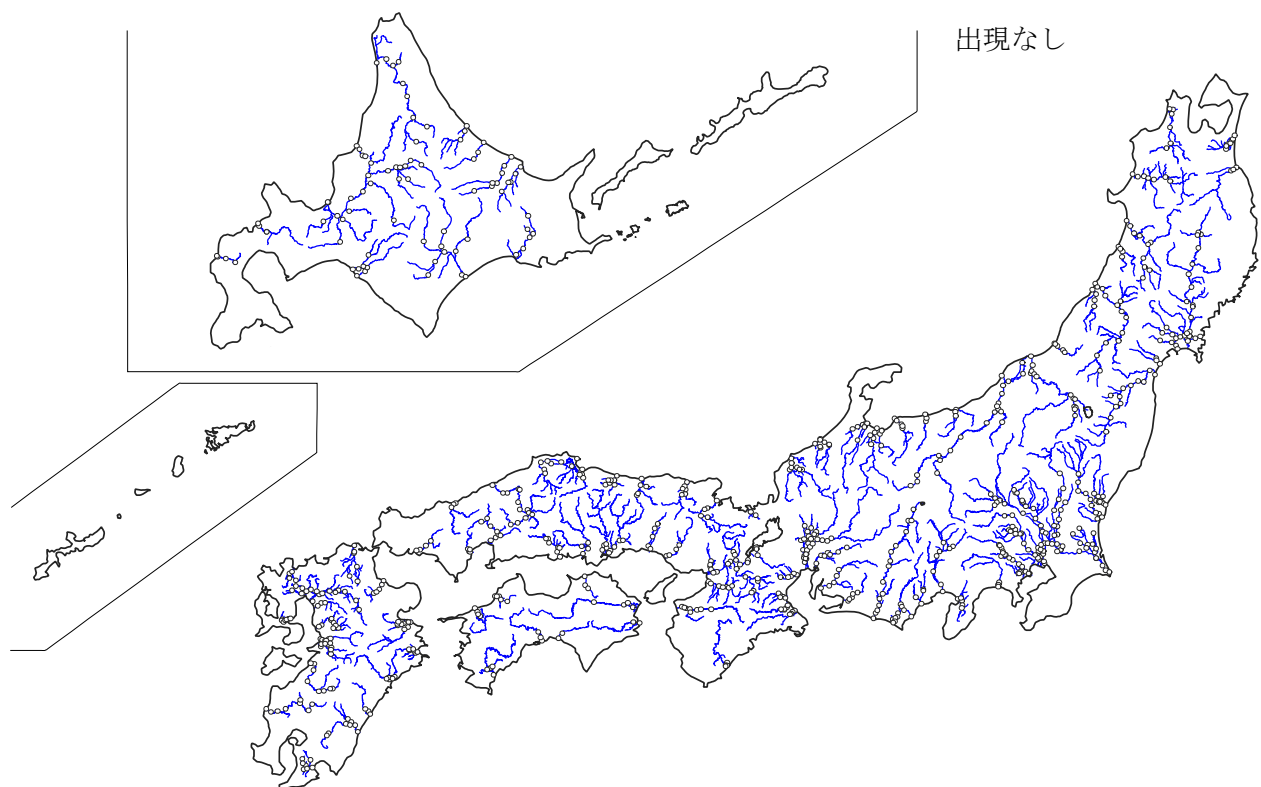


凡例
●：確認調査地区
○：未確認調査地区

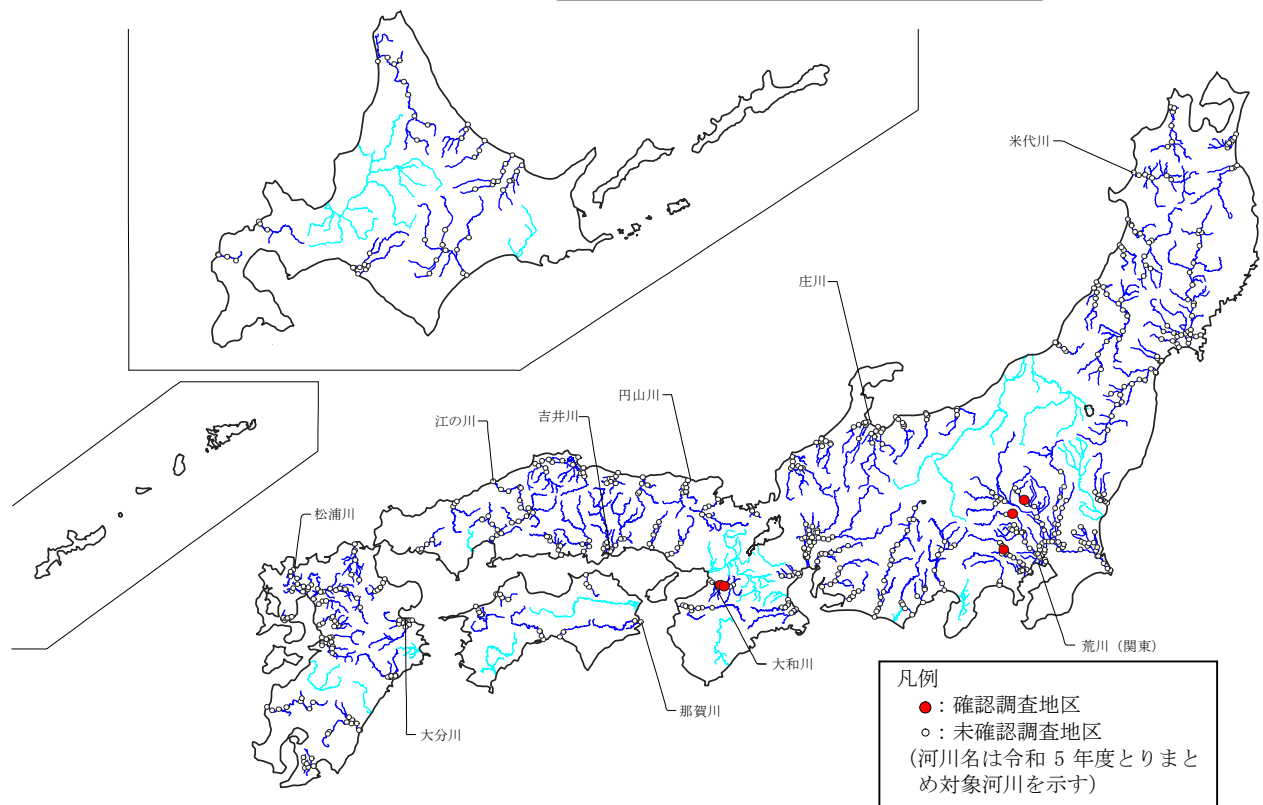
注9) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注10) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

クビアカツヤカミキリの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



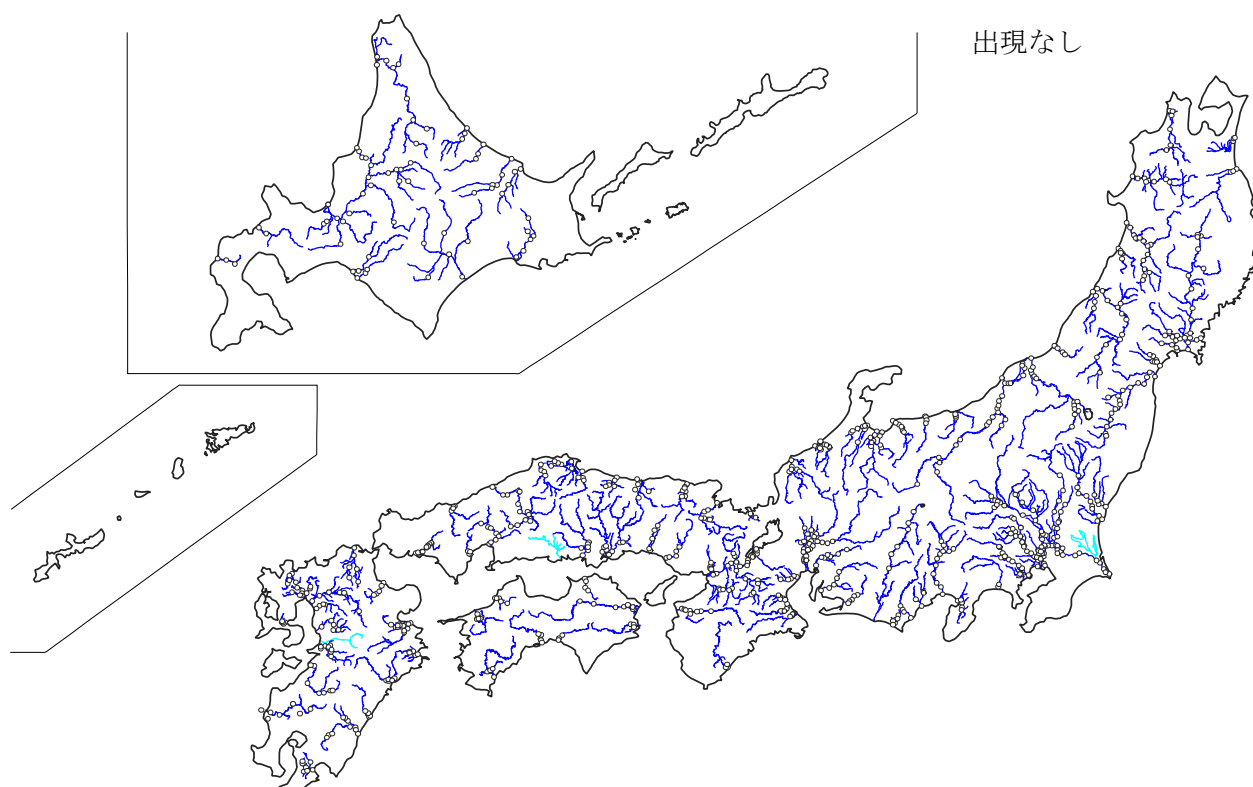
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



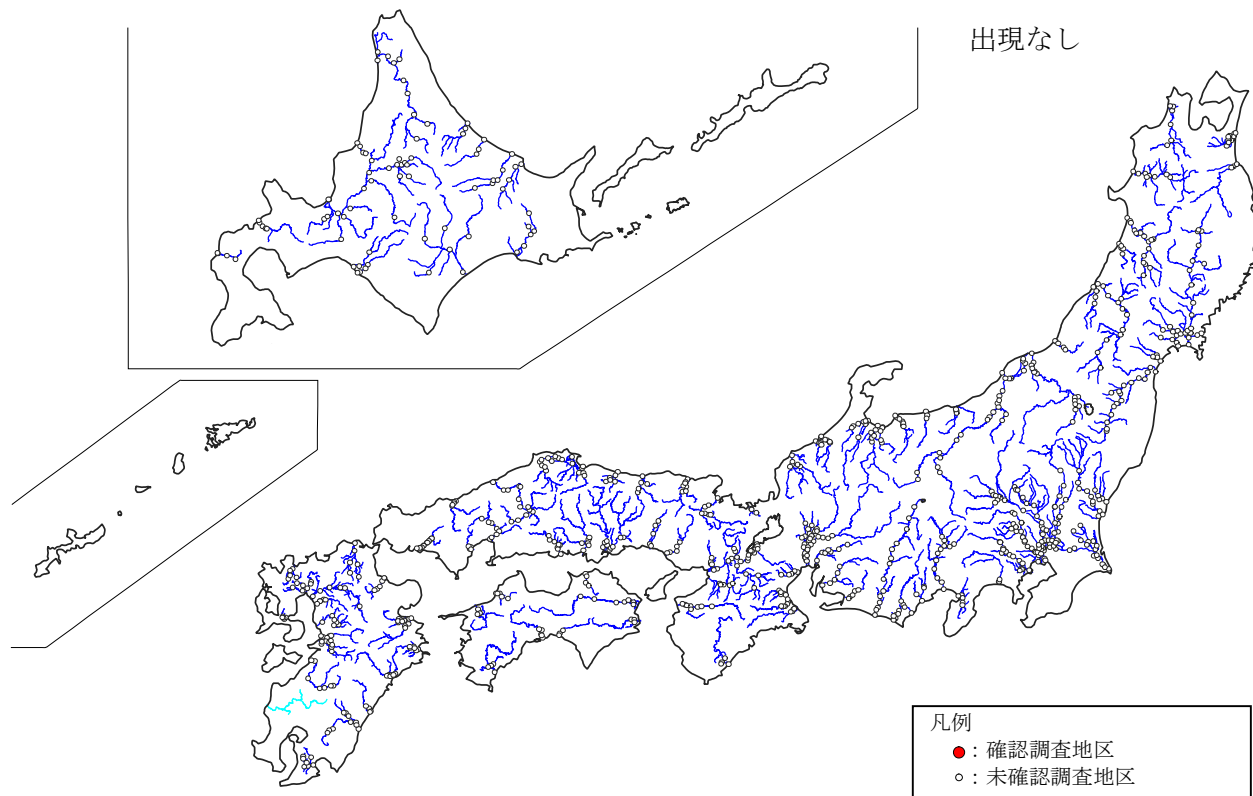
注）5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

クビアカツヤカミキリの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



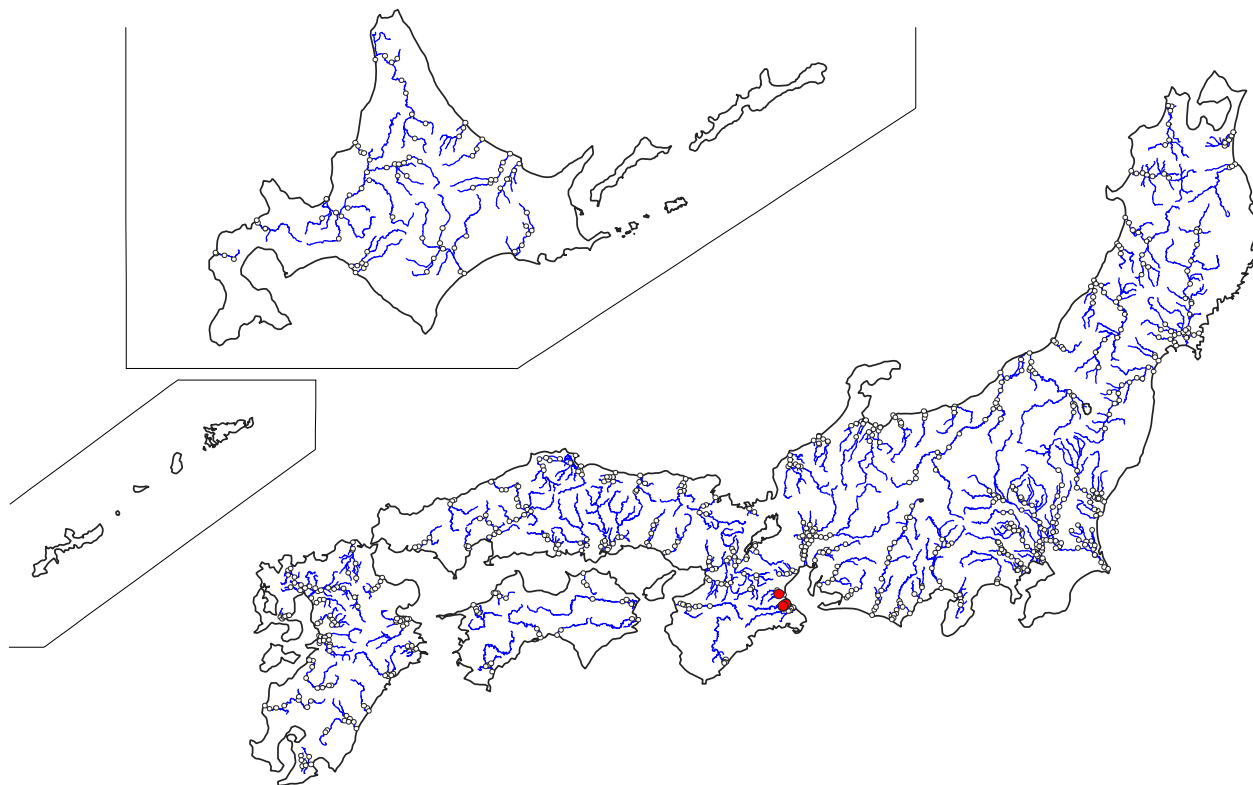
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



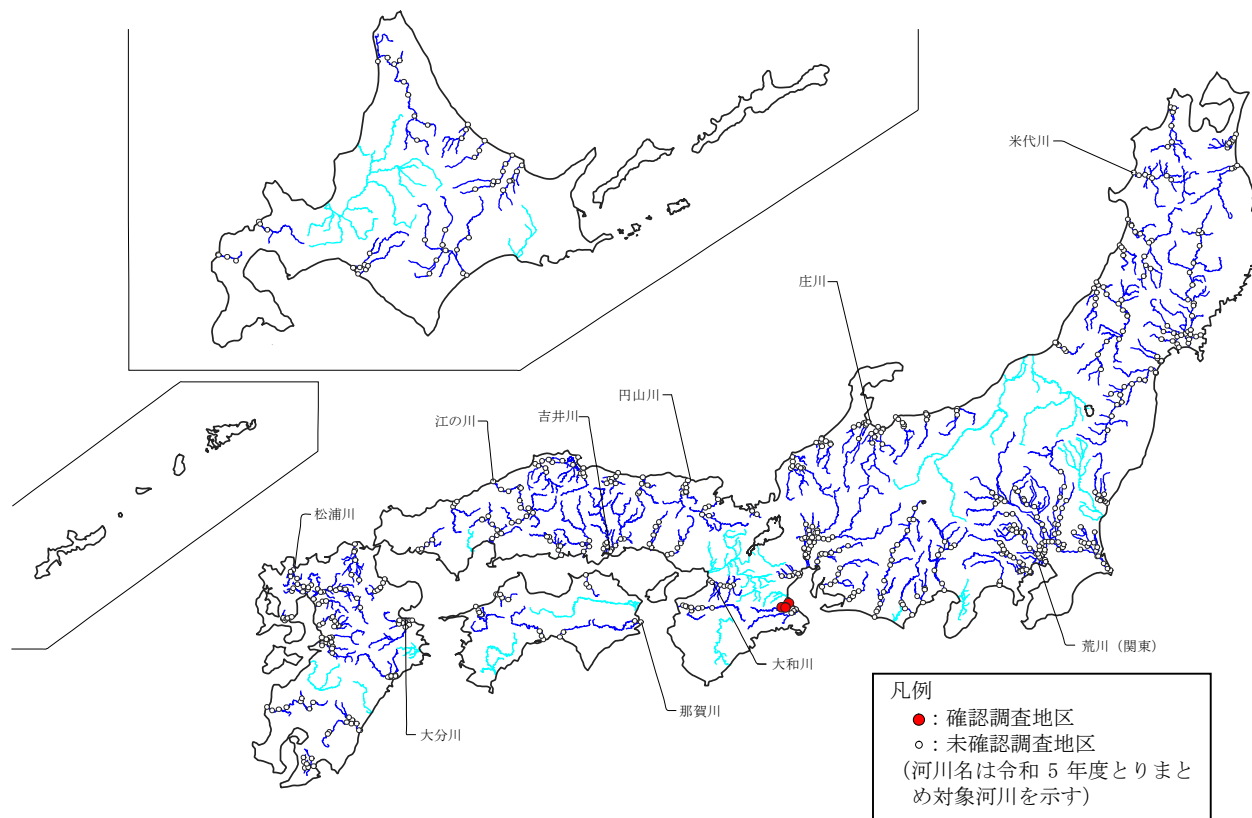
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

フェモラータオオモボトハムシの確認された調査地区
(2 巡目調査、3 巡目調査)

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



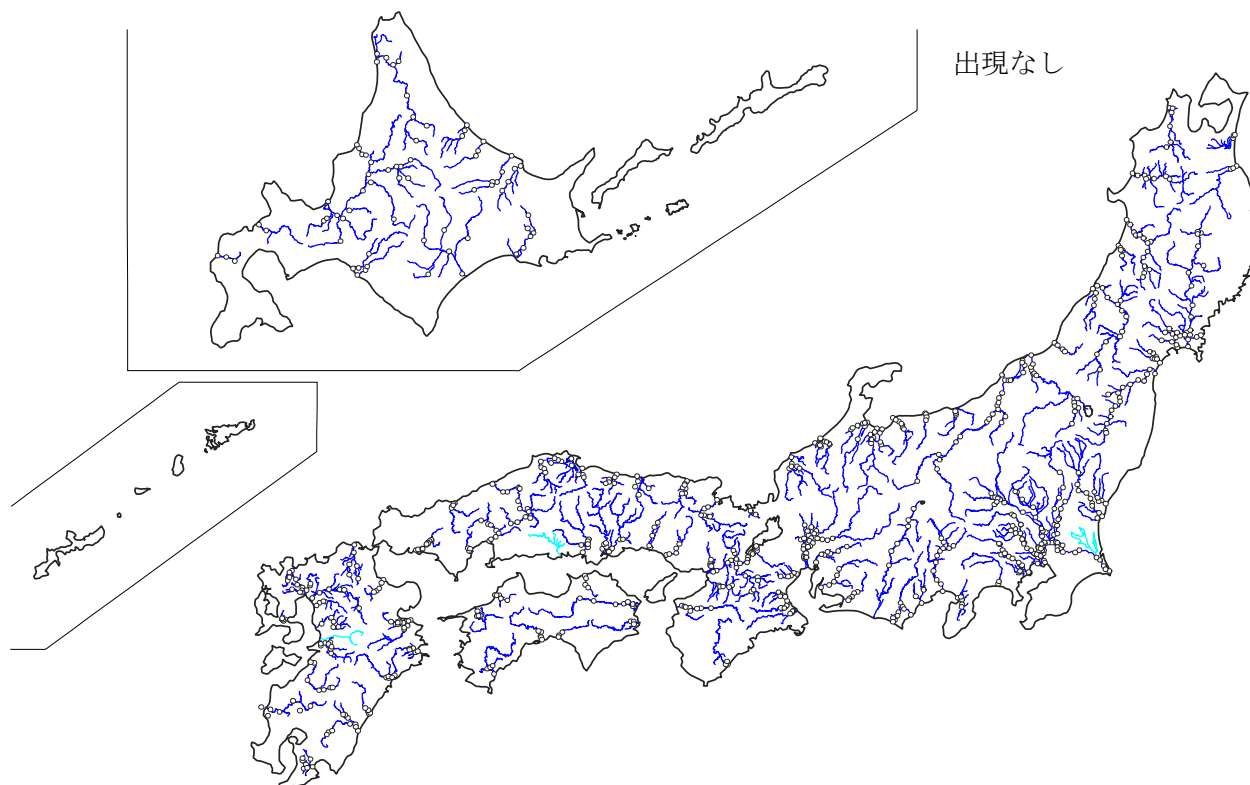
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



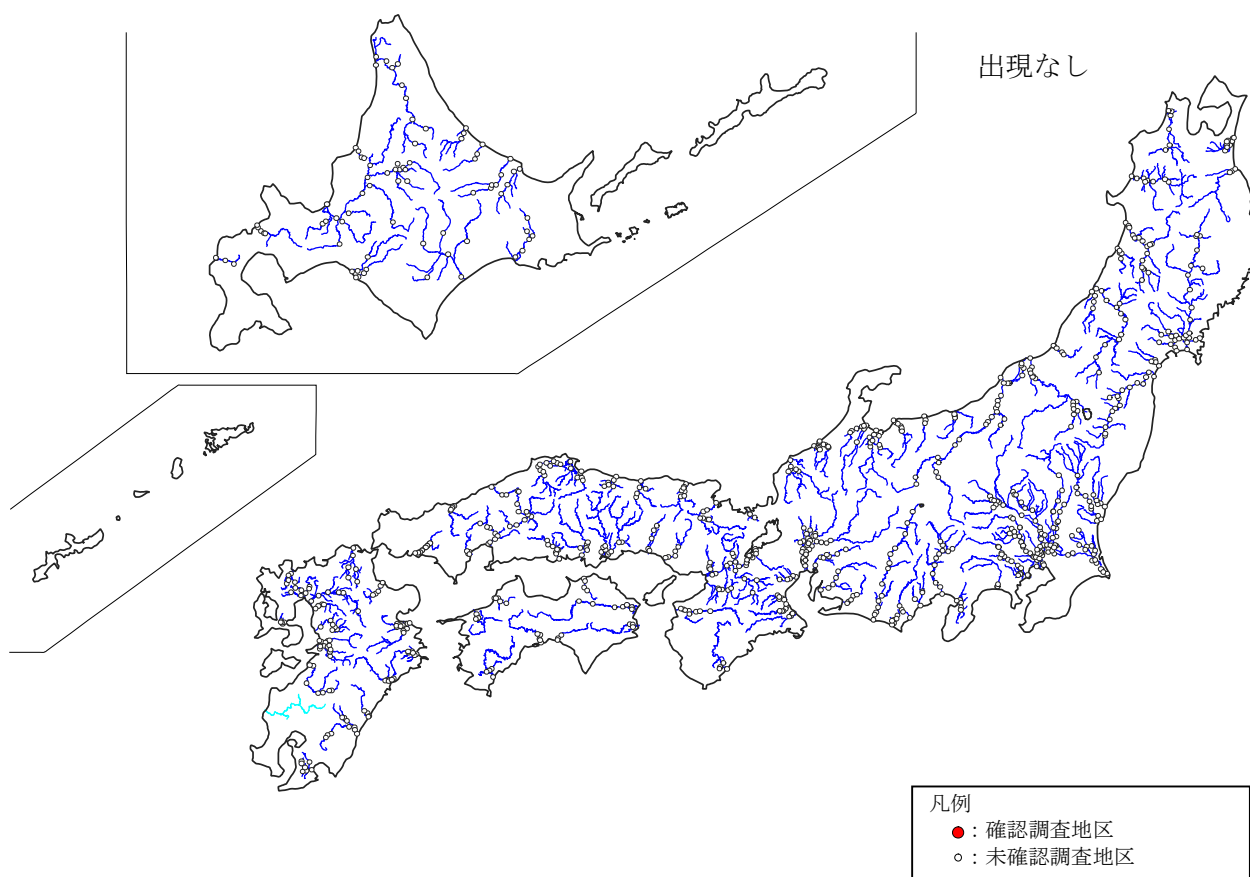
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

フェモラータオオモボトハムシの確認された調査地区
 (4 巡目調査、5 巡目調査)

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

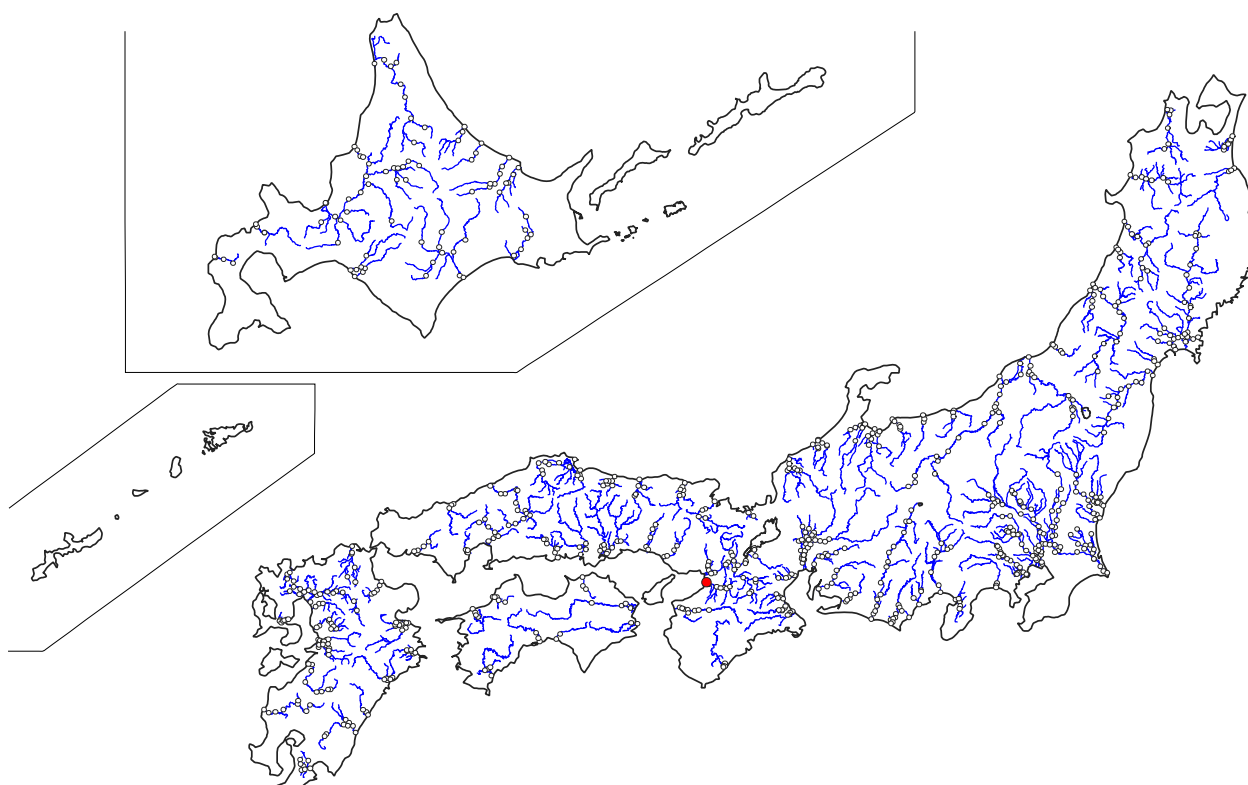


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

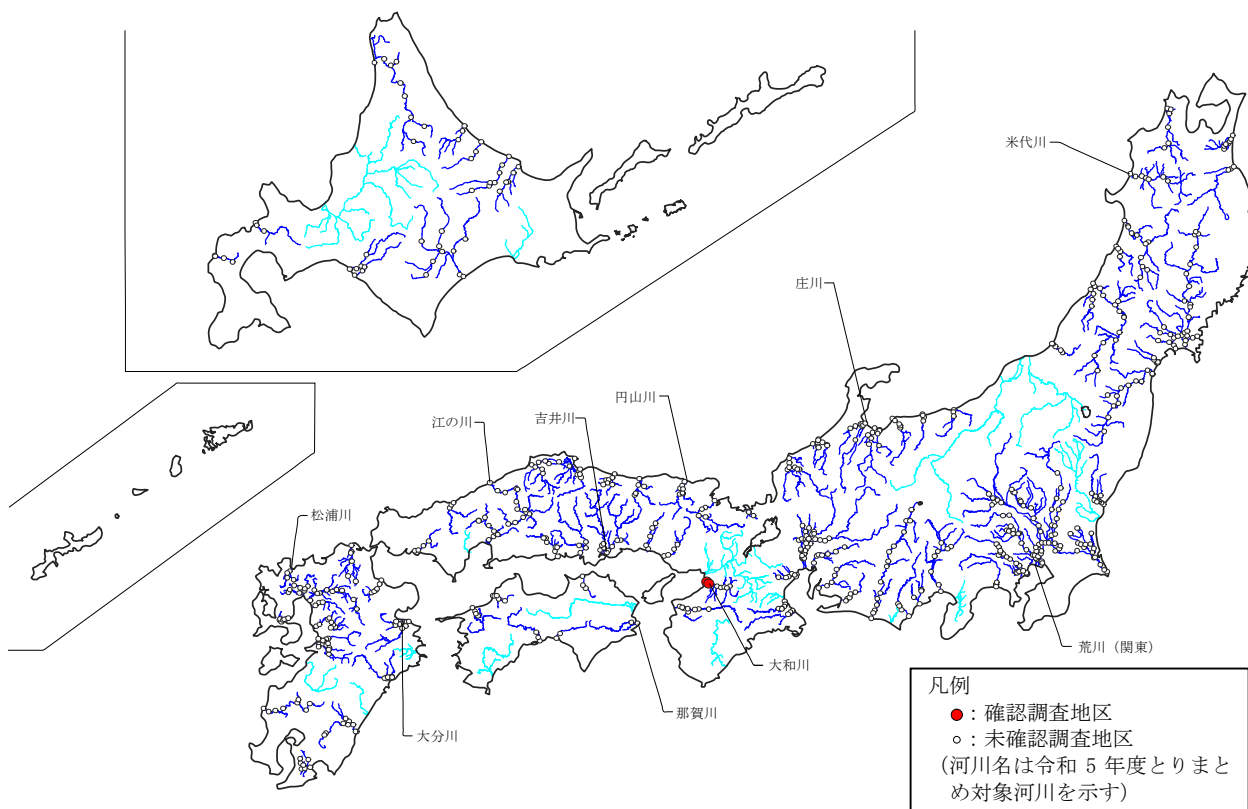
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アルゼンチンアリの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



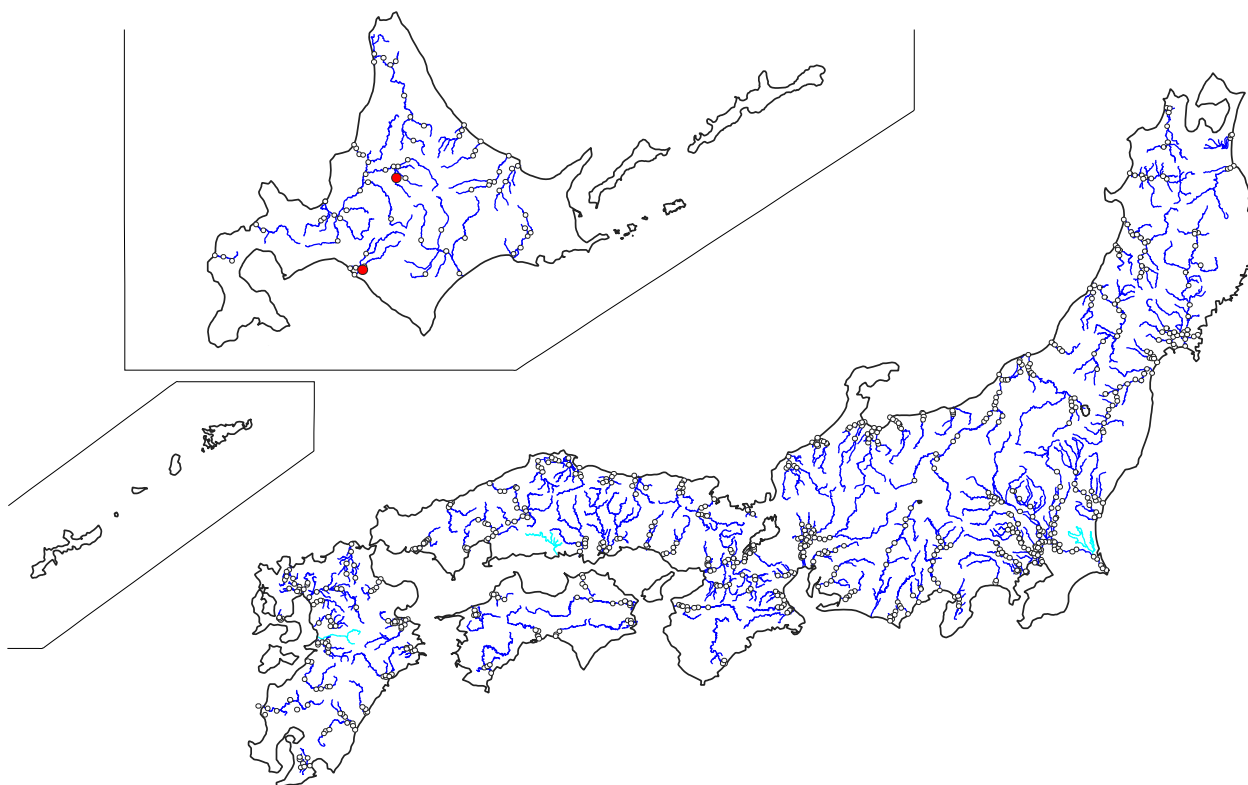
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



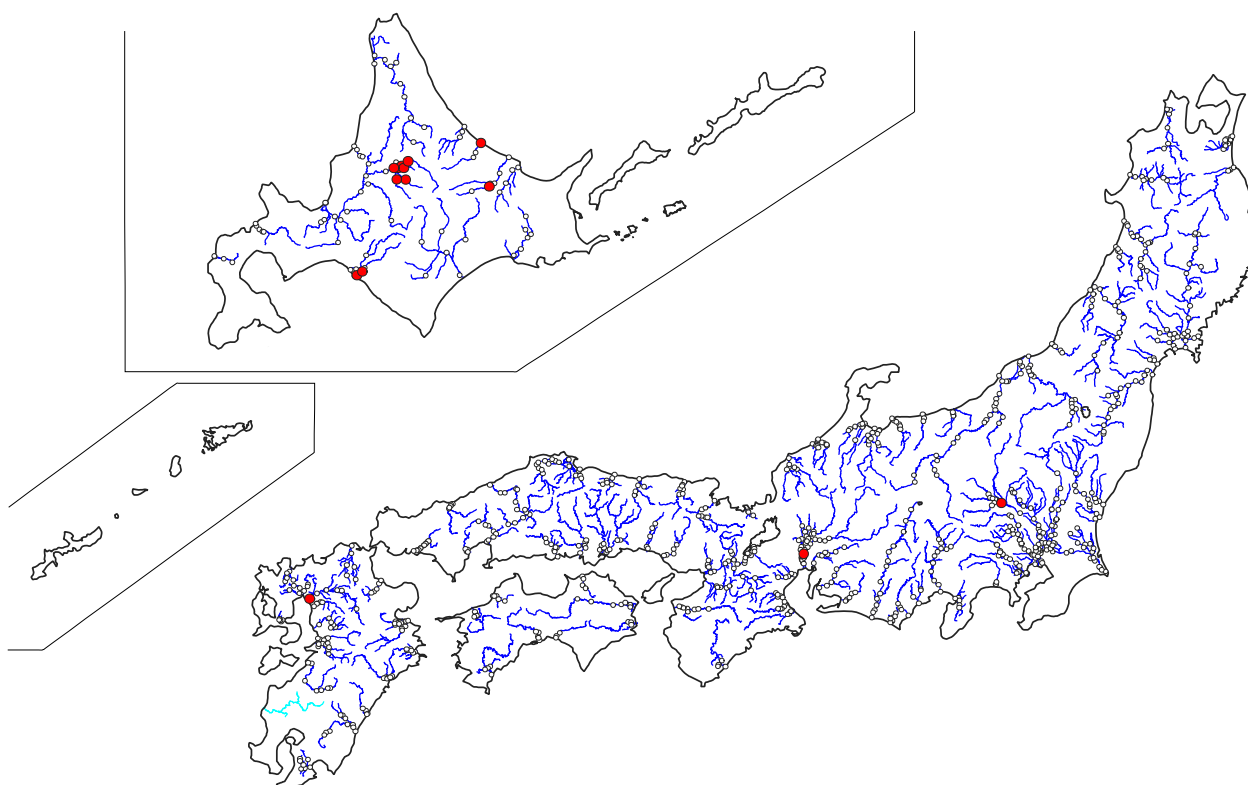
注) 5 巡目調査は実施途中で、— は調査未実施の河川を示す。

アルゼンチンアリの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

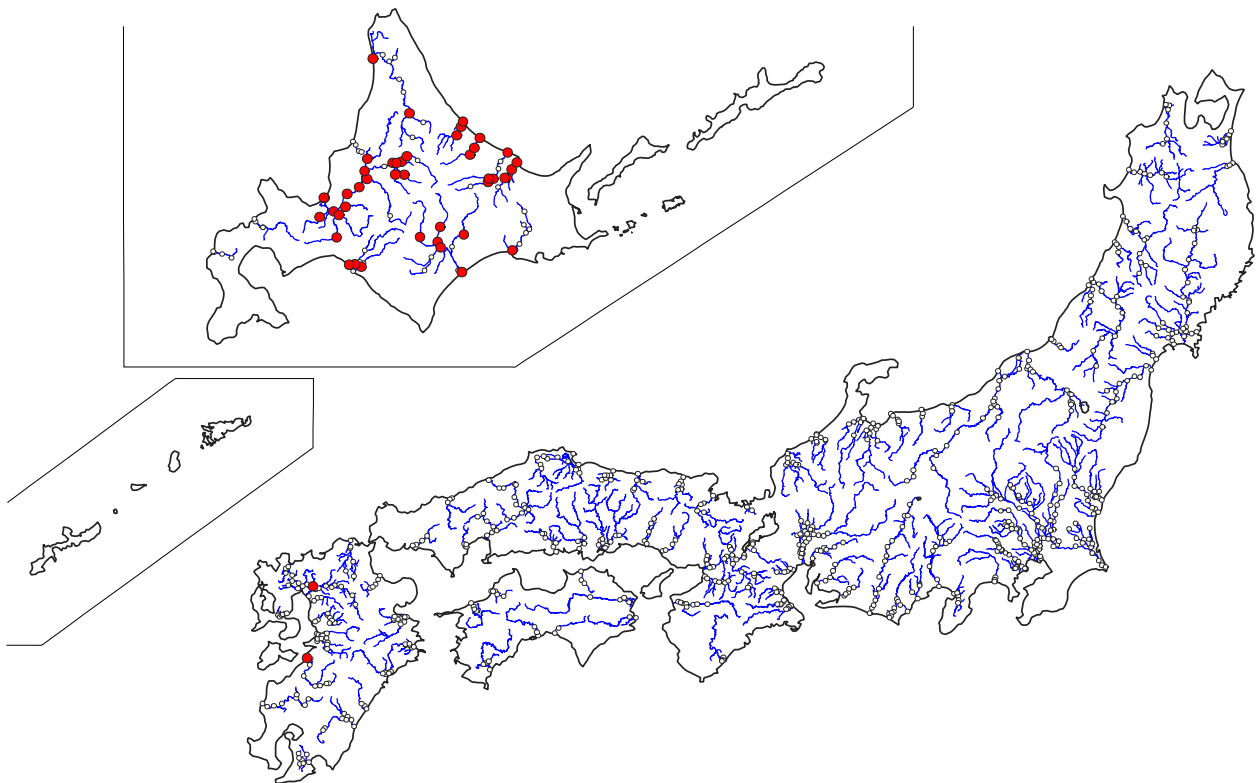


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

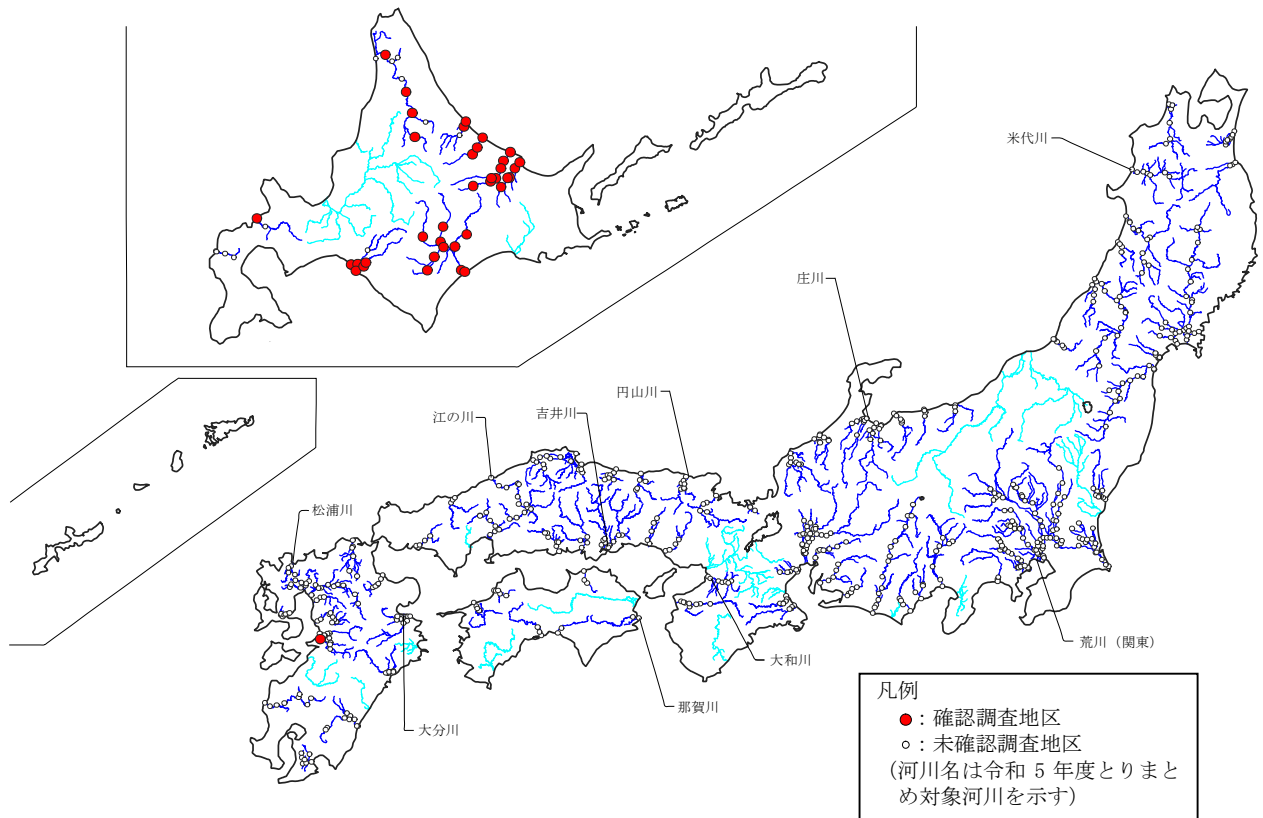
注1) 青線は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

セイヨウオオマルハナバチの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

セイヨウオオマルハナバチの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

【生物多様性の攪乱②：国外外来種の分布状況（その他の国外外来種） アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの確認状況】

（陸上昆虫類等調査）

- シバツトガ、ラミーカミキリ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチを、それぞれ特定の河川での河川水辺の国勢調査で初確認

河川環境と関わりの深い国外外来種、アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチの10種を取り上げました。

今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）のうち、シバツトガ、ラミーカミキリは北陸地方の庄川での、シバオサゾウムシは近畿地方の円山川、中国地方の江の川、九州地方の松浦川での、アメリカジガバチは九州地方の松浦川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

（資料掲載：6-48～6-67 ページ、6-110～6-113 ページ）

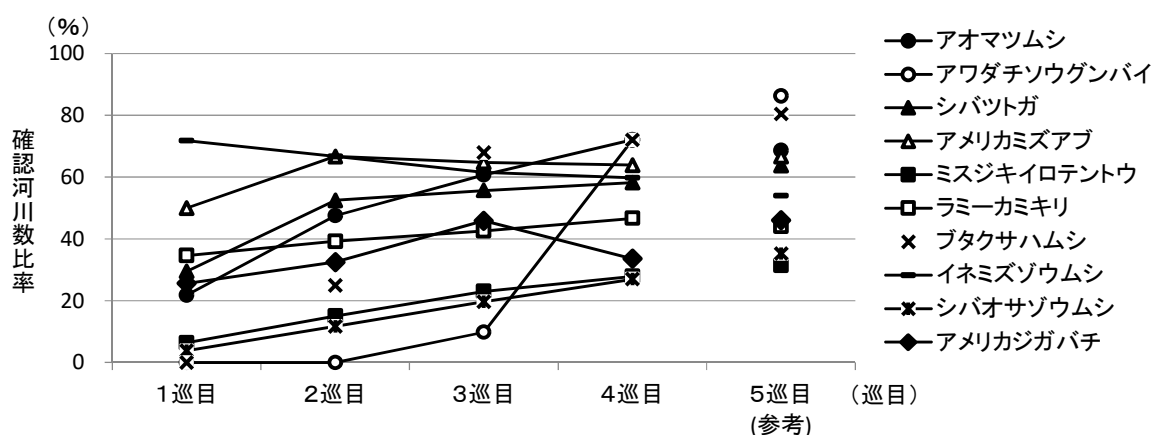




注) アワダチソウゲンバイ以外の画像は、過年度報告書から転用した。

1～5巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (78 河川)	2巡目調査 (120 河川)	3巡目調査 (122 河川)	4巡目調査 (122 河川)	5巡目調査 (102 河川)
アオマツムシ	17 河川 [21.8]	57 河川 [47.5]	74 河川 [60.7]	88 河川 [72.1]	70 河川 [68.6]
アワダチソウゲンバイ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	12 河川 [9.8]	88 河川 [72.1]	88 河川 [86.3]
シバツトガ	23 河川 [29.5]	63 河川 [52.5]	68 河川 [55.7]	71 河川 [58.2]	65 河川 [63.7]
アメリカミズアブ	39 河川 [50.0]	80 河川 [66.7]	79 河川 [64.8]	78 河川 [63.9]	68 河川 [66.7]
ミスジキイロテントウ	5 河川 [6.4]	18 河川 [15.0]	28 河川 [23.0]	34 河川 [27.9]	32 河川 [31.4]
ラミーカミキリ	27 河川 [34.6]	47 河川 [39.2]	52 河川 [42.6]	57 河川 [46.7]	45 河川 [44.1]
ブタクサハムシ	0 河川 [0.0]	30 河川 [25.0]	83 河川 [68.0]	88 河川 [72.1]	82 河川 [80.4]
イネミズゾウムシ	56 河川 [71.8]	80 河川 [66.7]	75 河川 [61.5]	73 河川 [59.8]	55 河川 [53.9]
シバオサゾウムシ	3 河川 [3.8]	14 河川 [11.7]	24 河川 [19.7]	33 河川 [27.0]	36 河川 [35.3]
アメリカジガバチ	20 河川 [25.6]	39 河川 [32.5]	56 河川 [45.9]	41 河川 [33.6]	47 河川 [46.1]



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

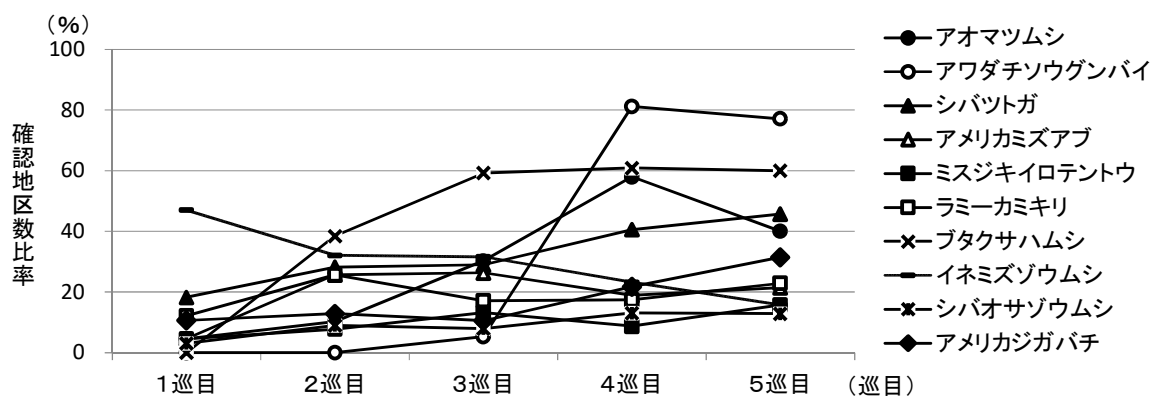
※ () 内は分析対象河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※ 5巡目調査は実施途中で、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

令和5年度調査河川（10河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	1 巡目調査 (10 河川・ 66 地区)	2 巡目調査 (10 河川・ 78 地区)	3 巡目調査 (10 河川・ 76 地区)	4 巡目調査 (10 河川・ 69 地区)	5 巡目調査 (10 河川・ 70 地区)
アオマツムシ	2 河川 3 地区 〔4.5〕	4 河川 8 地区 〔10.3〕	7 河川 23 地区 〔30.3〕	8 河川 40 地区 〔58.0〕	9 河川 28 地区 〔40.0〕
アワダチソウゲンバイ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 4 地区 〔5.3〕	9 河川 56 地区 〔81.2〕	9 河川 54 地区 〔77.1〕
シバツトガ	4 河川 12 地区 〔18.2〕	7 河川 22 地区 〔28.2〕	6 河川 22 地区 〔28.9〕	8 河川 28 地区 〔40.6〕	6 河川 32 地区 〔45.7〕
アメリカミズアブ	2 河川 3 地区 〔4.5〕	6 河川 20 地区 〔25.6〕	7 河川 20 地区 〔26.3〕	6 河川 13 地区 〔18.8〕	6 河川 15 地区 〔21.4〕
ミスジキイロテントウ	1 河川 3 地区 〔4.5〕	4 河川 6 地区 〔7.7〕	4 河川 10 地区 〔13.2〕	4 河川 6 地区 〔8.7〕	5 河川 11 地区 〔15.7〕
ラミーカミキリ	6 河川 8 地区 〔12.1〕	7 河川 20 地区 〔25.6〕	7 河川 13 地区 〔17.1〕	7 河川 12 地区 〔17.4〕	6 河川 16 地区 〔22.9〕
ブタクサハムシ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	5 河川 30 地区 〔38.5〕	8 河川 45 地区 〔59.2〕	10 河川 42 地区 〔60.9〕	9 河川 42 地区 〔60.0〕
イネミズゾウムシ	8 河川 31 地区 〔47.0〕	8 河川 25 地区 〔32.1〕	8 河川 24 地区 〔31.6〕	7 河川 16 地区 〔23.2〕	5 河川 11 地区 〔15.7〕
シバオサゾウムシ	1 河川 2 地区 〔3.0〕	3 河川 7 地区 〔9.0〕	3 河川 6 地区 〔7.9〕	5 河川 9 地区 〔13.0〕	7 河川 9 地区 〔12.9〕
アメリカジガバチ	4 河川 7 地区 〔10.6〕	5 河川 10 地区 〔12.8〕	6 河川 8 地区 〔10.5〕	7 河川 15 地区 〔21.7〕	7 河川 22 地区 〔31.4〕



※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数・地区数を示す。

※ [] 内は確認地区数の分析対象地区数に対する%を示す。

ここでは、国外外来種のうち、移入時期がほぼ把握されており、なおかつ河川環境との関わりが深い 10 種を選んで、その分布状況を整理しました。

アオマツムシは、中国南部原産で、1898 年に東京で発見されて以来、現在では日本各地に広がっています^{注 1, 2, 3)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に確認割合は 4 巡目調査まで増加傾向を示しましたが、5 巡目調査では減少傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある 9 河川で確認されました。

アワダチソウグンバイは、北米原産で、2000 年に兵庫県で発見されて以来、現在では東北地方南部以南の日本各地に広がっています。セイタカアワダチソウ、オオオナモミ、ブタクサなどの帰化植物に寄生するほか、キク、ヒマワリなどキク科の園芸植物やサツマイモなどを加害することもあります^{注 3)}。河川水辺の国勢調査では、3 巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合が大幅に増加しており、5 巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある 9 河川で確認されました。

シバツトガは、アメリカ大陸原産で、1968 年に兵庫県で初めて被害が確認されました。その後の追跡調査で 1964 年に輸入したシバに付着して侵入した可能性が高いと推定されています。本種は幼虫がシバ類を加害するため、各地のゴルフ場や庭園などで急速に分布を広げました^{注 1, 2, 3)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に 2 巡目調査以降の確認割合はほぼ横ばいでしたが、5 巡目調査に入ってから増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、6 河川から確認され、このうち北陸地方の庄川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

アメリカミズアブは、北米などの原産で、1950 年頃東京で初めて発見されて以降、夏から秋にかけてみられ、便所や畜舎、ゴミ溜めなどで発生します^{注 1, 2, 4)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に 2～4 巡目調査において確認割合は減少傾向にありましたが、5 巡目調査に入ってから増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある 6 河川から確認されました。

ミスジキイロテントウは、東南アジア原産で、国内では 1985 年に沖縄本島で発見されて以降、大阪府や和歌山県、愛知県で確認されたほか、2001 年には四国地方の香川県での発生が確認されました。植物に随伴して持ち込まれたと考えられる種です^{注 1, 2, 3, 5)}。河川水辺の国勢調査では、1 巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある 5 河川で確認されました。

ラミーカミキリは、中国原産で、明治初期に大陸から輸入された麻植物に随伴して持ち込まれたものと考えられており、ラミーやカラムシ、ムクゲなどを食草とします^{注 1, 2, 3)}。河川水辺の国勢調査では、1 巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にありましたが、5 巡目調査に入ってから減少傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、6 河川で確認され、このうち北陸地方の庄川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

ブタクサハムシは、北米原産で、1996年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。国外外来種であるブタクサやオオブタクサなどを食草としています^{注2,3,6)}。河川水辺の国勢調査では、1巡目調査で初めて確認されて以降、全国的に確認割合は増加傾向にあり、5巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある9河川で確認されました。

イネミズゾウムシは、北米原産で、1976年に愛知県で発見されて以降、1986年頃には日本全国に分布が広がったものとされています。イネの害虫として知られていますが、イネ以外にもイネ科やカヤツリグサ科の植物を食草としています^{注1,2,3)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に1～4巡目調査まで減少傾向にあり、5巡目調査でも減少傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において、これまでの河川水辺の国勢調査で確認されたことがある5河川で確認されました。

シバオサゾウムシは、北米原産で、シバの害虫として知られ、ゴルフ場などを介して各地に広がっています^{注1,2,3)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に1～4巡目調査まで増加傾向にあり、5巡目調査でも増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において、7河川で確認され、このうち近畿地方の円山川、中国地方の江の川、九州地方の松浦川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

アメリカジガバチは、北米原産で、1945年に恐らく米軍物資に伴って巣が運び込まれ、1946年に東京で成虫が発見されました。東京とは別に大阪にも侵入した可能性があります。湿った泥をひも状に延ばしながら筒状の巣を造り、コガネグモ科やカニグモ科などのクモ類を狩ります^{注1,2,7)}。河川水辺の国勢調査では、全国的に1～3巡目調査にかけての増加傾向が4巡目調査ではやや減少傾向に転じましたが、5巡目調査に入ってから再び増加傾向にあると考えられます。今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において、7河川で確認され、このうち九州地方の松浦川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。

陸上昆虫類等調査は調査時期、気候等など調査実施状況により確認種に差が生じるため、調査を継続することでより実態に近い昆虫相の把握が可能となるといえます。

注1) 出典：鷲谷いづみ・森本信生，1993. 日本の帰化生物. 保育社.

注2) 出典：日本生態学会，2002. 外来種ハンドブック. 地人書館.

注3) 出典：梅谷献二編，2012. 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 全国農村教育協会.

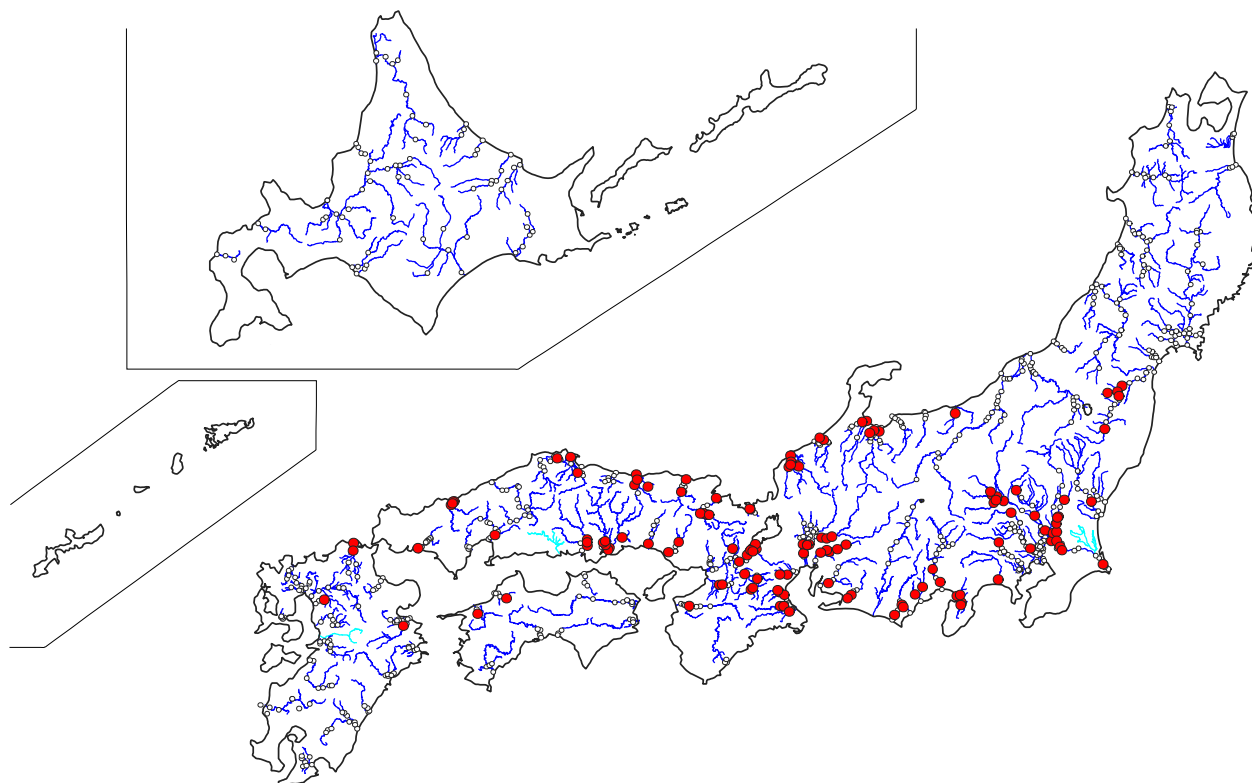
注4) 出典：加納六郎・篠永哲，1997. 日本の有害節足動物. 東海大学出版会.

注5) 出典：日本環境動物昆虫学会編，，2009. テントウムシの調べ方. 文教出版.

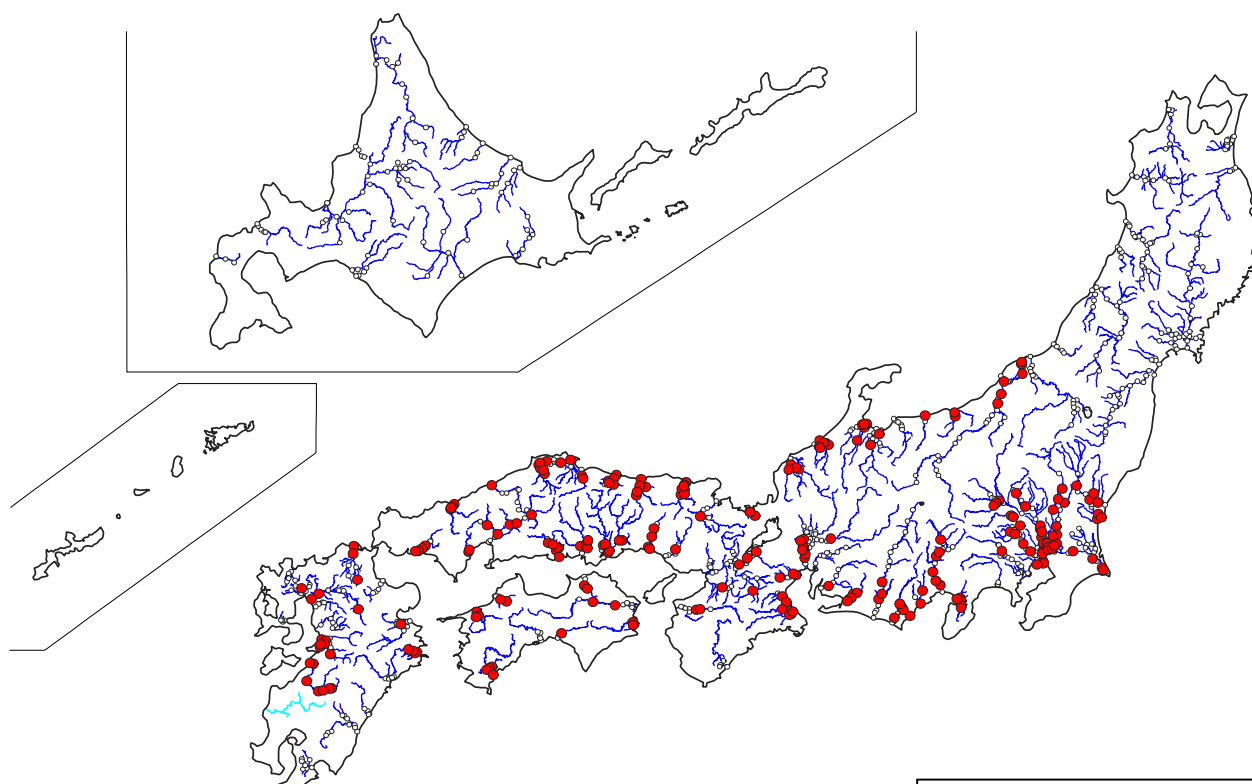
注6) 出典：大野正男，1997. ブタクサハムシ(新称)日本に侵入. 昆虫と自然，32(11)：35.

注7) 出典：大野正男，1990. 日本の帰化昆虫(1) アメリカジガバチ. 日本の生物，4(3)：53-58.

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

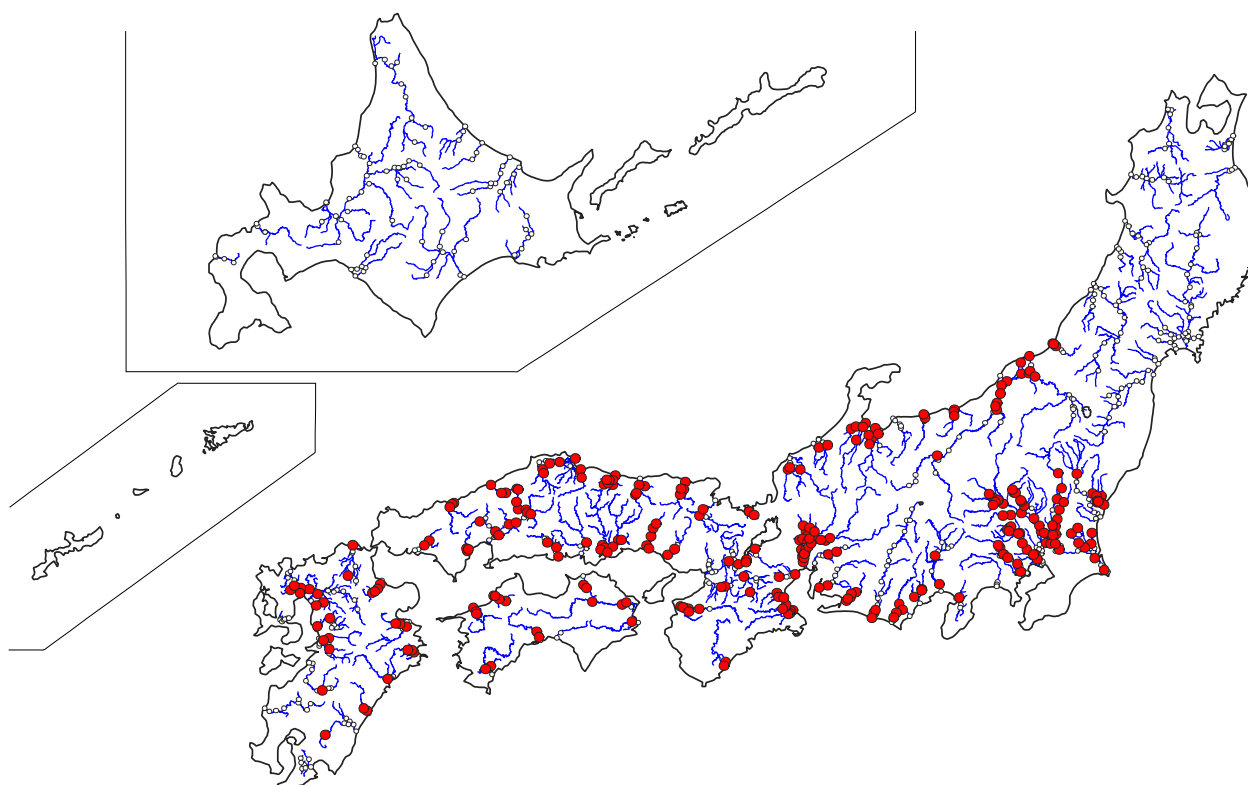


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

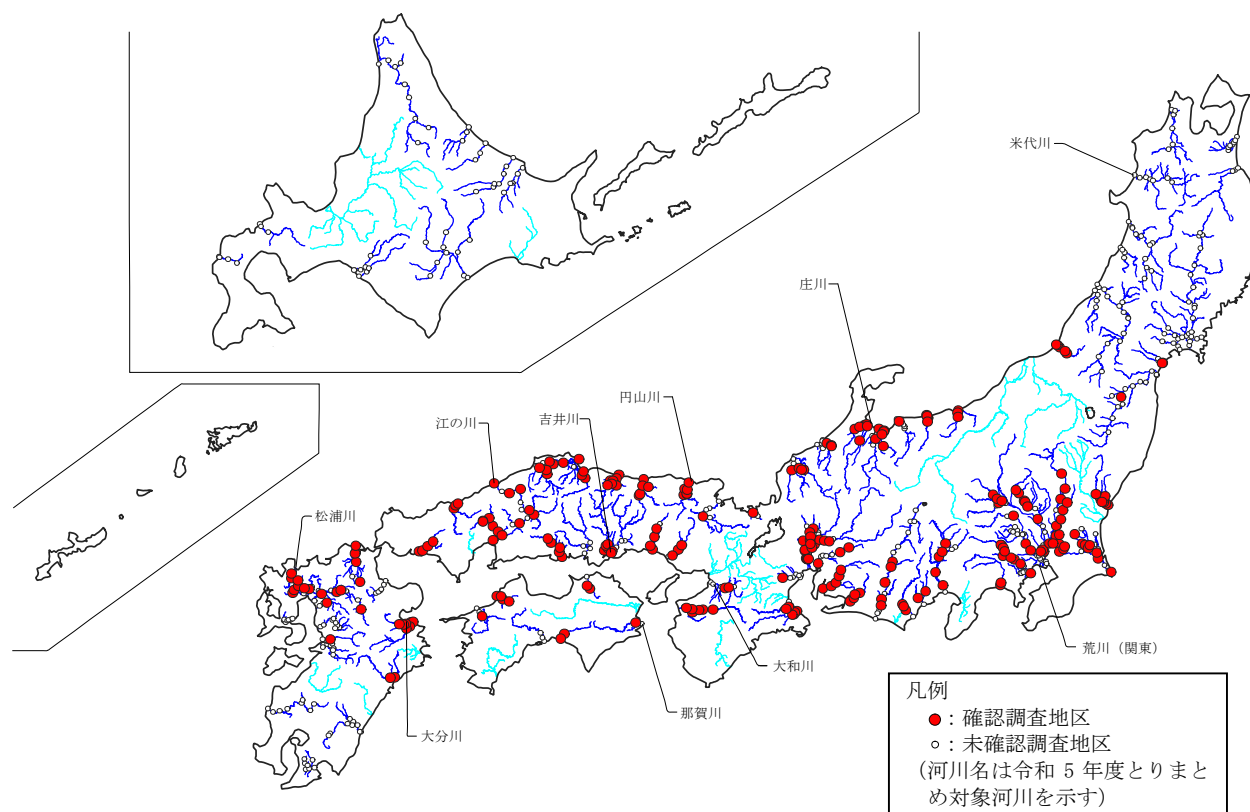
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アオマツムシの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



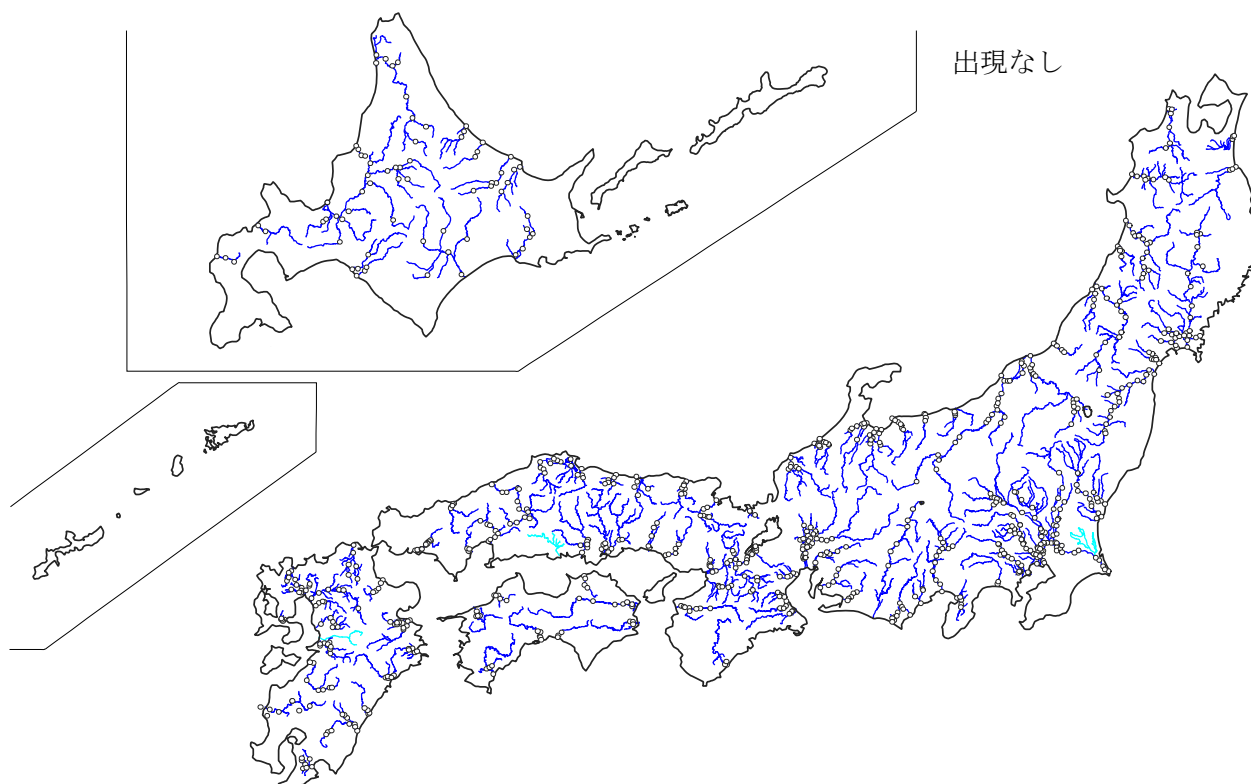
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



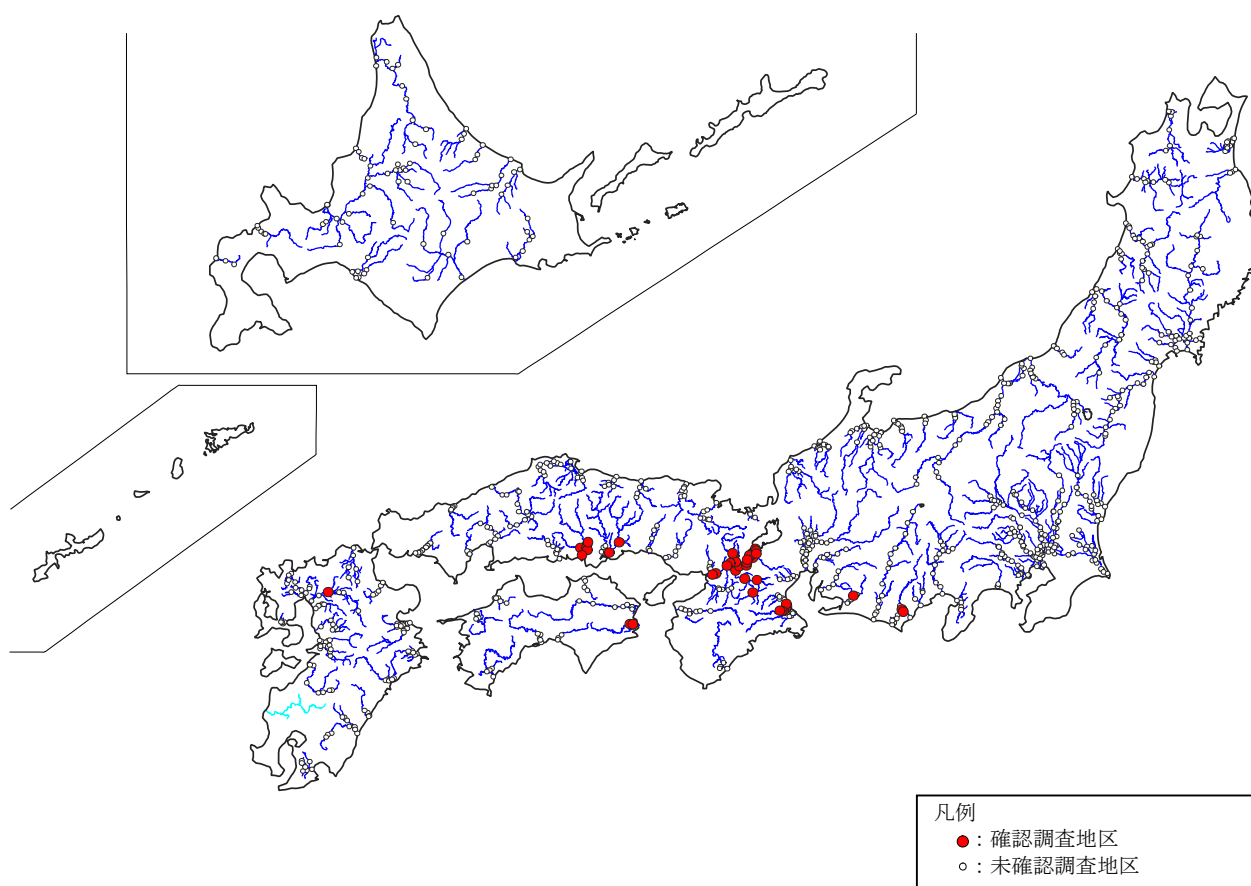
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

アオマツムシの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



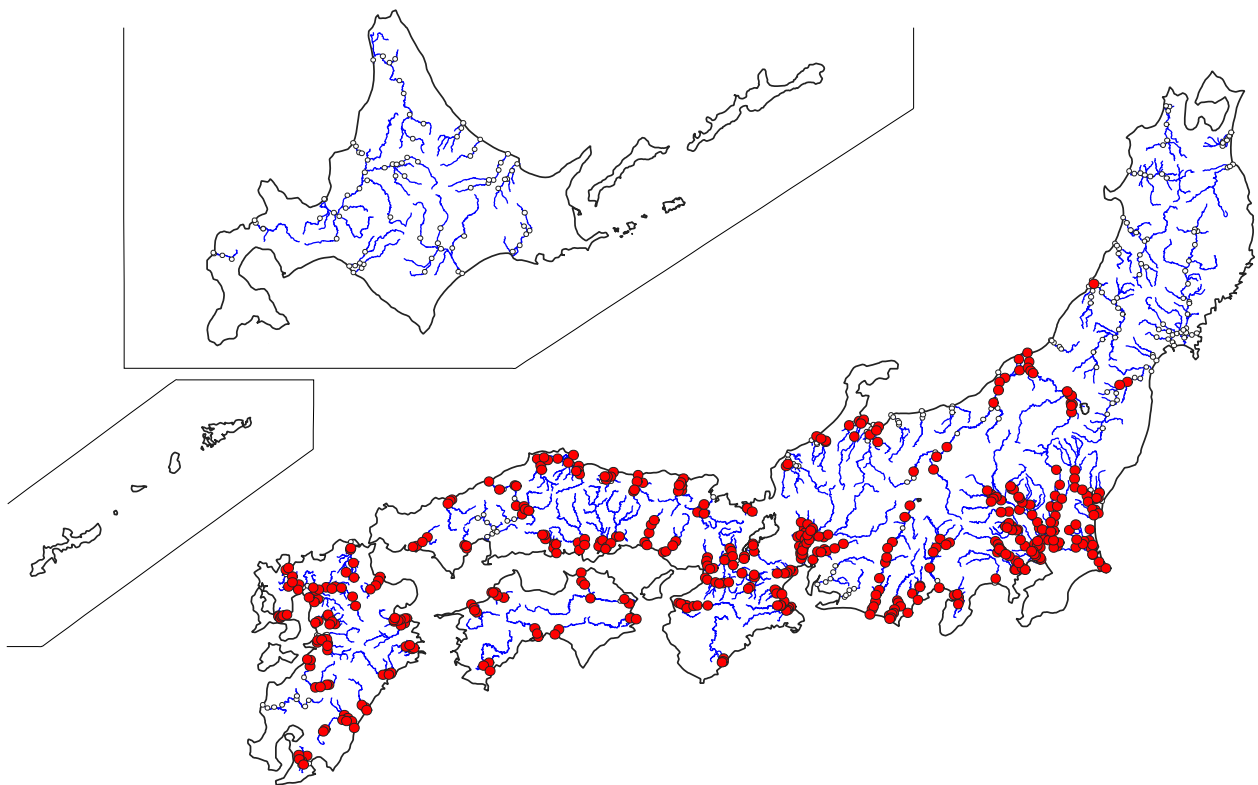
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



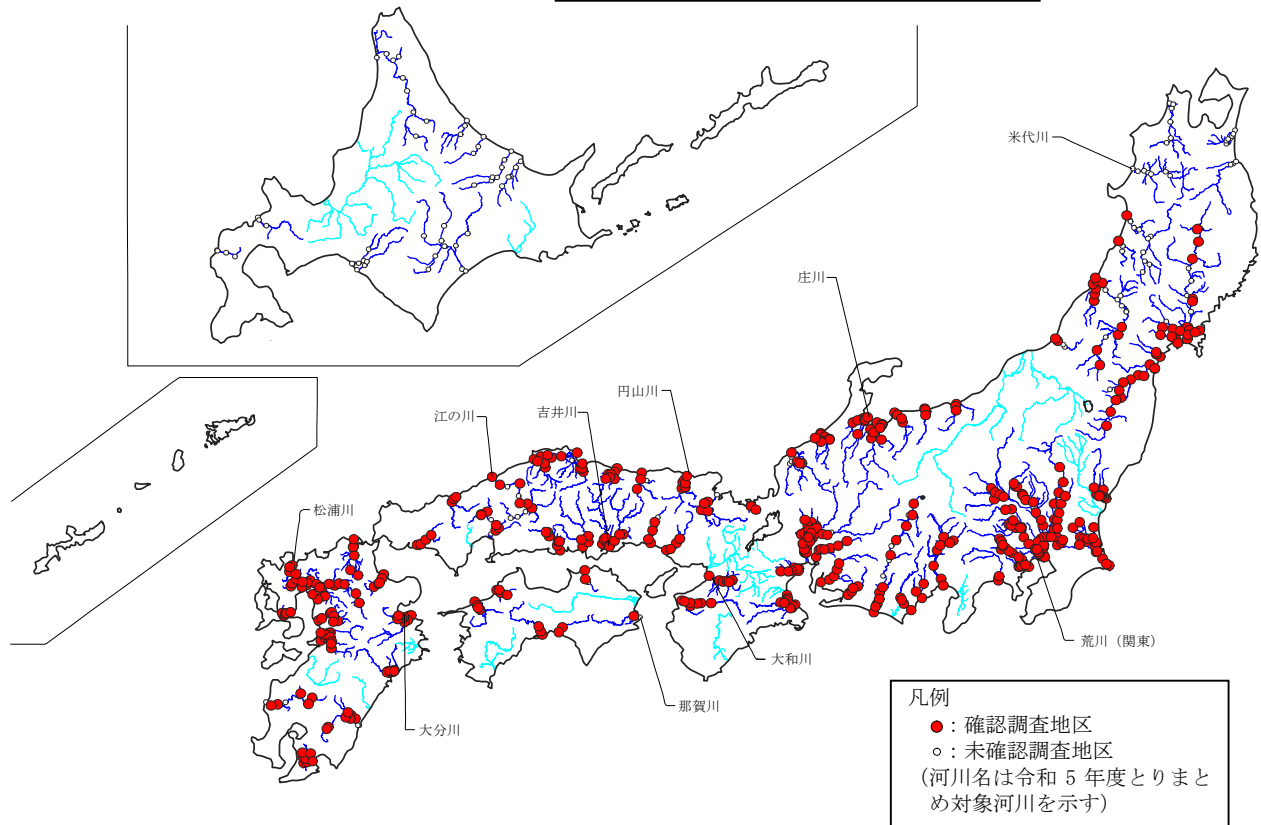
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アワダチソウゲンバイの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



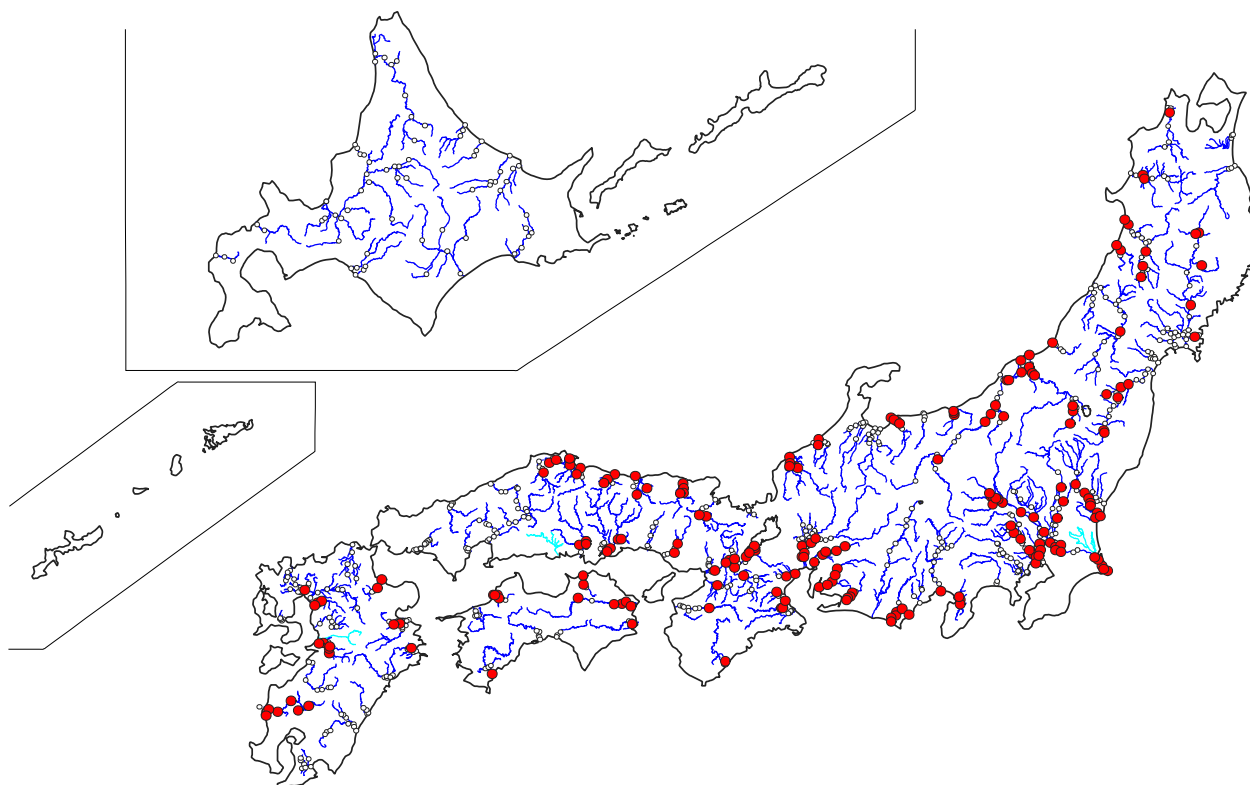
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



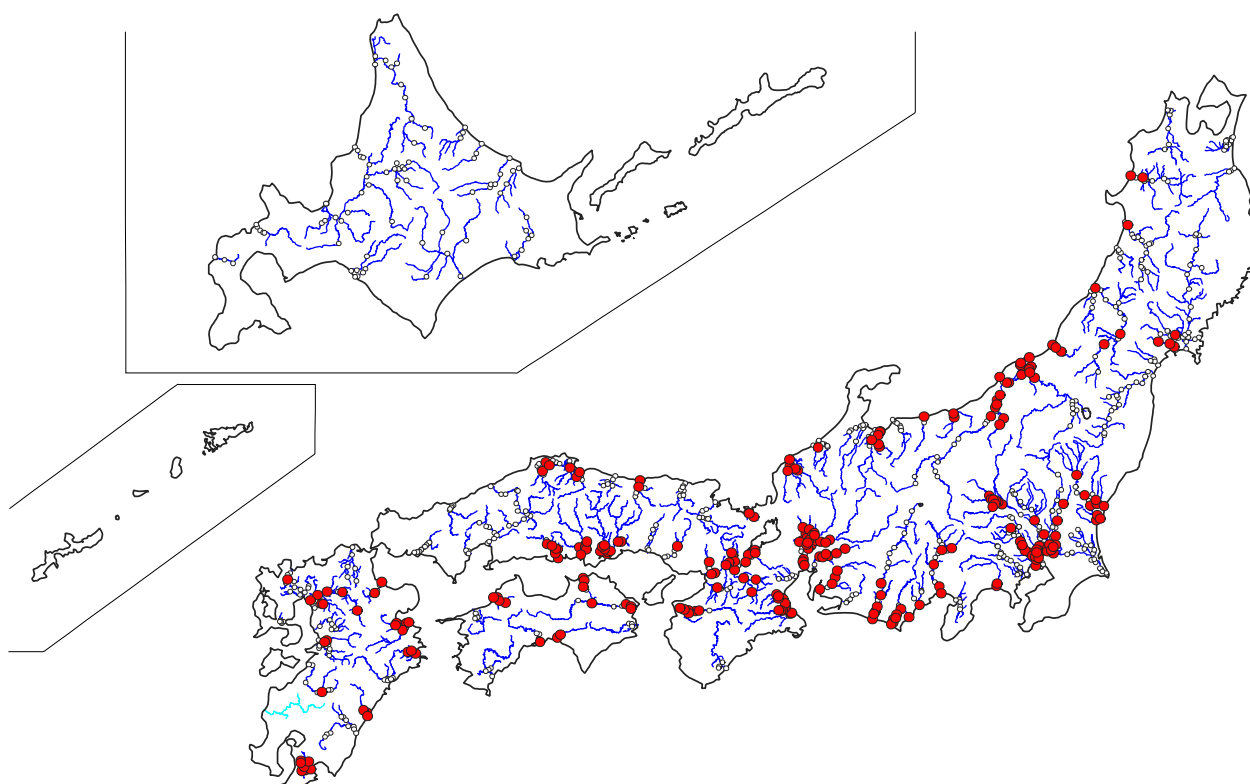
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

アワダチソウグンバイの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

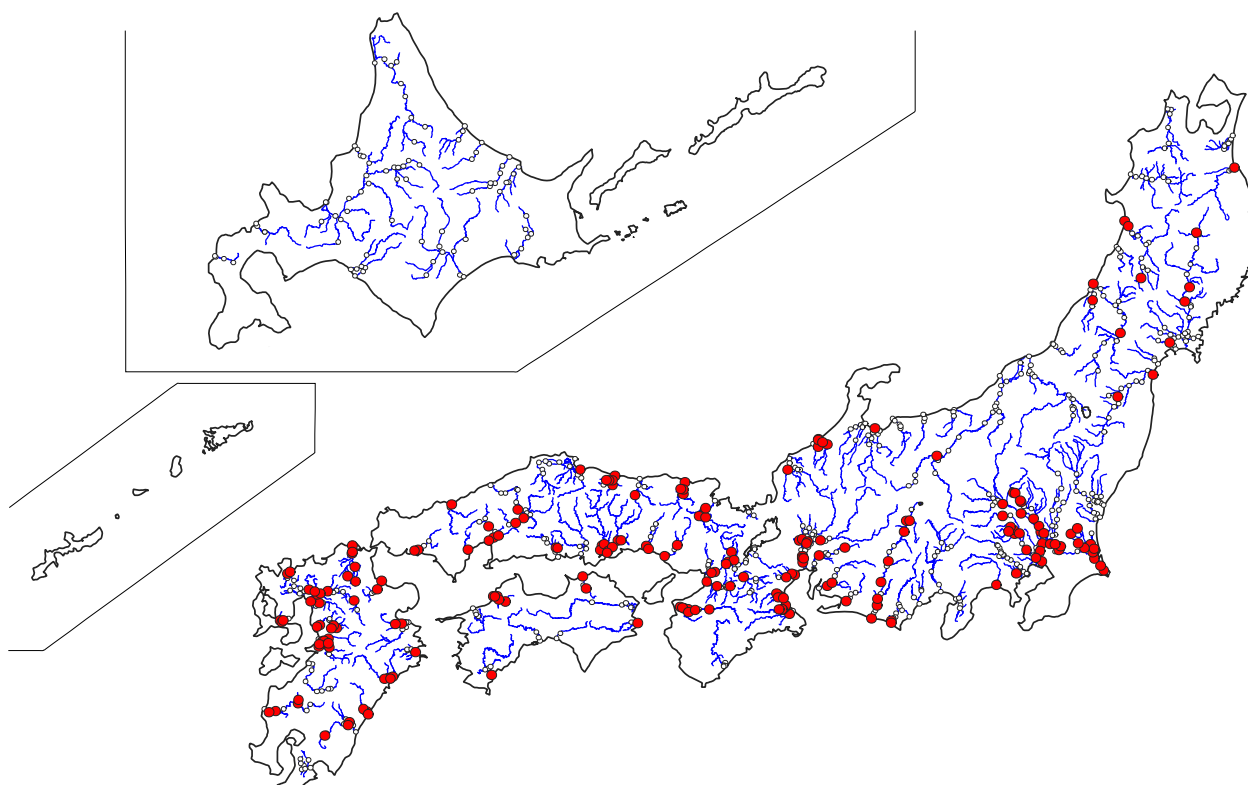


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

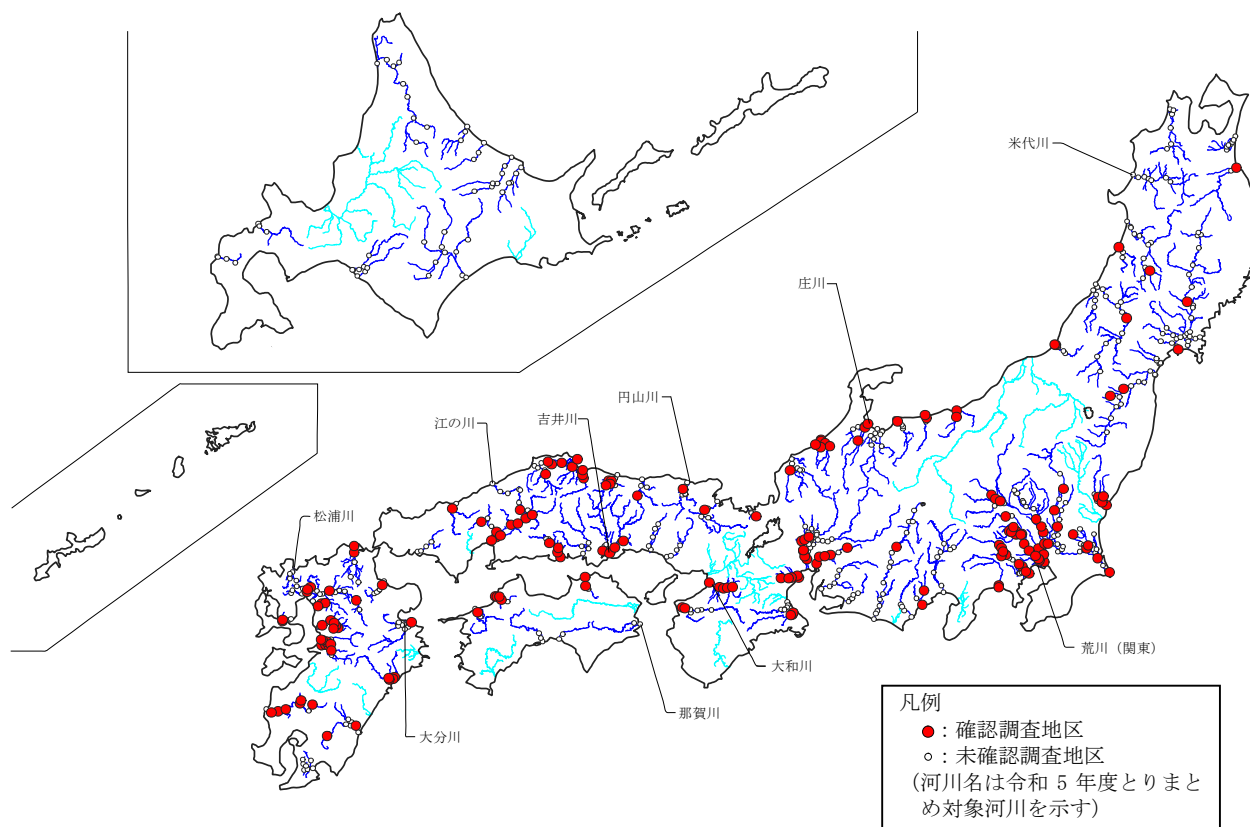
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

シバツトガの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



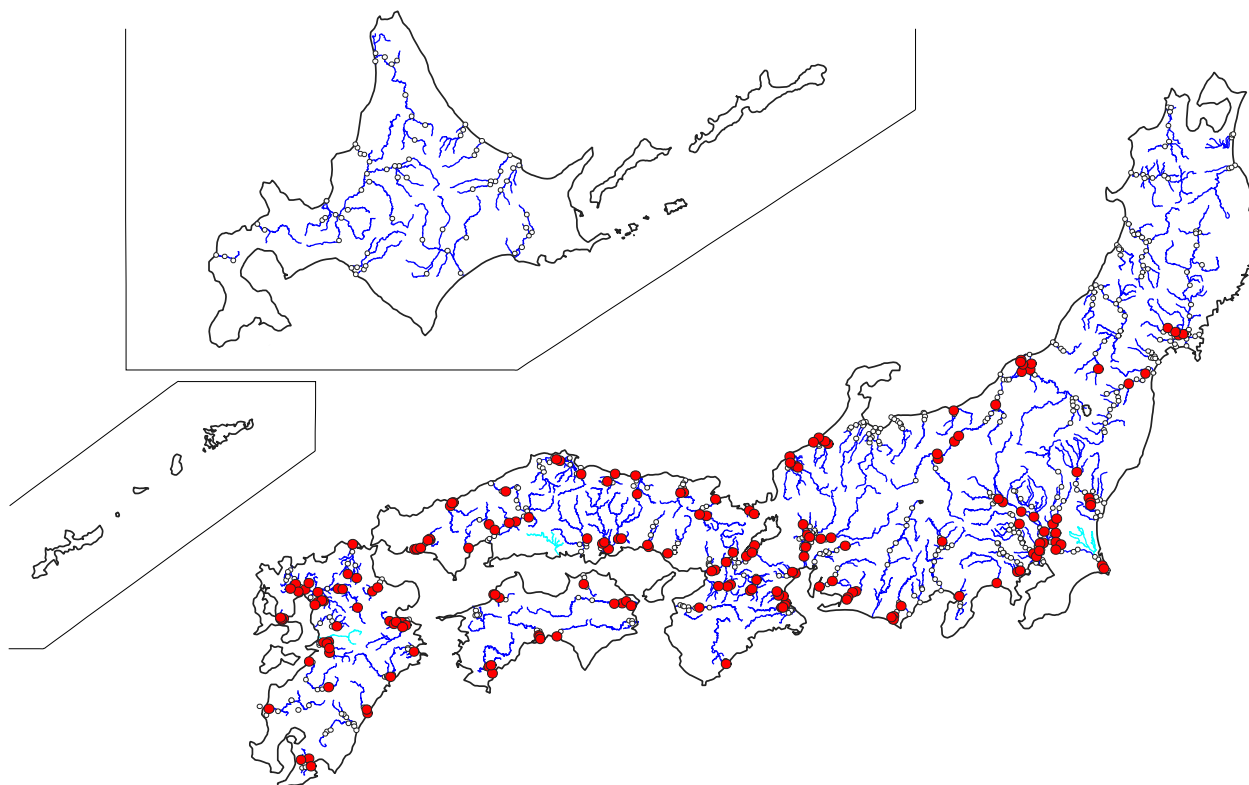
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



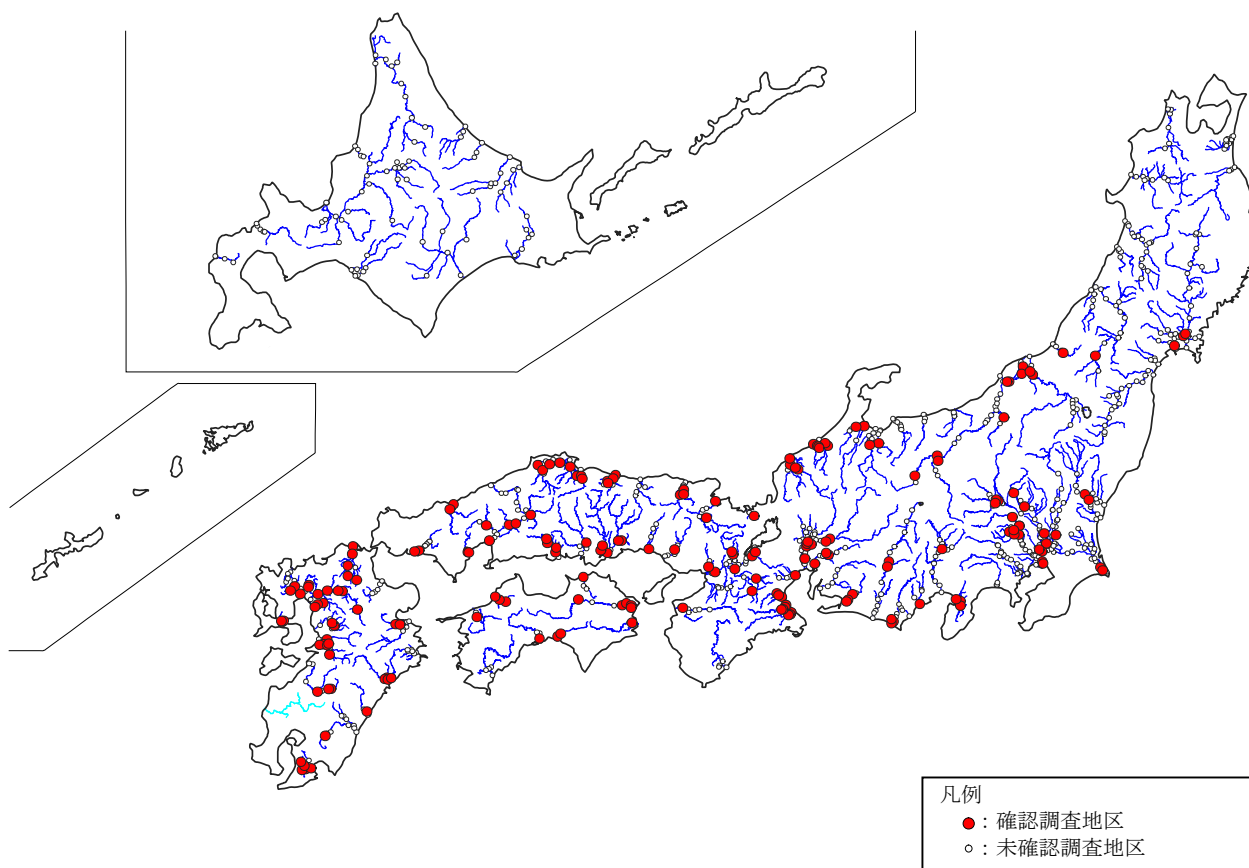
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

シバツトガの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

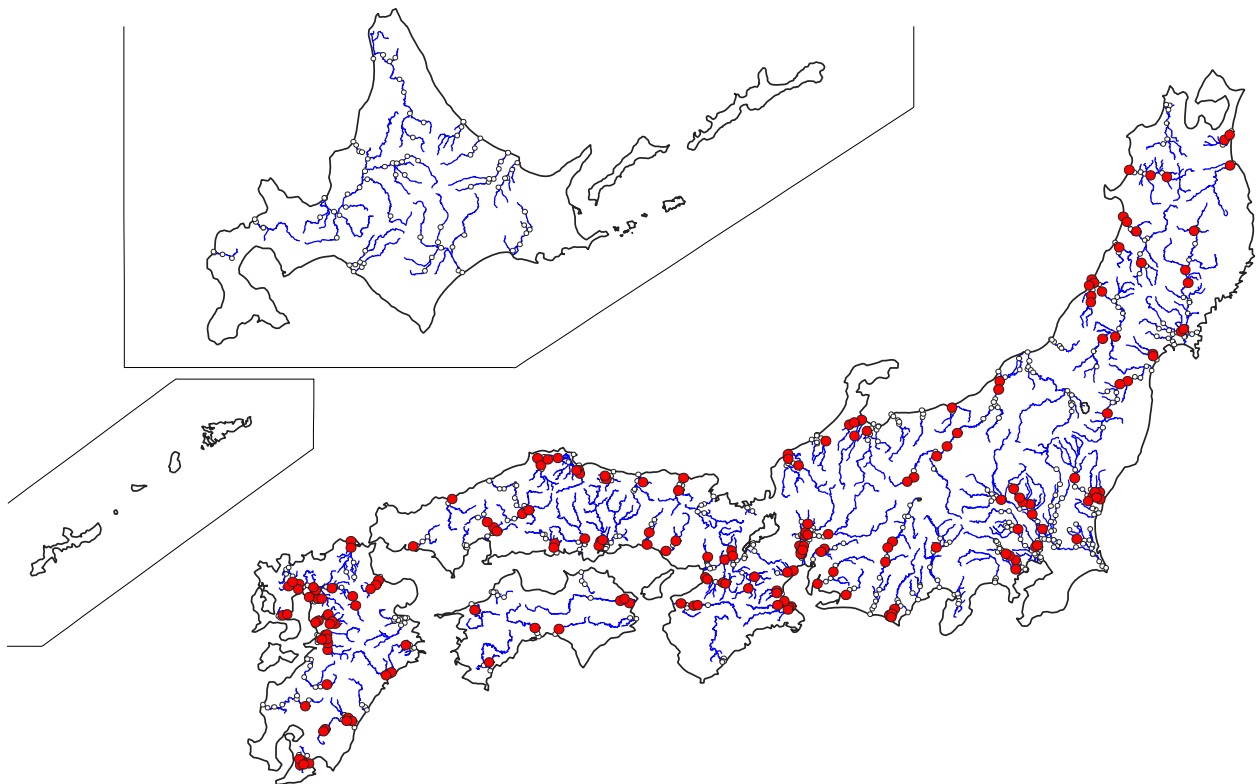


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

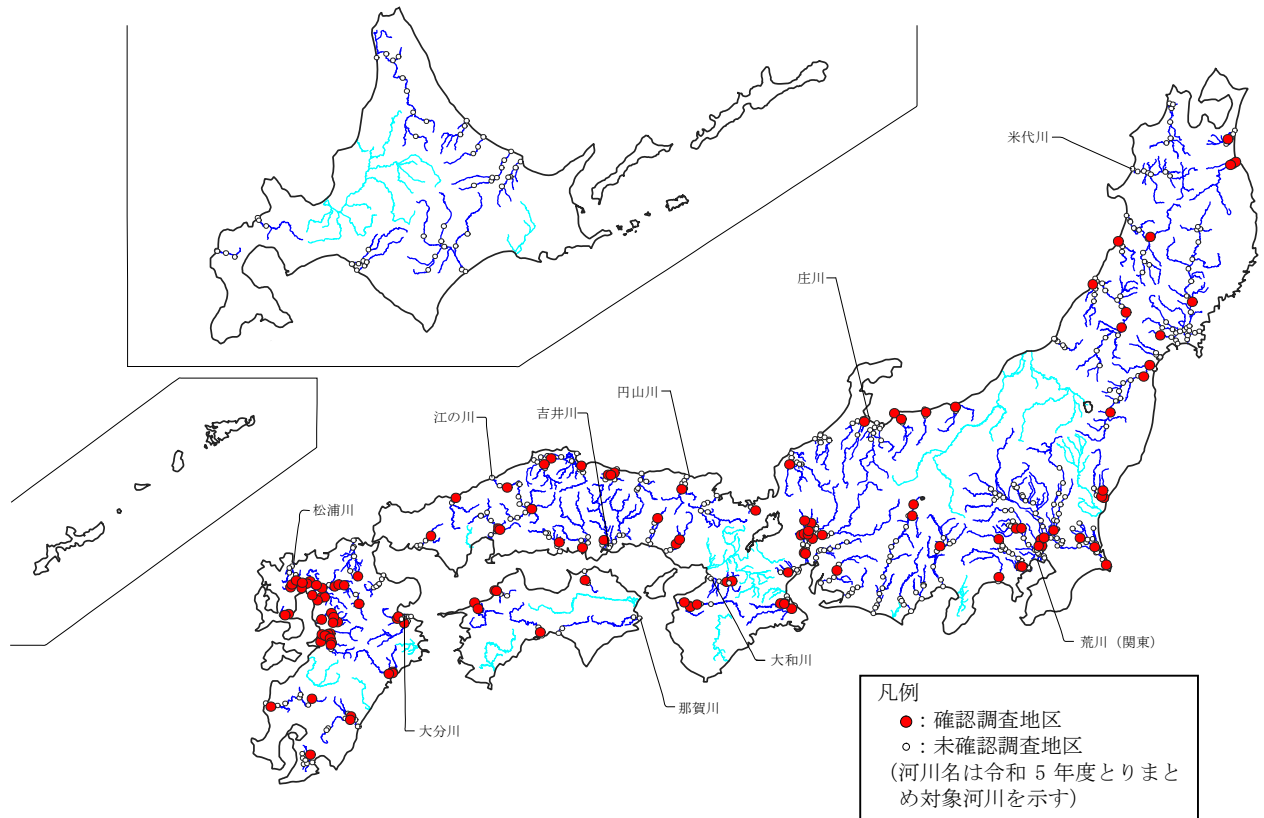
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アメリカミズアブの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



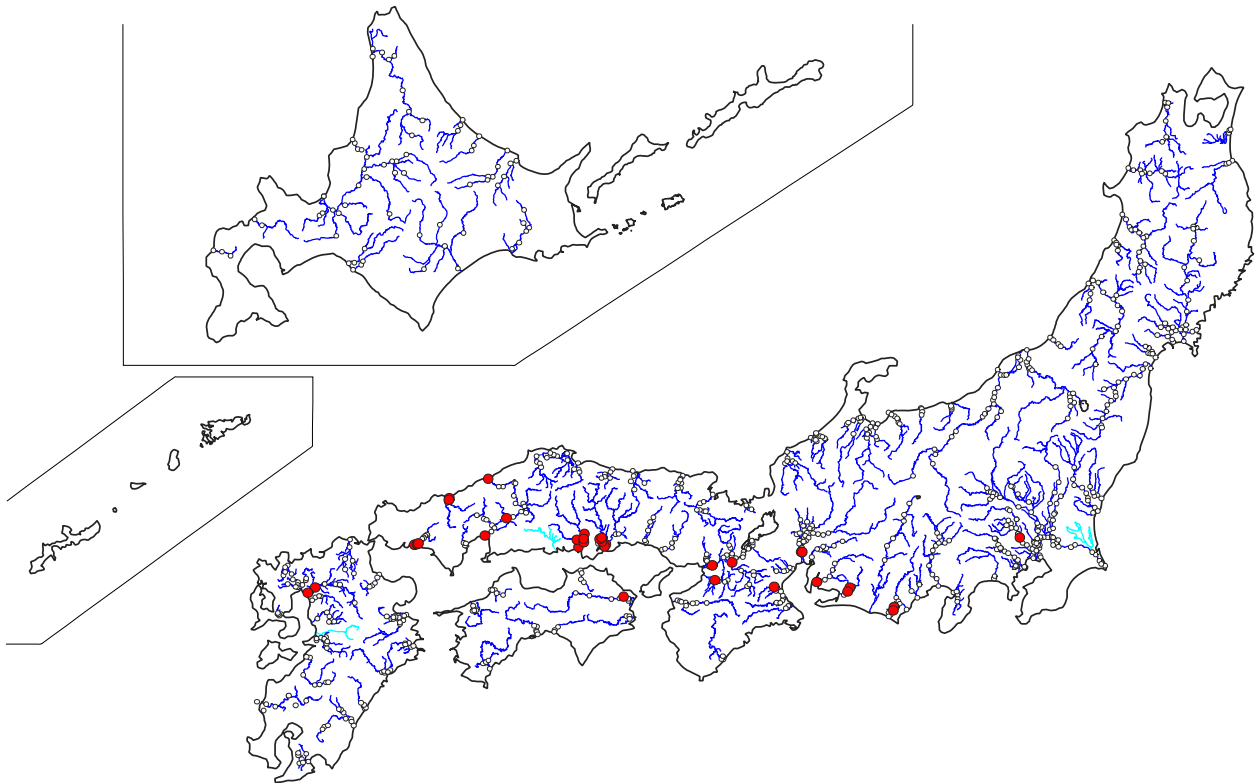
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



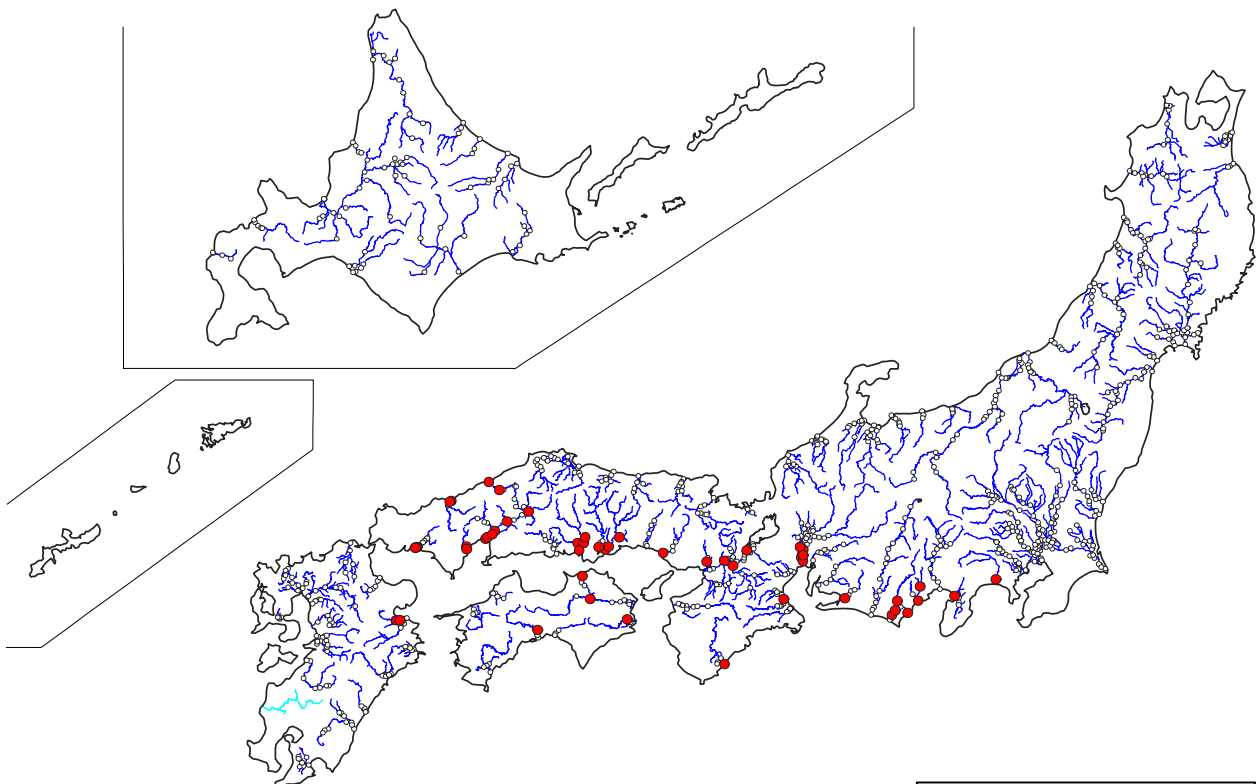
注) 5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

アメリカミズアブの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

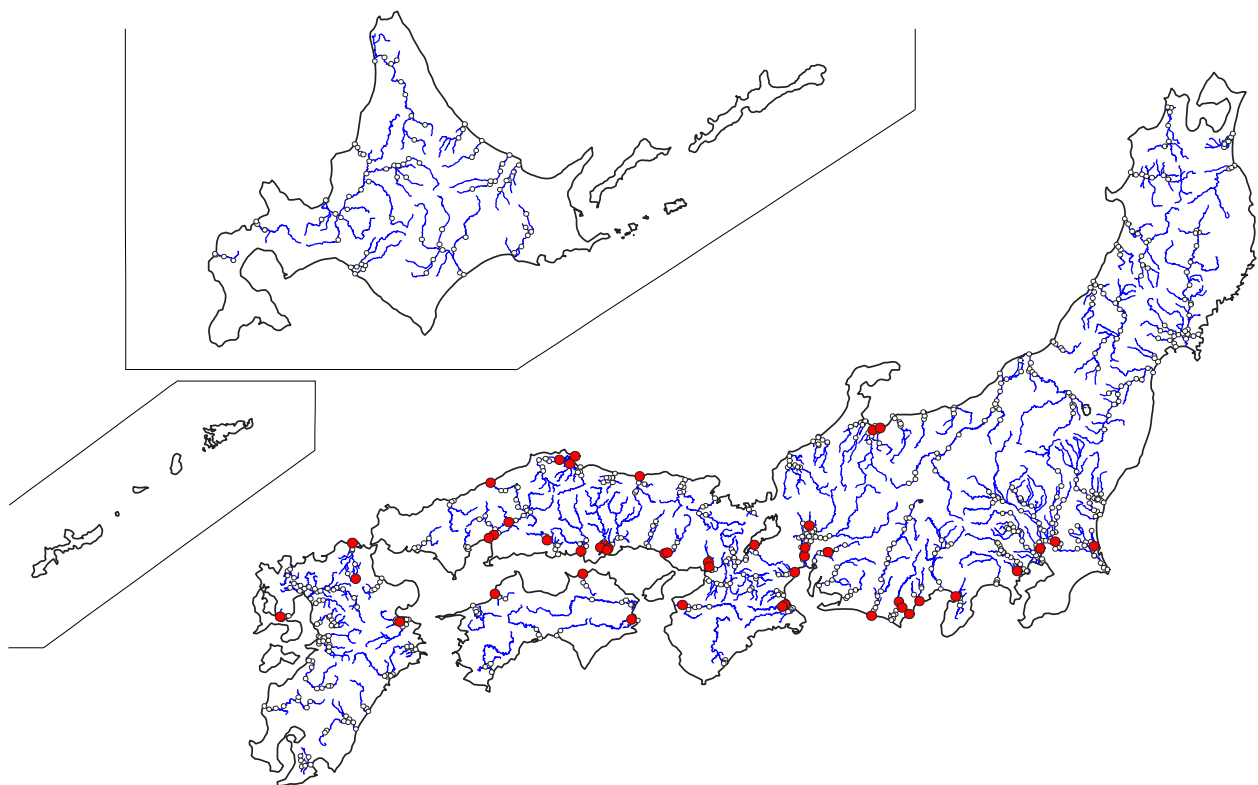


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

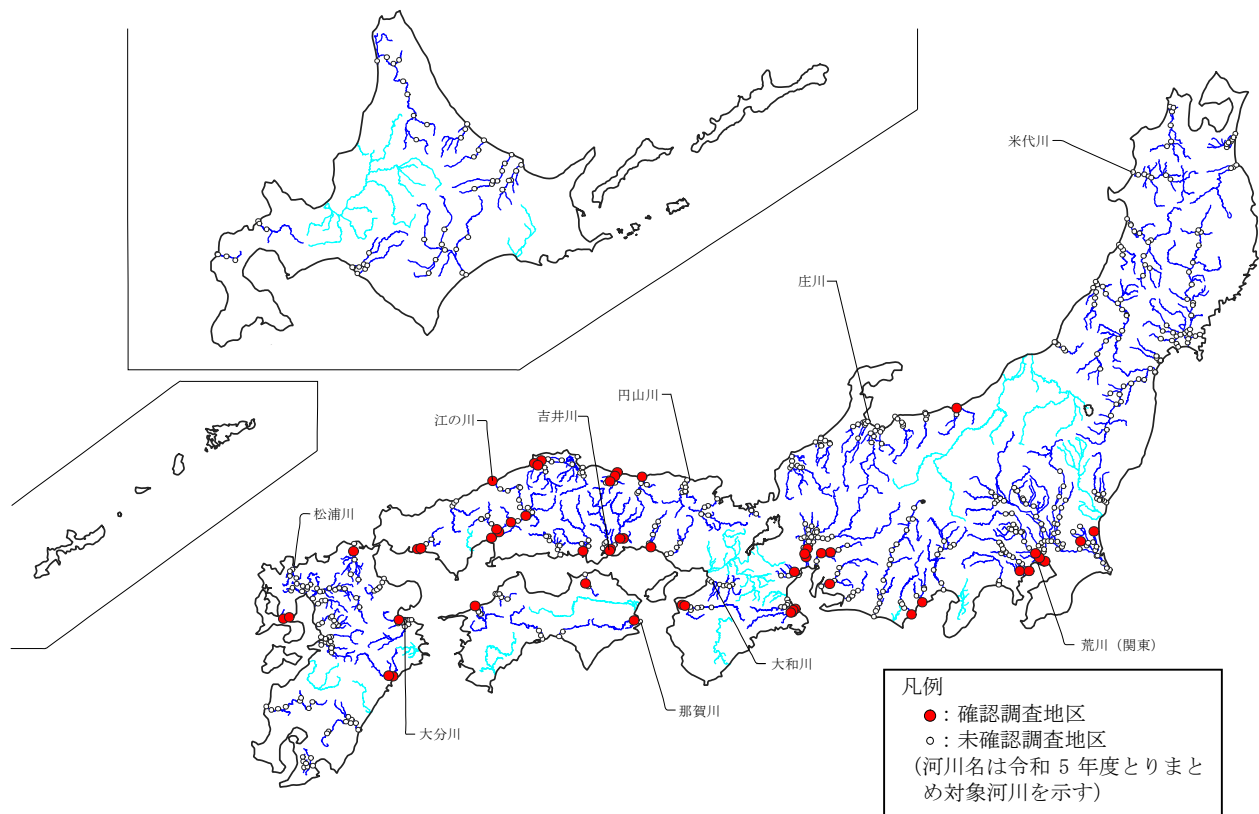
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を制愛する。

ミスジキイロテントウの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



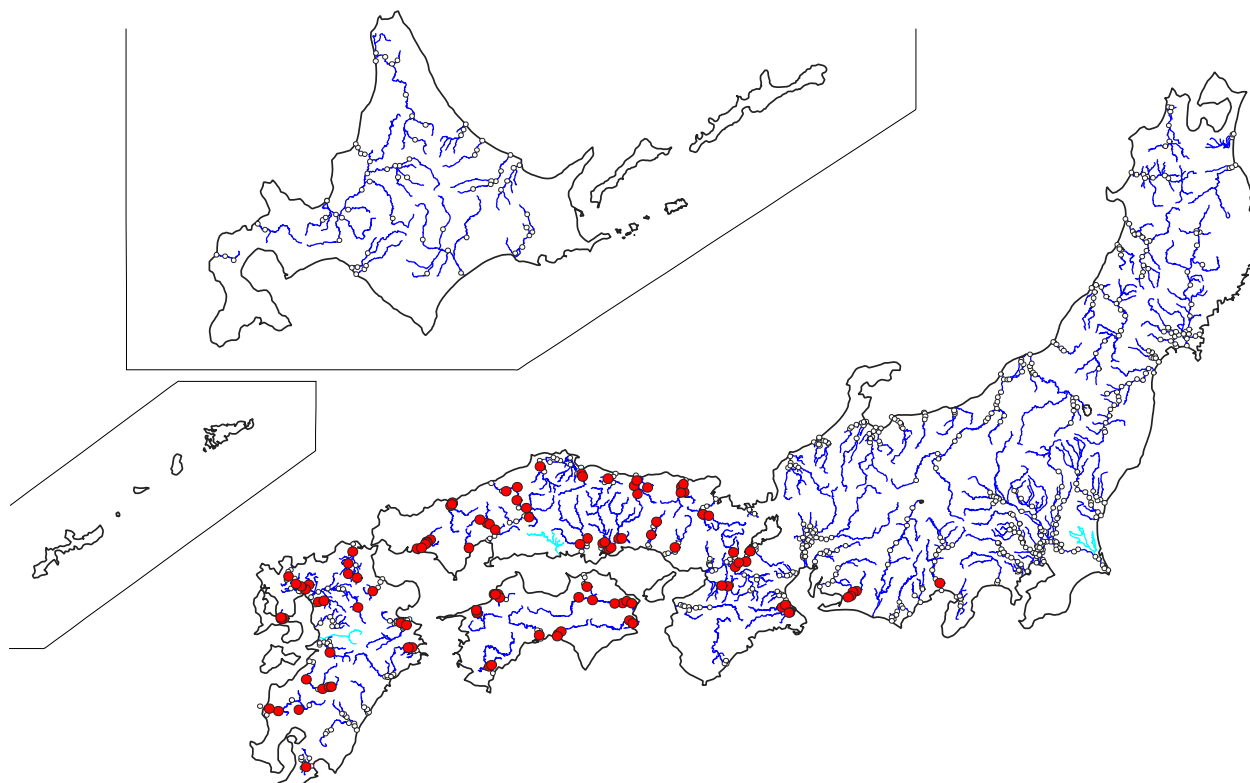
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



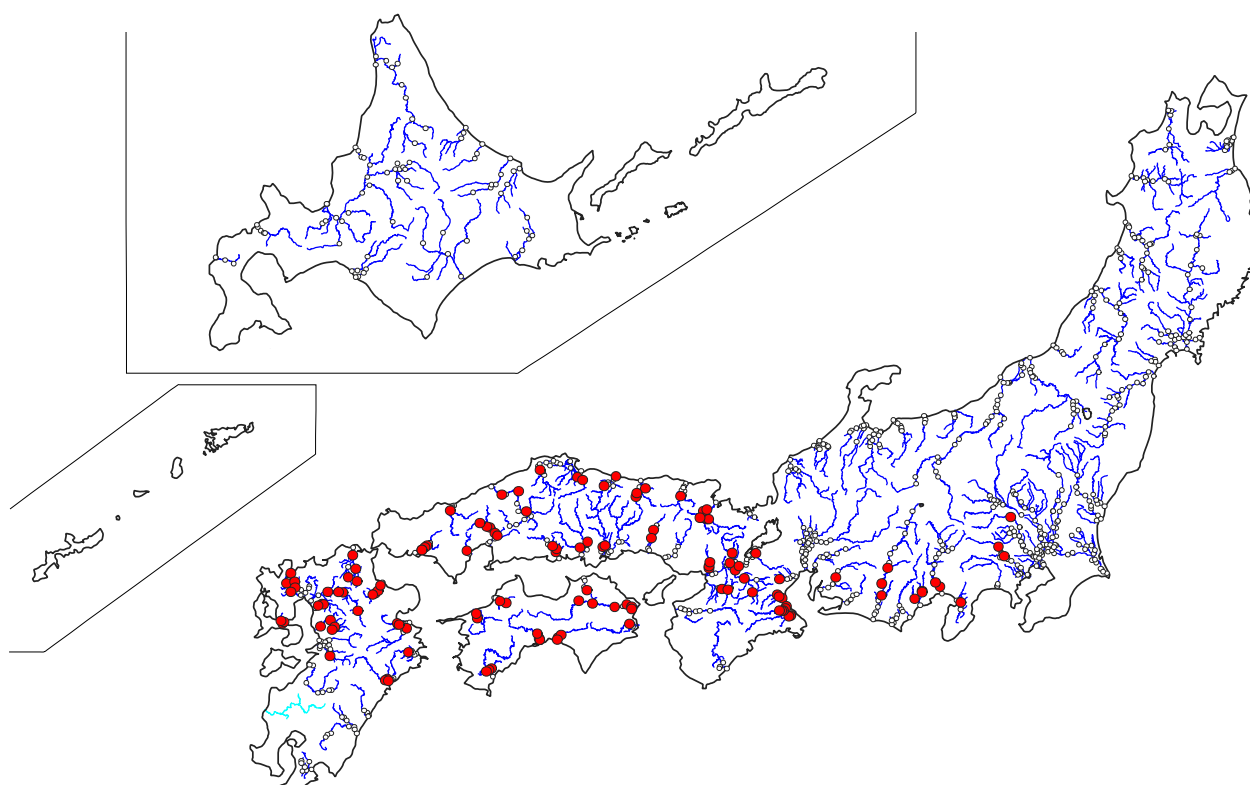
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ミスジキイロテントウの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）



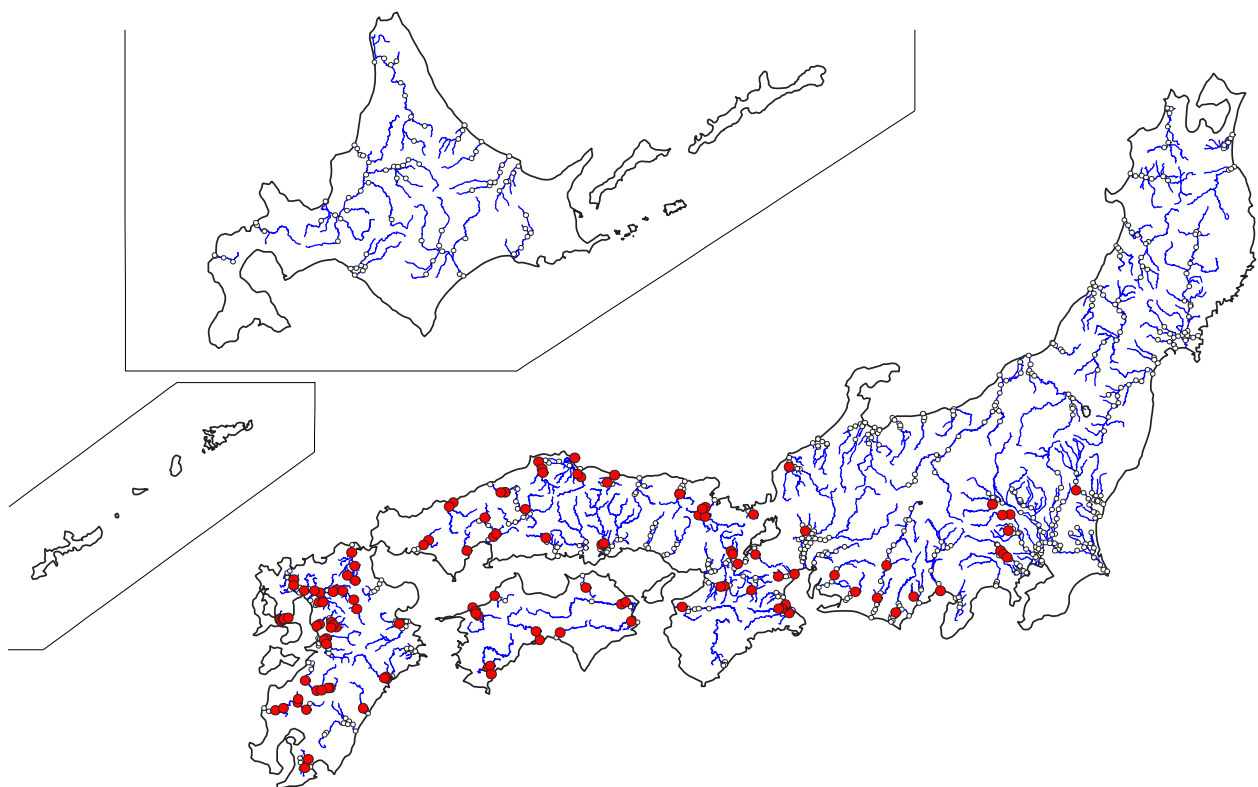
凡例

- ：確認調査地区
- ：未確認調査地区

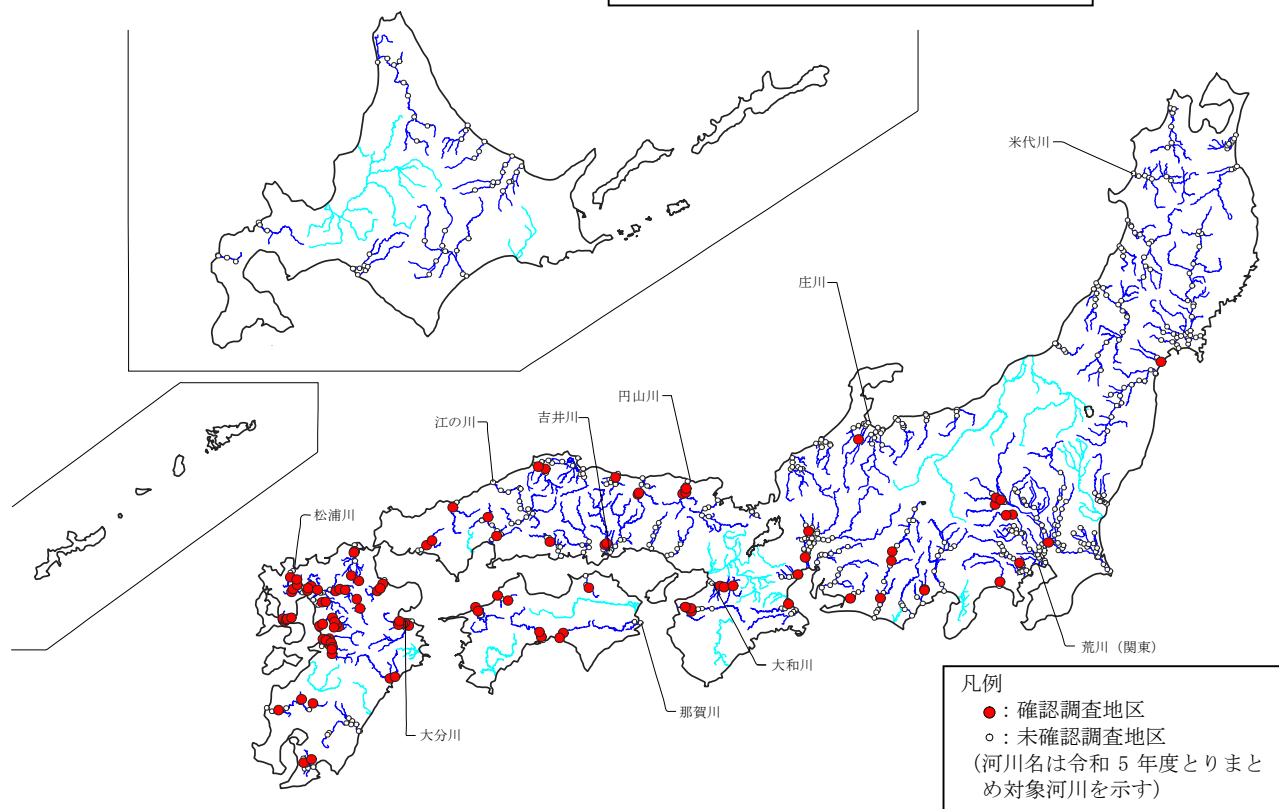
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ラミーカミキリの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



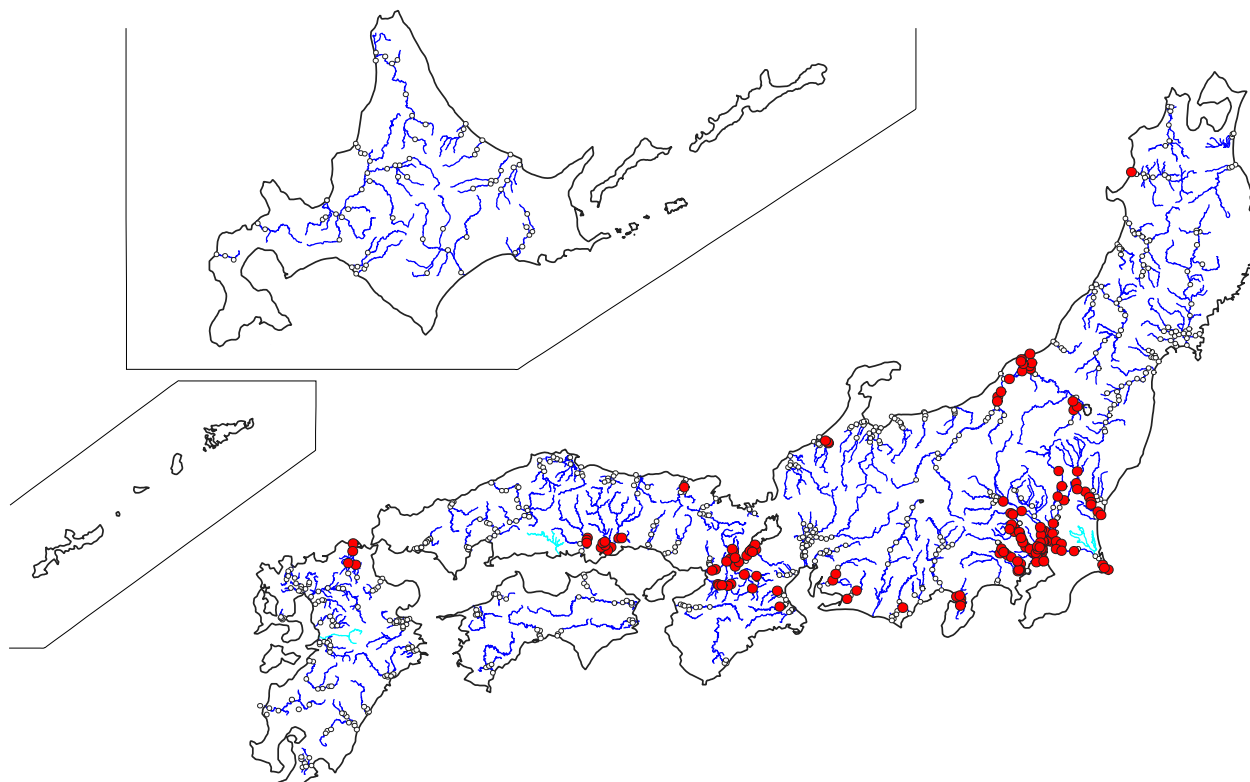
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



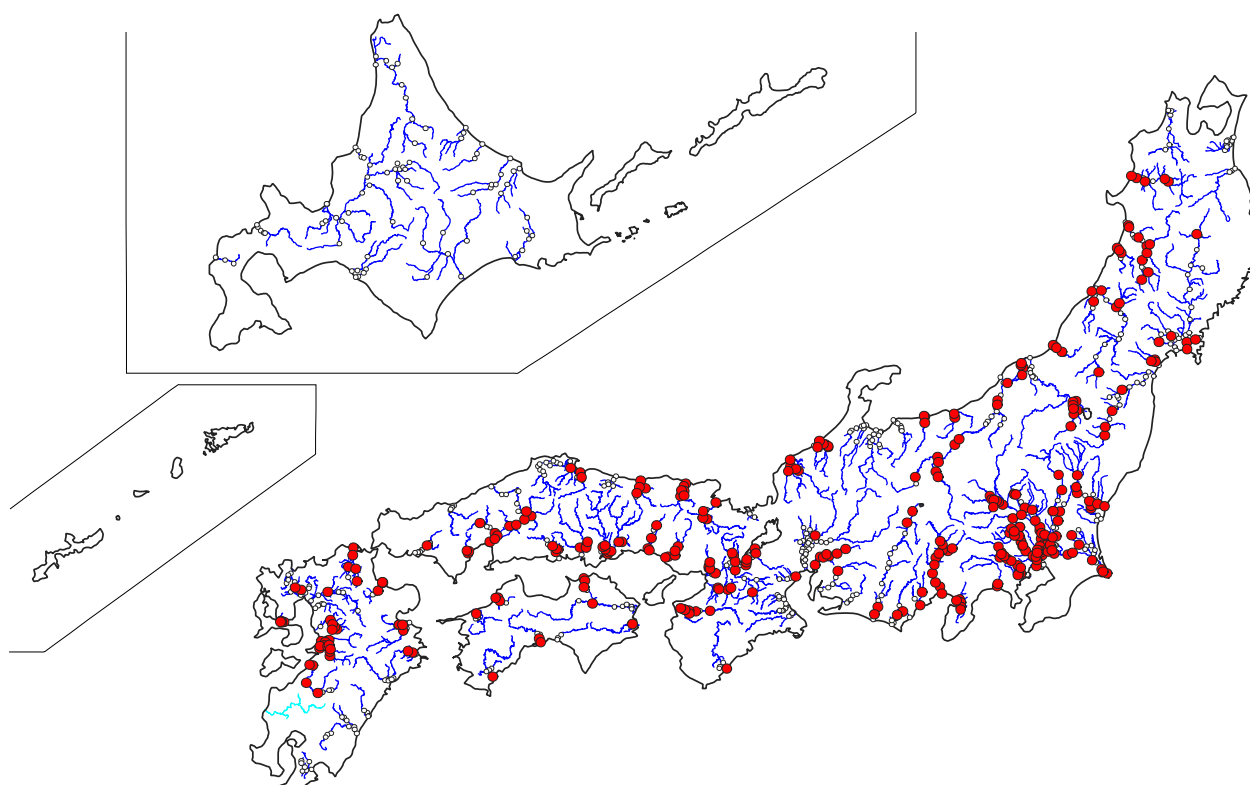
注）5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

ラミーカミキリの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

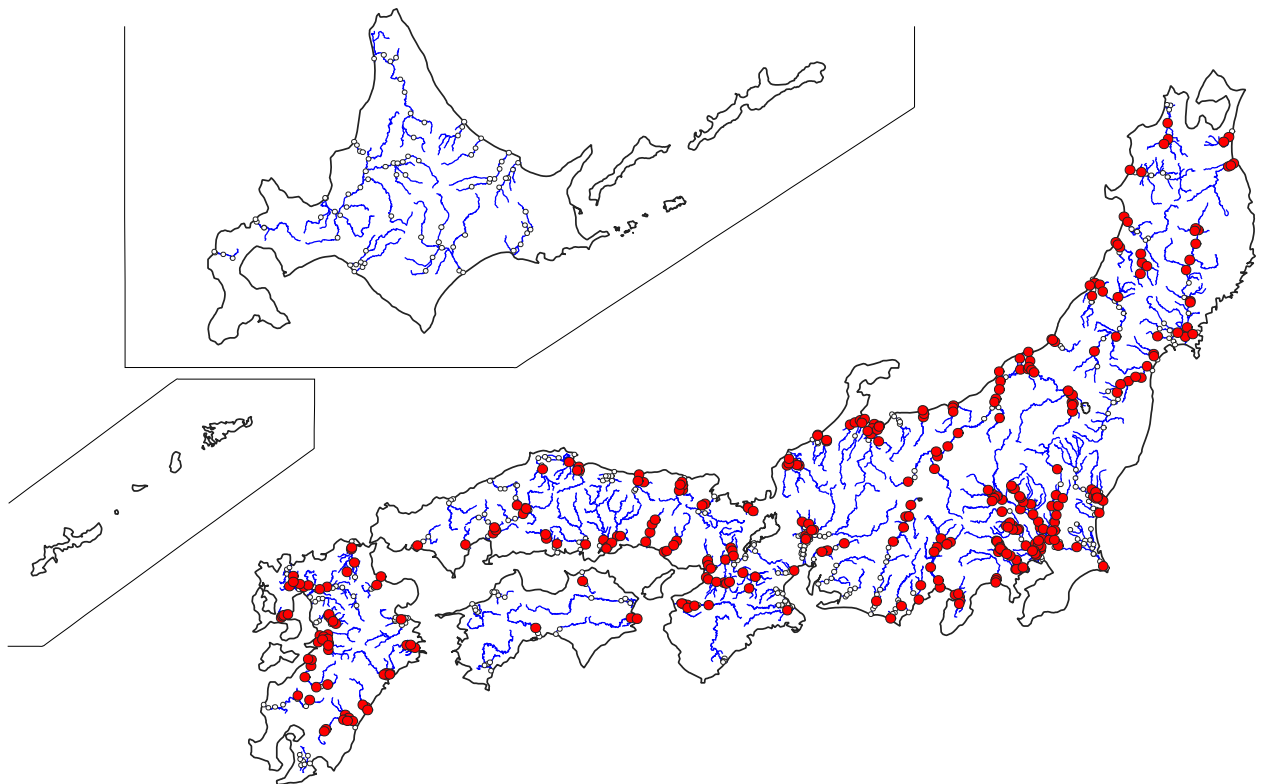


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

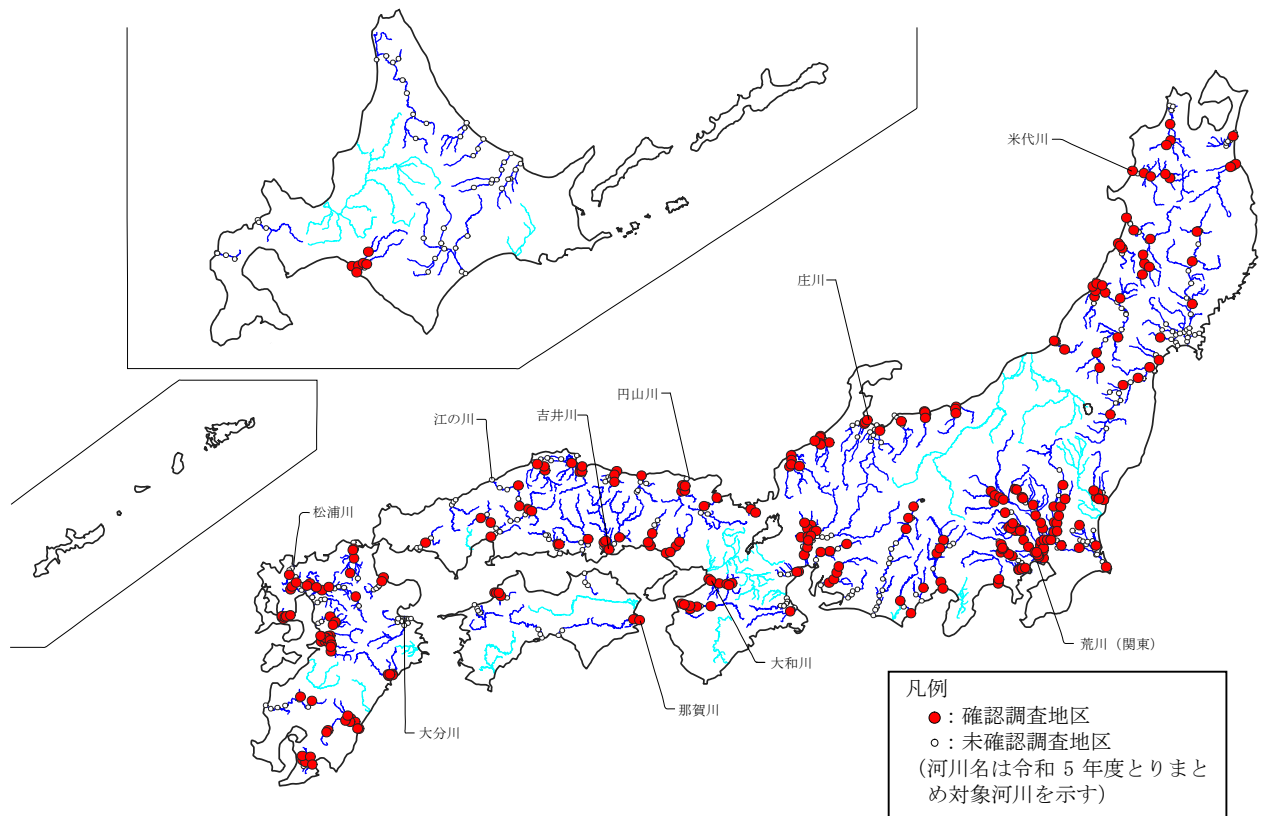
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ブタクサハムシの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



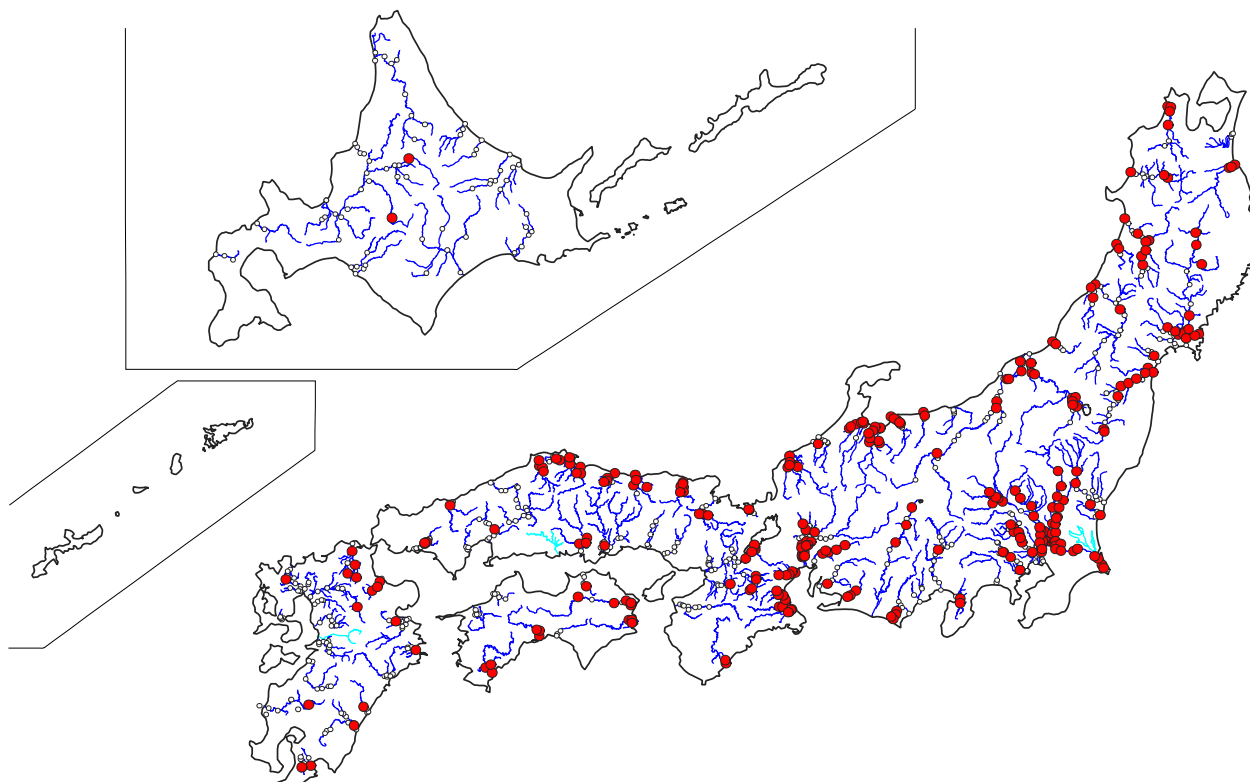
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



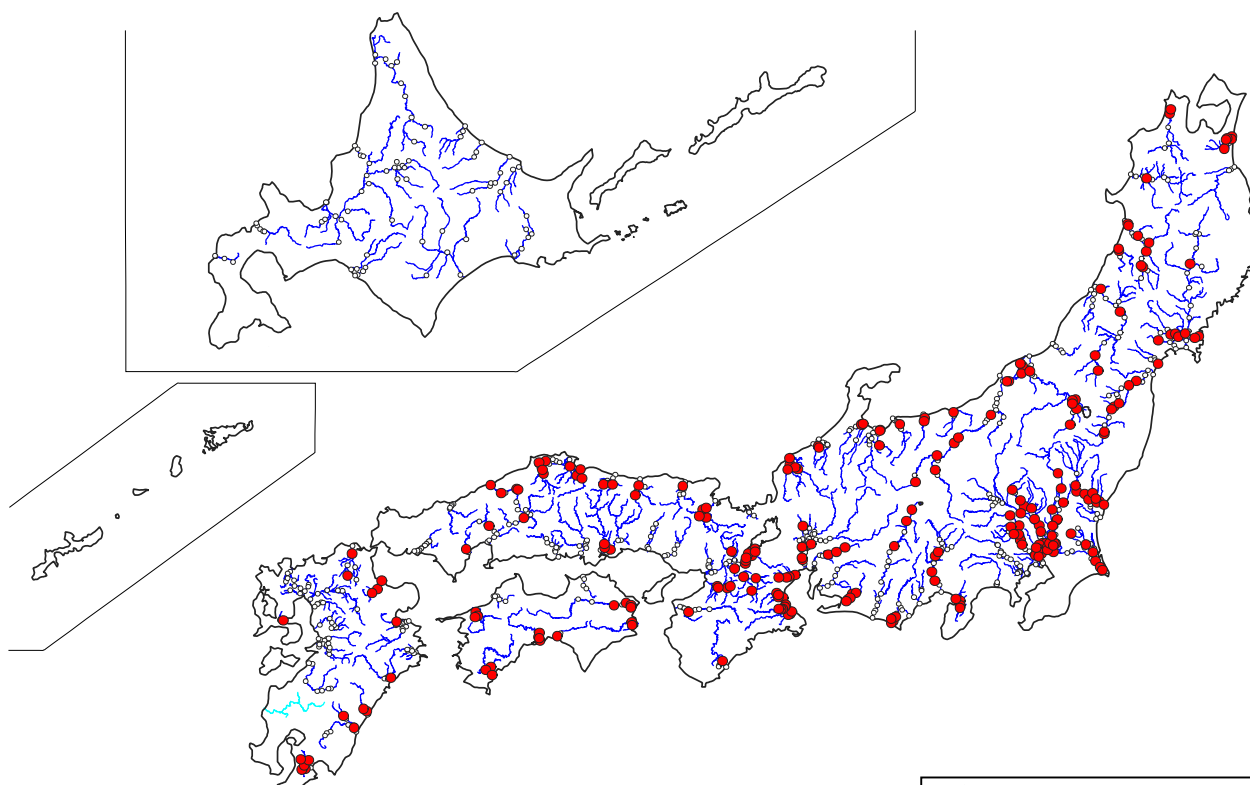
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ブタクサハムシの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

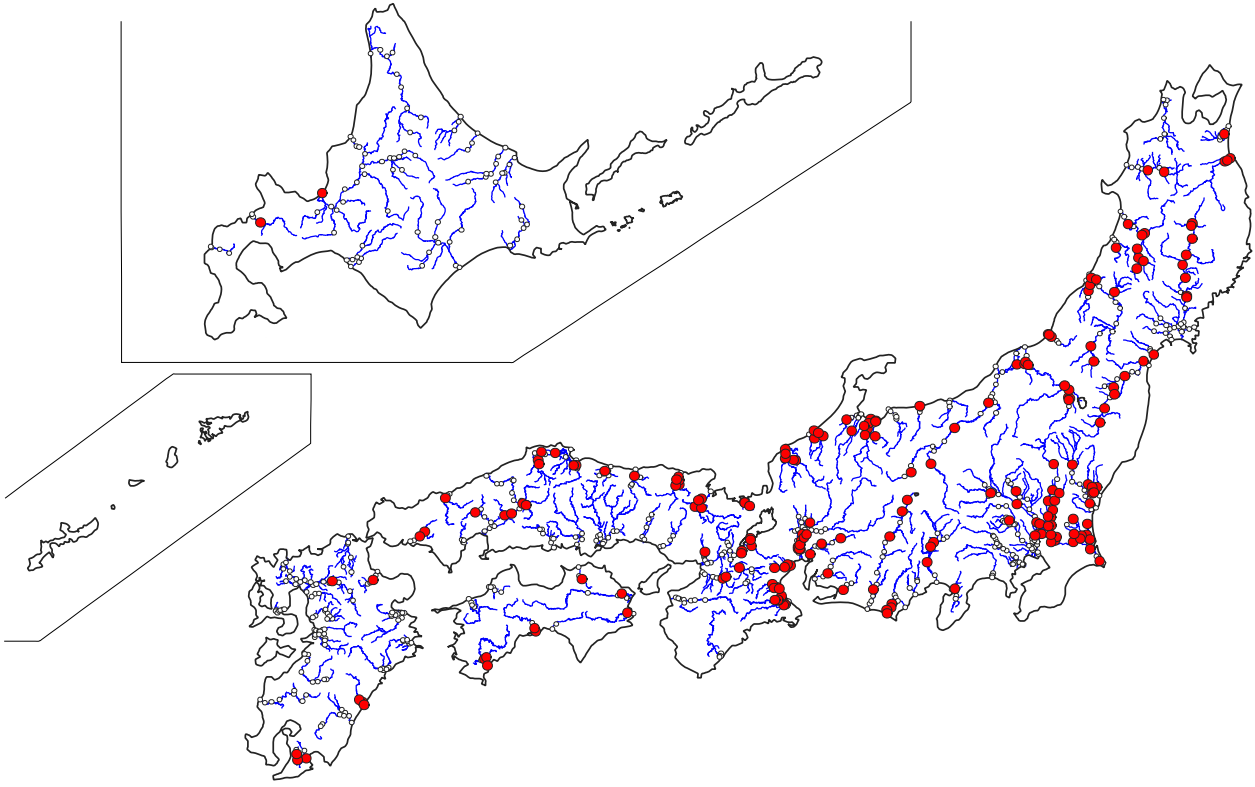


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

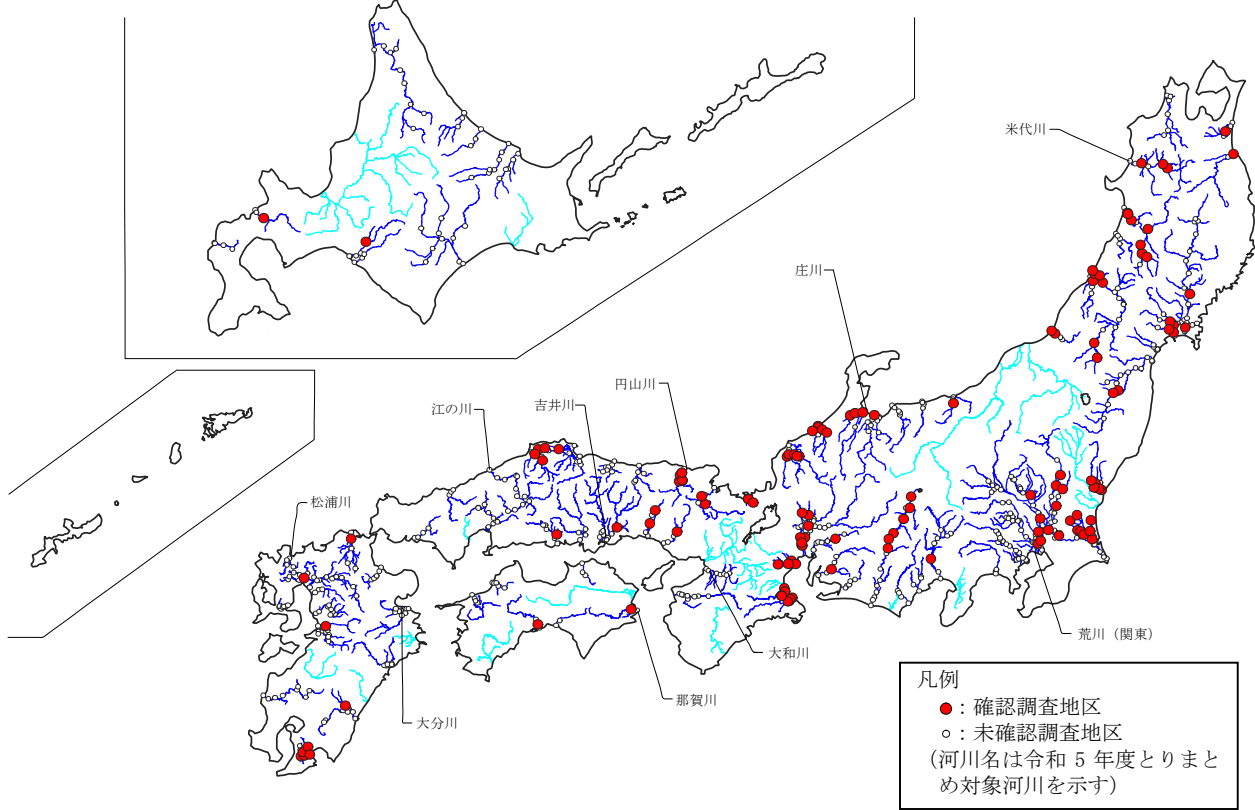
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

イネミズゾウムシの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4巡目調査（平成18～27年度）



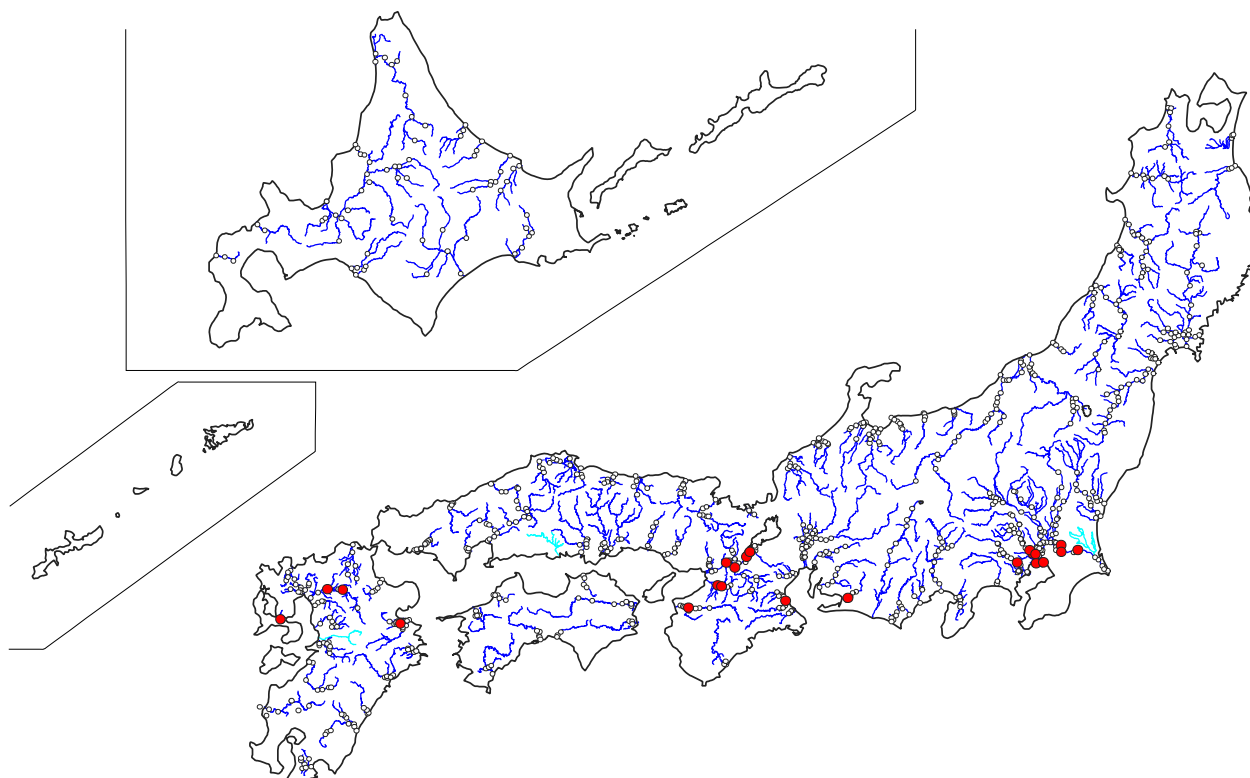
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



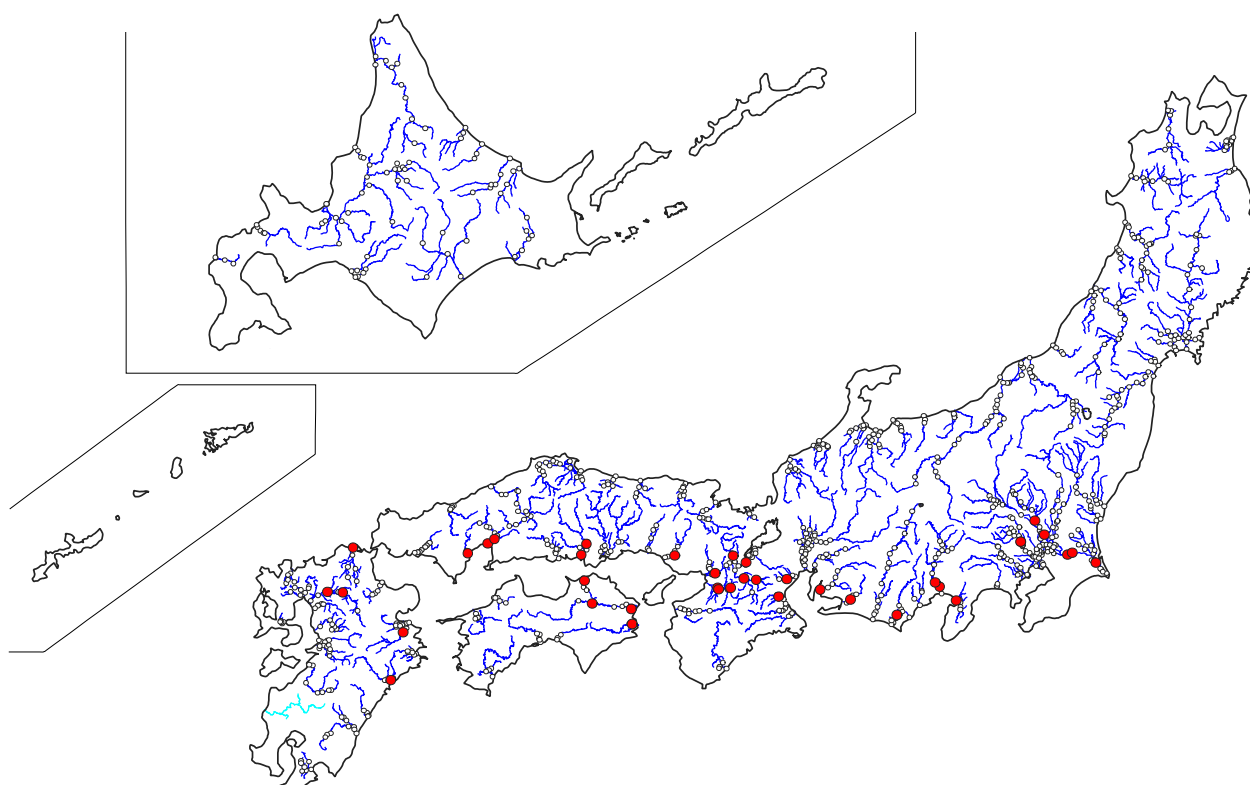
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

イネミズゾウムシの確認された調査地区（4巡目調査、5巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

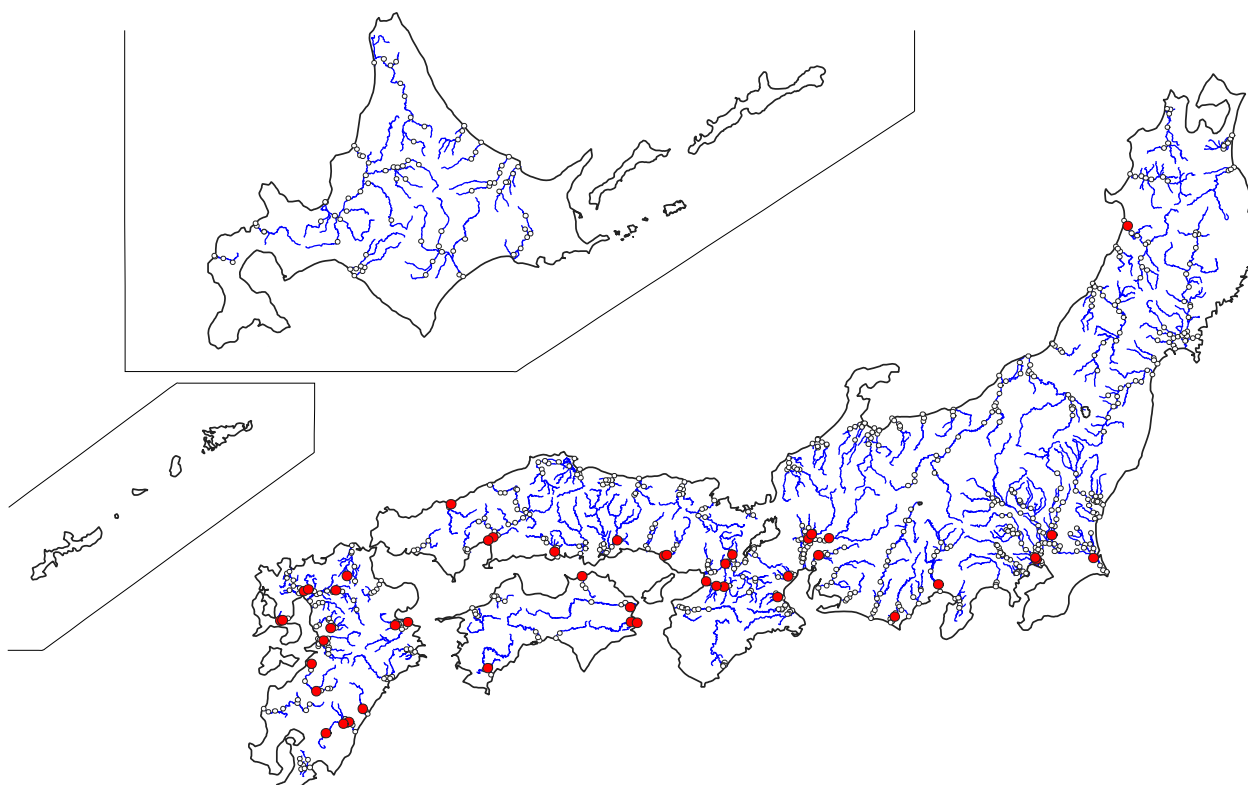


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

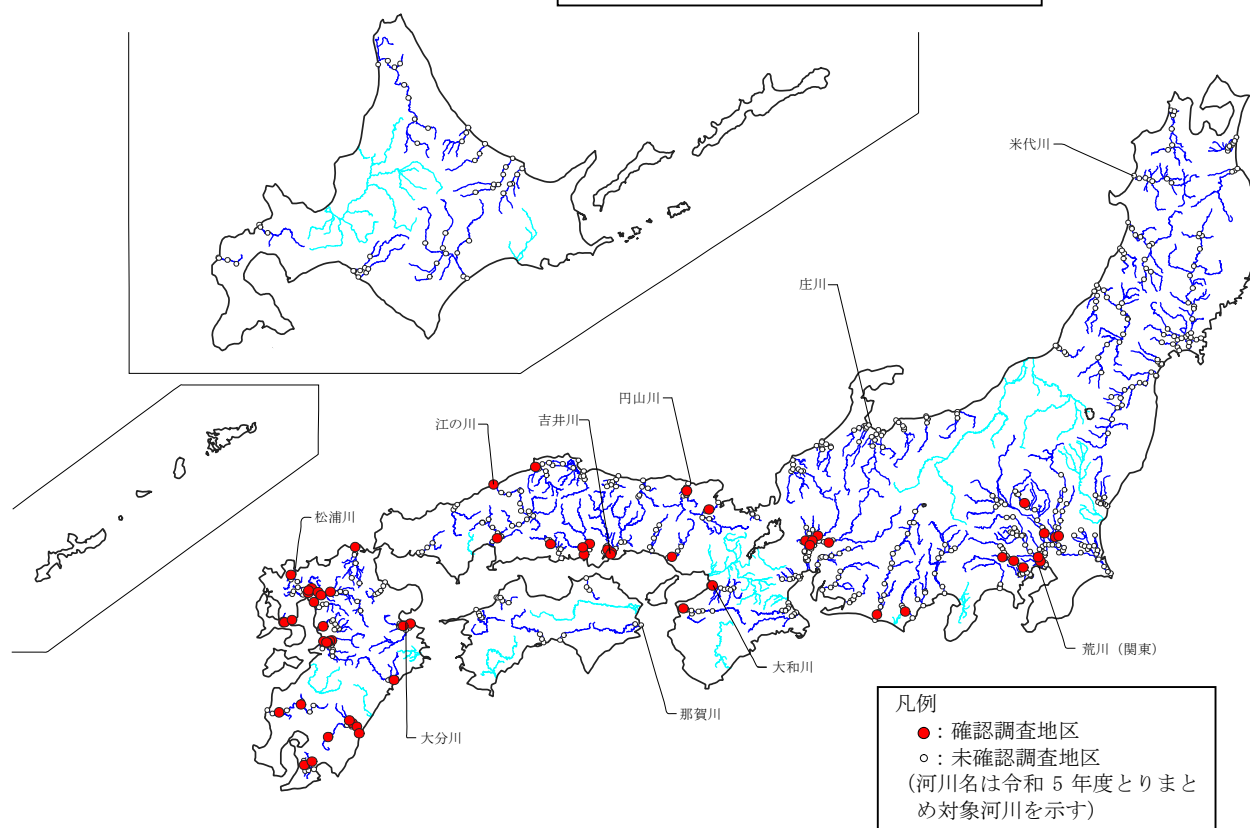
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

シバオサゾウムシの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



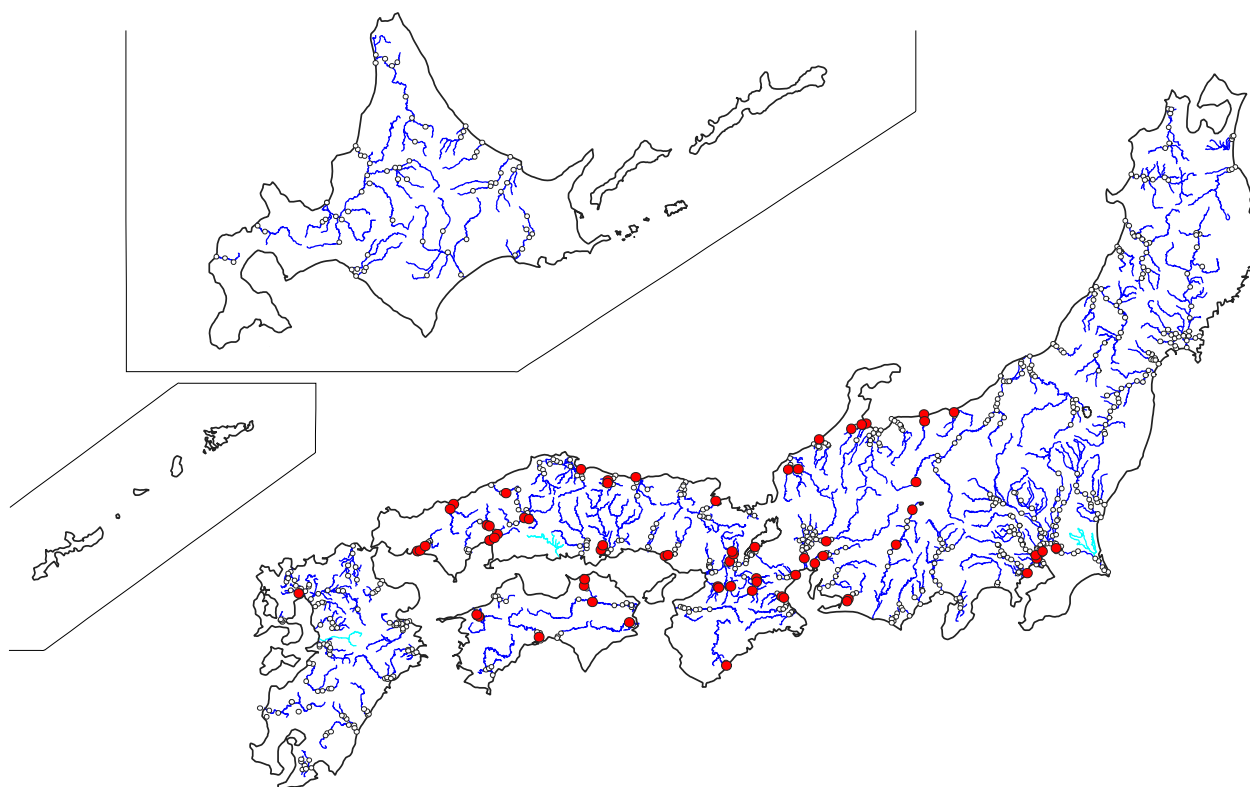
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



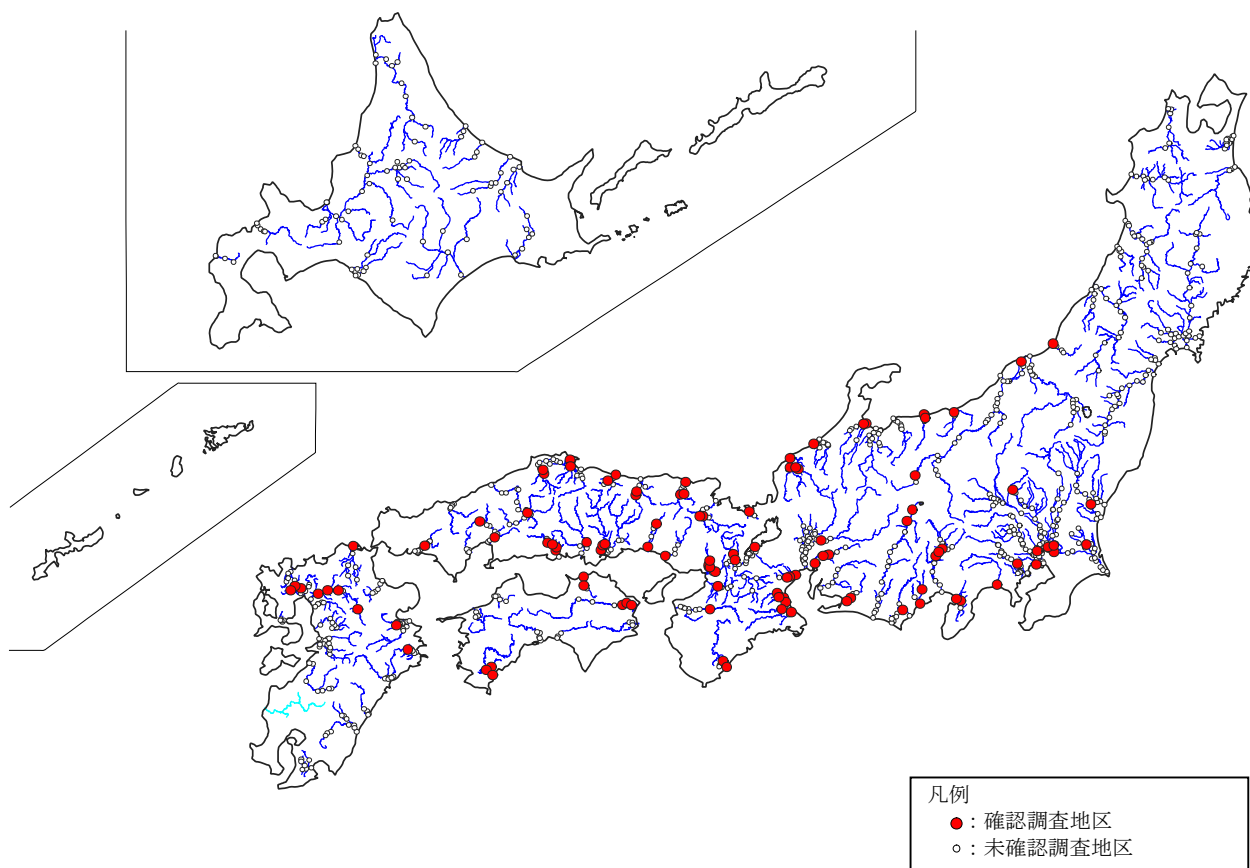
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

シバオサゾウムシの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）



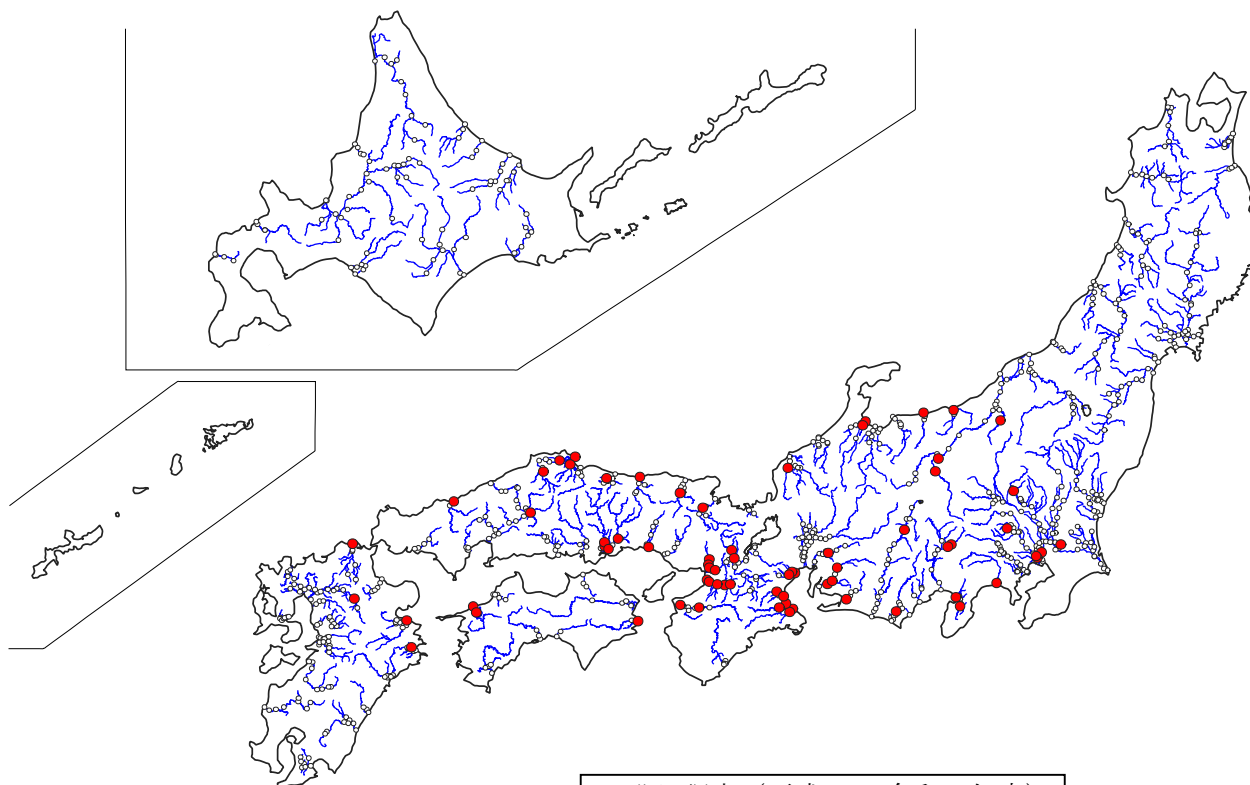
凡例

- ：確認調査地区
- ：未確認調査地区

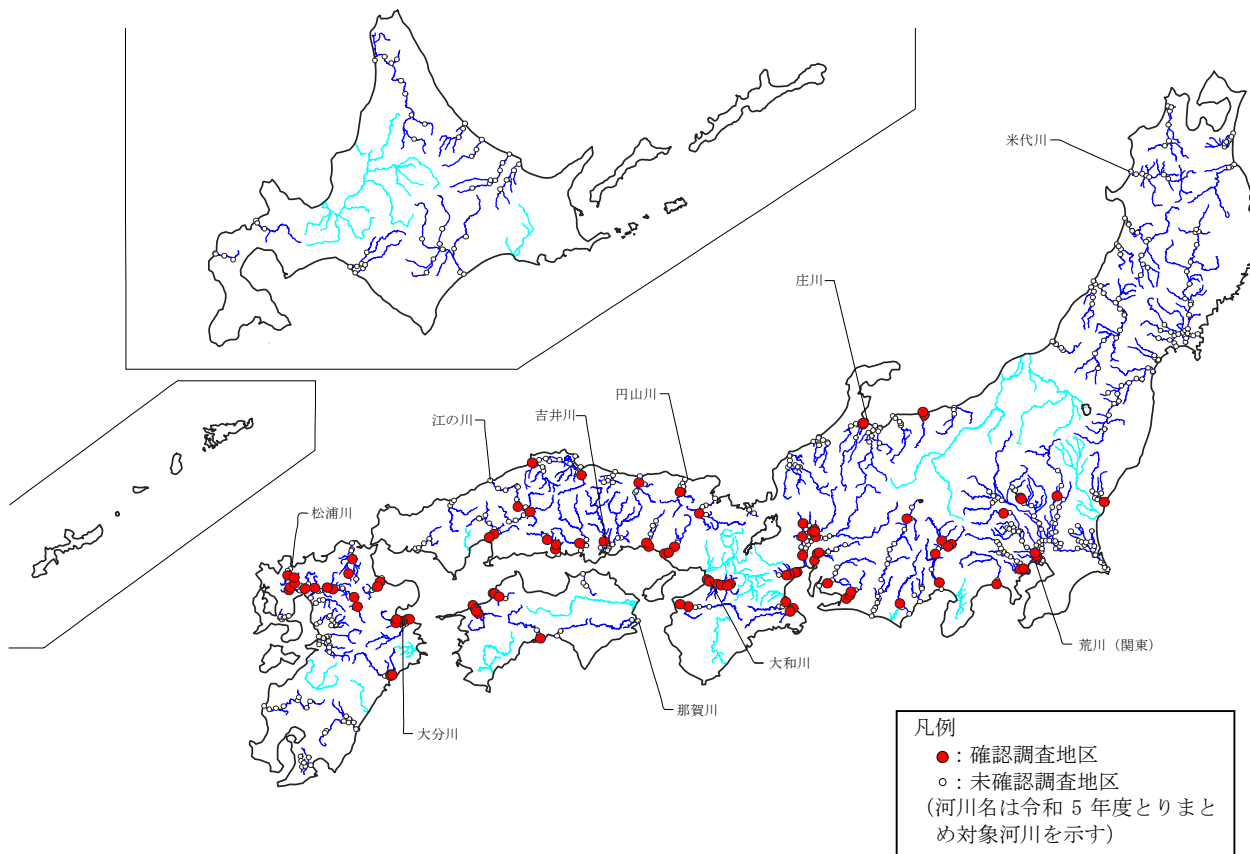
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

アメリカジガバチの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

アメリカジガバチの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

【生物多様性の攪乱③：河川水辺の国勢調査5巡目で初確認となるその他の国外外来種のうち、特に注目すべき種の分布状況 ムネアカハラビロカマキリ、シタベニハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ、クスベニヒラタカスミカメ、ムシャクロツバメシジミ、ムネアカオオクロテントウの確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

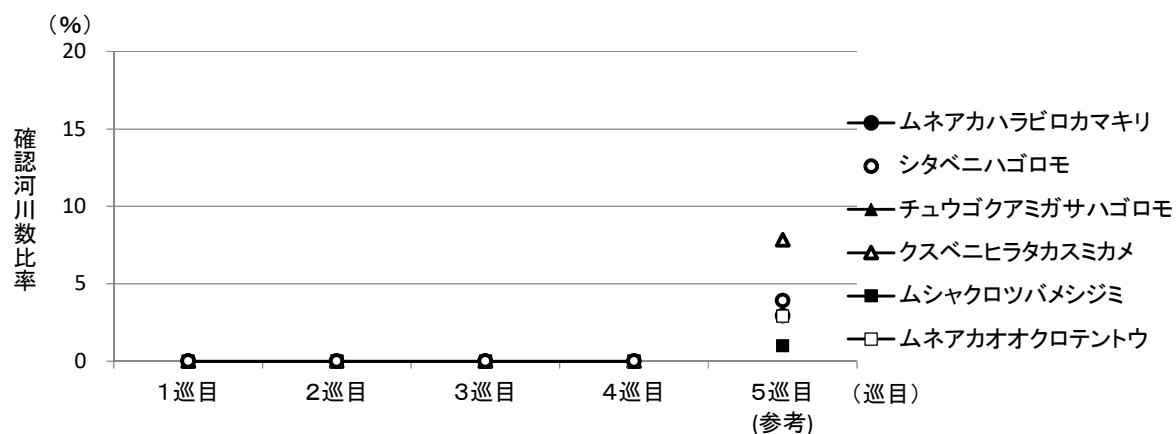
- ムネアカハラビロカマキリ、シタベニハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ、クスベニヒラタカスミカメ、ムネアカオオクロテントウを確認

ムネアカハラビロカマキリを九州地方の大分川で、シタベニハゴロモを近畿地方の大和川、円山川で、チュウゴクアミガサハゴロモを中国地方の吉井川で、クスベニヒラタカスミカメを関東地方の荒川、中国地方の江の川で確認しました。

(資料掲載：6-73～75 ページ、6-112～6-113 ページ)

1～5巡目調査の確認河川数の比較

種 類	1 巡目調査 (78 河川)	2 巡目調査 (120 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (122 河川)	5 巡目調査 (102 河川)
ムネアカハラビロカマキリ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	3 河川 [2.9]
シタベニハゴロモ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	4 河川 [3.9]
チュウゴクアミガサ ハゴロモ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	3 河川 [2.9]
クスベニヒラタカスミカメ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	8 河川 [7.8]
ムシャクロツバメシジミ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	1 河川 [1.0]
ムネアカオオクロテントウ	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	0 河川 [0.0]	3 河川 [2.9]



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

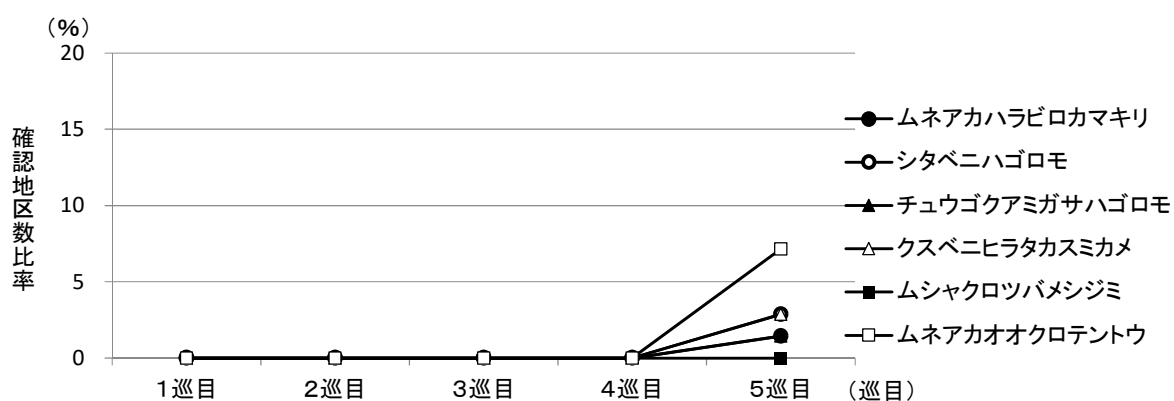
※ () 内は分析対象河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※ 5巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

令和5年度調査河川（10河川）を対象とした確認河川数・地区数の比較

種 類	1 巡目調査 (10 河川・ 66 地区)	2 巡目調査 (10 河川・ 78 地区)	3 巡目調査 (10 河川・ 76 地区)	4 巡目調査 (10 河川・ 69 地区)	5 巡目調査 (10 河川・ 70 地区)
ムネアカハラビロカマキリ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 1 地区 〔1.4〕
シタベニハゴロモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 2 地区 〔2.9〕
チュウゴクアミガサ ハゴロモ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	1 河川 1 地区 〔1.4〕
クスベニヒラタカスミカメ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 2 地区 〔2.9〕
ムシャクロツバメシジミ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕
ムネアカオオクロテントウ	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	0 河川 0 地区 〔0.0〕	2 河川 5 地区 〔7.1〕



- ※ 確認河川数・地区数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は分析対象河川数・地区数を示す。
- ※ [] 内は確認地区数の分析対象地区数に対する%を示す。

ムネアカハラビロカマキリは、カマキリ目カマキリ科に属する昆虫で、中国大陆から移入された可能性が高いと考えられていますが、原産地、侵入経路、侵入時期などは現時点では不明とされています。日本国内での記録は2000年代に入ってからで、福井県を皮切りに、以降関東・新潟から九州までの各地で発見や定着の確認が続いています^{注1,2,3)}。河川水辺の国勢調査における確認は、これまでのところ平成29年度に調査した中部地方の庄内川、令和2年度に調査した球種地方の筑後川の2河川のみでしたが、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において新たに、九州地方の大分川で確認されました。本種は、在来の近縁種であるハラビロカマキリに対して顕著な侵略性がある事例が報告されており^{注1,3)}、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

シタバニハゴロモは、中国、台湾、ベトナム、インドなどに分布するカメムシ目ビワハゴロモ科に属する昆虫で、これまでに日本の他、韓国、アメリカへの移入が報告されています。日本国内では、戦前に数例の記録があるもののいずれも偶産と考えられていましたが、2009年の石川県での発見を機に、その後福井県、大阪府、岡山県でもまとまって確認され、定着・分布拡大が報告されています^{注4)}。河川水辺の国勢調査における確認は、これまでのところ平成30年度に調査した近畿地方の九頭竜川、令和4年度に調査した北陸地方の手取川の2河川のみでしたが、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において新たに、近畿地方の大和川、円山川で確認されました。本種は、様々な樹木の汁を吸い、海外では桃やブドウなど農産物への被害も報告されています。日本での被害報告はまだありませんが^{注5)}、個体数増加や分布拡大とともに被害が出る可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

チュウゴクアミガサハゴロモは、カメムシ目ハゴロモ科に属する中国原産の昆虫で、これまでに日本の他、韓国、ヨーロッパ各地への侵入が報告されています^{注6)}。日本国内では、2017年に大阪府で採集されたのが最初で、既に関東地方から九州地方にかけて分布が拡大しています^{注7,8)}。河川水辺の国勢調査における確認は、これまでのところ令和4年度に調査した中部地方の矢作川、豊川の2河川のみでしたが、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において新たに、中国地方の吉井川で確認されました。本種は、日本国内における作物への被害報告等はまだ出ていないものの、リンゴやブルーベリー、タラノキ、ウルシ類、クリなどの様々な果樹や街路樹を加害し、その宿主植物は200種以上に及ぶことから、これまでの分布拡大の勢いも踏まえると、有用植物へ被害が出る可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。^{注8)}

クスベニヒラタカスミカメは、中国に分布するカメムシ目カスミカメシ科に属する昆虫で、日本国内では、2015年に大阪府や兵庫県で発見されて以降、関東地方から中国地方まで急激に分布拡大していることが報告されています^{注9)}。河川水辺の国勢調査における確認は、これまでのところ令和2年度に調査した近畿地方の九頭竜川と中国地方の芦田川、令和4年度に調査した中部地方の豊川の3河川のみでしたが、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において新たに、関東地方の荒川、中国地の江の川で確認されました。本種は、クスノキの葉を加害する害虫として問題となっていることが各地で報告されていることから^{注9)}、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

ムシヤクロツバメシジミは、中国や台湾に分布するチョウ目シジミチョウ科に属する昆虫で、日本国内では2013年に愛知県で初めて確認され、2018年には福岡県でも確認されています^{注10)}。河川水辺の国勢調査における確認は、現在のところ平成29年度に調査した中部地方の庄内川のみで、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）では確認されませんでした。在来の近縁種であるクロツバメシジミとの競合や交雑の心配はないとされていますが^{注10, 11)}、食草であるツルマンネングサをはじめとするベンケイソウ科植物は全国各地の河川敷に広くみられることから、今後分布を拡大させていく可能性があり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

ムネアカオオクロテントウは、中国、台湾、東南アジアなどに分布するコウチュウ目テントウムシ科に属する昆虫で、日本国内では2015年に大阪府で初めて確認され^{注12)}、その後関東地方と近畿地方において分布を拡大しています^{注13)}。河川水辺の国勢調査における確認は、これまでのところ平成30年度に調査した関東地方の鶴見川の1河川のみでしたが、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）において新たに、関東地方の荒川、近畿地方の大和川で確認されました。本種は、クズにつくマルカメムシの幼虫を捕食していますが、クズもマルカメムシも全国各地に普遍的にみられるため、今後爆発的に個体数を増加させ、生態系に何らかの影響を与える可能性もあり、今後の状況を注目していくことが必要と考えられます。

注1) 出典：苅部治紀・加賀玲子，2017. 神奈川県西部における外来種ムネアカハラビロカマキリの拡散状況（おもに2016年度夏季-秋季の調査から）。神奈川県立博物館研究報告 自然科学，(46)：71-77.

注2) 出典：中峰空，2016. カマキリ目. 町田龍一郎(監修)・日本産直翅類学会(編)，日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス，東京. Pp. 44-67, 198-205.

注3) 出典：松本和馬，2018. 総論 ムネアカハラビロカマキリの侵入と拡散をめぐって. 昆虫と自然，53 (11)：2-3.

注4) 出典：奥島雄一・水井颯麻，2019. 岡山県におけるシタベニハゴロモの記録. 月刊むし，(586)：19-20.

注5) 出典：Dara, S. K., L. Barringer & S. P. Arthurs, 2015. *Lycorma delicatula* (Hemiptera: Fulgoridae): A New Invasive Pest in the United States. J. Integ. Pest Mgmt, 6(1)：1-6.

注6) 出典：末長晴輝，2023. チュウゴクアミガサハゴロモの岡山県における初記録. 月刊むし，(634)：12-13.

注7) 出典：春澤圭太郎・宮武頼夫，2023. アミガサハゴロモに近似の外来種について（カメムシ目：ハゴロモ化） 月刊むし，(628)：38-40.

注8) 出典：韓 昌道，2023. 東京都小平市でチュウゴクアミガサハゴロモを記録. 月刊むし，(634)：13-14.

注9) 出典：山田量崇，2019. 徳島県におけるクスベニヒラタカスミカメの分布状況. 徳島県立博物館研究報告，(29)：9-14.

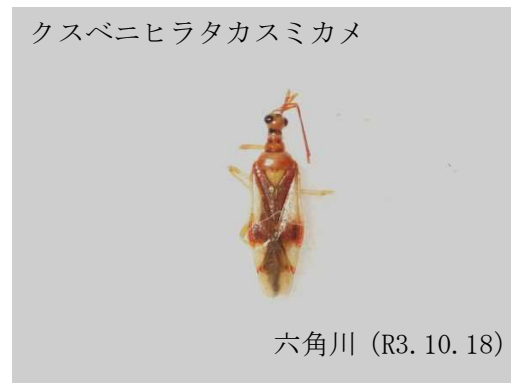
注10) 出典：西日本新聞 web サイト「外来種チョウを福岡で発見 ムシヤクロツバメシジミ 園芸植物の輸入で侵入？」

https://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_toshiken/article/442063/（最終閲覧日：2024年11月12日）.

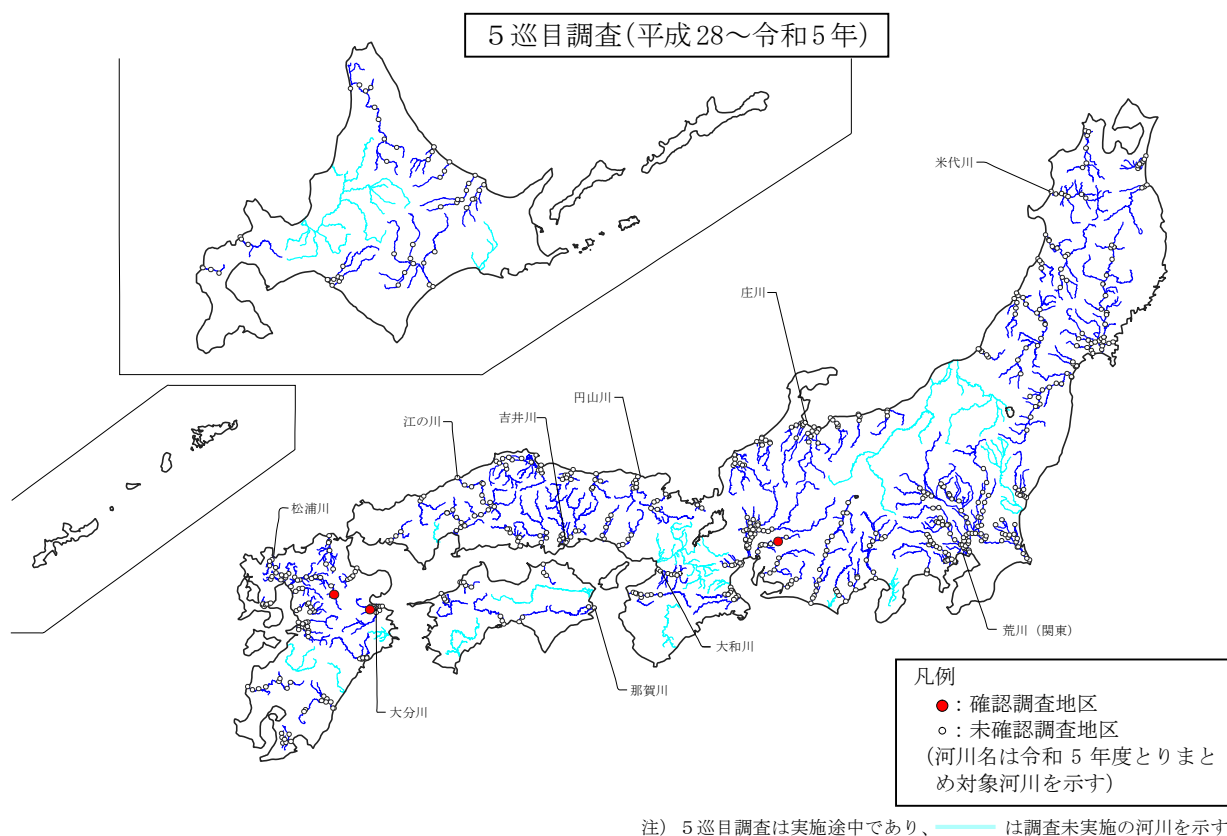
注11) 出典：矢後勝也，2014. 2013年の昆虫界をふりかえって 蝶界. 月刊むし，(519)：2-21.

注 12) 出典：林太郎，2018. 奈良県橿原市橿原神宮でのムネアカオオクロテントウ越冬記録. 月刊むし，(567)：59.

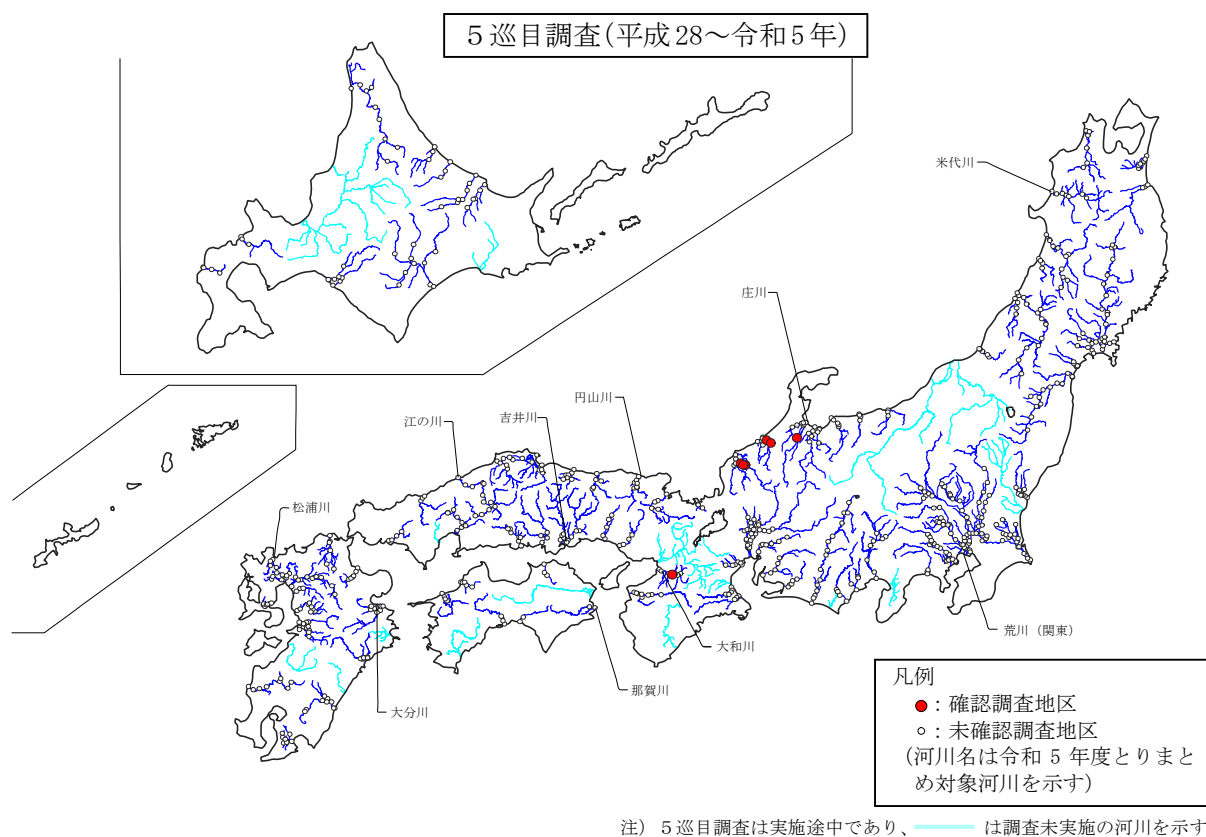
注 13) 出典：初宿成彦（大阪市立自然史博物館）web サイト.
〔<https://www.omnh.jp/shiyake/Synona-consanguinea.html>〕（最終閲覧日：2024 年 11 月 12 日）.



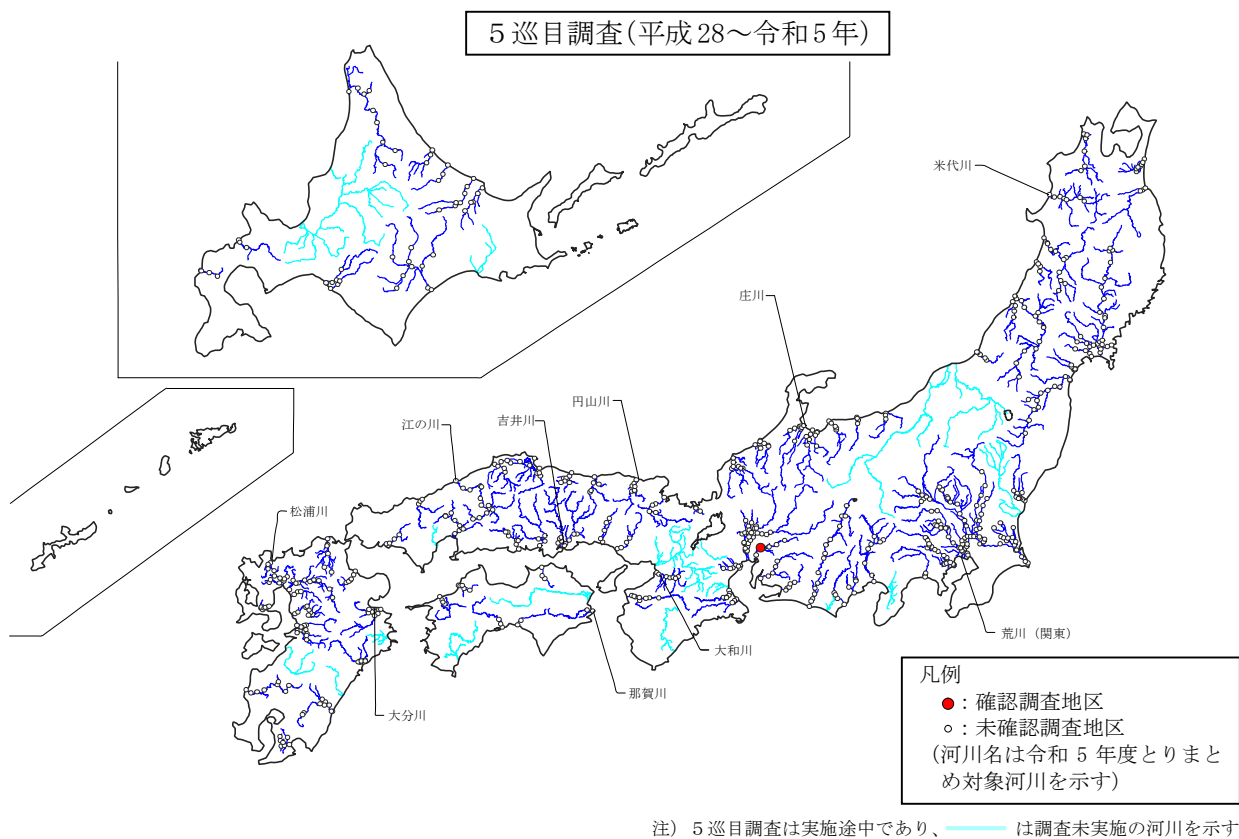
注) ムネアカハラビロカマキリ、クスベニヒラタカスミカメ、ムシャクロツバメシジミの画像は、過年度報告書から転用した。



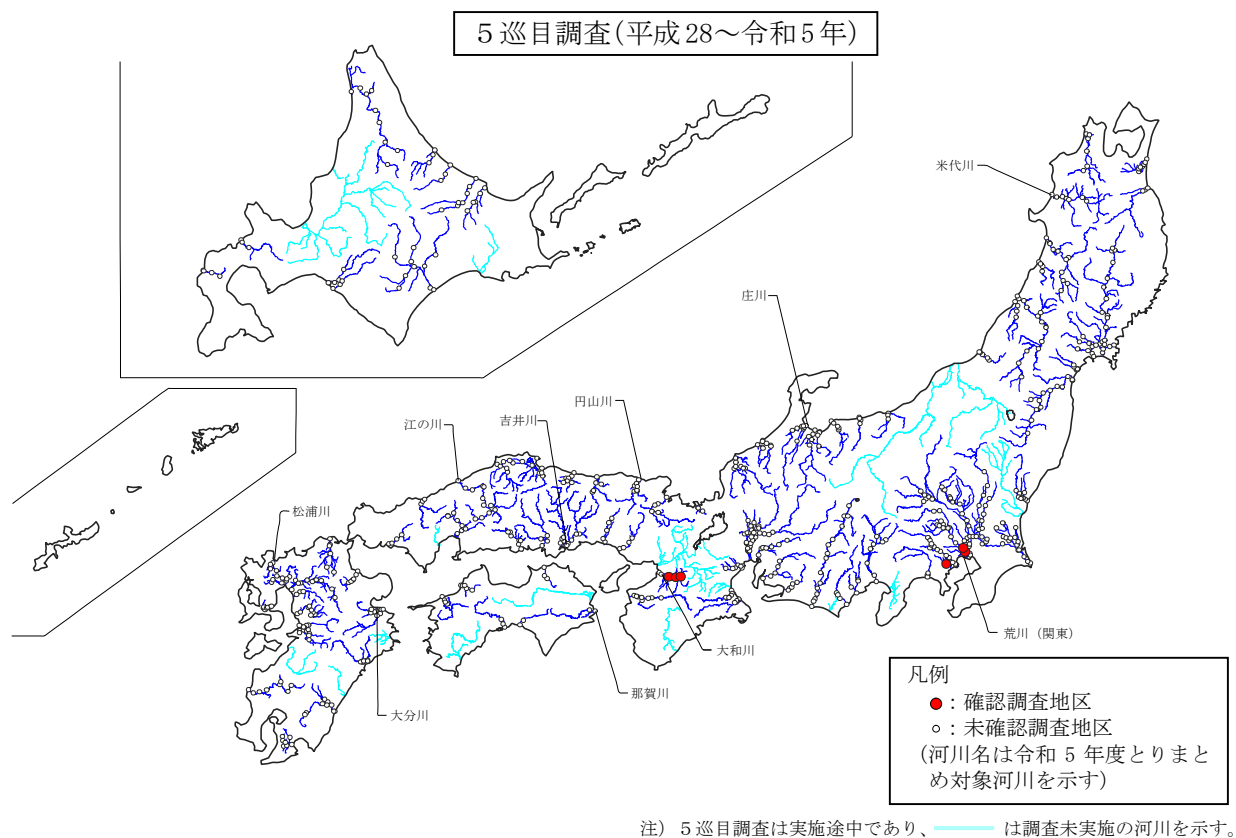
ムネアカハラビロカマキリの確認された調査地区（5 巡目調査）



シタベニハゴロモの確認された調査地区（5 巡目調査）



ムシクロツバメシジミの確認された調査地区（5 巡目調査）



ムネアカオオクロテントウの確認された調査地区（5 巡目調査）

6.4 気候変動

地球温暖化による気候変動の影響として、生物の分布域の拡大や縮小などの影響が生じることが指摘されています。

ここでは、追跡確認の比較的容易な暖地性のチョウ類 6 種を選定し、それらの確認状況の動向を整理しました。

【ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、イシガケチョウ、クロコノマチョウの確認状況】 (陸上昆虫類等調査)

● イシガケチョウ、クロコノマチョウを複数の河川から初確認

チョウ類の確認状況をみるため、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、イシガケチョウ及びクロコノマチョウの 6 種の確認状況を整理しました。

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）のうち、イシガケチョウは中国地方の江の川での、クロコノマチョウは近畿地方の大和川、中国地方の吉井川での河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

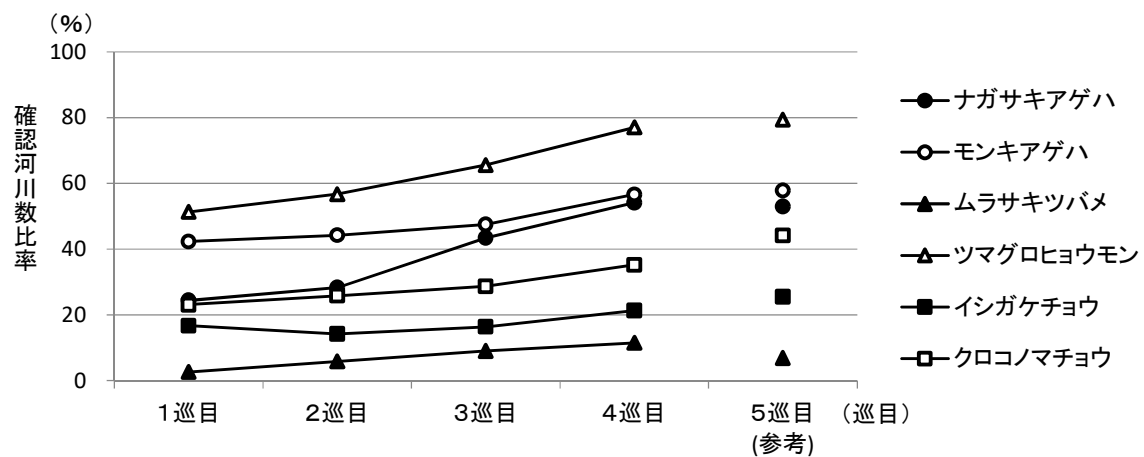
(資料掲載：6-80～6-91 ページ、6-112～6-115 ページ)



注) クロコノマチョウ以外の画像は、すべて過年度報告書から転用した。

1～5巡目調査の確認河川数の比較

種 類	1 巡目調査 (78 河川)	2 巡目調査 (120 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (122 河川)	5 巡目調査 (102 河川)
ナガサキアゲハ	19 河川 〔24. 4〕	34 河川 〔28. 3〕	53 河川 〔43. 4〕	66 河川 〔54. 1〕	54 河川 〔52. 9〕
モンキアゲハ	33 河川 〔42. 3〕	53 河川 〔44. 2〕	58 河川 〔47. 5〕	69 河川 〔56. 6〕	59 河川 〔57. 8〕
ムラサキツバメ	2 河川 〔2. 6〕	7 河川 〔5. 8〕	11 河川 〔9. 0〕	14 河川 〔11. 5〕	7 河川 〔6. 9〕
ツマグロヒョウモン	40 河川 〔51. 3〕	68 河川 〔56. 7〕	80 河川 〔65. 6〕	94 河川 〔77. 0〕	81 河川 〔79. 4〕
イシガケチョウ	13 河川 〔16. 7〕	17 河川 〔14. 2〕	20 河川 〔16. 4〕	26 河川 〔21. 3〕	26 河川 〔25. 5〕
クロコノマチョウ	18 河川 〔23. 1〕	31 河川 〔25. 8〕	35 河川 〔28. 7〕	43 河川 〔35. 2〕	45 河川 〔44. 1〕



- ※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。
- ※ () 内は分析対象河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。
- ※ 5巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

追跡確認の比較的容易な暖地性のチョウ類 6 種について、分布状況を経年比較しました。これらのチョウ類の分布拡大は、自力で北上をしている種ばかりでなく、人為的な移入由来によるものもあると考えられます。また、特に都市周辺では、ヒートアイランド現象による温暖気候のために、これらの暖地性昆虫の定着を容易にしていることが推測されます。

ナガサキアゲハは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、近畿地方以西の 6 河川から確認されました。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、関東地方の久慈川が最北であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

モンキアゲハは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、北陸地方以西の 7 河川から確認されました。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、太平洋側にあたる東北地方の名取川が分布の北限であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

ムラサキツバメは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）では確認されませんでした。河川水辺の国勢調査での記録は、これまでのところ中国・四国地方以西に多く、近畿地方以東の記録は多くない状況です。

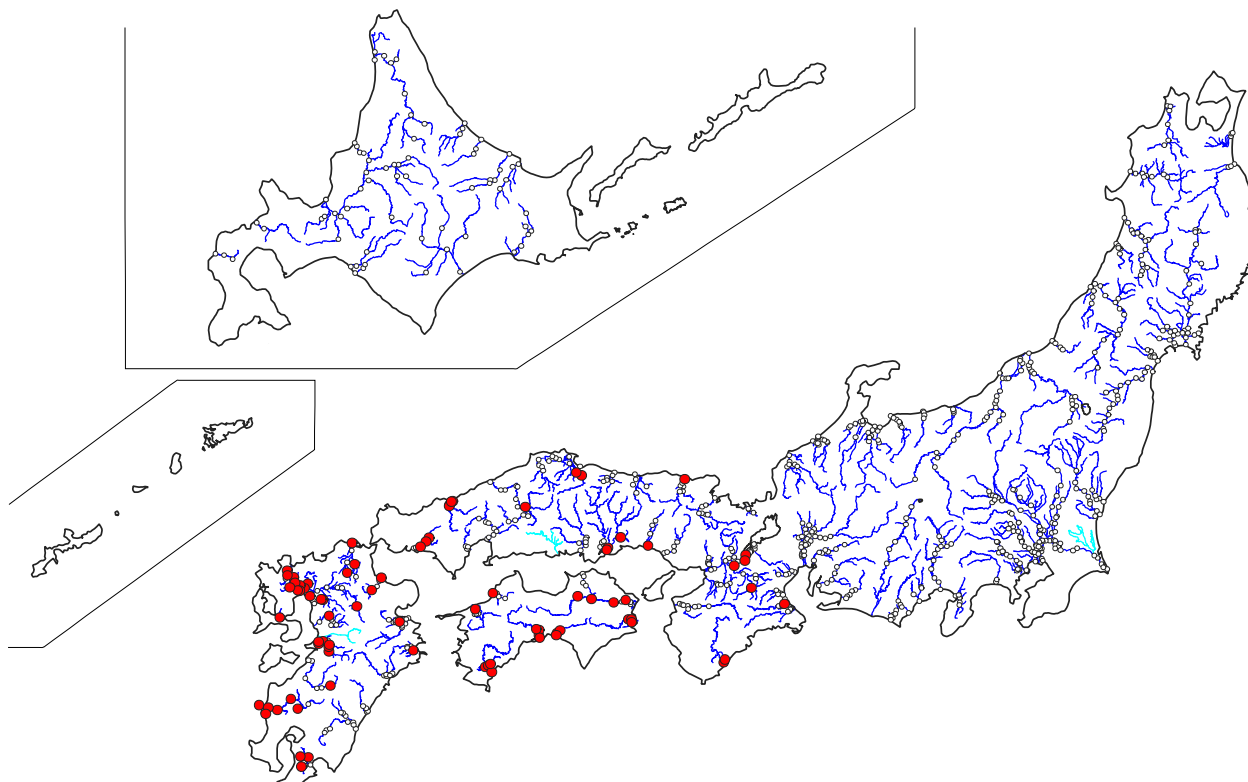
ツマグロヒョウモンは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 9 河川から確認されました。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、日本海側にあたる東北地方の雄物川が最北であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

イシガケチョウは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、中国地方以西の 3 河川から確認されました。このうち中国地方の江の川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。これまでの河川水辺の国勢調査での確認は近畿地方以西の河川が主であり、今回の調査では、分布拡大の傾向はみられませんでした。本種は、ここ数年で静岡県において急速な分布拡大が確認されているため、今後も分布状況を注目していく必要があります。

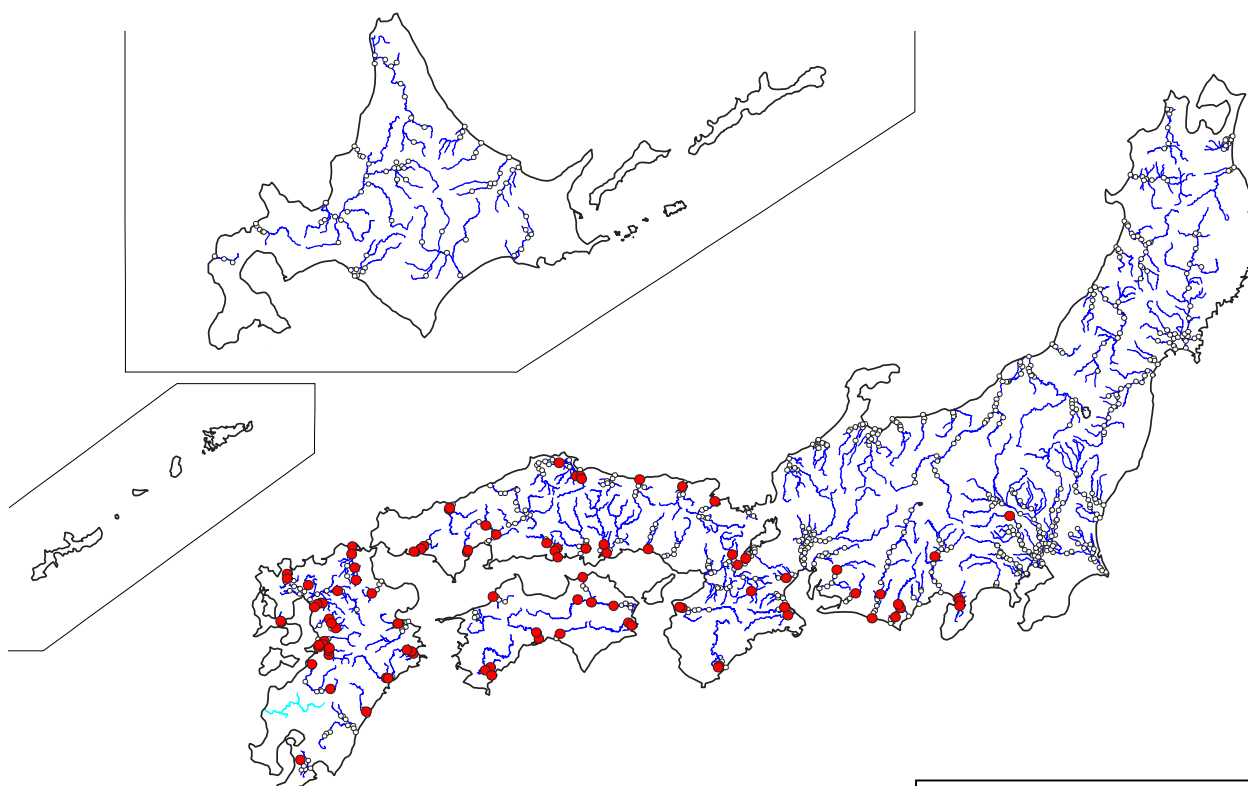
クロコノマチョウは、今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、近畿地方以西の 4 河川から確認されました。このうち近畿地方の大和川での河川水辺の国勢調査では初めての確認となります。これまでの河川水辺の国勢調査の確認記録では、関東地方の久慈川が分布の北限であり、今回の調査では、北進の傾向はみられませんでした。

今回の調査からは、各種のチョウ類に北進の傾向は認められませんでした。今後もこのような情報の蓄積により、その定着や分布域の変化について検証する必要があります。

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

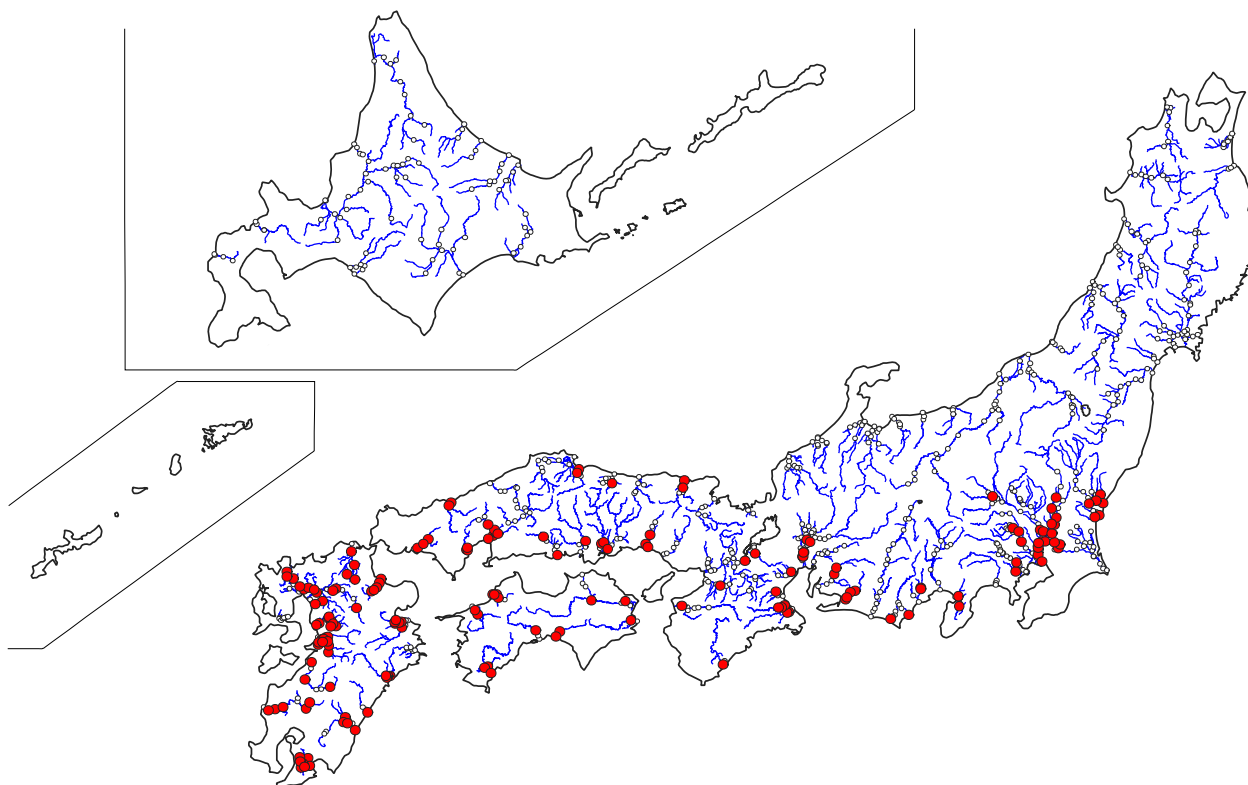


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

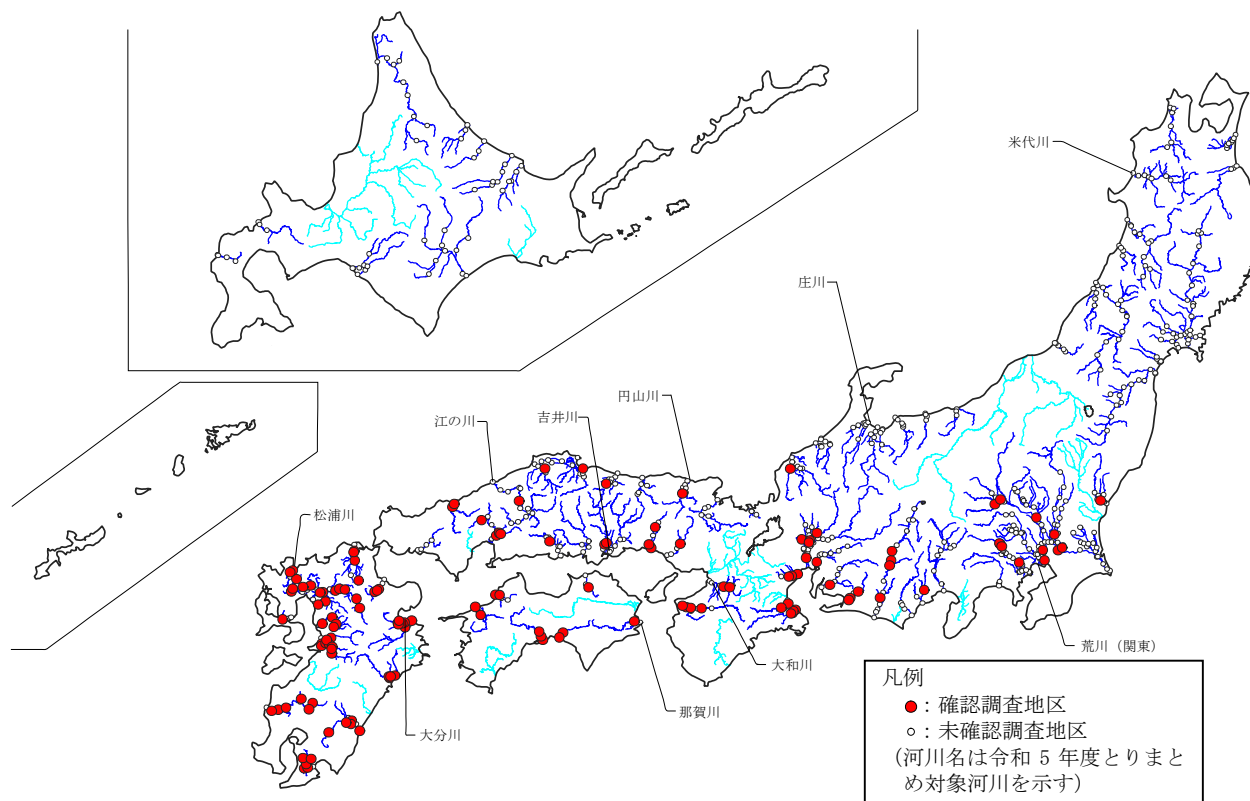
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ナガサキアゲハの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



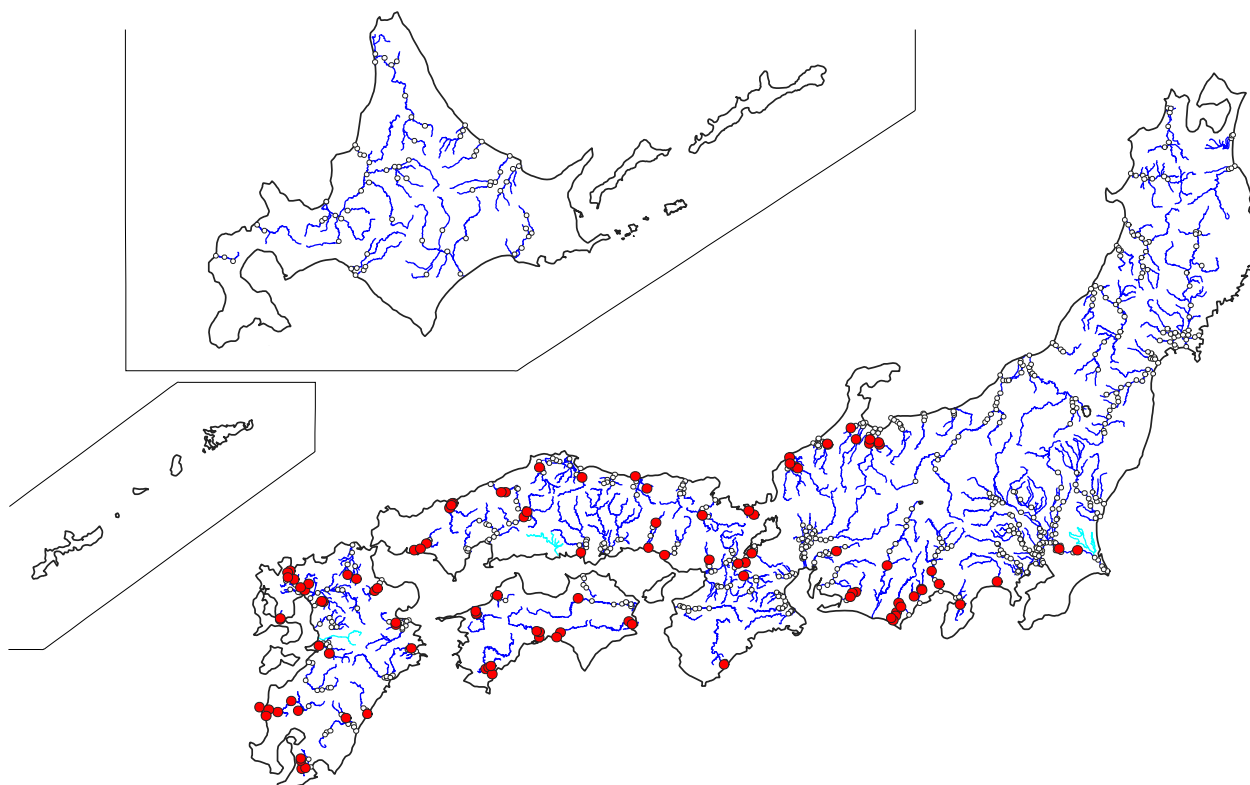
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



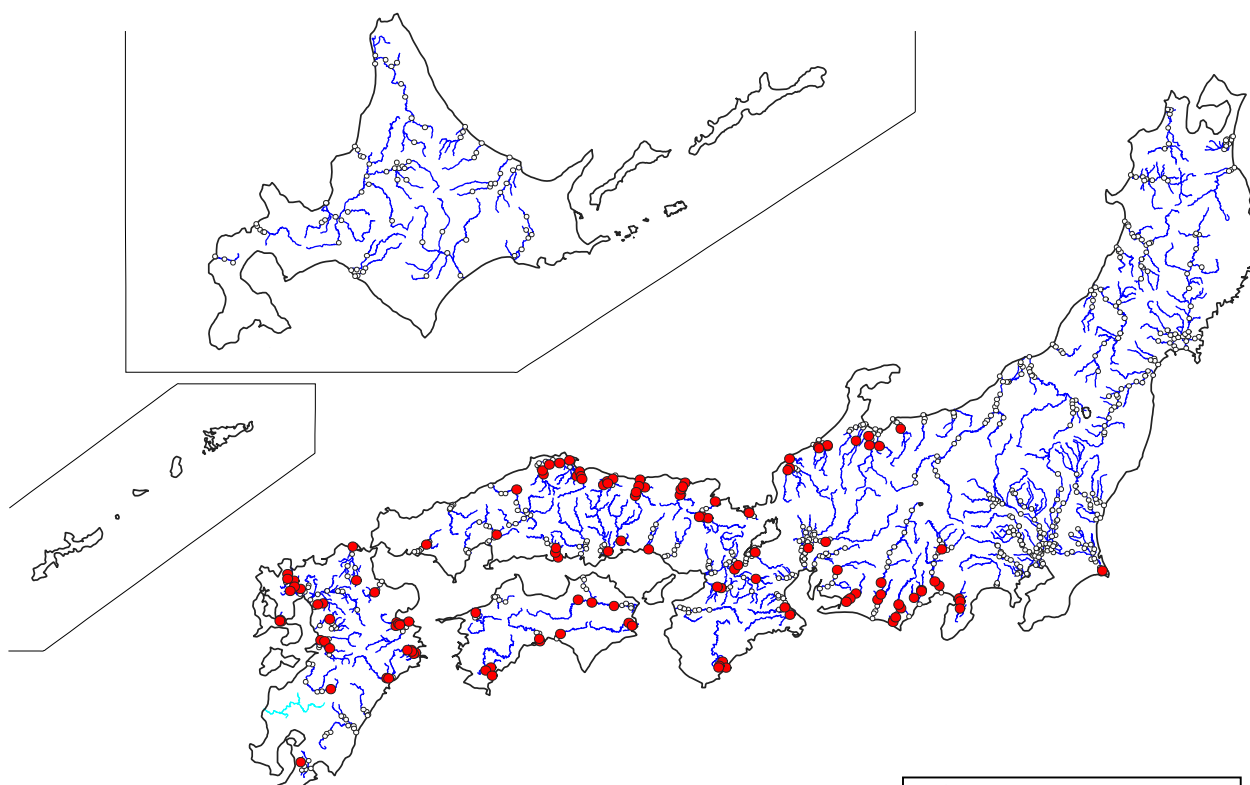
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ナガサキアゲハの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

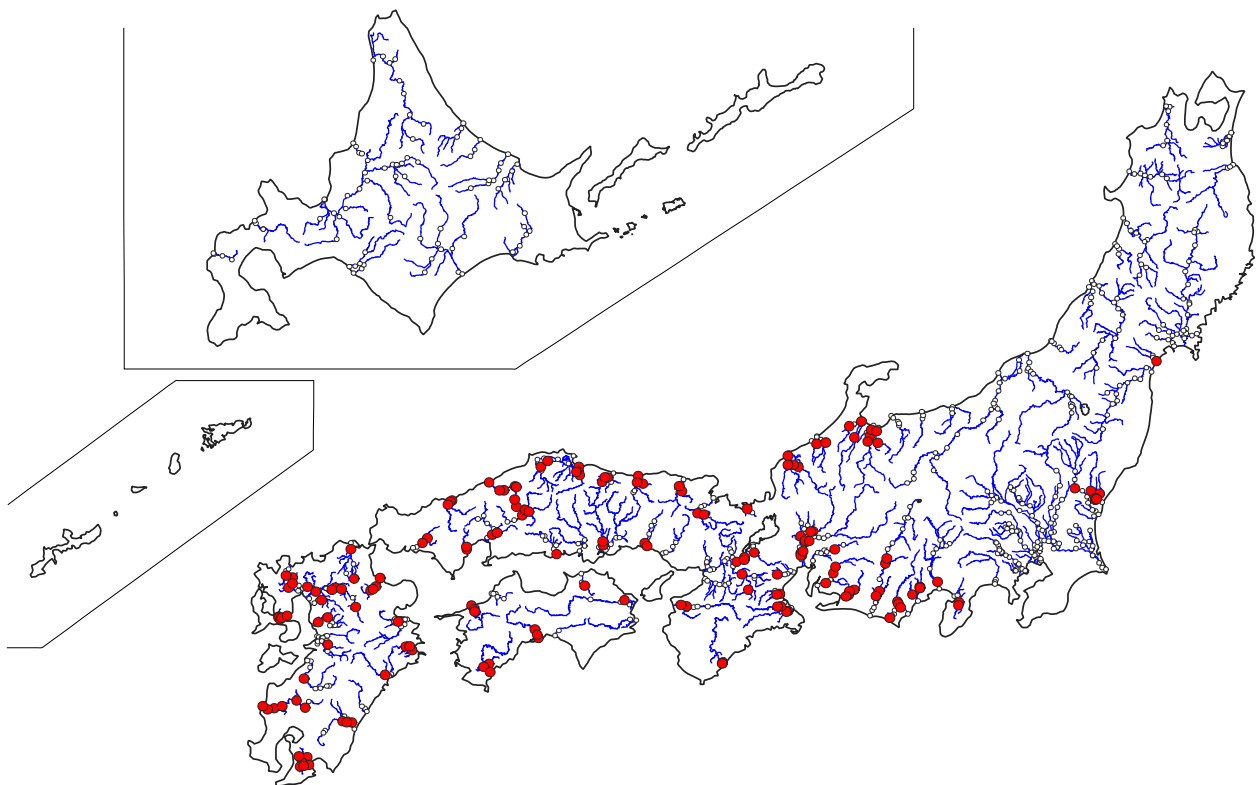


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

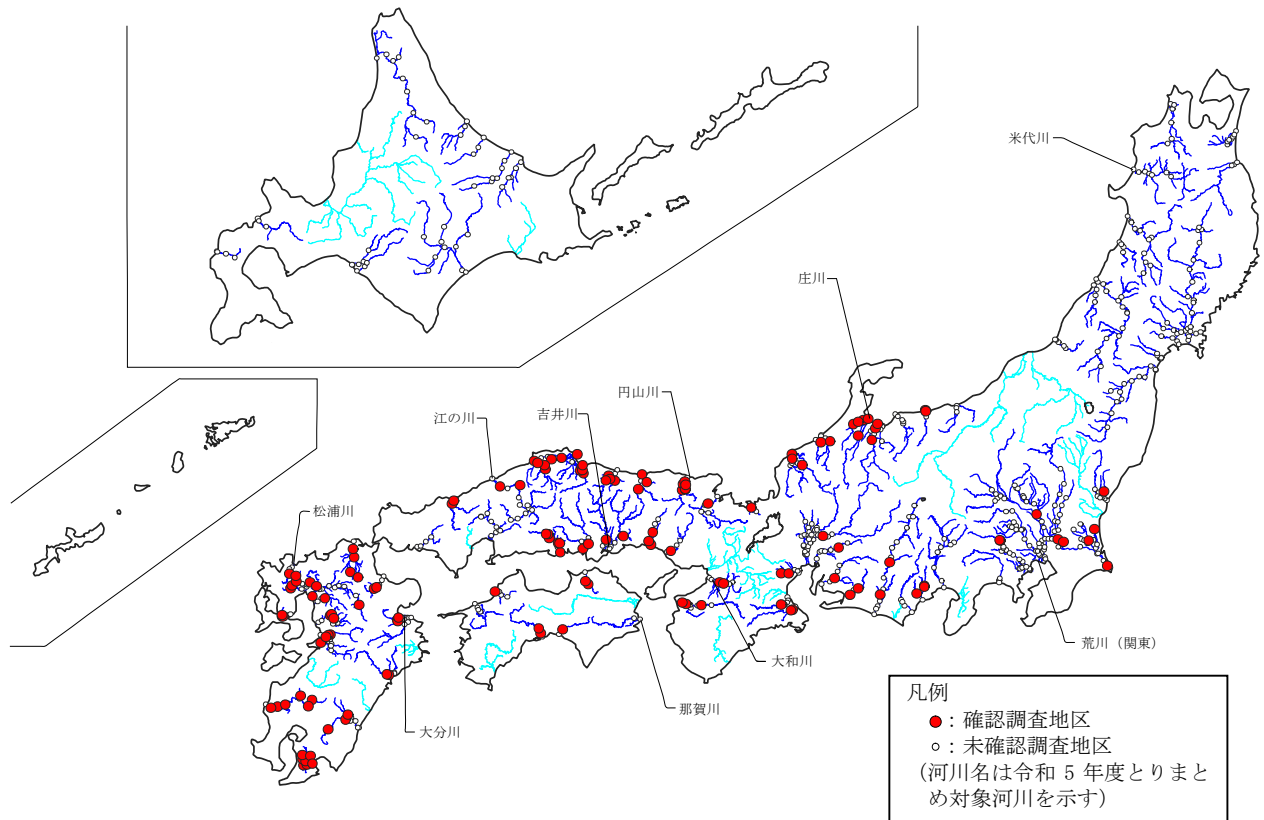
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

モンキアゲハの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



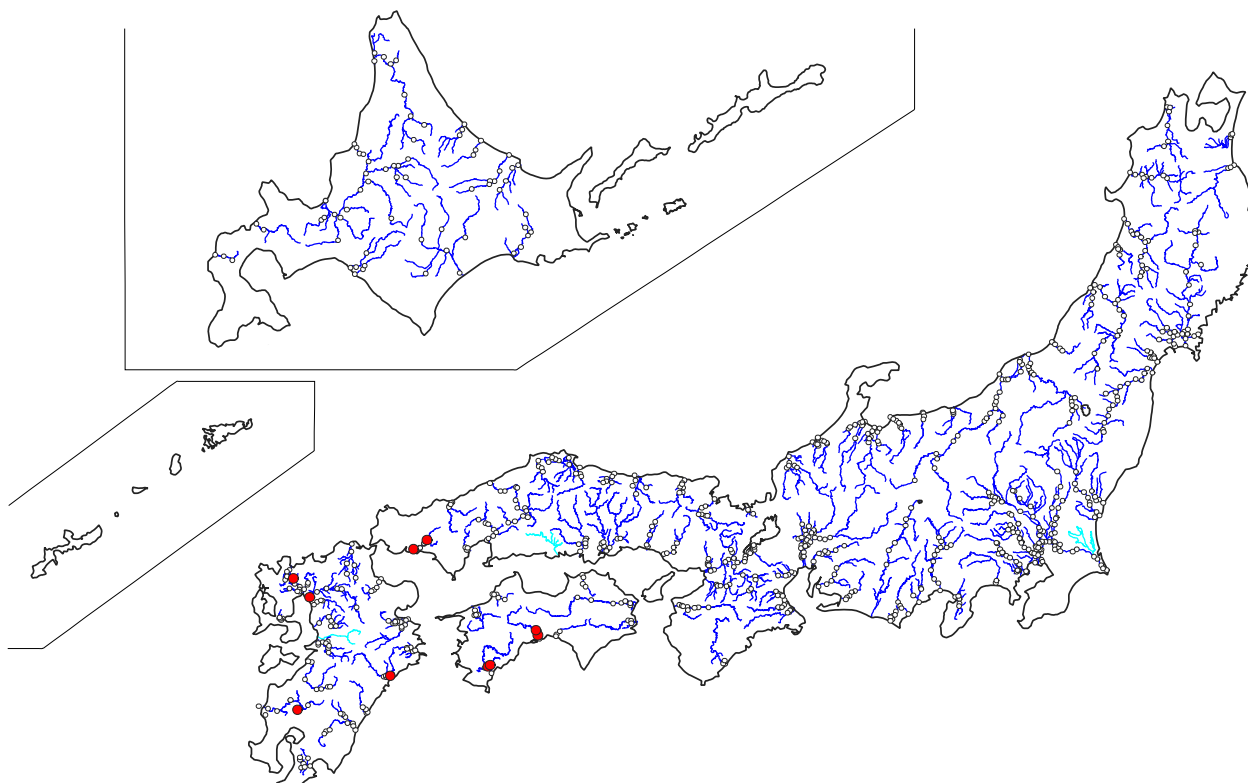
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



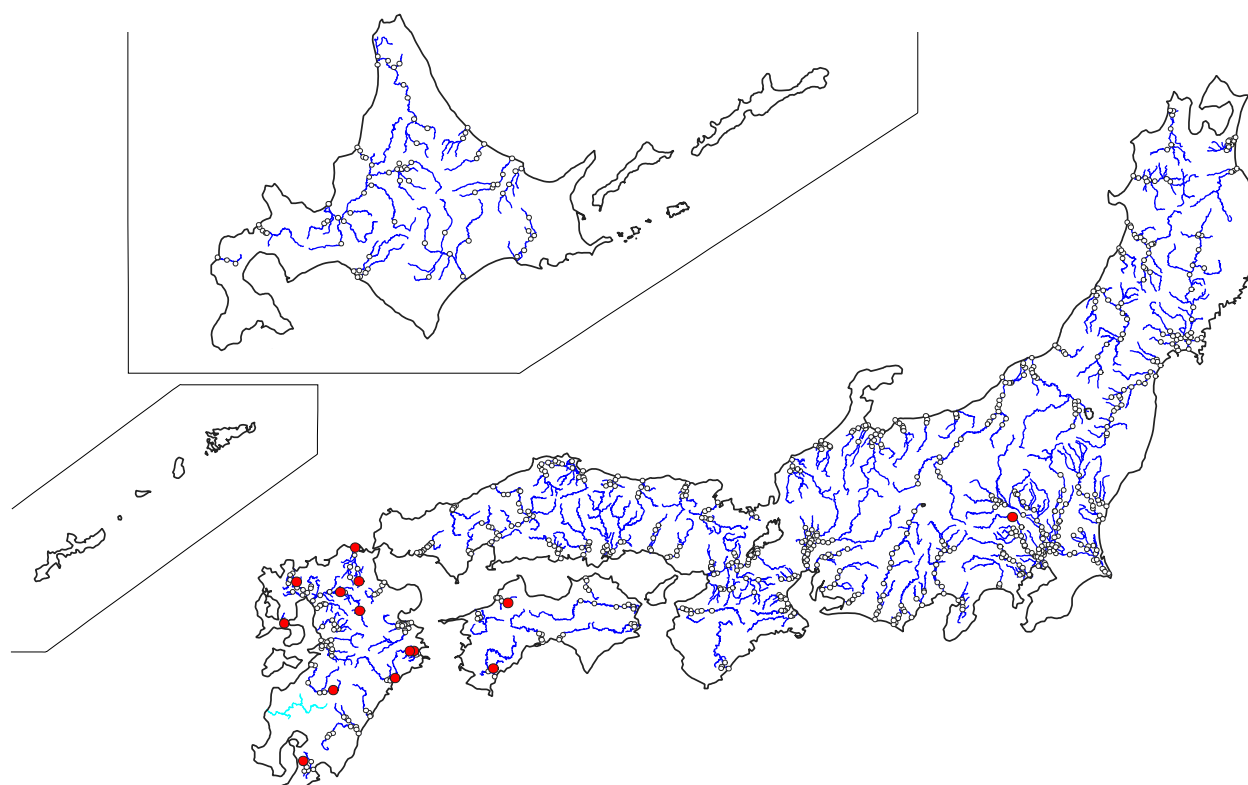
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

モンキアゲハの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

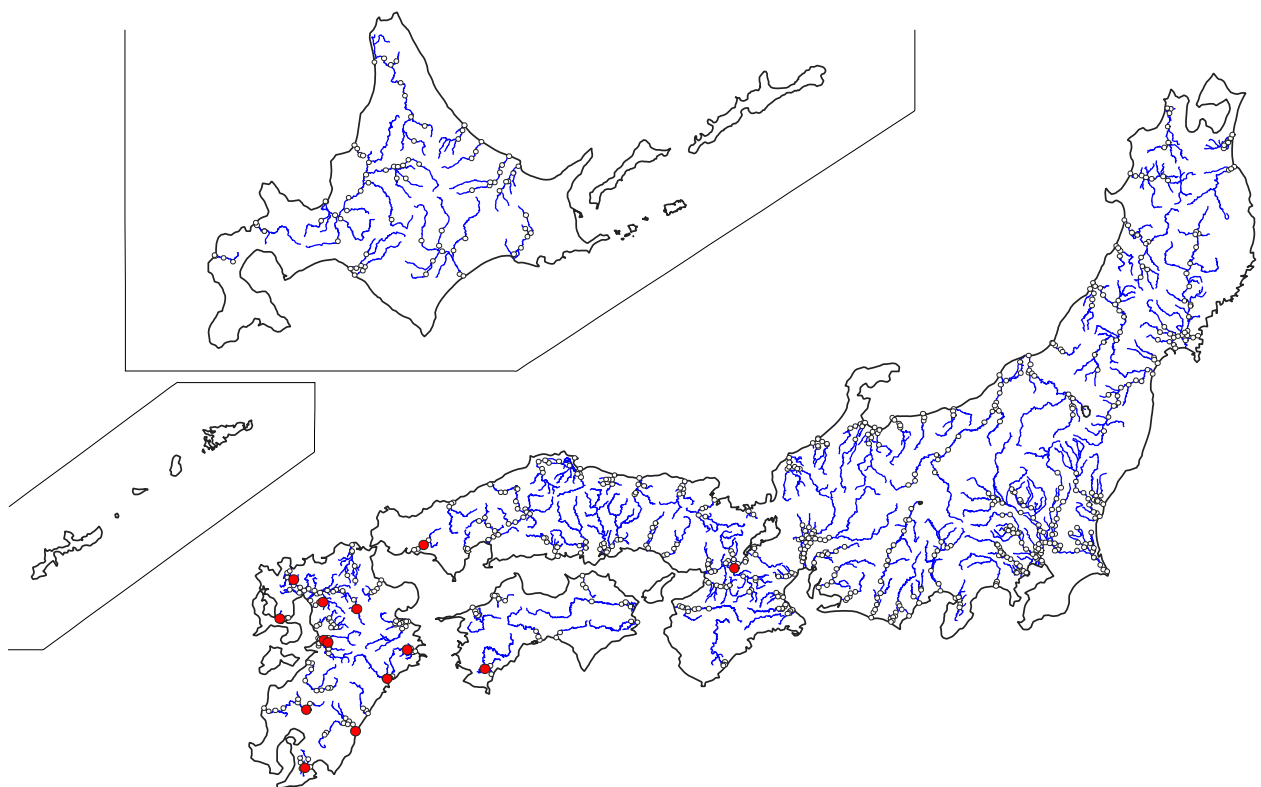


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

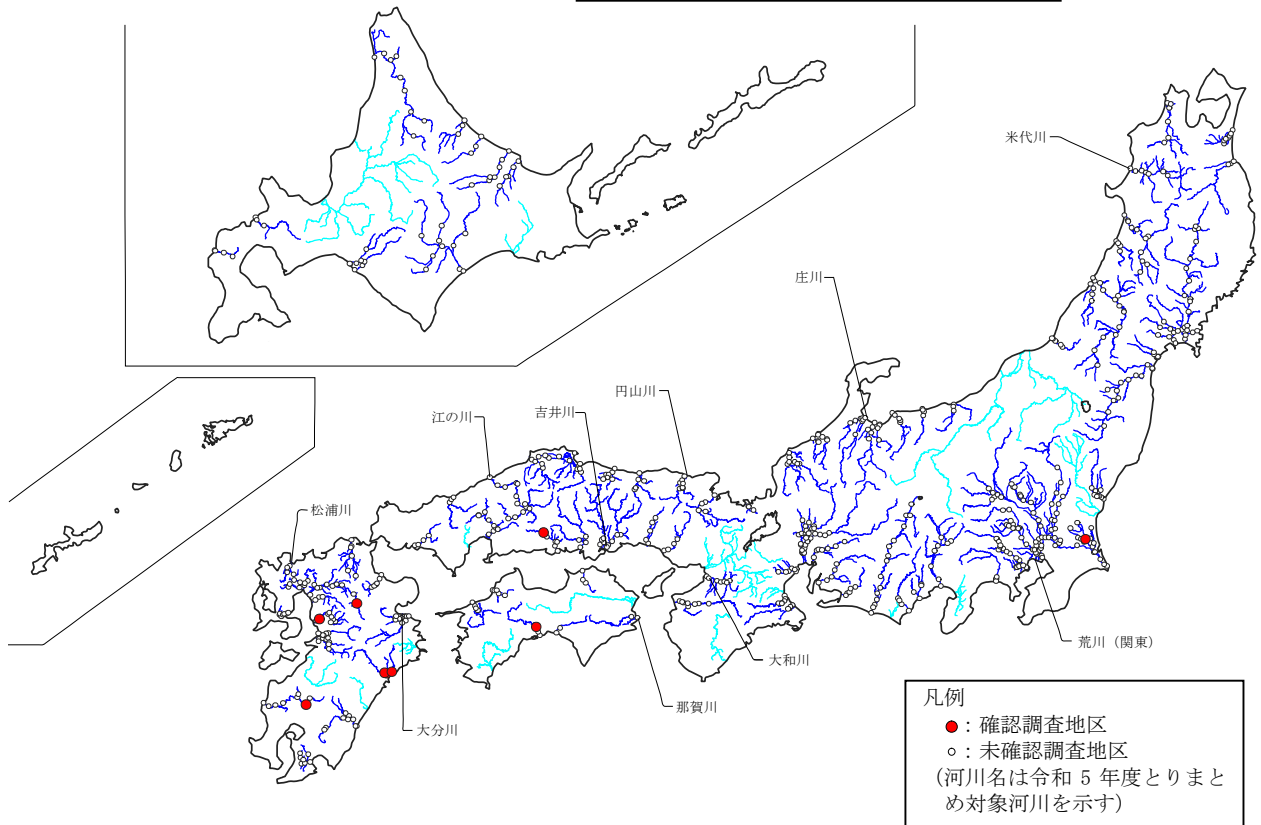
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ムラサキツバメの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



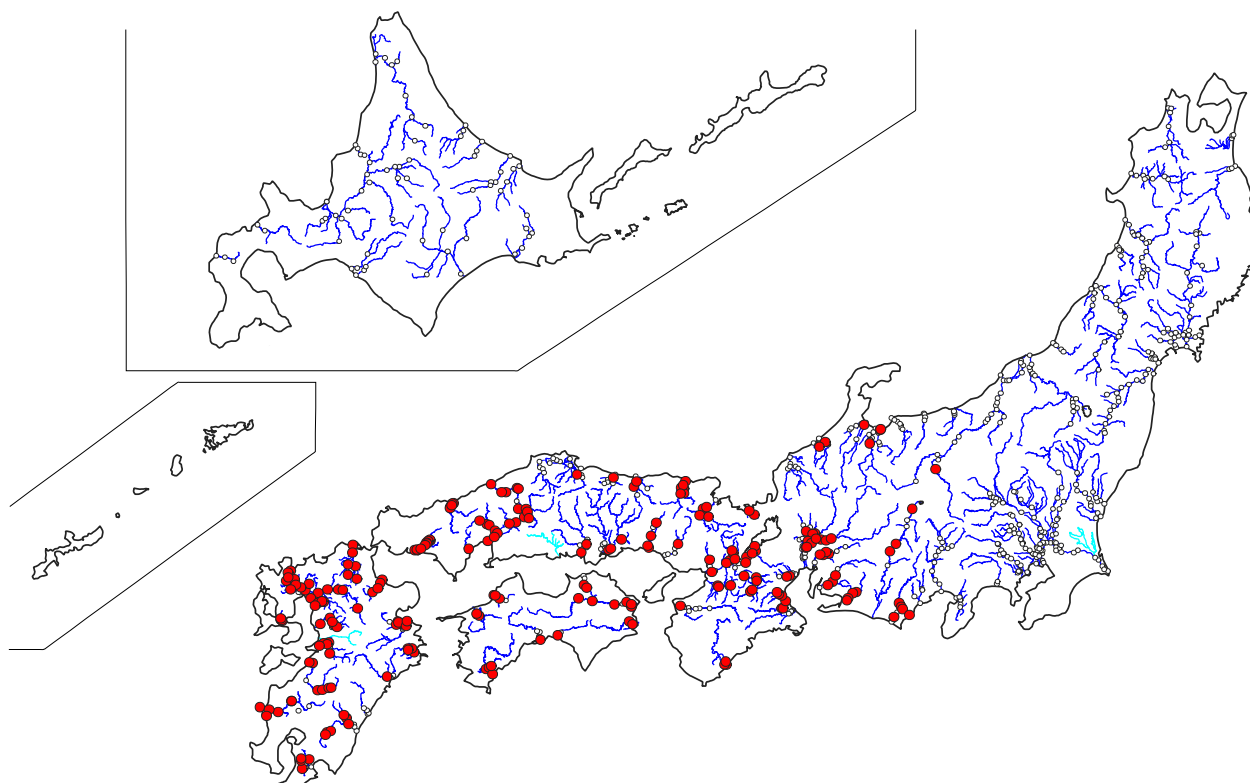
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



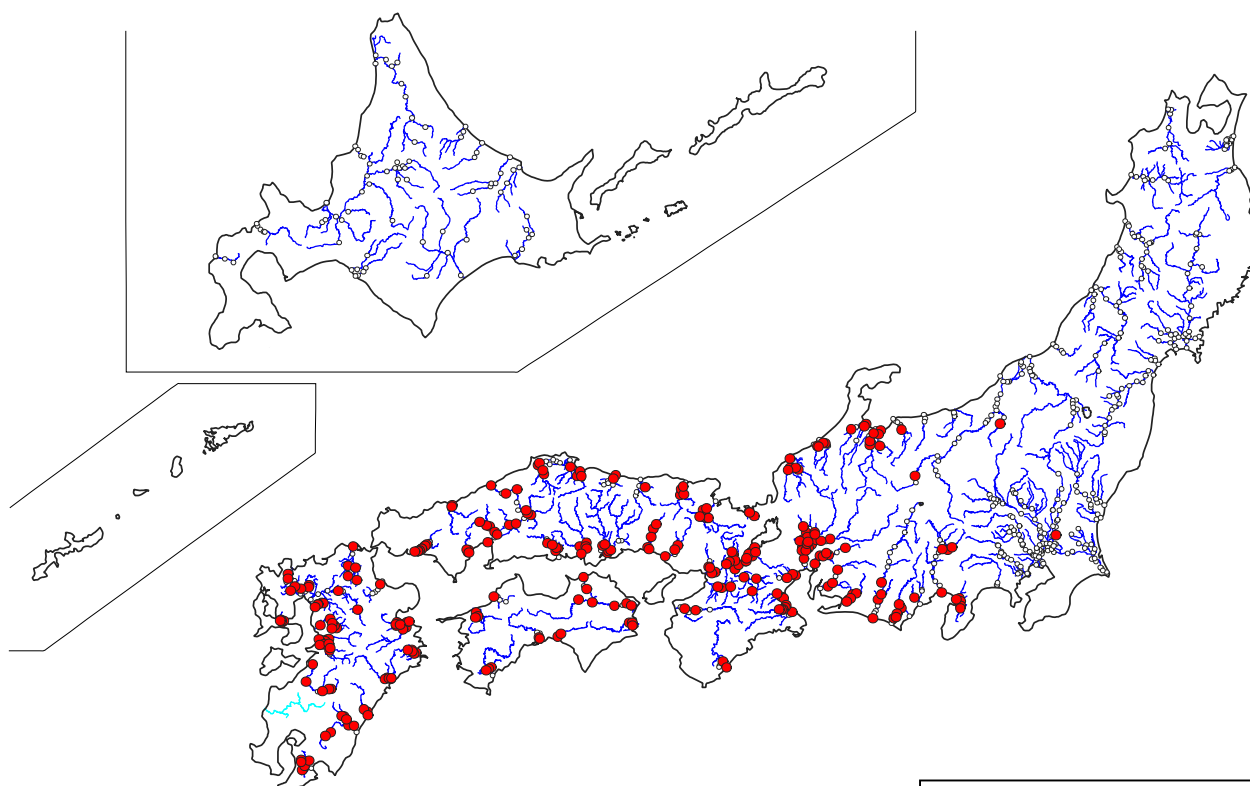
注) 5 巡目調査は実施途中であり、~~~~~ は調査未実施の河川を示す。

ムラサキツバメの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

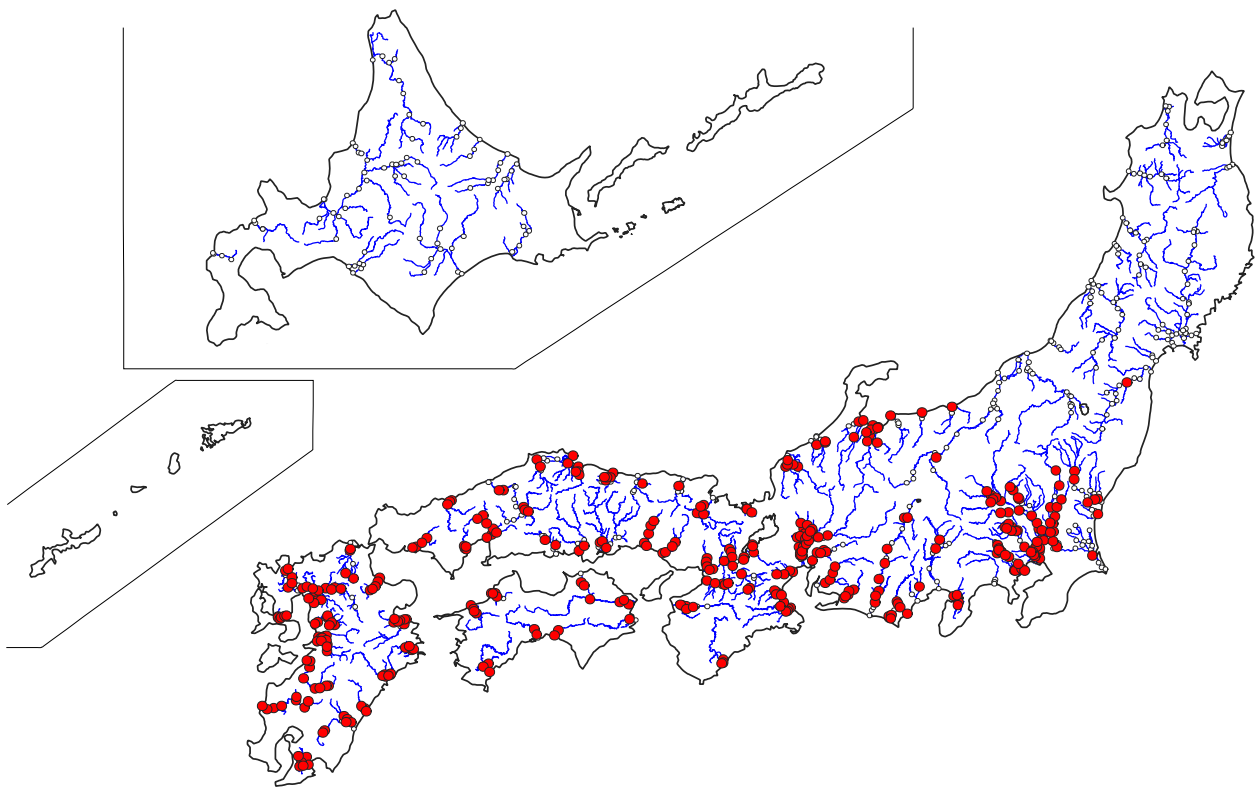


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

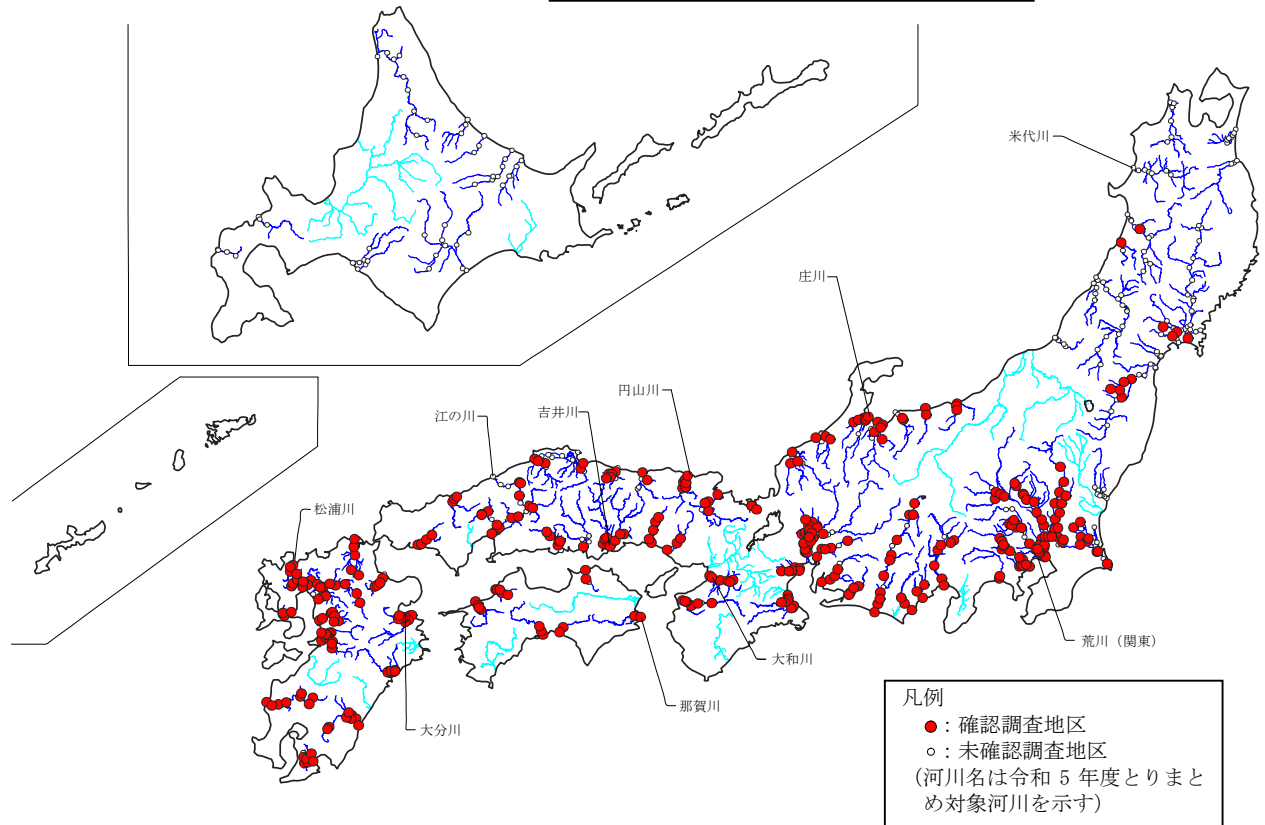
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ツマグロヒョウモンの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



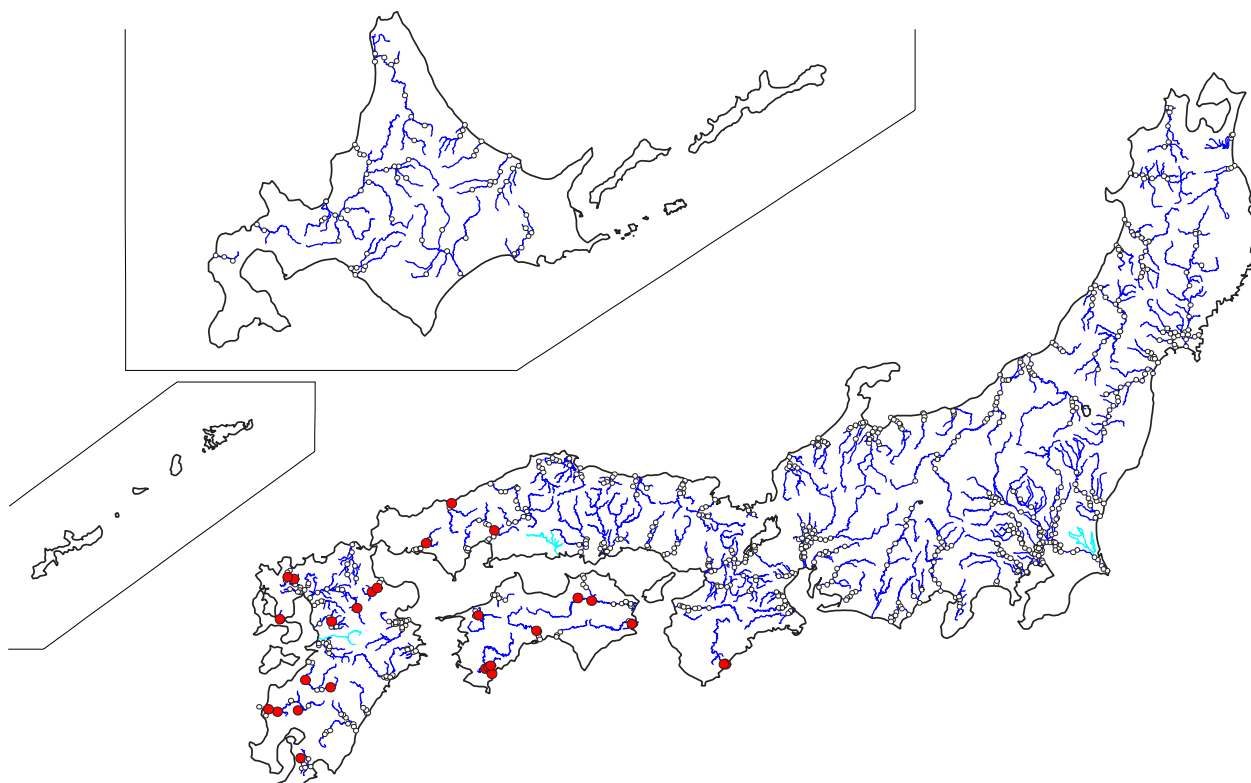
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



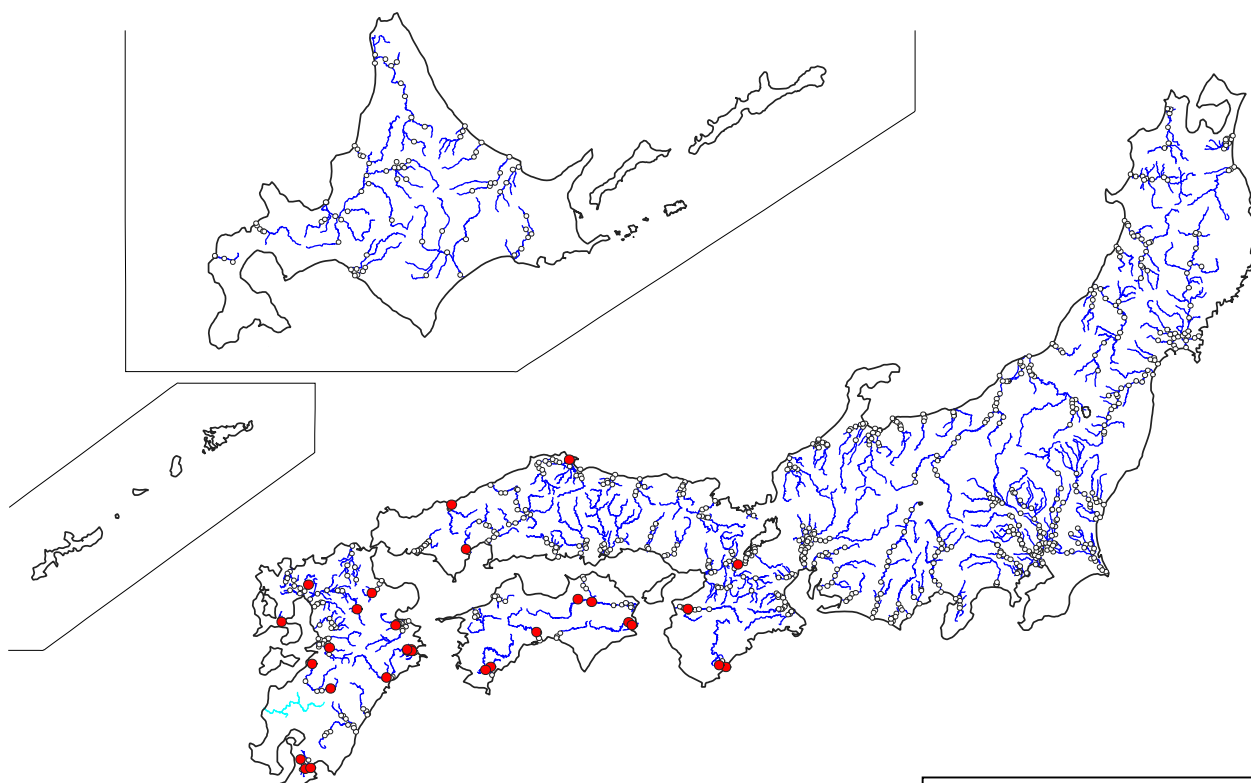
注）5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

ツマグロヒョウモンの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）



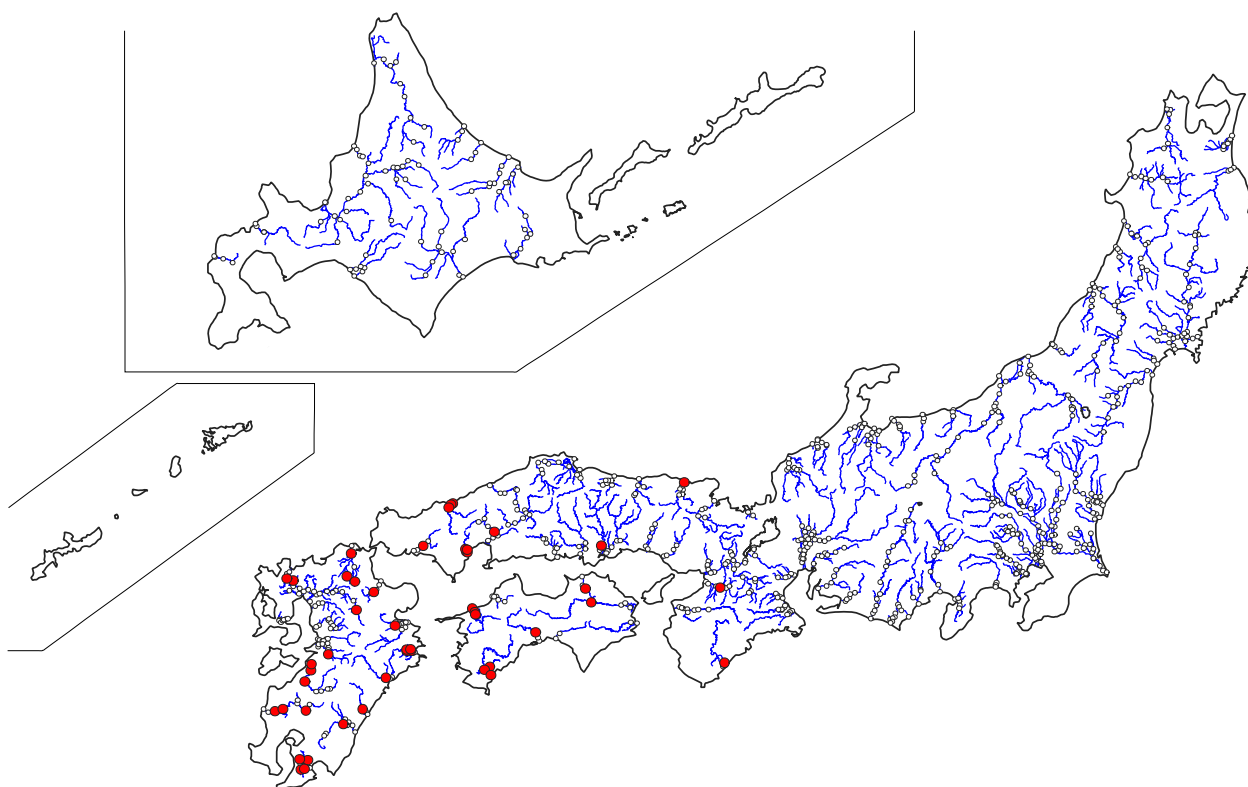
凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

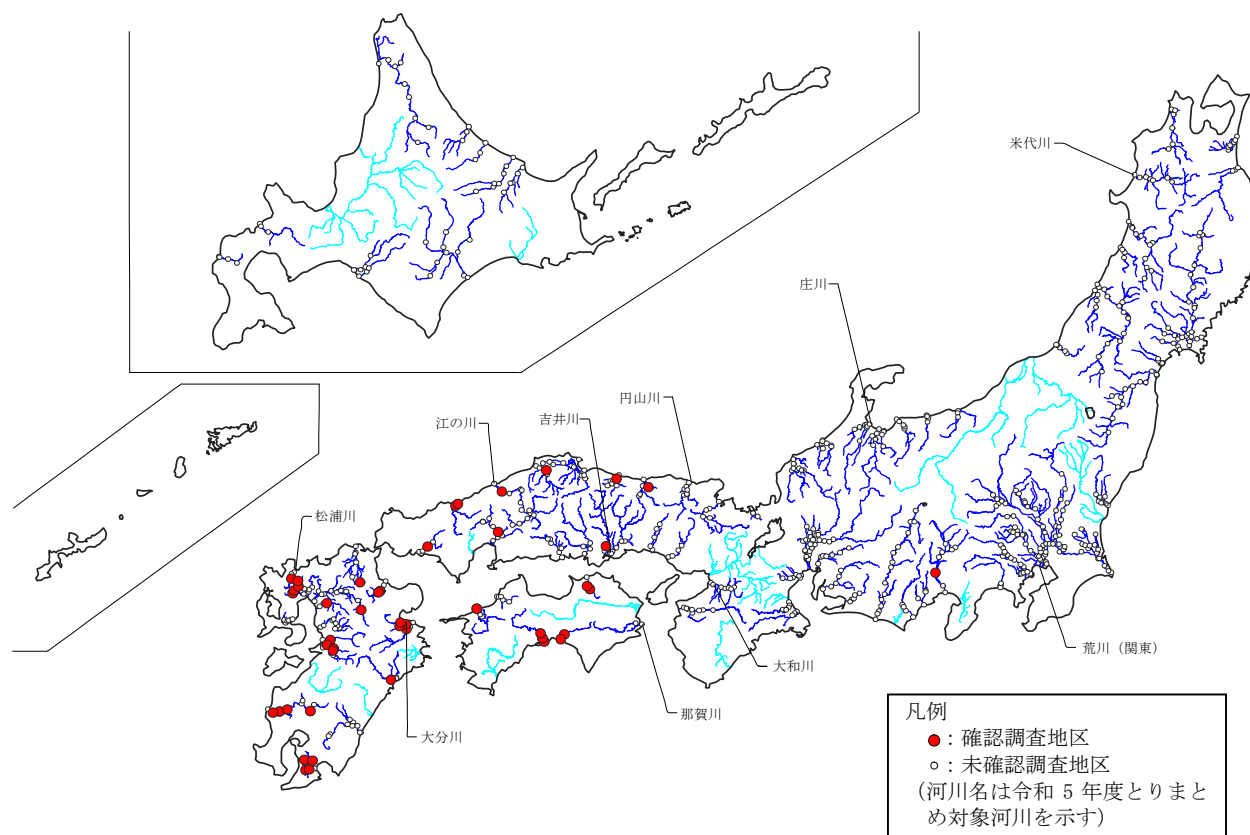
注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

イシガケチョウの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



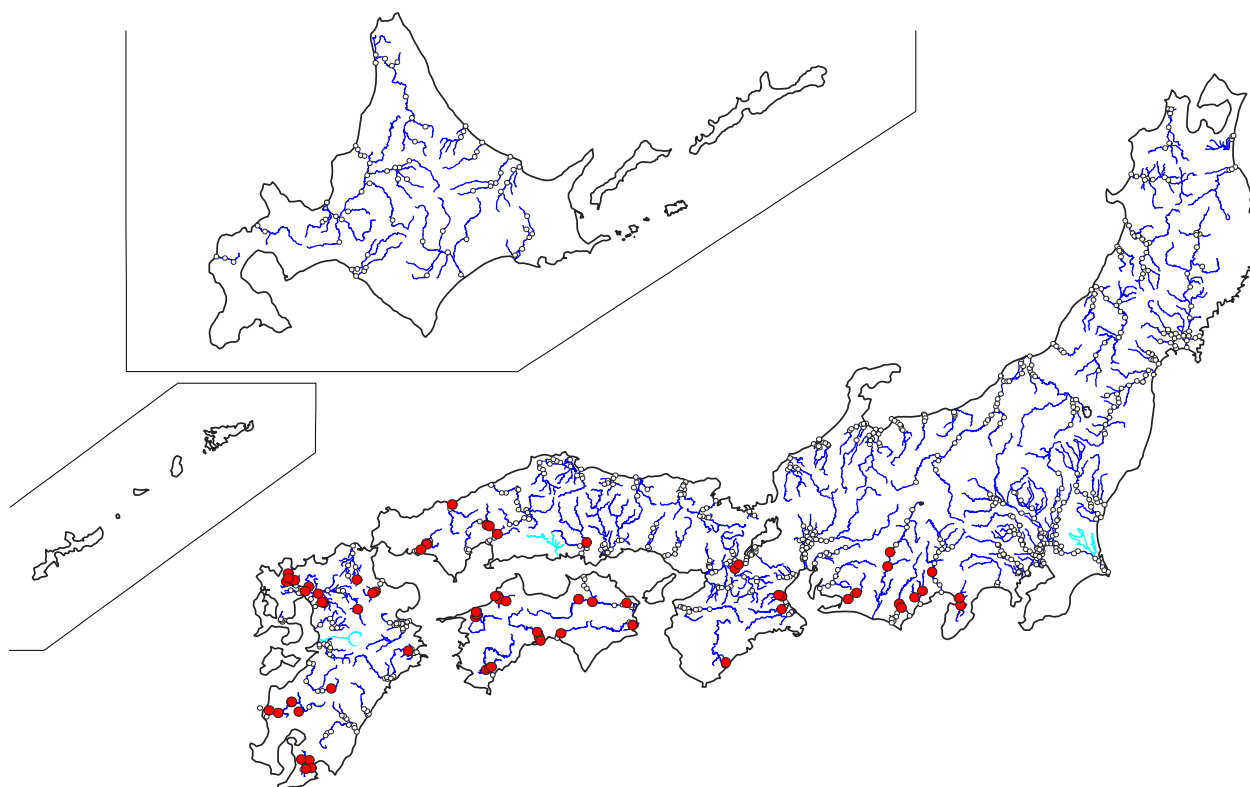
5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



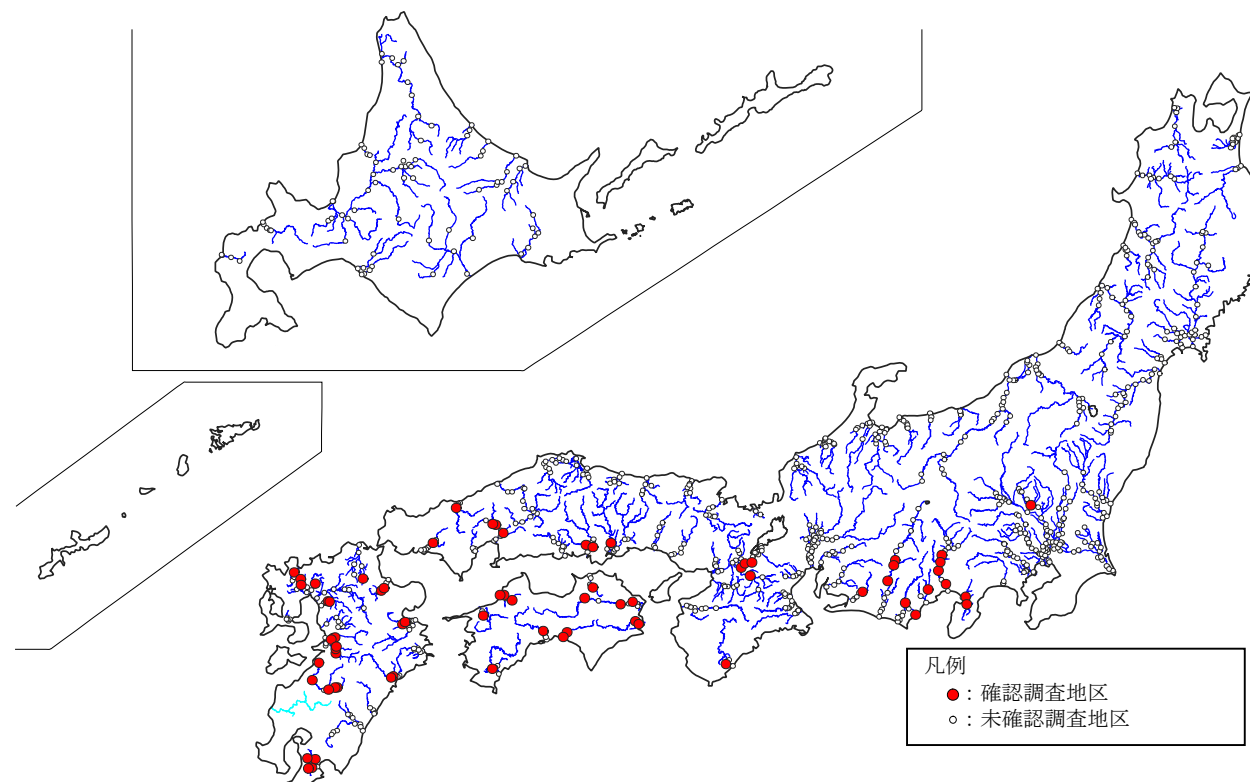
注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

イシガケチョウの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



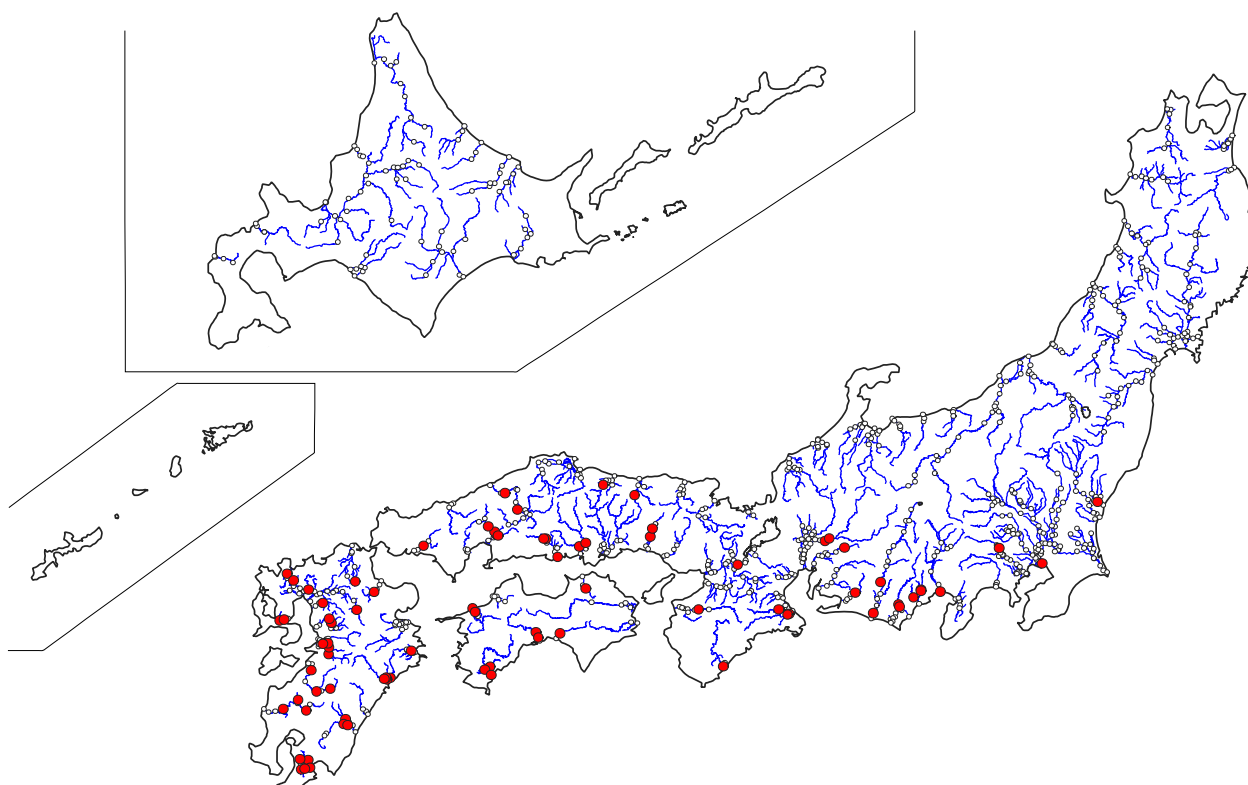
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



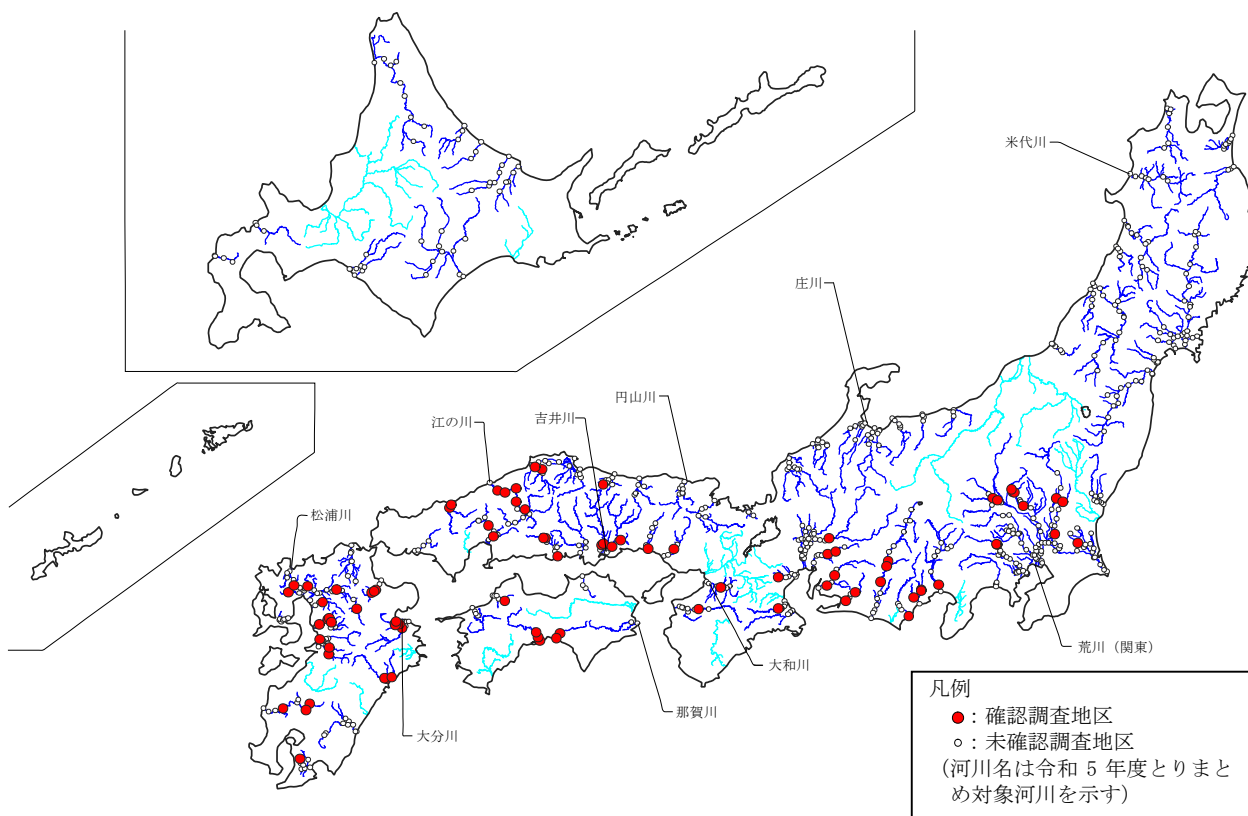
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

クロコノマチョウの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

クロコノマチョウの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

6.5 注目すべき種の分布状況

ここでは私たちにとって馴染み深い昆虫類の確認状況や、水域と陸域との接点である水際域に特徴的な種の確認状況を整理しました。

【ゲンジボタル及びヘイケボタルの確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

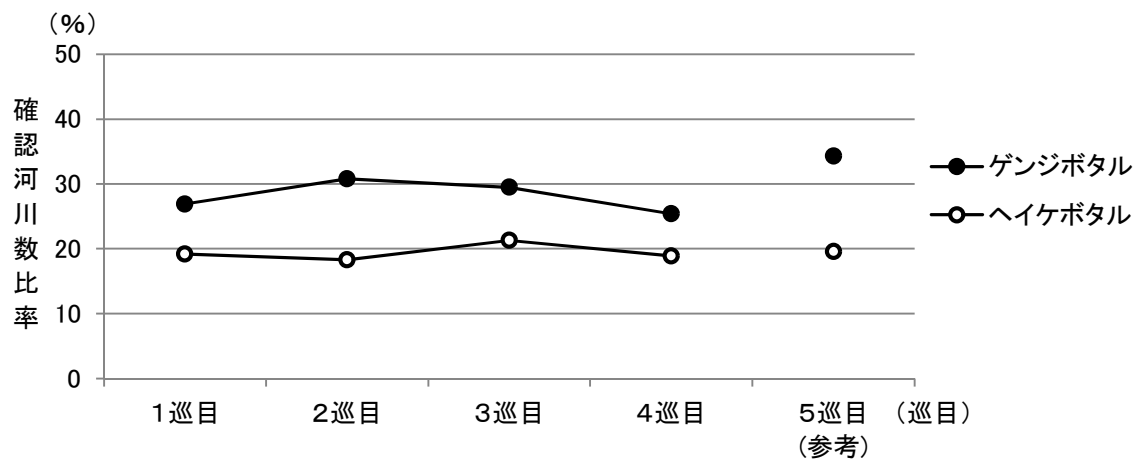
● ゲンジボタルを 5 河川、ヘイケボタルを 3 河川で確認

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、ゲンジボタルは 5 河川、ヘイケボタルは 3 河川で確認されました。

(資料掲載：6-94～6-97 ページ、6-114～6-115 ページ)

1 ～ 5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 (78 河川)	2 巡目調査 (120 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (122 河川)	5 巡目調査 (102 河川)
ゲンジボタル	21 河川 〔26.9〕	37 河川 〔30.8〕	36 河川 〔29.5〕	31 河川 〔25.4〕	35 河川 〔34.3〕
ヘイケボタル	15 河川 〔19.2〕	22 河川 〔18.3〕	26 河川 〔21.3〕	23 河川 〔18.9〕	20 河川 〔19.6〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1 ～ 4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※ 5 巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28～令和 5 年度の調査結果を示す。

ゲンジボタルは、北海道地方を除く全国に、ヘイケボタルは全国に分布しています。ゲンジボタルが主に山地などの清流を生息場とするのに対し、ヘイケボタルはより流れの緩やかな小川や用水路など、平地や丘陵地を主な生息場とする傾向がみられます。

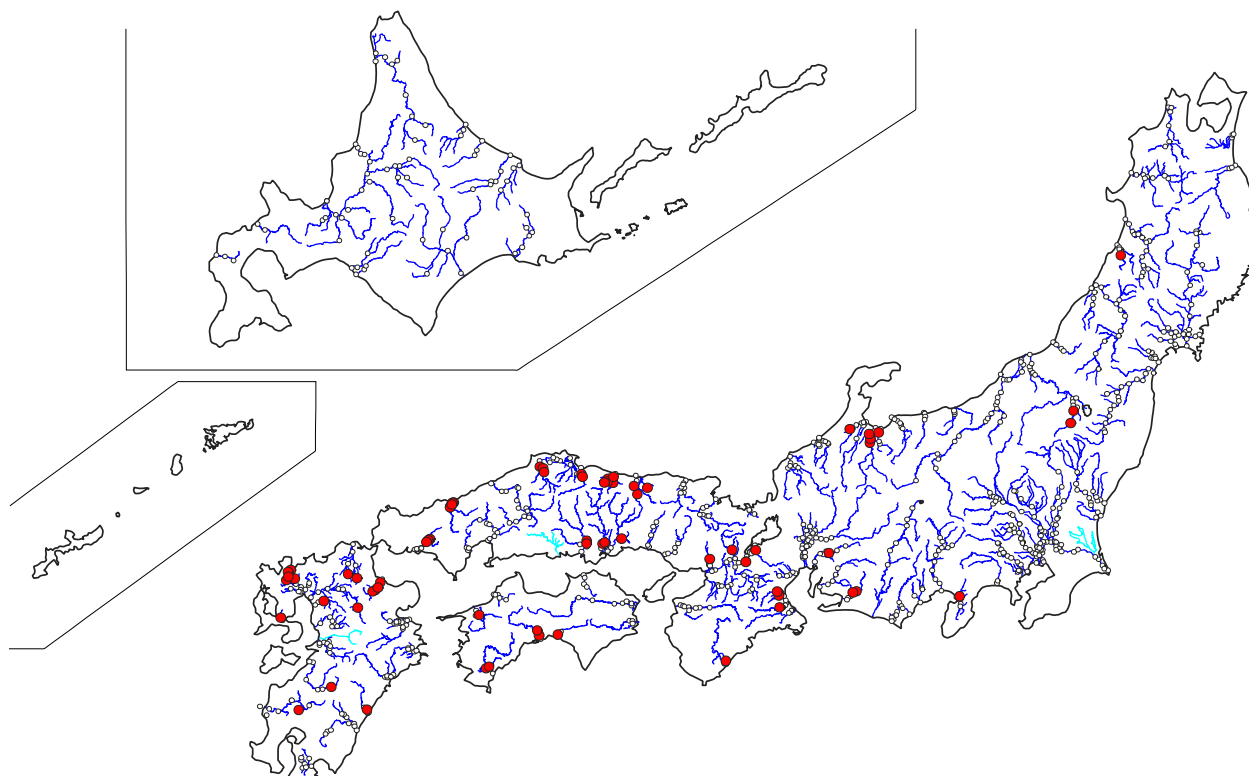
今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、ゲンジボタルは 5 河川、ヘイケボタルは 3 河川で確認されました。

ゲンジボタルは、発光のパターンや産卵習性のほか、遺伝子レベルでも顕著な地理的変異が認められています。本種は各地で飼育や放流が行われていますが、地域を越えた安易な放流は、本種の地域個体群の遺伝的特性などへの悪影響が懸念されています。

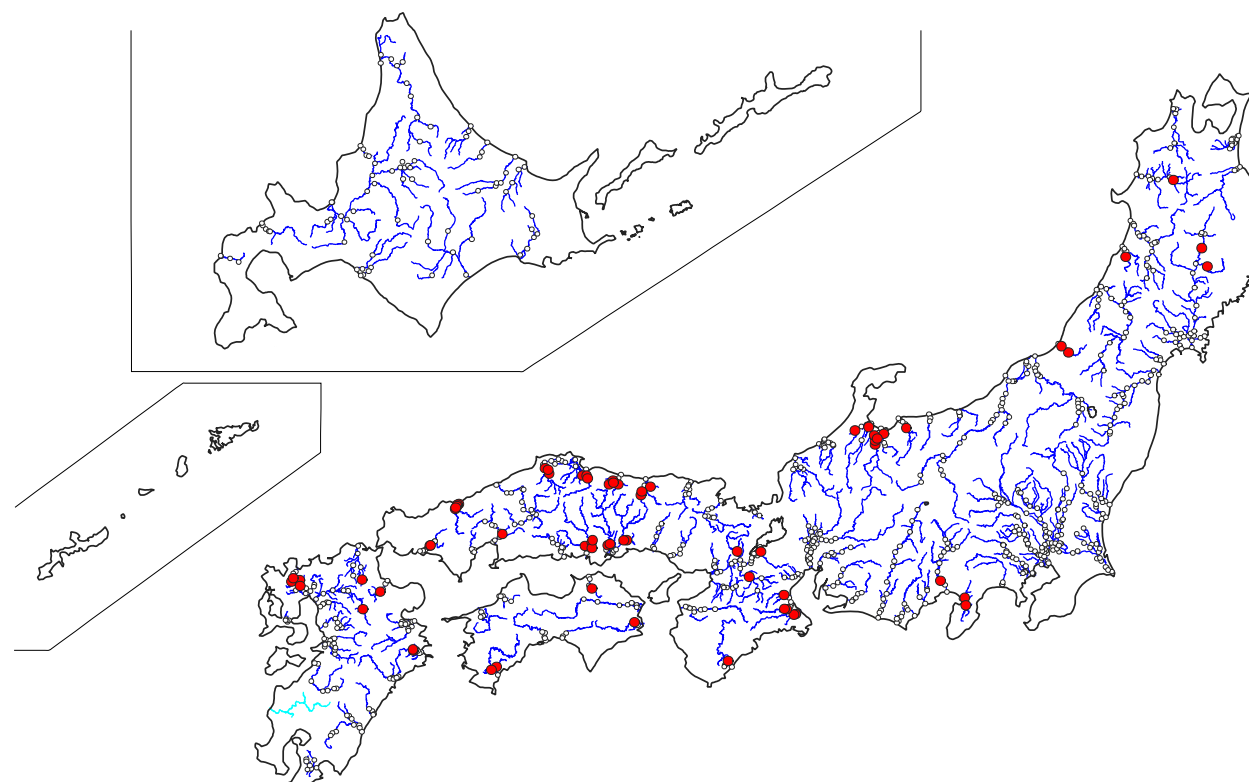


注) ヘイケボタルの画像は、過年度報告書から転用した。

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

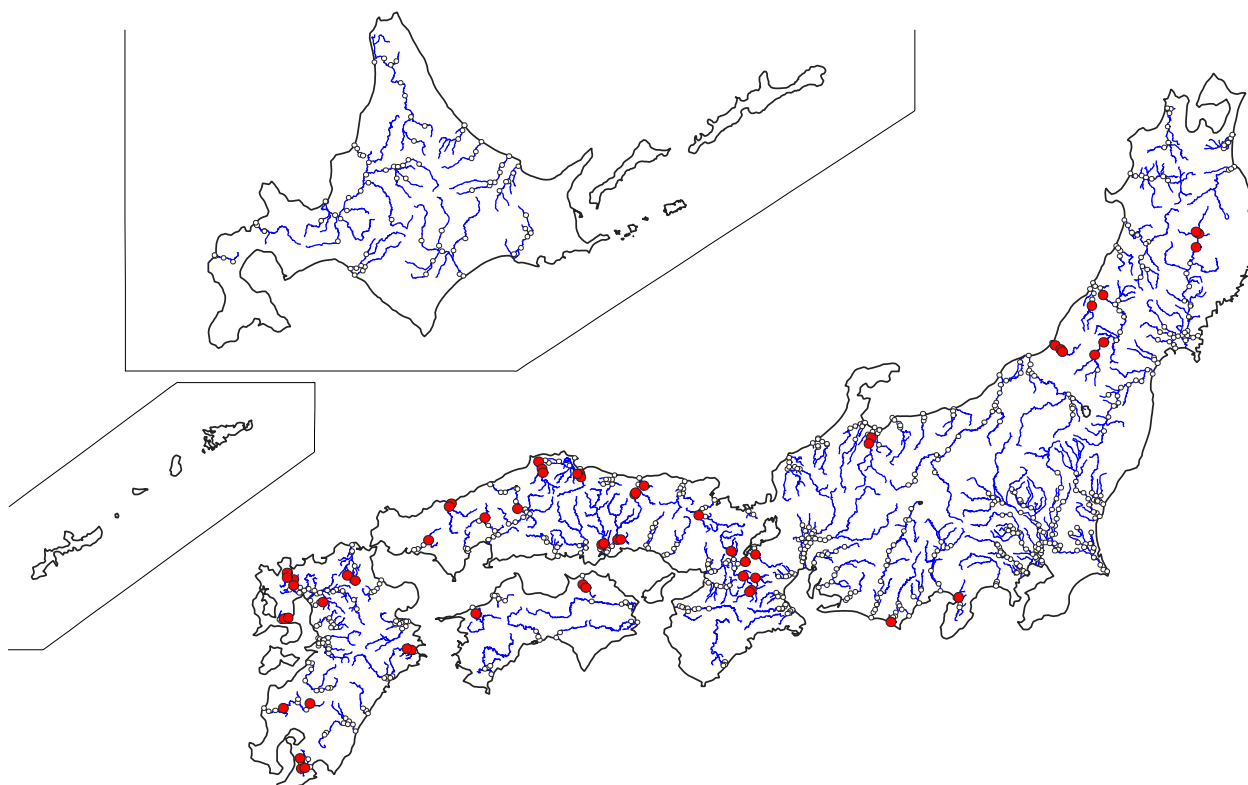


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

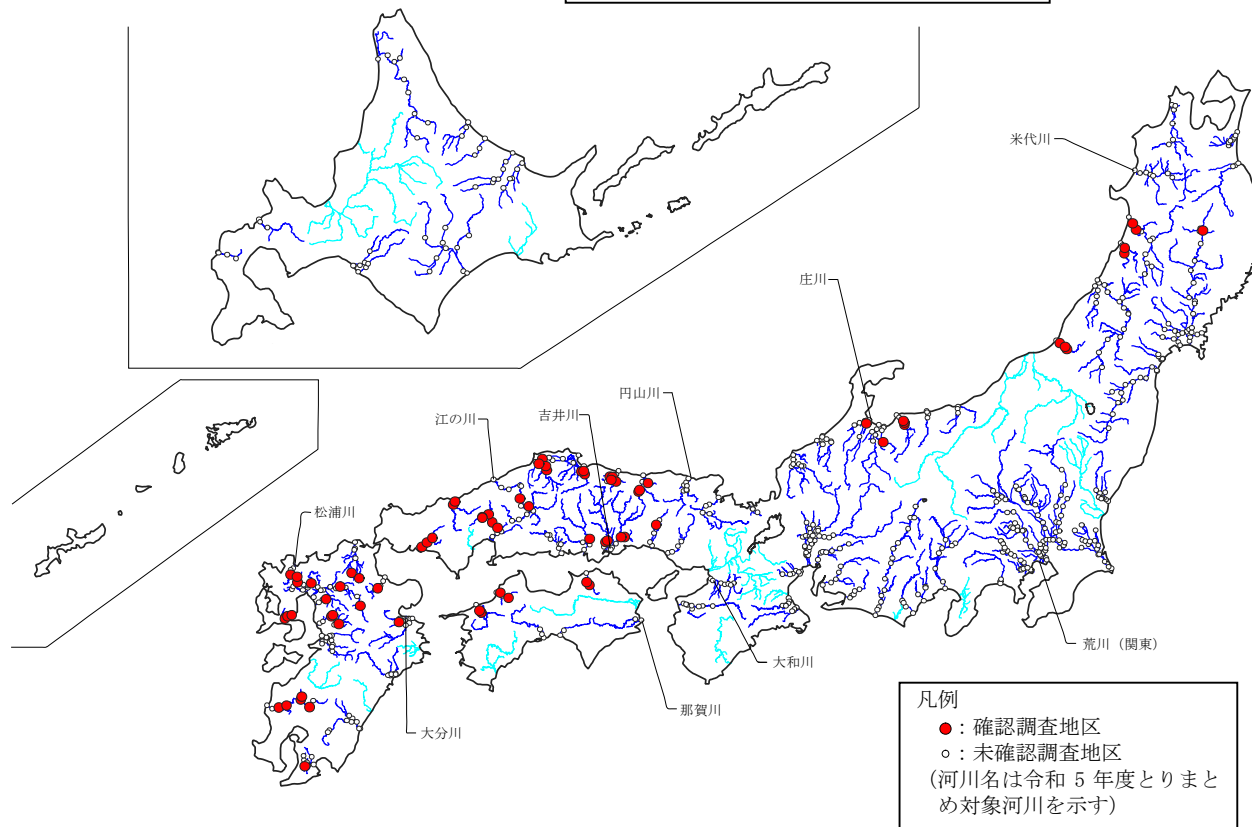
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ゲンジボタルの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）

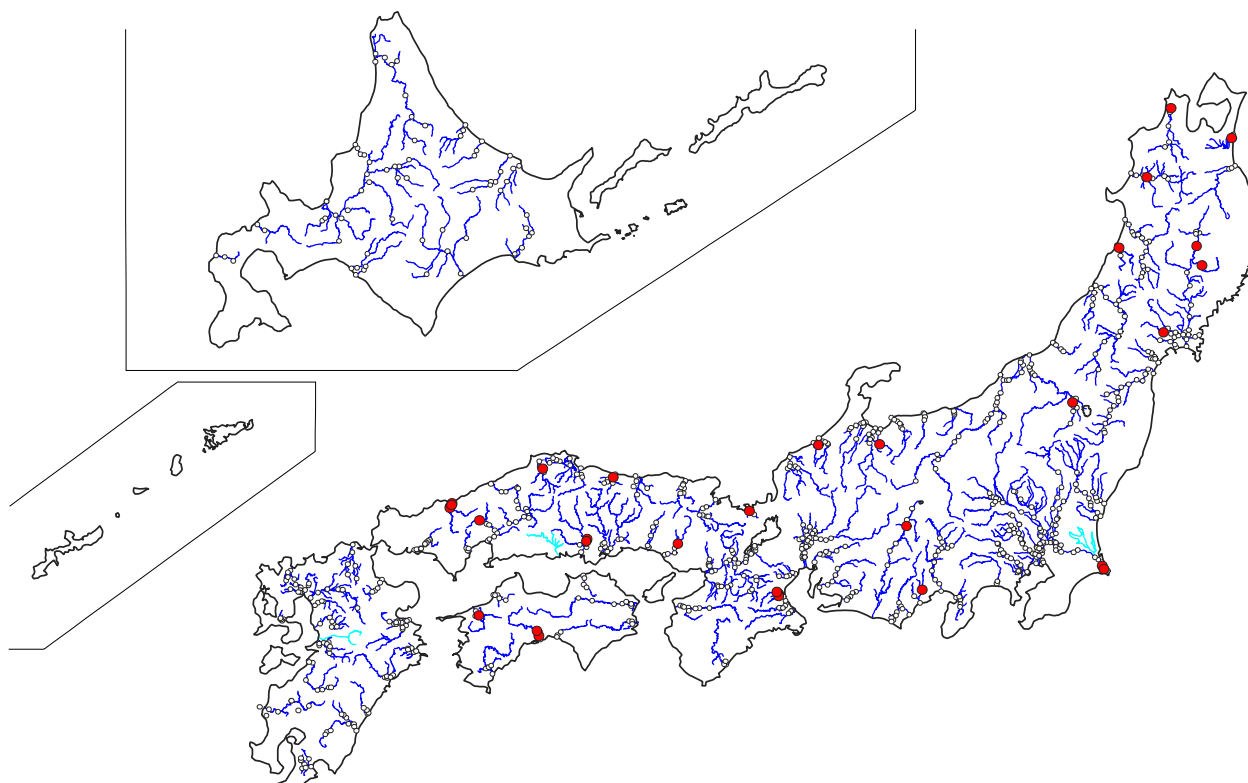


5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）

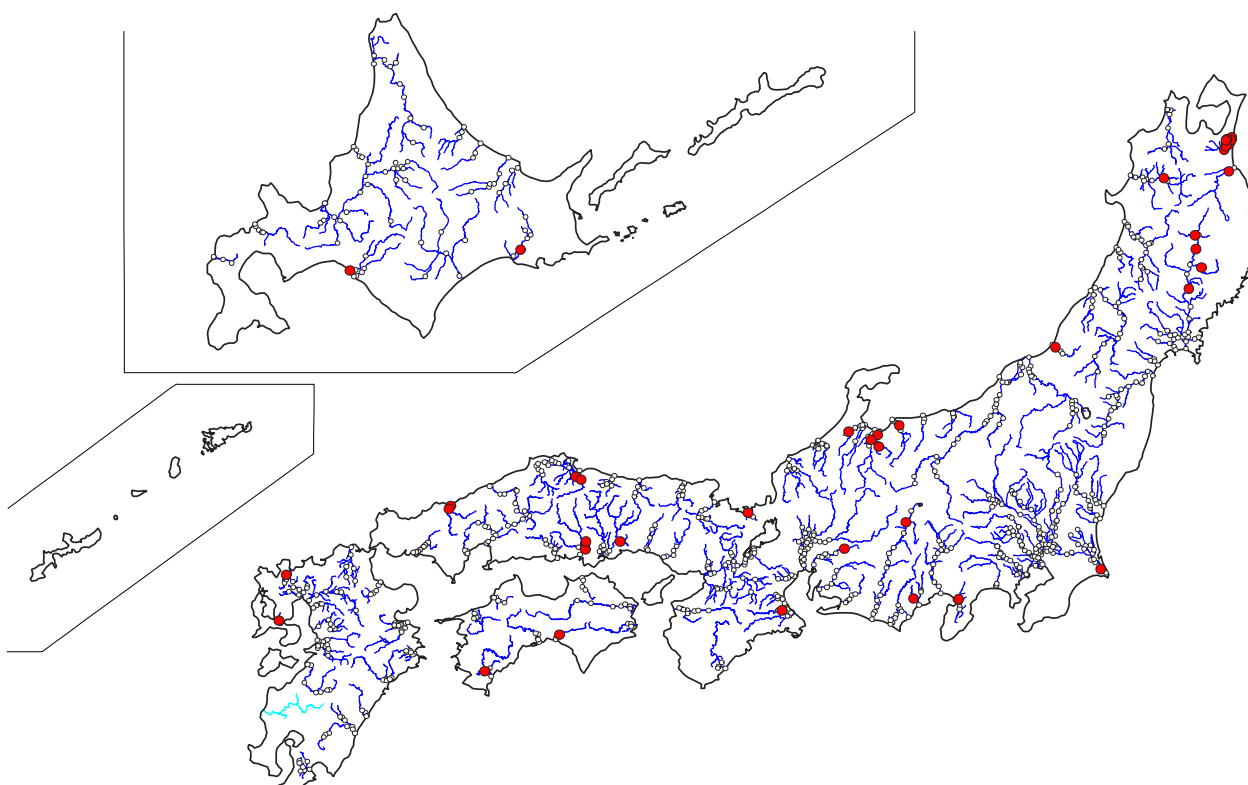


ゲンジボタルの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

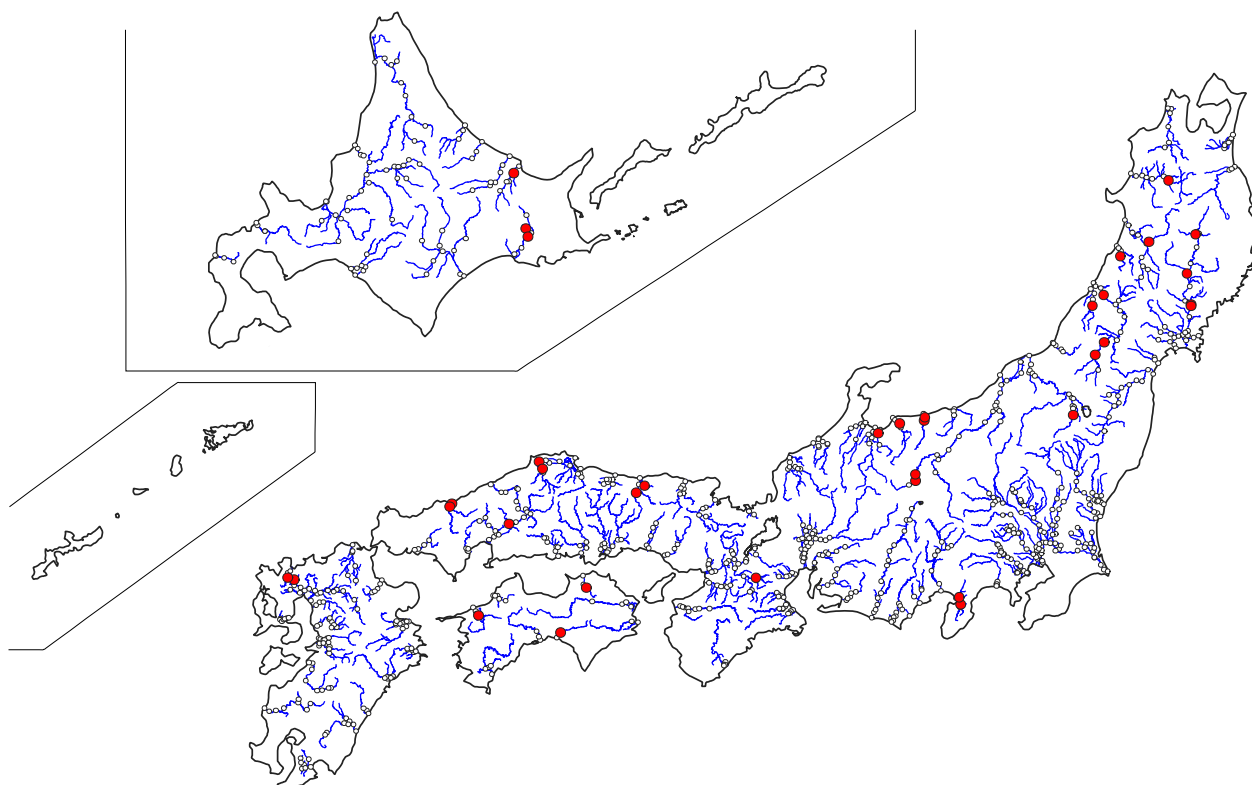


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

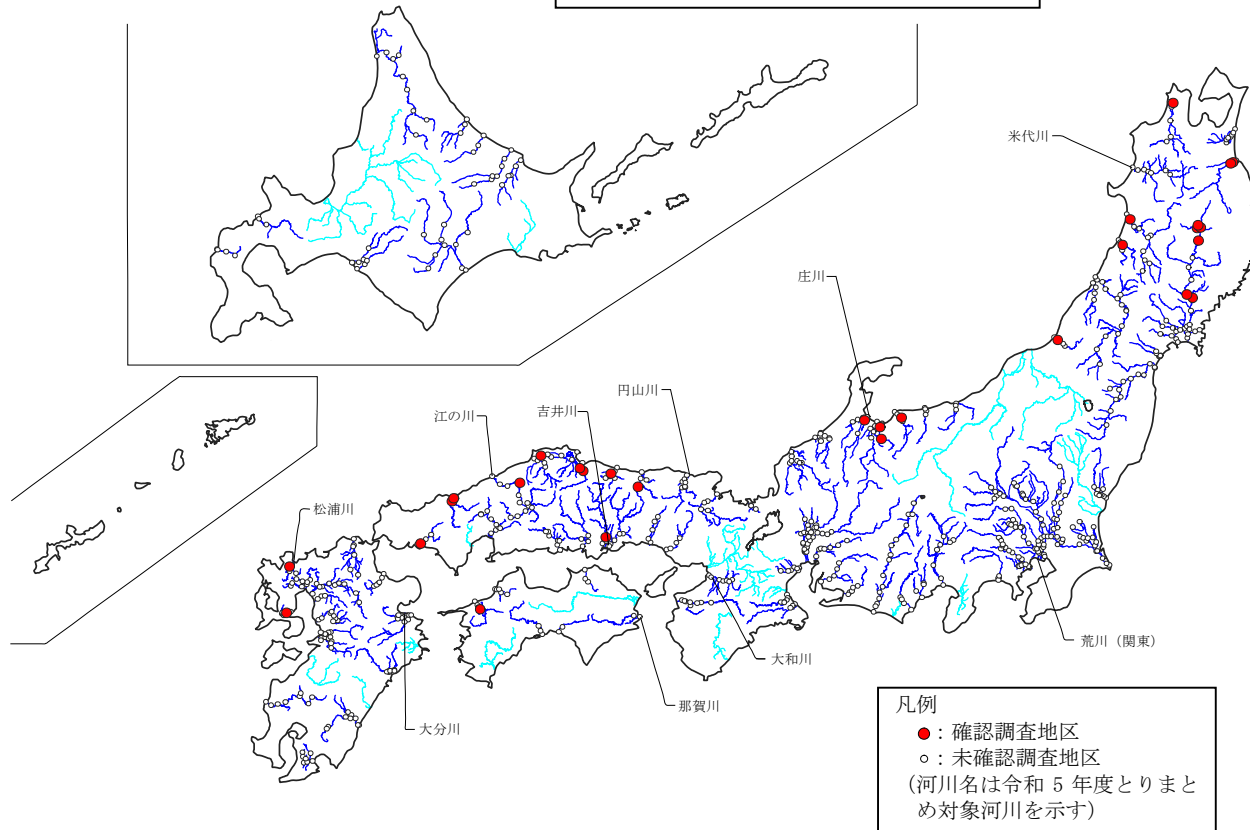
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

へイケボタルの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中であり、— は調査未実施の河川を示す。

ヘイケボタルの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

【コオニヤンマの確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

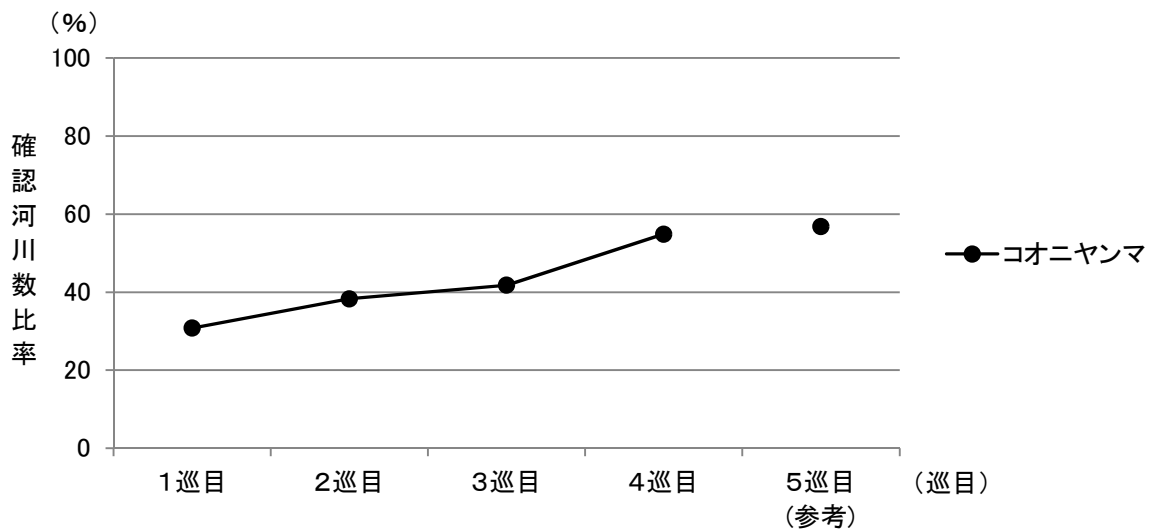
・ 関東地方以西の 7 河川で確認

今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）のうち、関東地方の荒川、北陸地方の庄川、近畿地方の大和川、中国地方の江の川、吉井川、九州地方の松浦川、大分川で確認されました。

(資料掲載： 6-100～6-101 ページ、6-114～6-115 ページ)

1 ～ 5 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 (78 河川)	2 巡目調査 (120 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (122 河川)	5 巡目調査 (102 河川)
コオニヤンマ	24 河川 〔30.8〕	46 河川 〔38.3〕	51 河川 〔41.8〕	67 河川 〔54.9〕	58 河川 〔56.9〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1 ～ 4 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する % を示す。

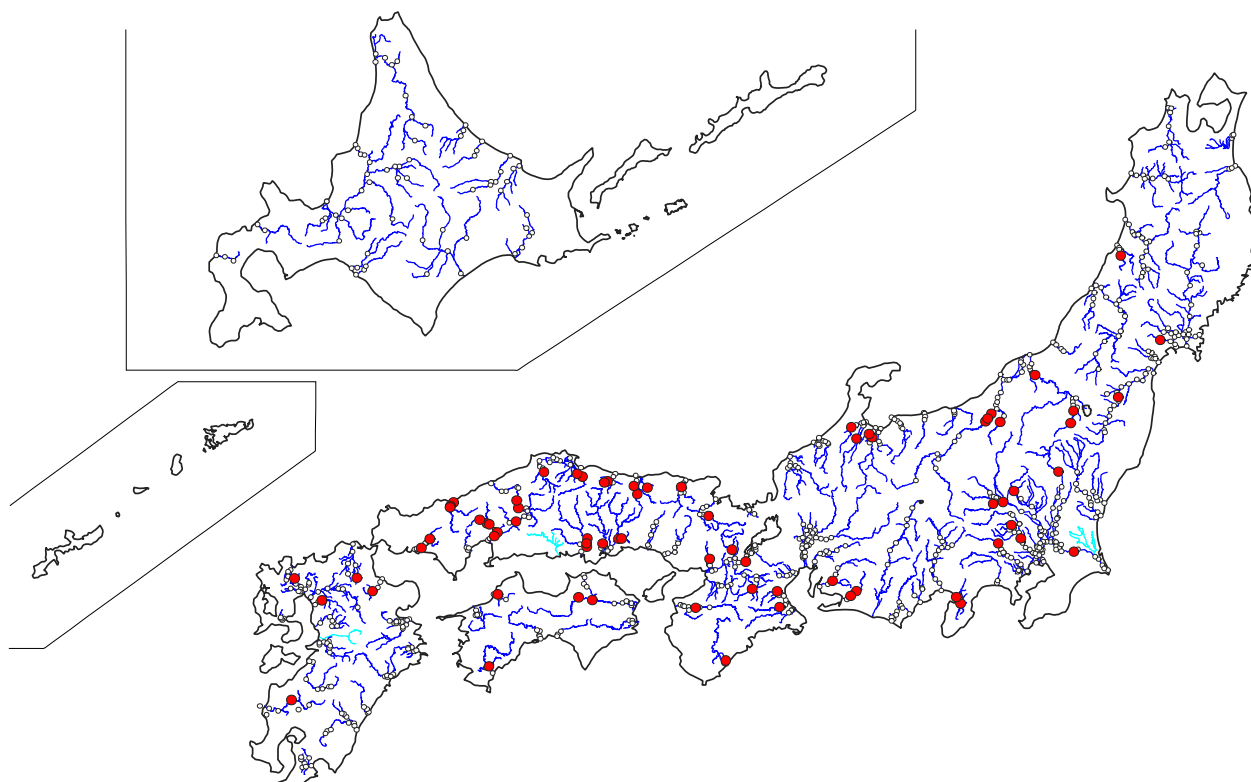
※ 5 巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成 28 ～ 令和 5 年度の調査結果を示す。

コオニヤンマは、国内では最大のサナエトンボ類で、各地の平地から山地の河川に広く生息しています。大きな体長に比較して小さな頭部と長い後脚を持つ形態的な特徴があり、生息には浅瀬や流れの緩やかな砂泥底、水際の植物などの環境条件が必要です。

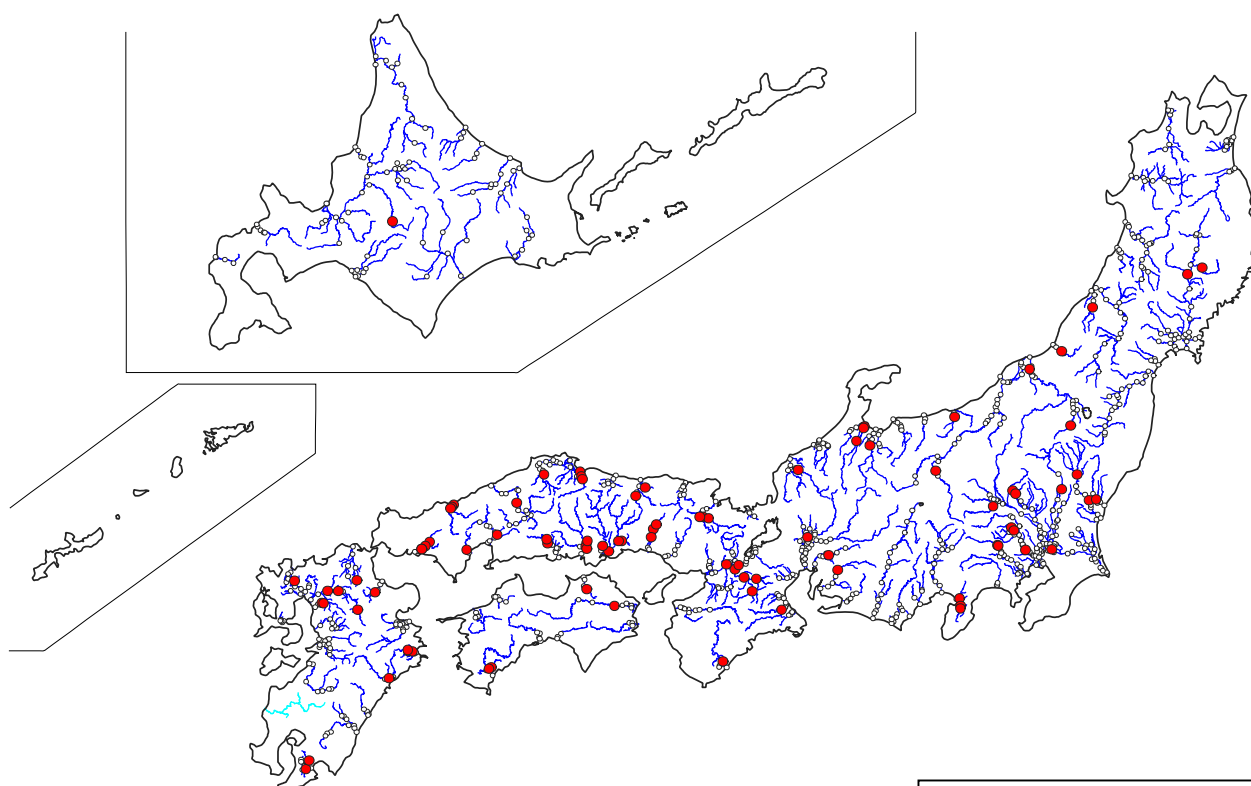
今回取りまとめを行った 10 河川（直轄管理区間）において、関東地方以西の 7 河川で確認されました。2 ～ 4 巡目調査でみられた分布の拡大傾向は、5 巡目調査にかけても継続していくことが予想されるため、今後も本種の生息状況を注視していく必要があると考えられます。



2 巡目調査（平成 8～12 年度）



3 巡目調査（平成 13～17 年度）

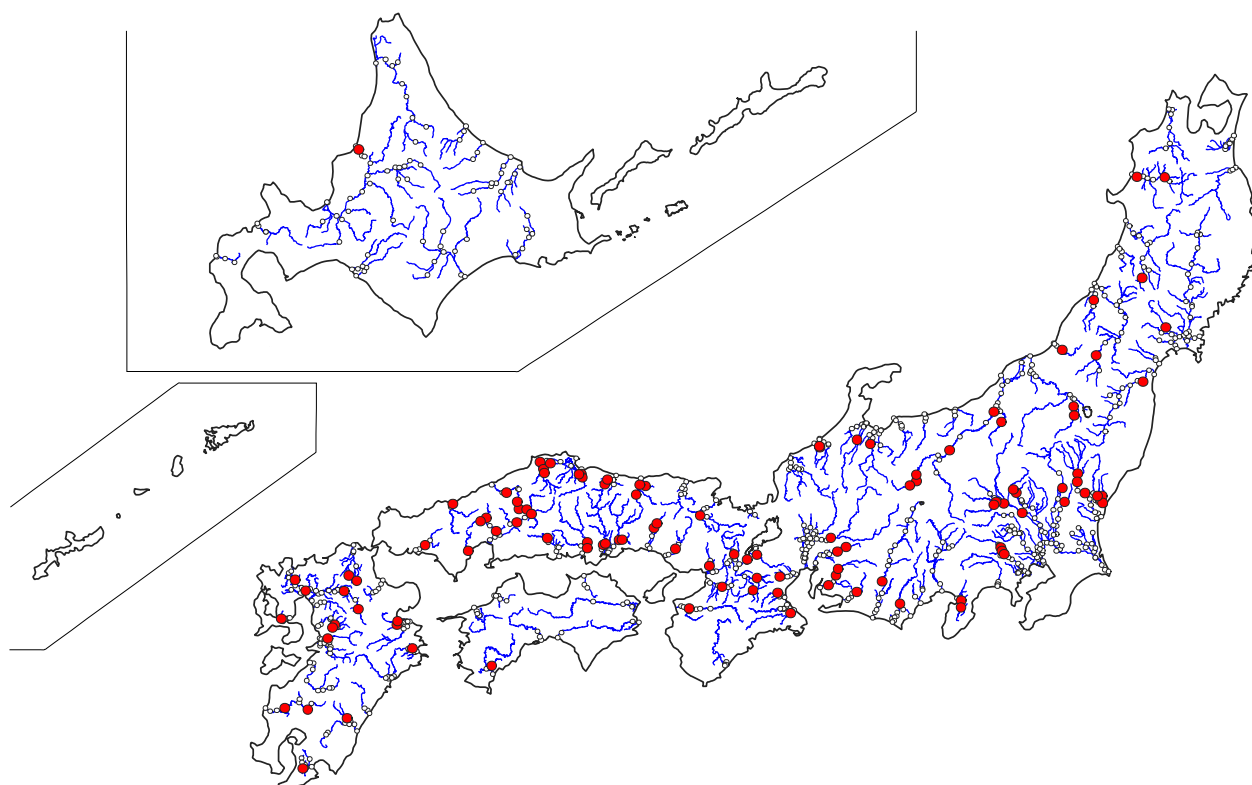


凡例
 ●：確認調査地区
 ○：未確認調査地区

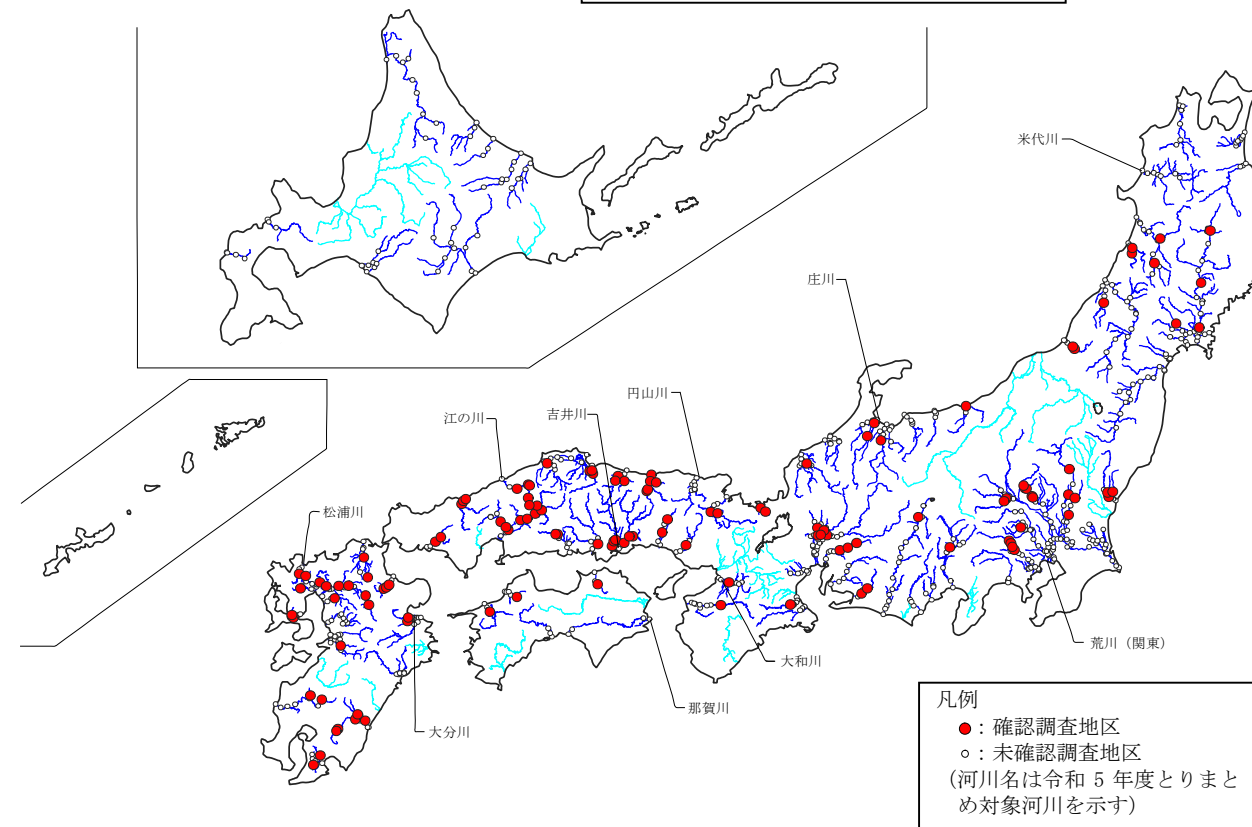
注1) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

コオニヤンマの確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中であり、—— は調査未実施の河川を示す。

コオニヤンマの確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

【ヒヌマイトトンボの確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

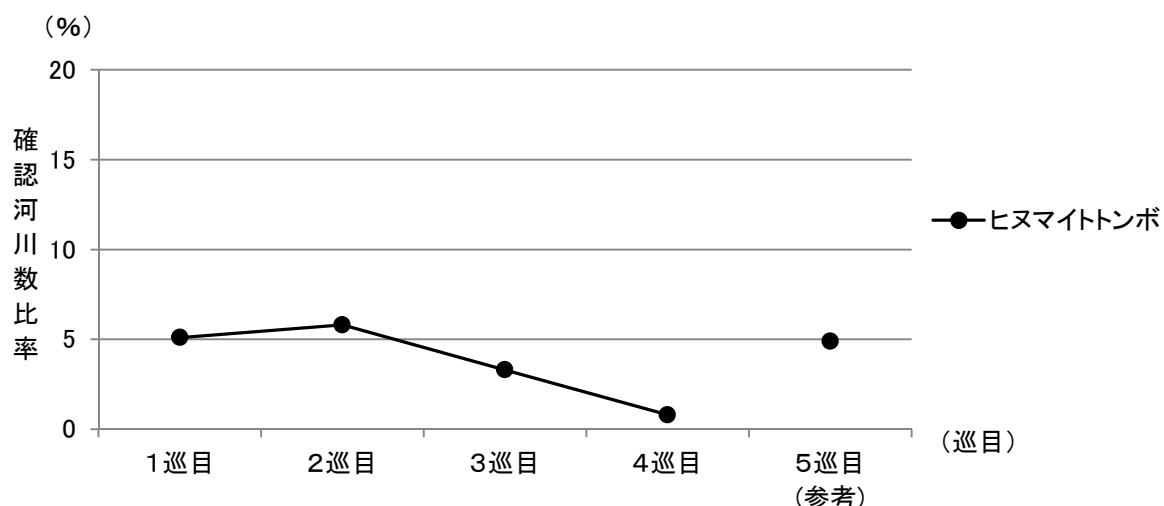
・ 近畿地方の1河川で確認

ヒヌマイトトンボは、今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）のうち、近畿地方の円山川で確認されました。

(資料掲載：6-114～6-115 ページ)

1～5巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (78 河川)	2巡目調査 (120 河川)	3巡目調査 (122 河川)	4巡目調査 (122 河川)	5巡目調査 (102 河川)
ヒヌマイトトンボ	4 河川 [5.1]	7 河川 [5.8]	4 河川 [3.3]	1 河川 [0.8]	5 河川 [4.9]



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川数を示す。

※ [] 内は確認河川数の分析対象河川数に対する%を示す。

※ 5巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

ヒヌマイトトンボは、宮城県以南の本州と大分県、対馬に局所的に分布します。河口部周辺のヨシやマコモなどの抽水植物が繁茂する汽水域に生息域が限定されることから、わずかな環境の変化でも容易に絶滅するおそれがあり、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類と評価されています^{注1)}。

今回取りまとめを行った10河川（直轄管理区間）においては、近畿地方の円山川で確認されました。円山川における河川水辺の国勢調査でのヒヌマイトトンボの経年確認状況は、1～3巡目調査では確認されましたが、4巡目調査では確認されませんでした。

本種は絶滅の恐れが高いため、生息状況を正確に把握し、その動態を注視していくことが必要と考えられます。

注 1) 出典：環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），2015. レッドデータブック 2014. 日本の絶滅のおそれのある野生生物. 5 昆虫類. 509 pp. ぎょうせい.



注) 中川・綾瀬川、江戸川の画像は、過年度報告書から転用した。

【ミズスマシ類の確認状況】

(陸上昆虫類等調査)

● ミズスマシ類を1河川3ダムで5種確認

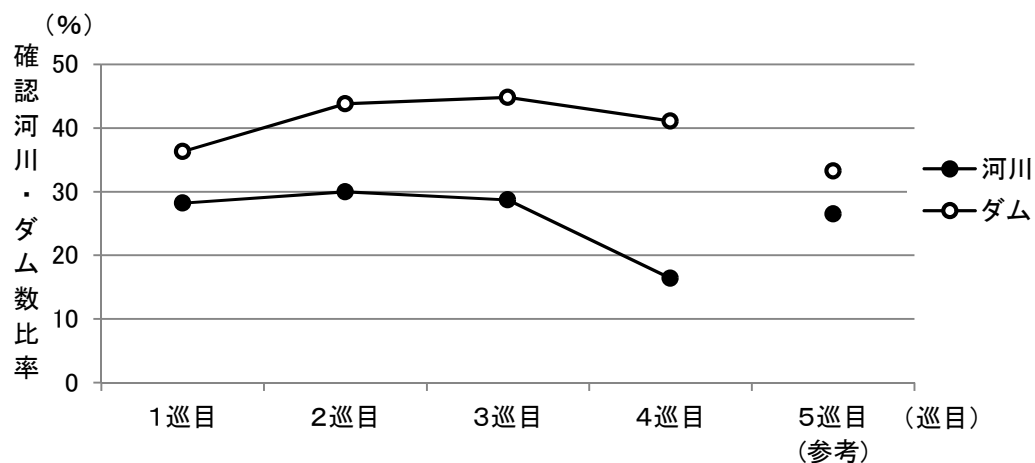
ミズスマシ類は、かつては身近でなじみ深い昆虫でしたが、近年は各地でその減少が危惧されています。

今回取りまとめを行った10河川12ダム（直轄管理区間）において、1河川3ダムで計5種が確認されました。このうちミヤマミズスマシ、コオナガミズスマシは、東北地方の森吉山ダムでの河川水辺の国勢調査では、それぞれ初めての確認となります。

(資料掲載：6-106～6-107 ページ、6-114～6-117 ページ)

1～5巡目調査の確認河川・ダム数の比較

種類	1巡目調査 (78河川) (80ダム)	2巡目調査 (120河川) (80ダム)	3巡目調査 (122河川) (96ダム)	4巡目調査 (122河川) (112ダム)	5巡目調査 (102河川) (93ダム)
ミズスマシ類	22河川 〔28.2〕	36河川 〔30.0〕	35河川 〔28.7〕	20河川 〔16.4〕	27河川 〔26.5〕
	29ダム 〔36.3〕	35ダム 〔43.8〕	43ダム 〔44.8〕	46ダム 〔41.1〕	31ダム 〔33.3〕



※ 確認河川(ダム)数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～4巡目調査のデータは調査実施全河川(ダム)のうち、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ () 内は分析対象河川(ダム)数を示す。

※ [] 内は確認河川(ダム)数の分析対象河川(ダム)数に対する%を示す。

※ 5巡目調査は実施途中であり、掲載しているデータは平成28～令和5年度の調査結果を示す。

ミズスマシ類の成虫は、体下面が平坦で、中・後脚は扁平、前脚は長く、複眼は水中と水上を同時にみられるように上下に分かれているなど、水面生活に適応した形態を有する甲虫類です。主に日中を活動時間とする種も多いのですが、昼間は水生植物の葉間や岸辺の石の下などに潜み、目に付きにくい夜行性の種もあります^{注1)}。

日本のミズスマシ科は分類学的に3つのグループ(亜科)に分けられ、オオミズスマシ亜科、ミズスマシ亜科の種は、主として小川、水田、池など止水域に近い環境に生息し、オナガミズスマシ亜科の種は主として溪流で、流れがやや緩やかな流水域に生息します。日本全土からは3属18種(亜種を含む)が知られており、そのうち12種が環境省版レッドリストで絶滅のおそれのある種として指定されています^{注1)}。

今回取りまとめを行った10河川12ダム(直轄管理区間)のうち、東北地方の米代山、森吉山ダム、関東地方の二瀬ダム、浦山ダムから、合計5種のミズスマシ類が確認されました。

河川水辺の国勢調査におけるミズスマシ類の確認状況をみると、1～4巡目調査では、河川、ダムともに1～3巡目までの確認河川・ダム数の割合はほぼ横ばいで、4巡目では減少傾向がみられ、特に河川での減少が顕著でした。一方5巡目調査に入ってから、河川では増加傾向に、ダムでは減少傾向がみられます。

ミズスマシ類は全国的な減少が多く、種で危惧されていることから、今後も生息状況を正確に把握することが必要であると考えられます。

注1) 出典：中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之，2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫，文一総合出版。

オオミズスマシ



米代川 (R5. 9. 19-22)

ミヤマミズスマシ



品木ダム (R4. 5. 1-6. 1)

コオナガミズスマシ



森吉山ダム (R5. 8. 10)

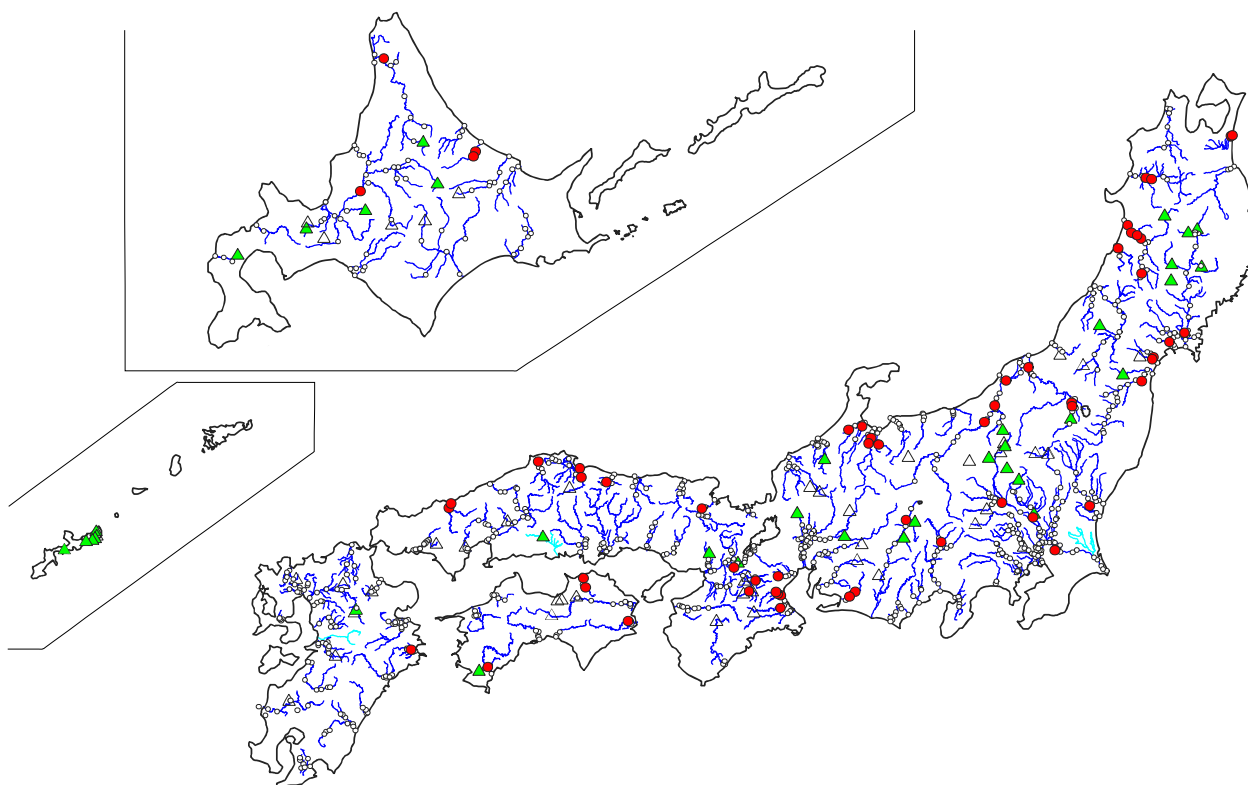
オナガミズスマシ



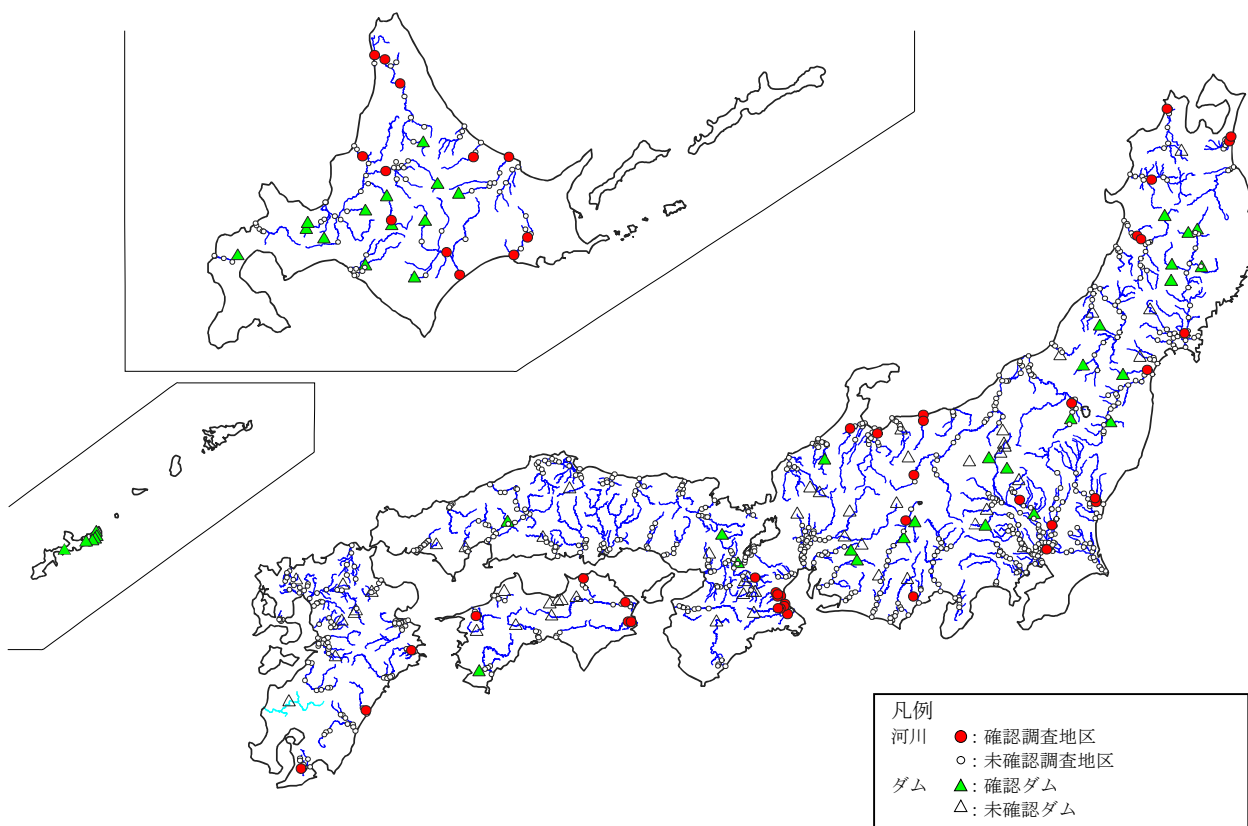
浦山ダム (R5. 5. 29-6. 4)

注) ミヤマミズスマシの画像は、過年度報告書から転用した。

2 巡目調査（平成 8～12 年度）



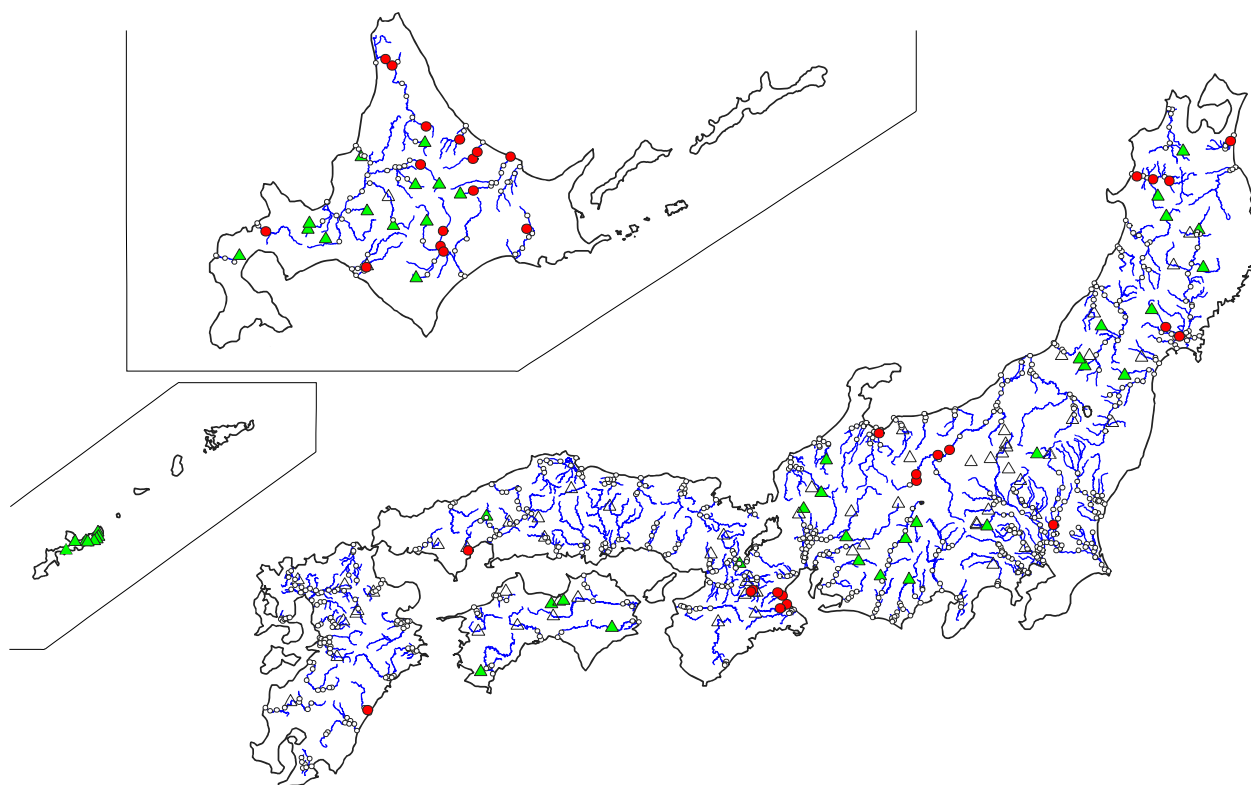
3 巡目調査（平成 13～17 年度）



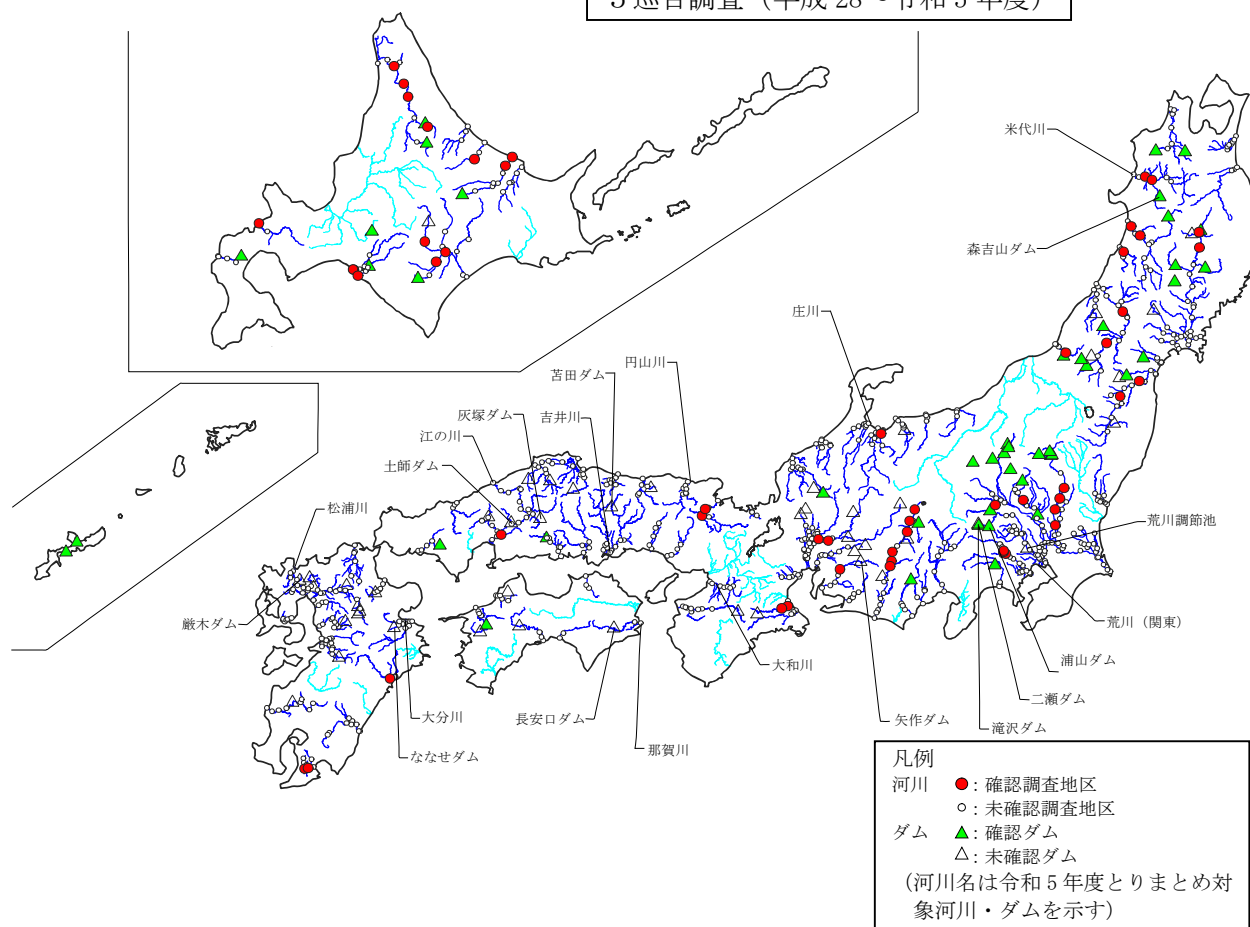
注1) 〓 は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。
 注2) 1 巡目調査は調査対象河川数が少ないため図示を割愛する。

ミズスマシ類の確認された調査地区（2 巡目調査、3 巡目調査）

4 巡目調査（平成 18～27 年度）



5 巡目調査（平成 28～令和 5 年度）



注) 5 巡目調査は実施途中で、—— は調査未実施の河川を示す。

ミズスマシ類の確認された調査地区（4 巡目調査、5 巡目調査）

6. 6 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その1）

No.	地整	項目 種名	河群林に特徴的な種の分布状況																				生物多様性の擾乱 国外外来種の分布状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			オオムラサキ					ゴマダラチョウ					コムラサキ					ミドリシジミ					ハイイロゴケグモ					セアカゴケグモ					アカボシゴマダラ					ホソオチョウ					ツヤハダゴマダラカミキリ					クビアカツヤカミキリ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
			河川名	巡目	調査	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1	北海道	天塩川	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	●	●	●	●	●	●	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
2	北海道	渚滑川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	●	●	●	●	●	●	●	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

分析対象種の確認状況の経年比較（その2）

凡例 ○●：確認（うち○は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4 巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5 巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度としまとめ対象外の河川である。）

注1) 1～4 巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとしまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3) 1～5 巡目調査の区分については、原則として1 巡目調査：平成2・3～7 年度、2 巡目調査：平成8～12 年度、3 巡目調査：平成13～17 年度、4 巡目調査：平成18 年度～平成27 年度、5 巡目調査：平成28 年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その3）

○●：確認（うち○は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度としまとめ対象外の河川である。）

注1） 1～4巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2） 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3） 1～5巡目調査の区分については、原則として1巡目調査：平成2・3～7年度、2巡目調査：平成8～12年度、3巡目調査：平成13～17年度、4巡目調査：平成18年度～平成27年度、5巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その4）

凡例 ◎●：確認（うち◎は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4 巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5 巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）

注1) 1～4 巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3) 1～5 巡目調査の区分については、原則として1 巡目調査：平成2・3～7 年度、2 巡目調査：平成8～12 年度、3 巡目調査：平成13～17 年度、4 巡目調査：平成18 年度～平成27 年度、5 巡目調査：平成28 年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その5）

○●：確認（うち○は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度としまとめ対象外の河川である。）

注1） 1～4巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2） 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3） 1～5巡目調査の区分については、原則として1巡目調査：平成2・3～7年度、2巡目調査：平成8～12年度、3巡目調査：平成13～17年度、4巡目調査：平成18年度～平成27年度、5巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

分析対象種の確認状況の経年比較（その6）

凡例 ◎：確認（うち○は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4 巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5 巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）

注1) 1～4 巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3) 1～5 巡目調査の区分については、原則として1 巡目調査：平成2・3～7 年度、2 巡目調査：平成8～12 年度、3 巡目調査：平成13～17 年度、4 巡目調査：平成18 年度～平成27 年度、5 巡目調査：平成28 年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

6. 6 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その7）

No.	地整	項目 種名	気候変動																									注目すべき種の分布状況																																
			モンキアゲハ					ムラサキツバメ					ツマクロヒヨウモン					イシガケチョウ					クロコノマチョウ					ゲンジボタル					ヘイケボタル					コオニヤンマ					ヒメマイトトンボ					オオミズスマシ												
			河川名	巡目	調査	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5										
1	北海道	天塩川	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x	-	x	x	x	x	x				
2	北海道	渚滑川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
3	北海道	湧別川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
4	北海道	常呂川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
5	北海道	網走川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
6	北海道	留萌川	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-			
7	北海道	石狩川	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-			
8	北海道	尻別川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
9	北海道	後志利別川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
10	北海道	釧路川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
11	北海道	沙流川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
12	北海道	釧路川	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-			
13	北海道	十勝川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
14	東北	岩木川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
15	東北	高瀬川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
16	東北	馬淵川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
17	東北	北上川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
18	東北	鳴瀬川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-		
19	東北	名取川	x	x	x	●	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
20	東北	阿武隈川	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	●	●	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	
21	東北	米代川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
22	東北	雄物川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
23	東北	子吉川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
24	東北	最上川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
25	東北	赤川	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
26	関東	久慈川	x	x	x	●	●	x	x	x	x	x	x	x	x	x	●	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
27	関東	那珂川	x	x	x	●	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	x	x	x	x	-	●	x	x	x	x	-	●	x	x	x	x	-	●	x	x	x	x	-	●	x	x	x	x
28	関東	(利根川水系) 利根川	●	●	●	x	-	x	x	x	x	●	●	●	●	●	●	x	x	x	x	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
29	関東	(利根川水系) 常陸利根川	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-	x	x	●	-	-						

6. 6 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その8）

No.	地整	項目 種名	気候変動																							注目すべき種の分布状況																															
			モンキアゲハ					ムラサキツバメ					ツマクロヒヨウモン					イシガケチョウ					クロコノマチョウ					ゲンジボタル					ヘイケボタル					コオニヤンマ					ヒメマイトトンボ					オオミズスマシ									
			河川名 \ 巡目調査	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5									
83	中国	千代川	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×						
84	中国	天神川	-	×	●	●	●	×	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	×	×	×	●	-	●	●	×	●	-	×	×	×	×	●	-	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
85	中国	日野川	-	●	●	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	●	×	●	-	●	●	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×					
86	中国	(斐伊川水系) 斐伊川	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
87	中国	(斐伊川水系) 神戸川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
88	中国	江の川	●	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	●	●	●	●	◎	×	×	×	×	◎	×	×	×	●	◎	●	×	×	●	◎	●	×	×	●	◎	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
89	中国	高津川	●	●	×	×	●	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	●	×	×	×	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
90	中国	吉井川	×	×	●	×	◎	×	×	×	×	×	×	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	×	×	◎	●	●	●	●	◎	●	×	●	×	×	×	×	×	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
91	中国	旭川	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	●	×	●	●	●	×	×	×	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
92	中国	高梁川	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
93	中国	芦田川	-	-	●	●	●	-	-	×	×	×	-	-	●	●	●	-	-	×	×	×	-	-	×	●	●	-	-	×	×	×	-	-	●	●	●	-	-	×	×	×	×	-	-	×	×	×	×	×	×	×	×				
94	中国	太田川	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	●	×	●	●	●	×	●	×	●	×	●	×	●	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
95	中国	小瀬川	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	●	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
96	中国	佐波川	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	●	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
97	四国	吉野川	●	●	●	●	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	●	×	×	×	-						
98	四国	那賀川	●	●	●	×	×	×	×	×	×	-	●	●	●	●	◎	×	●	●	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
99	四国	土器川	-	×	×	×	●	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	×	●	●	-	×	●	●	×	-	×	×	●	×	-	×	×	×	×	●	-	×	×	×	×	-	×	×	●	×	×	×	×	×					
100	四国	重信川	●	●	×	×	●	×	×	●	×	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	●	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
101	四国	肱川	-	●	●	●	×	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	×	-	●	●	●	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
102	四国	物部川	-	●	●	×	●	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	×	×	●	-	●	●	●	×	-	●	×	×	×	-	×	●	●	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
103	四国	仁淀川	-	●	●	●	●	-	●	●	×	×	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	×	×	×	-	●	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
104	四国	(澁川水系) 四万十川	●	●	●	●	-	●	●	●	×	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	●	×	×	-	●	×	●	●	-	×	●	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
105	九州	遠賀川	●	●	●	●	-	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	●	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
106	九州	山国川	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
107	九州	筑後川	-	×	×	●	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	●	×	●	●	-	●	●	×	●	-	×	×	●	●	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
108	九州	矢部川	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
109	九州	松浦川	●	●	●	●	◎	×	×	●	●	×	●	●	●	●	◎	●	×	×	●	◎	×	●	●	●	×	●	●	●	●	◎	×	×	●	●	◎	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
110	九州	六角川	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
111	九州	嘉瀬川	×	●	×	●	●	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
112	九州	本明川	●	●	●	●	●	×	×	●	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
113	九州	菊池川	-	×	●	●	●	-	×	×	×	●	-	●	●	●	●	-	●	×	×	×	-	×	×	×	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
114	九州	白川	-	-	●	×	●	-	-	×	●	×	-	●	●	●	●	-	×	×	×	●	-	-	●	×	●	-	-	×	×	×	-	-	×	●	×	-	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
115	九州	緑川	×	●	●	●	●	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
116	九州	球磨川	●	×	●	●	-	×	×	●	×	-	●	●	●	●	-	×	●	●	●	●	-	×	●	●	●	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
117	九州	大分川	×	●	●	●	◎	×	×	×	×	×	●	●	●	●	◎	×	×	●	●	◎	×	×	●	×	◎	×	×	×	×	◎	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
118	九州	大野川	-	×	●	×	×	-	×	×	×	×	-	●	●	●	●	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×														

分析対象種の確認状況の経年比較（その9）

凡例 ◎：確認（うち○は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4 巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5 巡目調査は調査未実施（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）

注1) 1～4 巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。

注3) 1～5 巡目調査の区分については、原則として1 巡目調査：平成2・3～7年度、2 巡目調査：平成8～12年度、3 巡目調査：平成13～17年度、4 巡目調査：平成18年度～平成27年度、5 巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。

6. 6 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その10）

No.	地整	項目 種名	注目すべき種の分布状況																																													調査実施年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
			コミズスマシ					ヒメミズスマシ					ミズスマシ					ミヤマミズスマシ					ツマキレオナガミズスマシ					コオナガミズスマシ					オナガミズスマシ					エソコオナガミズスマシ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
83	中国	千代川	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

凡例 ◎●：確認（うち◎は今年度の確認）、×：未確認、－：1～4巡目調査は河川環境データベースに調査データが未格納、5巡目調査は調査未実施
（薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。）
注1) 1～4巡目調査のデータは、種名等についてスクリーニングされ、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
注2) 調査の継続性の観点から、経年比較のとりまとめ対象は一級河川の直轄区間とし、指定区間および二級水系は対象外とした。
注3) 1～5巡目調査の区分については、原則として1巡目調査：平成2・3～7年度、2巡目調査：平成8～12年度、3巡目調査：平成13～17年度、4巡目調査：平成18年度～平成27年度、5巡目調査：平成28年度～としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施年度の欄に記した。